

やまなみ

第 12 号



岳人あびこ



GAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKO

岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ

やまなみ

第 1 2 号



手賀沼湖畔

やまなみ 第12号 目次

平成22年(2010年)3月～平成23年(2011年)2月

やまなみ第12号発刊に寄せて

平成23年度会長 石垣吉朗

NO.	山名	山域	月日	執筆者	頁
671	日白山	谷川連峰	3/27-28	武内勇二	1
672	神峰山～高鈴山(新人歓迎山行)	阿武隈山域	4/4	本田愛子	4
673	アモウ沢～滝子山	大菩薩	4/17-18	佐藤健一	7
674	御前山～九竜山	奥多摩	4/18	青山寿子	9
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	4/20-23	大串秀雄	11
676	鈴ヶ尾山～大桑山	中央線沿線	4/24	千葉有子	17
677	蓼科山	八ヶ岳	4/24-25	桐生恭子	19
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	4/25	箕輪完二	21
679	唐松岳(春山山行)	北アルプス	5/1-4	村松敏彦	23
680	鷹ノ巣山	奥多摩	5/9	塩原百合子	25
681	巢神山～小法師岳	足尾	5/15-16	千葉有子	27
682	袈裟丸山	足尾	5/16	中村隆泰	29
683	小野子山～十二ヶ岳	上州	5/22	飯沼トミ子	31
684	太郎山(県連ウィークディ山行)	日光	5/27	原田和昭	33
685	古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	5/28-29	柴勇	35
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳(市民登山)	那須連峰	6/5-6	やまたん	37
687	御正体山	道志山塊	6/13	矢野貞子	48
688	白谷沢	奥武蔵	6/13	堀口昭二	50
689	釈迦ヶ岳～鶏頂山	高原山	6/20	坂巻明	51
690	守門岳	越後	6/26～27	武内勇二	53
691	御岳山～日の出山	奥多摩	7/4	齊田紀代美	55
692	八間山・白砂山	野反湖	7/10～11	中村育子	57
693	農鳥岳～黒河内岳	南アルプス	7/21～23	千葉有子	60
694	硫黄岳～赤岳	八ヶ岳	7/24～25	矢野裕子	63
695	白馬岳～朝日岳	北アルプス	7/30～8/2	外崎蓮	65
696	霧ヶ峰(車山)	霧ヶ峰	8/1	原田和昭	70
697	長尾谷	奥多摩	8/8	堀口昭二	72
698	餓鬼岳～燕岳	北アルプス	8/12～15	矢野裕子	74
699	聖岳～光岳	南アルプス	8/18-22	田村光子	77
				小松庸信	78

NO.	山名	山域	月日	執筆者	頁
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	8/19夜-23	品田千恵子	81
701	ナメラ沢	奥秩父	8/21夜-22	佐藤健一	85
702	北岳	南アルプス	8/26-28	箕輪完二	88
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	8/28-28	中村育子	92
704	愛宕山（ウイズハイク）	茨城	9/4	本田愛子	95
705	飛龍山	奥秩父	9/11-12	新谷直恵	97
706	二子山・両神山	奥秩父	9/18-19	中村隆泰	99
707	津梅川・追良瀬川	白神山地	9/22-26	千葉有子	101
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	9/23-27	武内勇二	104
709	天狗角力取山～障子ヶ岳	朝日連峰	10/15-17	高橋重	108
710	乾徳山	奥秩父	10/24	本田愛子	111
711	筑波山	茨城	11/6-7	川下敬史	113
712	高畑山～倉岳山	中央線沿線	11/7	箕輪カオル	117
713	雲取山～天祖山	奥多摩	11/13-14	新谷直恵	119
714	奥久慈男体山	茨城	11/14	塩原百合子	122
715	大山三峰山	丹沢	11/21	瀬田映子	124
716	手賀沼一周	東葛	11/28	瀬田映子	126
717	御前山（忘年山行）	茨城	12/5	やまたん	129
718	虎丸山～熊岳	中央沿線	12/11	坂巻明	133
719	仏果山～華厳山	丹沢	12/12	小川誠二郎	135
720	巻機山（クリスマス山行）	越後	12/18-19	外崎蓮	137
721	富士山	富士山	12/18-19	青山寿子	140
722	曾倉山～扇山	中央線沿線	1/9	末永三江子	142
723	薬師岳	南アルプス	1/22-24	青山寿子	144
724	陣馬山～景信山	高尾	1/30	原田和昭	146
725	黒斑山・水の塔山	浅間	2/5-6	本田愛子	148
				齊田記代美	149
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2/6	塩原百合子	151
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2/19-20	北川勝久	153

表紙イラスト 甲斐駒ヶ岳 提供 箕輪完二氏

「やまなみ」第12号発行によせて

平成23年度 会長 石垣吉朗

「やまなみ」第12号が完成しました。

掲載されている山行は、平成22年3月～平成23年2月までの山行です。どの山行もリーダーとメンバーが協力しあい実施できたもので、岳人あびこに新たな歴史の1ページを作りました。

「やまなみ」は、これまで会を支えてくださった方々の歴史が凝縮しています。「やまなみ」を何号か読み続けると、数多くの会員の方々の山行中の苦労や楽しみなど、またリーダーやメンバーの個性が垣間見られ、会とともに会員が成長していく姿がわかります。

「やまなみ」を会の歴史として、また次の山行の道標として是非活用していただきたいと思います。

「やまなみ」を執筆した方々、編集にかかわった方々のご尽力に感謝いたします。

本年度は、会創設15年目を迎える節目の年となります。15周年事業を成功させるとともに、安全登山を心掛けて、次号には新たな山行が数多く掲載されるのを楽しみにしています。





平成22年度

平成22年3月～平成23年2月

< 6 7 1 >

日白山
(1,631m)

武内勇二

トレース無き道

日白山 (にっぽくさん)、この地図上で登山ルートもない山を意識したのは、3年前の棒立山からタカマタギを目指した山行だった。棒立山・タカマタギ間でテントを張りタカマタギをサブザックで往復しようとの計画だったが、棒立山からタカマタギにかけての下りが雪崩の痕跡凄まじく断念せざるを得なかった。「反対側の日白山からタカマタギを目指す方法もあり、日白山へは比較的平易に登れる」とこの時の会話が、この山の名を聞いた最初だったと思う。今回の日白山山行は、年初計画では高橋重さんの計画であったが、重さんの都合で取止め寸前だったものを村松さんがリーダーを引受けてくれて実現に至った山行だった。タカマタギ、棒立山を反対から見たいという想いもあって山行参加を申し込んだ。メンバーは村松 (リーダー)、佐藤健、北川、清家、青山、それに私、北川君とは本当に久しぶりの山行となった。

1日目

越後湯沢でジャンボタクシーに乗り込み国道17号 (三国街道) を南下、二居より地王堂川沿いの林道に入る。別荘らしき建物が林間にちらほら見える辺りで除雪はお終いとなりタクシーを下車。この辺りでも積雪1mは優にある。空は真っ青に晴れわたり、最近降った新雪が目眩。最初からワカンをつけての雪道歩きが始まる。トレースはなく人の入った痕跡は全くない。途中、私のワカンの調子が悪くなり、紐を締めなおし騙し騙し歩く。送電線を横切り小1時間程歩いたところで林道が尽きここをBCとした。この辺りで標高1050m付近、日白山へはあと600m位。テント設営後、トレース付けに出発。尾根に取り付き1519mの小ピークを目指す。150m程登った辺りから急に斜度が増した。急斜面に取り付いてから更に50~60m登った辺りで、リーダーから中止命令が出た。時刻は1時半頃となり、強い日

差しに照らされ雪が腐り始めており雪崩れる危険があるとの判断だ。今日は無理をせず、明日早朝の雪が締まっているときにこの急斜面を乗り切ろうとの腹づもりのようだ。先行していた女性2名はもう少し上の斜面の状況を見てみたいとの気持ちがあったようだが、ワカンアイゼンに履き替えて大人しく降りてきた。2時にはBCに到着、暖かい日差しのもと、そして日が翳ってくるとテント内に場所を移して、楽しい宴の時を過ごした。

2日目

4時に起床、ヘッドランプを探してゴソゴソやっている、皆も起きだした。雪を溶かしてお湯を沸かすのに手間取り、5時半出発予定がかなり遅れた。少なくとも前夜に雪は溶かしておくべきだったと反省するが「後悔先に立たず」で如何ともし難い。カップラーメンをそそくさと啜り、出発準備が整ったのが6時20分。かなり寒い。期待通り雪は締まり、アイゼンがよく利く。途中、青山さんのアイゼンの調子が悪く遅れがちになる。ベルトが緩くなり直ぐ外れるとのこと。紐で応急処置をしてからは外れることはなくなった。どうもアイゼンバンドの留具が甘くなっていたようだ。

昨日のトレースを付けた地点までほぼ1時間で到達。まだまだ急斜面の雪原が続き、そこをラッセルしながら直登して行く。トップの清家さんが、両手でピッケルを雪面に突き刺し、それを支点にぐいと体を持ち上げて行く。ザク、ザクという音がリズムカルに繰り返され、着実に高度を稼いで行く。「トップ交代」と声を掛けるのが憚れる。「多少緩やかに見えるあそこまで」と苦しいながら目標を持って頑張っていたとのこと。なんとも逞しい、頼りになるメンバーである。



日白山に向かい稜線をラッセル

急斜面は中々緩やかにならず、途中でトッポを交代して登り始めて約2時間、ようやく少し勾配の緩やかな場所に出て休憩。真東の方向に日白山が望める。そこから南に尾根が延びており二居俣の頭から地王堂川に下る尾根もそれと見分けが付く。当初はこの尾根を辿るルートが予定されていたが、この尾根もそれなりの急斜面と見受けられた。休憩地点から正面に見える真っ白なお饅頭が1519mのピーク、そこまで行けば東谷山から日白山への主稜線に出る。ひょっとすれば山スキーのトレースが付いているかも知れないと淡い期待を持ちながら登る。お饅頭のとっぺんに到着、期待は見事に裏切られ、トレースのかけらも見当たらない。初めて日白山からタカマタギ・棒立山に延びる稜線が望めた。今回山行の目的の一つが適えられ嬉しかった。

稜線上のコブ一つを挟んで日白山は指呼の間、順調に行けばあと1時間位かと思えた。ただ、高い雲ながら日差しが完全に遮られているせいもあり、空と雪の見分けが付き難い。その影響がコブの上で出た。日白山のピークは直ぐそこに、そしてそこに至る途中の稜線も見えているにも拘らず、コブ直下の斜度がはっきりしない。トレースがあれば問題はないのだが、のっぺらな雪原のため崖なのか、はたまたどの程度急なのか全く見分けが付かない。念のためザイルで確保して降り口まで近寄るもなんとも判然としない。一時は「安全第一、ここで撤退已む無し」の覚悟寸前までいったものの、何とも残念なので今一度複数人で確認しあった結果、気をつけて下れば大丈夫と見際目を付けて前進した。



日白山の山頂

日白山頂上からの眺めは360度。南方方面には谷川岳から平標山にかけての真っ白な稜線、西方には苗場山の特徴ある稜線から佐武流山、そして北方には越後湯沢のスキー場が望めた。勿論、タカマタギ・棒立山の稜線も目の前に展開している。達成感が身を包む。全員、ピッケルを掲げ写真を撮った。頂上から東谷山方面の稜線を見て、登ってきた尾根の急傾斜には驚いた。よくぞあの急斜面を登ってきたものだ。下りは登り以上に注意しなければいけないと気を引き締めた。



棒立山の峰々

来た道に戻り、1519mのピークに到着。トレースがあるから楽に下れる。最難関の急斜面手前で休憩、ここから標高差250m程は途中休むことなく、一気に下らねばならない。村松リーダーからは、「間隔を開け、気をつけて下るように」と注意が飛ぶ。雪崩への備えである。青山、清家、北川、佐藤、私の順で、しんがり村松さん。朝、締まっていた雪も緩んでいる。雪の中は空洞になっている箇所もあり、思わぬところでゴボッと足をとられてよろける。雪崩を恐れながら必死に下る。緩斜面に出たときは正直言ってホッとした。

BCには12時前に戻れた。テントを撤収し、林道を歩いているときに、山行中初めてスキーを履いて下ってくる人に会った。思えば、最初から最後まで全くトレースのない山は初めてだった。深い満足感に包まれながらタクシーに乗り込んだ。

概要

山名	日白山		
月日	平成 22 年 3 月 27 日 (日) ~ 3 月 28 日 (日)		
山城	谷川連峰	地形図	1/25000 土樽
形式	テント泊	グレード	4 D
目的	①積雪期しか登れないひっそりルートへの挑戦 ②雪上技術の習得とテント生活を楽しむ		
費用	12,000 円	交通機関	タクシー、J R,
行程	1 日目	我孫子駅 7:02→上野駅(新幹線) 7:36/7:54→越後湯沢駅 9:04/9:17(タクシー)→林道終点 9:37/10:00⇒地王堂川堰堤テント場 11:00⇒テント設営後ルート偵察 12:20⇒1265m 地点 13:10/13:20⇒テント場帰着 14:00(泊)	
	2 日目	地王堂川堰堤テント場 6:20⇒1519 峰 9:00⇒日白山山頂 9:55/10:10⇒1519m 峰 10:40⇒地王堂川堰堤テント場 11:50/12:35⇒林道除雪地点 13:30(タクシー)→江神温泉浴場 14:05/14:40→越後湯沢駅 16:08→上野駅→我孫子駅着 18:20	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> まず交通手段として越後湯沢駅迄は鈍行にするか新幹線にするか迷った。特急料金の差が時間に影響する。上野駅から 4 時間 30 分かけて鈍行にするか 1 時間 10 分で行く新幹線か、結局時間をお金で買って新幹線にした。(特急料金約 2000 円)このため何時もの出発時間より大幅に遅くて良かった。 二居部落から続く地王堂川林道は部落から約 1 km 地点まで除雪してあったが以降一面深い雪の中、ジャンボタクシーは此処まで。(料金は約 6,500 円)ワカンを付けて林道をルートとテント場を探しながら歩く。いくつか枝道らしき分岐があるが地図を読めば問題ない。 		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 1 時間ほど歩いた先に平らで雪崩にも遭いそうもない場所があったので此処をベースにして 2 張りのテントを設営する。 さて、ルートをどう取るか。過去の記録を見ると日白山に向かって左の旧スキー場から東谷山に登り稜線を辿るか、向かって右の二居の頭の間地点の稜線に向かう記録があるがどうも気乗りしない。 地王堂川が標高 1000m 地点で分岐する 1519m 峰に突きあげる尾根が急登だが登れるか偵察して様子を見ることにする。 快晴のため気温が上がり雪崩には細心注意を払って 1 時間ほど登ってみる。急登に続く急登だが朝早く登れば雪が締まって雪崩も回避できそうだ。ただ何処にもこのルートを登った記録はない。 2 日目、昨晩は気温が急激に下がり予想通り雪も締まりワカンを付けずアイゼンのみで 1519m 峰に向かって急坂にステップを切りながら登る。ルートの両脇には以前の雪崩の跡が目につく。 1519m 峰から東に広い稜線を辿ると日白山山頂に着く。高曇りながら展望は素晴らしい。 帰路は登ってきた道を雪崩に注意しながら慎重に下山した。
参加者	村松(L)、清家、北川、武内、青山、佐藤(健) 男 4 名、女 2 名 計 6 名

概念図



日白山の山頂 ピッケルを挙げよ！

< 6 7 2 > 新人歓迎山行

神峰山～高鈴山
(587m) (623m)

本田愛子

私たちB班は日立鉱山記念館前駐車場でバスを降りました。

駐車場前の国道の反対側に日立鉱泉への出入り口の門があったが閉鎖されている。50メートル先にトンネルがあり、その手前に登山道の階段があって、登ると鉱山道路に出た。アスファルトの道を20分登ると神峰山登山口の道標があって、そこで衣服調整をして山道に入る。急坂を登ってゆくとすぐ神峰山分岐に至る。左方向の御岩山へ向かうとすぐ道が分かれ、登り詰めると、先には道がなく下の方に道が見える。そこでおりてゆくと、先ほど別れた下りの道と合流するところだった。少しだけ回り道をしたが、そこから急坂を登って尾根に出る。そこから御岩山の岩肌が見えて、そこはクライミングに適したところだそうで、山頂でクライミングをしていた人に会った。少し休んで高鈴山に向かう登山道に進むと、両側にアシビの木が白い花を咲かせていて、気持ちのよい尾根歩きとなった。ちなみにアシビは馬酔木と書いて、馬にはよくないらしい。短いアップダウンがあり、高鈴山の観測塔が見えてくる。高鈴山の頂きは海側に建設省の観測塔が建っている。反対側は展望台があり、遠くに奥久慈の山並みが見えて眺めの良い所だった。写真を撮ったりして少しのんびり休んだ。その間A班から連絡が入り、コース変更になる。風神山には行かず、下って助川市民の森で合流することになった。

4月になって山は春色で芽吹いているが、今日は風が冷たく寒い。

1時間ほど下ってゆくと市民の森に着いた。目の前に、おむすび池という小さな三角形の池と屋根付きの舞台のようなあずま屋があった。少し離れた所にポツンと小さなトイレの建物が建っている。A班が到着するまで15分ぐらい先にある、助川山まで行ってくるようになった。

助川山(約320m)は車イスでも登れるように、スロープの道があって、かたつむりのような小さな可愛い山である。私たちは階段で登った。山頂は360度の展望で、太平洋と町並みが眼下に見え、反対側は登山口から歩いてきた山々が見えた。寒くなければずっと眺めていたいすばらしい助川山だった。

おむすび池へもどり、A班を待った。新人歓迎

会はずま屋風の舞台の上に、ビニールシートを敷き、皆さん輪になって乾杯した。食担の手作り料理(唐揚げ・ソーセージ・野菜のごま和え・ナムル・きんぴら・漬け物等)は、すごいごちそうだったが、暖かい食べ物がなかったのが残念だった……。ビールも寒いところでは酔えないのでは?その代わり、バスの中では楽しい宴会になり、新人の方にも歌を歌っていただき、大いに盛り上がったのではないかなと思う。

今回は新人歓迎会ということで、最後まで歩けなかったが、静かで眺望のよい日立アルプスを完歩できたと思います。

概要

山名	神峰山～高鈴山		
月日	平成22年4月4日(日)		
山域	阿武隈山地 (日立アルプス)	地形図	1/25000 日立、町屋、常陸太田
形式	日帰り	グレード	1A・2A
目的	新人歓迎山行		
費用	3,200円	交通	貸切バス
行程	我孫子駅北口 5:35/6:10→(常磐道)→日立中央IC→ A班→鞍掛山登山口 8:10⇒羽黒山⇒神峰山⇒御岩山⇒高鈴山⇒おむすび池 13:05 B班→日鉱記念館 8:45⇒御岩山⇒高鈴山 10:15/10:45⇒おむすび池⇒助川山 12:30/12:45⇒おむすび池 13:00 ※おむすび池にて懇親会 13:05/14:20⇒バス合流 15:20→我孫子 18:00		
ルート状況	・時間見積りの修正から、宴会場を風神山自然公園から助川山市民の森に変更し、ルート及び下山口の変更をした。(※下調べの手落ちとして反省。) ・各所にトイレが配置された快適なハイキングコースであった。 ・高鈴山(一等三角点)では、奥久慈、太平洋の展望が良かった。 ・寒かった! 展望は良かったが、風が強く、外での宴会には不向きな気温でした。 ・平成13年の忘年山行時には、(大火の後に植えられた)幼木だった木々が成長していたことに感動しました。		
参加者	A班 田村(L)、瀬田、武内、青山、柴、清家、佐藤健、千葉、中村八、村松敏、高橋英、石垣、佐藤明、末永、 B班 川下(CL)、本田(L)、原田君、品田、矢野裕、塩原、小谷、中村育、斎田、中村隆、外崎、原田和、小川誠、村松峯、飯合(会友)		
	男 11名 女 18名 計 29名		

概念図



ショウジョウバカマ



A班 高鈴山山頂にて



羽黒山への急な登り



↑ とにかく寒かった
← おむすび池のほとりの懇親会場



ショウジョウバカマ

↑ B班集合写真

行軍中 こんな藪聞いてないよ！ →



平成22年4月4日 新人歓迎山行
助川山市民の森

< 673 >

アモウ沢～滝子山
(1,590m)

佐藤健一
(やまたんより転載)

前夜日本海に有った低気圧も足早に東進し 1 日目の行程にあまり影響が無いという判断の下、計画決行としたが早朝 5 時頃の千葉県北西部は出だしから雨が強く、出発を 2 時間遅らせる事にして参加者に緊急連絡した。

最近の JR はトラブルや遅延が多い。この日も途中駅(相模湖)で意味不明の長時間停車があり、予定したバスに間に合わない(さすがに 20 分もバスは待ってくれない)事が判り、JR 車内から富士急山梨バス大月営業所に携帯電話で相談したところ、当方が 9 名であることも計算に入ったか、臨時バスを出してくれることになった。何事も諦めるべきでない。バスは貸切扱いとなって私達だけで目的地まで正規の運賃で運んでくれた。

ついでに想定外の雪についても一言。桑西辺では前夜の積雪が 10cm 程一面にあり、しかも土木工事後の柔らかい土と混ざってのぬかるみ状態には閉口した。当然予定していた山菜はこの時点では諦めざるを得なかった。

アモウ沢堰堤には 13 時 30 分頃到着。テントを設営の場所を慎重に選定し、それぞれが役割を自身で決めて忙しく働いた。先ずは薪集め。そして雪の下からの山菜摘み。山ほどの木と山菜が集まった。特に諦めていた天麩羅が出来るぞ。



焚き火を囲んでくつろぐ

勢いよく燃え上がる焚火の上にはビリー缶が並び、つるされたワイヤーの先にはサバが吊るされて焼かれ(燻製となる)、それぞれが持ち込んだ十分なお酒に酔い、揚げたての天麩羅を食べ、暖かく幸せなキャンプ体験を味わった。



翌朝は滝子山東稜を登山する班(どの地図にもルートを示す破線が無いので一応バリエーション扱いとしよう)と、東稜のすぐ右に位置するアモウ沢逆行班に分かれて行動開始。東稜班は雪に覆われて踏み跡が見えなかったり、沢沿いの道が一部崩れて通れず迂回したりでルート探しに時間を食った。沢班も着雪で滑りやすいうえに、雪でホールドが見えず時間を食い、早々にエスケープの東稜に藪漕ぎで上がって来てハイ: **アモウ沢堰堤ホテル**

滝子山の頂上はいつも通り登山者で賑わい、富士の眺めも素晴らしい。下山はアモウ沢乗越を超えた沢左岸の尾根を下降する。痩せ尾根であったり、雪が融け残っていた所はザイル等を活用して安全確保する方法を小谷さんが指導。その後テン場に戻り、早々に撤収して恵能野川沿いの山道を下ったが、3 回ほど有った恵能野川の渡渉が、少々増水の影響で難儀した。

切目峠は地図にも記載されていない、地元の人か、関係者のみが知る峠だが、知っておくとルート短縮にとっても便利。

馴染みの大月駅前のラーメン屋で生ビールとラーメンを食う。山には山の味が有ってとても素晴らしかったが、街にも何時もの味が有って、たった 1 日半振りではあったがとても懐かしく美味であった。

概要

山名	アモウ沢～滝子山		
月日	平成22年4月17日(土)～4月18日(日)		
山域	大菩薩連嶺	地形図	1/25000 笹子、大月
形式	テント	グレード	2B&3C
目的	・テント泊で山野草料理堪能 ・沢と初級バリエーションハイクの同時登山		
費用	6,500円	交通機関	JR&バス
行程	1日目	我孫子 7:29→高尾 9:24/9:58→大月 10:30/10:40→ハマイバ前 10:58/11:10→ 桑西林道分岐 11:55⇒林道分岐 12:02⇒岡 松ノ峰峠 13:10⇒アモウ沢堰堤 13:35(泊) ＜歩行時間：2時間15分＞	
	2日目	【沢班】アモウ沢テニ場 7:25⇒東稜タル下 8:35⇒沢右岸藪漕ぎ直登 9:30⇒東稜班と合 流 9:45 【ハイキング班】アモウ沢テニ場 7:20⇒東 稜19号鉄塔下 8:45⇒御正人ノタル 9:30⇒沢 班と合流 9:45 【合流後】滝子山三角点 11:25⇒滝子山山頂 11:35/11:50⇒アモウ沢乗越 12:15⇒アモウ 沢左岸下降 12:20/12:25⇒アモウ沢堰堤テ ニ場 14:25/15:05⇒恵能野川渡渉 16:00⇒切 目峠 16:30⇒間明野バス停 16:45/17:07 → 大月(反省会) 17:45/19:52⇒我孫子 22:30 ＜歩行時間：8時間30分＞	
ルート状況	・全般的には、想定外の積雪と融雪で登山道はぬかるみ、滑りやすかった。		

ルート状況

- ・アモウ沢は着雪(10cm程度?)のため手掛かりが見えず、早々にエスケープルート(東稜への直登)をとった。
- ・滝子東稜のハイク班も、19号鉄塔表示の杭までの下山路が一部崩壊して進めず、やむを得ず上空の東電の送電線を頼りに直登せざるを得なかった。
- ・滝子山からの下山路のアモウ沢左岸尾根は尾根自体は明瞭なるも、傾斜がきつく、所々痩せていて、ザイル等による確保が必要であった。
- ・恵能野川沿いの下山路は一部崩壊が進み、また渡渉も増水時には困難と思われた。

参加者

佐藤健(CL)、堀口(L)、千葉、小谷、佐藤明、外崎、田村、齊田、森戸(ゲスト)、
男3名 女6名 計9名

概念図



滝子山山頂にて

< 6 7 4 >

御前山～九竜山
(1,405m) (942m)

青山寿子

季節はずれの雪山ハイク

4月中旬は御前山のカタクリの群生にお目にかかれるが、多数の登山者と同行するのは味気ないので、シダクラ右岸尾根から登り、下りに江戸小屋尾根の九竜山を経由して奥多摩駅に下山というコースを設定した。

季節外れ降雪の翌日だったので、軽アイゼン、ストック持参の山行となり、防寒対策も必要となった。降雪の翌日だが快晴のため奥多摩湖行きバスは満員だったが惣岳で降車は我々4人のみ。

810M地点から積雪が序々に多くなり、シダクラ峠は雪景色。雪のために道迷いをしたのか栃寄林道から迷い込んだ登山者2名と遭遇する。910M付近では10CMの積雪となり登りながら足元が寒い。



雪のシダクラ峠から垣間見える風景

アセビの広場は休憩するには最適だが積雪が10CM以上あり、立ち休憩となった。尚も登高すると惣岳山に到着。登山道の雪はシャーベット状になり歩きづらい。惣岳山～御前山の登山道周辺にはカタクリが群生しているはずが一面雪に覆われ、わずかにコバイケ草の葉先が覗いているだけだった。降雪2～3日前にはカ

タクリが咲いていたとの事残念！！



アセビの広場にて

御前山山頂は多数の登山者で賑わっていた。昼食を摂りスパッツ、軽アイゼンを装着し鞘口山に向かうが、シャーベット状の雪は滑りやすく疲れる。鞘口山から江戸小屋尾根に進路を変えるが北尾根なので積雪量が多いのではと心配だったが、思いのほか少なかったが、急坂で滑りやすく、ストック、杖が頼りの歩行となる。

九竜山(九重山)は山容が竜の体のように曲がりくねっていることの由来から名付けられた山名である。立ち木に木製の標識がぶらさげてあった。展望はなく静かな山頂であり標識がなければ気付かない。

九竜山からは積雪が少なくなったのでアイゼンを離脱したが、落ち葉が濡れていて急坂は滑りやすい。790M付近は西側が開けた斜面に林業用ワイヤーが張られているが、雲取山付近まで遠望でき、眼下には山桜が満開で休憩するには最適。

スギ林の急坂をひたすら下り続けるとロープ、梯子、10号鉄塔を経て林道に降り立つ。林道から奥多摩病院への登山道は紫ヤシオ、紅白の桃が咲き乱れていた。季節外れの雪ではあったが、下界はまさに春爛漫であった。

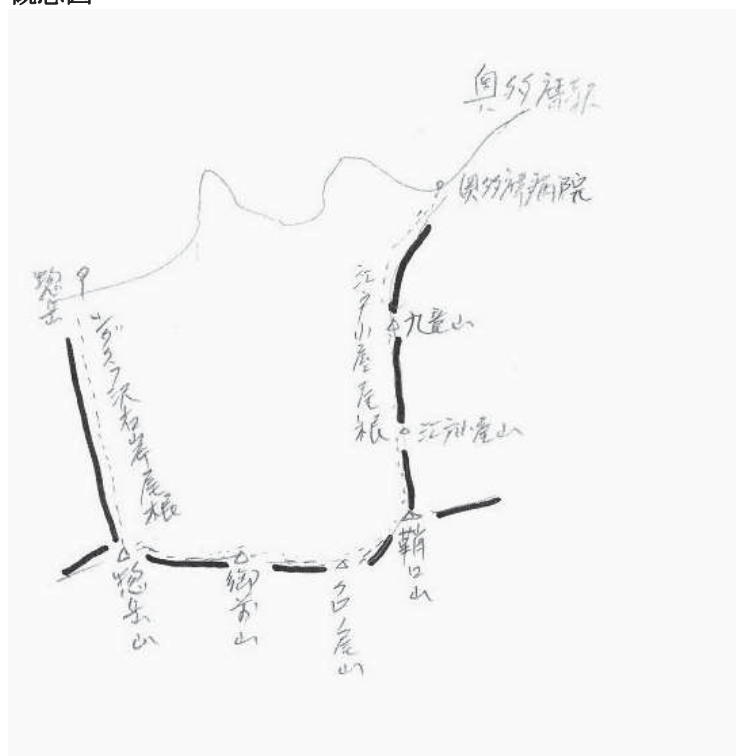
概要

山名	御前山～九竜山		
月日	平成 22 年 4 月 18 日(日)		
山城	奥多摩	地形図	1/25000 奥多摩湖
形式	日帰り	グレード	2B
目的	カタクリの花		
費用	約 2,700 円	交通機関	J R, バス
行程	我孫子駅発 5:33→新松戸駅 5:47/5:53→西国分寺駅 6:47/6:55→立川駅 7:01/7:05→奥多摩駅着 8:29/35→惣岳 9:00⇒6 号鉄搭 9:22/30⇒810M地点テレビアンテナ 10:28/33⇒1062M地点 11:15⇒アセビの広場 11:40/11:50⇒惣岳山 12:15/20⇒御前山 12:35/50(昼食)アイゼン、スパッツ装着⇒鞆口山 13:55/14:00⇒江戸小屋山 14:31⇒九竜山 15:05/10⇒10 号送電鉄搭 15:45⇒林道 15:55⇒慈眼寺 16:07/12⇒奥多摩病院前 16:18/30→奥多摩駅着 16:40/ 18:10 晴れ時々曇り<歩行時間 6 時間 15 分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・季節外れの降雪の翌日の山行だったので急遽、ストック、軽アイゼンを携帯する。 ・シダクラ沢右岸尾根取付きには「6 号に至る」の送電線巡視路のポールある。 ・810M点でテレビアンテナが設置してある。 ・アセビの広場に出ると岩尾根と巻き道に分かれるが標識は巻き道を示している。 ・惣岳山から御前山登山道周辺にはカタクリが咲いている筈が雪のなかに埋もれていた。 ・鞆口山～江戸小屋山は積雪のため滑りやすかった。 ・九竜山(九重山)には木製の標識があった。750M～600Mの急坂は濡れた落ち葉で滑りやすい。 		
参加者	青山(L)、村松敏、清家、末永 男 1 名 女 3 名 計 4 名		



御前山頂上にて

概念図



< 6 7 5 >

比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山
(848m) (1,009m) (1,125m)

大串秀雄

歴史に思いを馳せながら 念願の山こだわりの古道へ

「何と(710)見事な平城京」「鳴くよ(794)鶯、平安京」…語呂あわせを思い起こせば、飛鳥から奈良へ都が遷ったのは西暦710年。今年、2010年は丁度、平城京遷都1300年に当たる。このことを意識したわけではないが、偶々この記念年に、歴史に思いを馳せながら古道を歩こうと計画することに、なんとなく因縁を感じた。

比叡山・高野山の古道を登り、延暦寺・金剛峯寺に参ることは前々からの念願だった。加えて、昨年夏頃だったろうか、比叡山延暦寺座主が高野山金剛峯寺の法要に参列し、千数百年にわたる天台・真言両宗派の確執にも変化が…との報道に接した。このことも、両山への興味が増す切っ掛けになったのかもしれない。

比叡山に登る際には、歴史上もしばしば登場する雲母(キララ)坂と、最古の参道といわれる本坂を上り下りしてみようと思っていた。両坂には多数の史跡も残っているようだ。また、高野山では空海が開いた表参道、九度山からの高野山町石道を登りたいが、時間的制約上から、弘法大師御廟奥の高野三山(摩尼山・楊柳山・転軸山)～女人道でも充分と考えていた。いずれにしても、年齢的にそろそろ感も是あり、歩いて登れるうちに是非とも行っておきたい所だった。

折角、比叡山・高野山まで時間と交通費をかけて遠征するのであれば、ついでに、我が国最古の道のひとつといわれる「山の辺の道」と、古墳時代の豪族、葛城一族ゆかりの葛城山古道へも、足を伸ばすことにした。

山行計画がやまたん誌やホームページ上に掲載されると、ありがたいことに関西で山登り経験のある会員や元会員から、諸々、貴重なアドバイスをお寄せいただいた。そのひとつが比叡山雲母坂の件。雲母坂は整備状態が芳しくなく、上り道としては問題ないが、下るのは如何だろうか…と。早速に、上り下りを逆にし、京都側の雲母坂を上

り、琵琶湖側の本坂を下ることに変更した。また、計画段階から通行止め中だった葛城山古道。その後もインターネット情報を確認していたが、出発10日前になっても崩落箇所の復旧工事遅れで依然、未開通のまま。このため、葛城山の隣峰で、太平記舞台の古城跡として名高い金剛山に変更した。

計画が具体化するにつれ、うろ覚えの歴史事象と山名・地名や寺社名などが重なり合い始め、歴史ロマンに興味を募るばかりだった。未知の山域ながら親近感に駆られ、計画、準備に時間の経つのを忘れるほどだった。

手間と感じた事は山宿クラスの旅館を探すことだけ。募集直後には想定参加者数を大幅に超える20数名から申込みをいただき大慌て。伏見稲荷宿坊の仮予約人数は増員できたが、格好だった高野山宿坊の仮予約はキャンセルせざるをえなかった。一応、河内長野での連泊、旅館車送迎サービス利用に変更対応ができ、事なきを得た。

準備万端、あとは山行中の天気だ。残念ながら、出発1週間前に発表された週間天気予報は芳しくない。晴マーク皆無で連日雨模様の予報は、出発直前になっても好転しない。今更キャンセルも出来ず、それなりに準備と覚悟をして出かける破目になった。土地勘のない地域だけに、特に、雨天の場合の代替案、雨中でも歩ける別ルートの方策定には一苦労した。

いよいよ山行の当日。定刻に東京駅八重洲口で夜行バスに乗り込む。順調に京都駅八条口に到着。全員、よく休めたようだ。去年の近畿山行時には眠れなかったが今回は熟睡した…と仄聞。参加者の体調が万全であることを確認でき、先ずは安堵。さあ、歴史ロマンへの期待と天候への不安を胸中に秘め、念願の山、こだわりの古道へ出発!

比叡山

比叡山には実のところ未だ登ったことがない。過去、京都側山麓の八瀬方面や琵琶湖畔の坂本までは、夫々数度ほど訪れたことはあるが、偶々間合いが悪ったためか、自ら、延暦寺参拝の機会を何回も反故にしていた。今回は歩いて登り参拝する計画で、雲母坂と本坂を上り下りすることにした。雲母坂は、太平記終盤のクライマックス、後醍醐天皇を擁して比叡に籠る新田義貞軍と、京都側から攻め挙がる足利尊氏軍との古戦場。法然や親鸞、弁慶らも通った古道でもあり、歴史ロマンには事欠かない。もう一方の本坂は伝教大師、最澄が開いた表参道で、比叡山最古の参詣道だ。この両坂は、以前からこだわっていた古道で、是非とも登ってみたい道だった。

早朝の京都駅はうす曇。ラッシュアワーの満員電車を避け、早々に登山口の修学院駅へ向う。駅ホームのベンチで朝食を済ませ、分り難い街中の道を確認しながら、修学院離宮脇の登山口まで辿り着く。比叡山山頂方面には雲がかかり、その姿は確認できない。



比叡の古道「雲母(キラ)坂」は掘割底を這うような急登路

雲母橋を渡り、いよいよこだわりの古道、雲母坂を登り始める。整備状態は良くないが、特に危険と言うこともなさそうだ。ただ、確かに下降路よりは上り道だ。途中に大きな段差が10数箇所もあり、下降路とする場合には慎重な対応が必要と史料。千数百年前からの古道は深くえぐれ、まるで掘割の底を這うような上り道。時折、見晴らしのよい高台に出ると、眼下に広がる京都の街を一望できた。急登狭隘の悪路も、太平記に登場する古戦場、水飲対陣跡辺りまで。ただし、歩き易くなった代償として、このあたりからは予報どおり霧雨の試練が待っていた。ケーブル比叡駅に到着した頃からは、ついに本降りの冷雨。最短ルートを選びながら山頂付近に出たが、最も楽しみにしていた、琵琶湖から滋賀の山々の大展望は濃霧で全くダメ。朝から、ハイカーに全く会わない。

200名山に数えられる山頂は観光地化されて、登山道とは別に、ケーブルやマイカー・バスで簡単に登れるルートもあるが、この天気では人影も全くなし。鮮やかな新緑と満開の山桜が一服の清涼剤になった。

東塔・阿弥陀堂エリアから延暦寺に入山。このあたり、延暦寺の中核でも参詣・観光客はまばら。根本大塔では、ガイド役の坊さんの説話に耳を傾けながら参拝。それにしても冷え込む。この「ヒエ」が比叡の由来、との坊さんの駄洒落にはみな大笑い。雨脚が徐々に強くなり、気温も低下し始めた。琵琶湖の展望は全く期待できず、下降路も雨に濡れ滑り易そうだ。やむなく、こだわりの坂、本坂下降は次回の楽しみとし、延暦寺そばで冷えた身体を温めてから、ケーブルカーで下山することにした。琵琶湖畔の坂本では、参道の桜並木の古木が満開。石垣の街はそば降る雨で一段と落ち着きはらっていた。ピンクの花たちが雨中山行の疲れを癒してくれたのが、何よりも嬉しい。

JR比叡山坂本駅から京都駅経由、稲荷駅まで直行。一旦、伏見稲荷大社宿坊(参集殿)に入り、入館手続。その後、空身で京都東山界隈の散策に出掛ける。八重桜の咲き残る祇園白川から知恩院へ。時折の小雨が古刹には良く似合う。八坂神社に詣で、高台寺門前の「ねねの道」から三年坂を上って清水寺へ出る。新緑の中に点在する真っ白な山桜…正に京の春風情。五条坂を下り、五条大橋近くで夕食を済ませ、伏見稲荷大社に戻った頃にはほとんど雨はあがっていた。明日の予報には雨マークがなくなった…。予報急好転の果報に「山の辺の道」への期待が膨らむ。



比叡山山頂(左上奥)は残念ながら雲の中(比叡山雲母坂登山口)

山の辺の道

朝の空は明るい。とりあえず雨の心配はなさそうだ。近鉄京都駅の広い待合室で朝食を済ませ、直通電車で天理駅に向う。天理教本部前のアーケード街を抜けると、新緑と青空が待っていた。伊勢神宮よりも古い石上(イソノカミ)神宮から、いよいよ中大兄皇子や藤原釜足も通ったであろう「山の辺の道」を歩き始める。我が国最古の道のひとつで、奈良朝以前から奈良～飛鳥間を通行する山側の主要路。天皇陵などの古墳群や最古の神社がこの道で結ばれている。



崇神天皇陵脇の小径を往く
(山の辺の道)

平城京遷都1300年の記念行事で混雑するのではないかと懸念していたが、歩行者とは稀に行交う程度。久し振りの青空と日差し。爽やかな春風に吹かれながら、早春の里歩きを満喫。八重桜や赤黄白、色とりどりのマンサクの花が真っ盛りで、目を楽しませてくれる。真っ黄色に染まる菜の花畑の向こうには、奈良盆地を挟んで、生駒山・二上山・葛城山・金剛山の山並みがくっきり。ただ、金剛山山頂は大阪府最高峰だけに雲の中だった。最古の神社、大神(オオミワ)神社(=三輪明神)の展望台からは、飛鳥～奈良一帯を眺望。金剛・葛城をバックに、天の香具山～畝傍山～耳成山の和和三山が存在感を示していた。道すがらの由緒ある神社仏閣や遺跡は、枚挙に暇がないほどで、期待以上に古代ロマン満杯の古道だった。「山の辺の道」は想定以上に時間を要した。観光マップ上の所要時間は馬鹿にできない。軽装の観光客は意外と早足だ。登山靴にザックの出で立ちではそれなりに時間が必要だった。大幅に時間を短縮できるのではないかと想定し、できれば更に5～6kmほど先の長谷寺まで歩こうと思っていたが、全く無理だった。計画時間をも超過し、桜井駅からの電車にも乗り遅れたので、タクシーで

牡丹まつり開催中の長谷寺へ向う。残念ながら、桜散り牡丹も未だチラホラ程度で、花のお寺は端境期。階段状の古刹参詣道を数百段も上り下りした直後だけに、最寄り駅まで15分ほどの上り坂に苦戦した。近鉄各線の乗換えが極めて順調で、計画より若干遅れたものの、6時前には河内長野の宿に到着できた。

高野山

高野山とは縁遠かった。地理的に、出張の折ついでにというには無理な距離で、今まで全くその機会がなかった。多少の縁といえば、空海が修行した霊山、四国最高峰の石槌山(1982m)山行でのことか。その山の最難関「試しの鎖」との格闘が、今となっては懐かしい。いままで見たこともない巨大で頑丈な鎖が、数十メートルも垂直の絶壁に垂れ下がっていた。もともと、80メートル近い「試しの鎖」の箇所では、迂回路を安全に登る計画だったが、「試しの鎖」とは知らずに登ってしまった。見事に引っ掛り、試されてしまったが、結果として何事もなく山頂を極められたことは、弘法大師の導きによるものかもしれない。このほか、中国の西安(長安)で地元ガイドから聞いた、空海の功績も記憶に新しい。同地では修行期間3カ年間ほどだったようだが、習得した行書体を日本に持ち帰って草体化し、平仮名を創作した…との由。どうもこの伝承は真説でないらしいが、千数百年経った今でも、彼の地西安には、明晰な修行僧としてまた名筆家として、空海の名声が残っていた。記念碑も保存されているようだった。

いよいよ高野山参詣の前夜。90%雨、一時雷雨など大荒れの予報に、夕食を兼ねて鳩首協議。



雨中の高野山参詣(金堂と右木立の後ろに根本大塔)

残念ながらこの段階で、高野三山ルート（弘法大師御廟⇒御廟橋⇒摩尼山⇒楊柳山⇒転軸山⇒黒河口女人堂跡⇒金剛峯寺）中止の仮決定を余儀なくされた。翌早朝、予定どおり旅館車に乗り込み、一応現地まで出掛けたが、雨脚が強くやはり山歩きは無理。天空の宗教都市は雨にけむり、周辺の山々も霧に包まれ影や形もない。断腸の思いながら、高野三山は諦めざるを得なかった。

高野山大門で一旦下車してから、さらに旅館車で奥の院・中の橋まで直行。樹齢数百年の杉木立の中を、御廟橋から先ずは弘法大師御廟に参拝。幾多の武将・大名などの墓碑を訪ねながら、静まりかえる参道を一の橋までゆっくりと散策した。降りしきる雨が、1200年近い歴史の重みに、味わいを添えていた。高野山上の諸寺から壇上伽藍（不動堂・金堂・根本大塔など）まで、金剛峯寺周辺を参観。依然降りやまない冷雨。残念ながら、早々の切上げはやむを得ないか。ケーブル山上駅前で、温かな高野山そばをすすってから、河内長野の宿まで直帰した。

金剛山

予報ではとりあえず雨の心配はなさそうだ。予定どおり千早城跡側の登山口で旅館車を降りる。最初の第一歩から始まる500段余りの急階段で、先ずは大汗。楠木正成ゆかりの千早城跡まで一気に上り切る。確かに、太平記で詳述されているとおり、鎌倉幕府軍数万の猛攻に僅かな城兵で耐えに耐えた“難攻不落の山城”、と実感した次第。城跡のそこかしこに、幕府軍を騙したであろう、城兵の擬似人形が展示されていた。



中央の急階段がそのままの傾斜で千早城跡まで続く（金剛山登山口）

城跡裏からしばらく登ると小道との分岐点に出た。その地点から先は、小峰の山腹を反時計回りに180度近く回り込み、さらに別ルート（千早

城跡迂回路）登山口方面に下っているようだ。ルート確認のため更に下って下見したところ、別ルート登山口方向にまっすぐ下降している登山道が見えた。一旦、小道との分岐点まで戻って地図上で再確認したが、分岐している小道は山頂方向に向っているものの、とても一般ルートの登山道とは思えない。標識は朽ち果て人の気配は皆無。ガスで遠目もきかない。

全員で協議の結果、ふたたび戻った道を引き返し一段と下降してみると、右下方に別ルートとの合流標識が見えてきた。下見時に、あと10mほど下って確認していれば、行ったり来たりすることもなかった、と深く反省。

この合流地点を鋭角に右折して山頂に向う。千早本道は早朝にもかかわらず登山者が多い。そのほとんどが登山靴を履いてはいるものの、軽装で且つ極めて早足だ。駆け下りても来る。喜寿の古老や買い物袋に傘を入れた出で立ちのおばさんが、我々の倍近い速さで登ってゆく。金剛山練成会々員のように毎朝の日課らしい。筑波山表参道と同程度ながら、それにしても毎日とは恐れ入った。1000回登頂などはザラで、山頂の掲示板には8000回までの登頂者名がずらりと列記されていた。1万回達成者もいたようだが見落とした。

予報では雨の心配がなかったが、やはり大阪府最高峰、1100mを超える山頂は平地と違う。いつの間にやら山霧から霧雨に変わっていた。山頂神社近くでは3℃の表示。飛鳥の里や吉野の山々、あわよくば昨年登った大峰山脈主峰の大峰山～八経ヶ岳あたりまでの大展望を期待していたが、目の前の隣峰、葛城山の雄姿さえ見ることが出来なかった。今後、登る機会が少ない山だけに残念・無念…。冷え込みと霧雨では腰を下ろしてゆっくり休憩することもできない。後ろ髪を引かれながら、一気に且つ慎重に山を下りた。迎える旅館車に乗り込み、大楠公、楠木正成墓所のある観心寺門前で記念撮影して宿に戻る。汗を流してから反省会。早めに宿を立ち、途中、計画外の樞原神宮に寄り道してから帰途についた。

後書

多人数かつ長期間の山行だったが、事故もなく、誰ひとり体調を崩すこともなく、結束して行動してきた。比叡山下降時と高野三山ルートを除き、計画通り歩くこともできた。素晴らしい山仲間とともに、歴史に思いを馳せながら念願の山に登れ、こだわりの古道を歩け、大満足の4日間だった。

概要

山名	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山		
月日	平成22年4月19日(火) 夜～23日(金)		
山城	近畿地方(滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山)	地形図	1/25000 大原・京都東北部・高野山・五條(和歌山)
形式	山麓泊	グレード	1A
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史に思いを馳せながら新緑の古道を歩く。 ・山頂からの大展望も楽しみ。 		
費用	約44千円(ジパング30%割引利用者の場合)	交通機関	高速バス(回数券)・近鉄(フリーパス)・南海電車・バス・ケーブル・JR(新幹線)
日程	1日目	<p>我孫子駅(集合 20:50)/20:53(前夜)→東京駅 21:45/22:20(前夜)→(近鉄高速バス)→京都駅 八条口 5:35/5:50⇒七条駅 6:09→(京阪電車本線)→出町柳駅 6:18/6:22→(叡山電車本線)→修学院駅(朝食)6:29/7:00⇒修学院離宮 7:15⇒雲母橋 7:25⇒雲母坂⇒水飲対陣跡分岐 8:15/8:20⇒ロープウェイ・ケーブル比叡駅 9:30/9:50⇒四明ヶ岳(ロープウェイ比叡山頂駅)10:15⇒延暦寺東塔(根本中堂・国宝殿・法華総持院東塔/昼食)10:25/12:30⇒ケーブル延暦寺駅 12:45/13:00⇒ケーブル坂本駅 13:11⇒比叡山坂本駅 13:40/13:48→(JR湖西線)→京都駅 14:05/14:22→(JR奈良線)→稲荷駅 14:27⇒伏見稲荷大社参集殿(入館手続)14:30/15:10⇒市内散策(夕食)⇒伏見稲荷大社参集殿 19:00 (泊)</p> <p>曇りのち雨<歩行時間: 8時間(うち散策3時間) ></p>	
	2日目	<p>宿坊 6:10⇒稲荷駅 6:19→(JR奈良線)→京都駅(朝食)6:24/7:26→(近鉄京都線/橿原線/天理線)→天理駅 8:27/8:40⇒山の辺の道(石上神宮 9:30⇒衾田道休憩所=昼食 10:55/11:20⇒崇神天皇陵 12:15⇒大神神社 13:55/14:05)⇒桜井駅 14:40/14:55→(タクシー)→長谷寺(参拝)15:10/16:00⇒長谷寺駅 16:20/16:33→(同大阪線)→大和八木駅 16:46/16:50→(同橿原線)→橿原神宮前駅 16:55/17:00→(同南大阪線)→古市駅 17:21/17:37→(同長野線)→河内長野駅 17:55⇒おばな旅館 18:00 (泊)</p> <p>曇りのち快晴<歩行時間: 散策7時間 ></p>	

日程	3日目	<p>旅館(朝食 6:00)6:45→(旅館車)→金剛峯寺大門 7:55/8:05→(旅館車)→中の橋(奥の院前バス停)8:15/8:20⇒御廟橋⇒弘法大師御廟⇒一の橋⇒金剛峯寺・根本大塔・不動堂・金堂⇒観光協会前バス停 10:45/11:15→(バス)→高野山駅(昼食)11:28/12:32→(ケーブル)→極楽橋駅 12:37/12:42→(南海高野線)→河内長野駅 13:55⇒おばな旅館 14:00 (泊)</p> <p>雨<歩行時間: 散策2時間 ></p>
	4日目	<p>旅館(朝食 6:00)6:40→(旅館車)→登山口 7:00/7:05⇒千早城跡 7:20/7:25⇒千早本道⇒山頂広場 8:50/8:55⇒金剛山(葛木神社) 9:10/9:15⇒金剛山キャンプ場・伏見峠 9:35⇒百ヶ辻(昼食)10:20/11:05→(旅館車)→観心寺(=楠木正成墓所)11:40/11:45→(旅館車)→おばな旅館(入浴/反省会)11:55/13:25⇒河内長野駅 13:32→(近鉄長野線)→古市駅 13:52/14:08→(同南大阪線)→橿原神宮前駅(神宮参拝)14:27/15:24→(同橿原線)→大和八木駅 15:30/16:01→(同大阪線/名古屋線=特急)→名古屋駅(夕食ほか)17:51/18:33→(新幹線ひかり482号)→東京駅 20:40→上野駅 21:00→我孫子駅 21:50 (解散)</p> <p>曇りのち小雨<歩行時間: 4時間30分(うち散策1時間) ></p>
ルート状況	<p>①比叡山雲母坂 万全な整備状態ではないが危険性は少ない。ただし、大きな段差が10数箇所あり、下降路とする場合には慎重な対応が必要。</p> <p>②山の辺の道 観光マップ上の歩行時間は空身でのものでも、馬鹿に出来ない。ザック登山靴の出で立ちの場合はそれなりの時間を要す。</p> <p>③金剛山千早城跡ルート 整備良好。西側の別ルート(千早城跡迂回路)との合流地点は、小峰(666m)山腹を半周し別ルート登山口方向に下った所で、城跡から10分ほどの距離。</p>	
参加者	<p>大串(L)、榊原、中野、中村美、品田、飯沼、瀬田、中村育、大串恵(ゲスト)、大桃(ゲスト)、日下(ゲスト)、斎藤(ゲスト)、菊地(ゲスト)、増田(ゲスト)、高橋潔(ゲスト)</p> <p>男4名、女11名、計15名</p>	

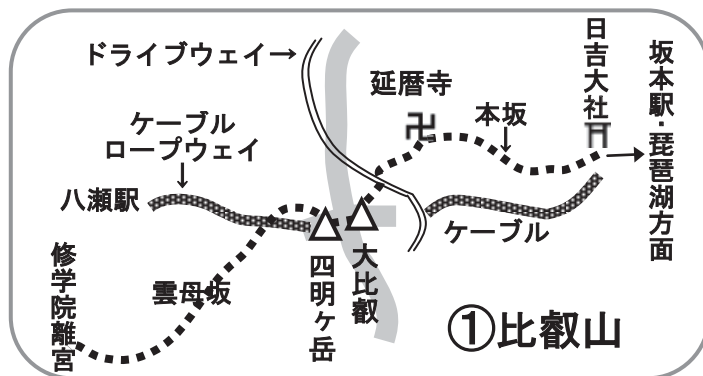


飛鳥の里・大和三山の眺望を満喫(山の辺の道=大神神社近くの展望台)

ルート概念図



比叡山・高野三山・金剛山 概念図



①比叡山



③高野三山



④金剛山

< 6 7 6 >

鈴ヶ尾山～大桑山 (834m) (980m)

千葉有子

翌日の田村リーダーの高尾山は 14 名の盛況だというのに、この日の鈴ヶ尾山はリーダーと私の二人だけ。「高尾山なんてもう何度も登った」、と負けじ魂で精いっぱい言い訳しながら、猿橋の駅に二人寂しく下り立った。いやいや、なにが寂しいことがあるだろう。登山道へ向かう道すがら、山吹や豆桜など春の花が爛漫でやわらかな風が春の香りを運んで私たちを慰めてくれる。

40 分後、幡野集落の畑で作業する老人に挨拶し、フェンスの扉を開けてようやく登山道に入る。途中、泥状の滑りながら言うようにして登る斜面もあり、難儀をする。そんな折、ふと振り返れば里山が若葉の薄緑色と桜の薄桃色に覆われ、なんとも言えず美しい。春の山が若葉と桜で美しいのは当然かもしれないが、大抵の山は杉林がそれに混じって少し残念な姿。しかし、このあたりの山は小さいがゆえに全山が薄緑色と薄桃色で、ため息が出るほどだ。まるで雅な平安の世界に下り立ったような気持ちにさせてくれる。

鈴ヶ尾山頂は自然林が静かにたたずむ平坦なところ。おとなう人もわずかなせいか、山頂を示す標識の申し訳なさそうな姿がいじらしい。



鈴ヶ尾山山頂 人が訪れることも少ない
静かな山頂

突坂峠手前で小沢集落方面へ下りる道を分ける。道辺に咲くヒトリシズカを愛でながらたどり着いた突坂峠には、小さな石仏が置かれている。峠のすぐ上を走る鈴懸林道を横断し、標識に導かれて登ったすぐ先に大桑山はあった。山頂の手前で怪しい人影。中年の男性が高い木の下で、上を見上げ、棒のようなものを持って何かしている。挨拶をしたが迷惑そうに無視された。なにが人道にもとる事でもしていたのだろうか。山の中で出会った唯一の人が、山行中唯一の不要素だった。

ゆっくりと大桑山山頂で休憩して、高畑山へと向かう縦走路から離れ、北東方面の尾根を伝い下っていく。下りに取った静かな尾根道はブナの混じった林が続き、若葉が美しい。時折春風が桜の花吹雪を降らせ、それに呼応するように梢からは小鳥の鳴き声がする。

やがてルートは笹に覆われた深い窪地となり、そこを外さないよう里へと下った。下に車道が見えてくる頃、崩壊寸前の細い道に行きあたる。猪除けのフェンスを開け、民家の敷地に入りながら、なんとか津成（つなし）集落に下り立つことができた。

鈴ヶ尾山頂の標識然り、突坂峠の石仏然り、お椀を伏せたような小さな丘然り、このルートにあるものはすべてがつつましく、可愛らしい。春の一日を優しい気持ちに包まれて過ごすことができた。

概念図



概要

山名	鈴ヶ尾山～大桑山		
月日	平成22年4月24日(土)		
山城	中央線 沿線	地形図	1/25000 上野原, 都留, 大室山, 大月
形式	日帰り	グレード	2B
目的	駅から駅の静かなルートを歩く		
費用	約2,300円	交通機関	JR
行程	<p>我孫子 5:33→新松戸→西国分寺→高尾 7:22/7:26→猿橋 8:11/8:20⇒田幡橋 9:06⇒幡野山 9:40⇒650m付近 10:00/ 10:10⇒幡野入口バス停への標識 10:22 ⇒NHKCATV用アンテナ 10:30⇒鈴ヶ尾山 10:55/11:15 (昼食) ⇒突坂峠 (すぐ上 で鈴懸林道横断) 11:30⇒大桑山 12:05/ 12:15⇒鈴懸林道 12:35⇒563m点 13:15 ⇒藤崎部落道路 14:05⇒鳥沢駅 14:45/ 14:56⇒高尾 15:37/→我孫子 <行動時間 6時間25分></p>		
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・猿橋駅より線路沿いに鳥沢駅方面に10分位歩くと三叉路に出る。右の道に入って県道509号を右折する。 ・幡野入口バス停を左に入れてフェンスの扉を開けて尾根に乗る。 ・自然林の尾根を忠実に辿ると標高730mのテレビ用共同アンテナの立つコブに着くルートを東に取りながら大岩の間を抜けて鈴ヶ尾山に着く ・三等三角点のある広い山頂は若葉の淡い色の自然林が美しく、太陽に輝いていた。静かな雰囲気の中に時たま鳥のさえずりが聞こえる。 ・一旦可愛い石仏の置かれている突坂峠(とっさか)を越えて林道に降り立つ。初めての標識に導かれて急坂を登ると大桑山に着いた。 ・山頂を直進すると高畑山方面に行くので(間違いそうになった)北東方面にのびる尾根に乗って林道に向かう。 ・430m地点になったら注意が必要だ。左側の窪地になった道は笹に覆われて通行は不可能、但し、その窪地の踏み跡からは外れないように注意深く降りた。 ・小さな沢を渡って右に民家を見ると舗装された道路に出る。ここからは鳥沢駅を目指して40分ほど歩く。 		
参加者	村松(L)、千葉 男1名 女1名 計2名		



突坂峠 石仏が静かにたたずんでいた



大桑山山頂



< 6 7 7 >

蓼科山
(2,530m)

桐生恭子

メンバー

高橋さん（手術後、初めての山行とはいえずごいなあ！）

武内さん（いつものように重い荷物を平気で持たれる）

青山さん（歩くスピードは早いし重い荷物も大丈夫）

桐生（歩くスピード遅い、荷物は他のメンバーほど持てない）

メンバー表を見て「これはすごいメンバーの中に入った」と思いました。足を引っ張らないように歩けるか少々不安な気持ちでの参加となりました。

天気予報では晴れると言っていましたが、前日まで、気温が低く雨が降ったりしていましたので、本当に晴れるかどうか心配でした。しかし、柏を出る時から素晴らしい天気になり、雪山（春山）に参加し始めて3年目、またまた良い天気恵まれ今年も楽しい山行となりました。

茅野は、天気は良かったものの空気が冷たく感じました。女神茶屋までタクシーで入りましたが、周りに雪がありません。タクシーの運転手さんは「2000m超えればあるから」といって引き返していきました。支度をして出発後、1950mあたりで少し雪が出てきました。合言葉は「雪無いよね。でも上に行けばきっとあるよ」。それにしても暖かいです。

大きな岩を乗り越えたり、ところどころにある氷の上にうっすらと積もった雪の上を滑らないようにして歩きました。みんな平気な顔をして歩いて行きます。「えっ！帰りこんなところどうやって降りるの？あだし降りられないよ」などと思いつつ歩いていきました。

登山口から1時間35分でテント予定地（四等三角点）に到着。そこは林の中で雪もありました。よかったねー雪があるよ。いい場所だ！（とのこと）到着後あっという間にテント設営です。はやい！私はというと・・・かろうじてテントのポール一本さわったのみで終わってしまいました。

昼食後、まだ低気圧が残っていたらしく山の上

はガスがかかったようで何も見えなくなり、雪も少し降ってきました。直ぐに今日の行動はこまめであとはテントの中で宴会と決定されました。

そのうち雪もやみ皆で外に出て「日向ぼっこ」です。陽だまりのなか、のんびりと八ヶ岳のほうを見ながら阿弥陀、中岳、赤岳などと教えて頂いていると、「ゲー」あれ？本当に暖かく風も当たらない場所だったので男性2人はお昼寝タイムです。重い荷物持ってあがって下さったんですね。ありがとうございます。



山頂の火口原から八ヶ岳をバックに

今日の夕食はご飯、サラダ、豚汁です。どのくらいの量を用意したら良いのかなど、青山さんに教えて頂きました。

米：男性が入ると人数×0.9（米は洗ってよく乾かす。無洗米はそのまま）

サラダ：きゅうり2本、わかめ、かにかま、豚汁；豚肉400g、野菜（下ゆでして冷凍）

翌日の朝食はご飯と豚汁で雑炊にして食べる。またテントの中ではザックやシュラフの上に座る。こうすると場所も取らず、しかも足が疲れにくい。ふむ！なるほど。朝電車の中で「今日の研修生は私一人です」と言いますと、武内さんが「今日はOB会ですよ」と言われましたが、まだまだ教えて頂くことがたくさんありました。夕食後7時30分に就寝。今日はお疲れ様でした。

翌日は予報通り快晴。6時35分テントサイト出発。山頂に近づくにつれ傾斜もきつくなってきました。また、大きな岩や凍った急斜面に苦戦しながら2時間ほどで山頂につきました。山頂は風もなく、蓼科神社奥宮に行ったり、御岳、南アルプス、中央アルプス、北アルプスと360度の景観を楽しんだりしました。「春山を楽しむ」という山行目的通り、山頂で30分程のんびりとした時間を過ごしました。

真っ青の空と白い雪、素晴らしい景色のなかで時間はあっという間に過ぎました。下山は傾斜がきつくて凍った斜面なので、のぼり以上に注意が必

要です。私は滑りそうだったのでアイゼンをつけ降りました。

テント撤収後「11時25分のバスに間に合うかも」という話になりました。これは私の歩く速さにかかっているなあと思いました。急いで転んで怪我をしては仕方がないので、とりあえず、岩場はゆっくり、平地になったら急ぐようにして歩きました。

途中から武内さんが先行してくださり、ちょっとバスに待ってもらい、無事乗ることができました。乗客は私たち4名だけ、のんびり揺られながら「プール平」バス停へ。「プール平」バス停で途中下車し、蓼科温泉共同浴場(400円)に入りさっぱりとして、茅野の駅前の「そば茶屋」で反省会をしつつ美味しいおそばを食べました。2日間、春山を十二分に楽しませて頂きました。リーダー、メンバーの皆様本当にありがとうございました。

おまけ：茅野駅の階段を下りていたら、男性お二人とも反省会をしたお蕎麦屋さんに帽子を忘れたとのこと。今度は重さんが走って忘れ物を取りにいけました。今日はお二人とも思わぬことでダッシュをされた日でした。

概要

山名	蓼科山		
月日	平成22年4月24日(土)~25日(日)		
山城	八ヶ岳	地形図	1/25000 蓼科山
形式	テント	グレード	3C
目的	春山を楽しむ		
費用	約15,000円	交通機関	JR、タクシー、バス
日程	1 我孫子 5:31→新宿 7:00→茅野 9:08/9:30(タクシー)→女神茶屋登山口 10:00/10:10⇒休憩 日 10:56/11:06⇒2,113mテントサイト 目 (T.S.)11:45 就寝 19:30 <歩行約1時間35分>		
	2 T.S.6:35⇒休憩 7:30/40 蓼科山 8:25/9:10→ 日 T.S.10:05/10:40⇒女神茶屋 11:25(バス)→蓼科 目 温泉 12:00/13:25→茅野 14:00/15:18→新宿 17:25→我孫子 18:35 <歩行4時間05分>		
ルート状況	・女神茶屋からの登山道は、等高線の緩いところは日当たりも良い笹原で、殆ど雪が無く、急な斜面は所々凍っている。 ・2,100mを越えると急に雪が多くなり、2,113m(4等三角点)付近の雪面の平らな箇所がテント設営に適している。 ・T.S.の2,200mから山頂までは急斜面で凍った箇所や、大岩が累々と続く。ほぼ一直線の下りは足元に要注意。		
参加者	高橋重(L)、武内、青山、桐生 男2名 女2名 計4名		

概念図



山頂間近：北岳、仙丈ヶ岳を見ながら大岩と霧氷の山頂付近を歩く



紺碧の空の蓼科山山頂一等三角点にて

< 6 7 8 >

陣馬山～景信山～高尾山
(857m) (727m) (599m)

箕輪完二

桜と新緑を楽しむ

4月25日は、この1週間、天候の不順が続いていたがそれが嘘のように一転、快晴に恵まれた。高尾山とそれに連なる影信山、陣馬山は都会のオアシスとして紹介されている山である。久しぶりの山行だ。夏山にむけて少しづつピッチを上げてゆこうと思った。今回のコースはまず陣馬山に登り、尾根伝いに影信山、高尾山と縦走するというものであった。JR中央線藤野駅で下車、バスで上沢井まで向かったが、バスの中は大変混んでいた。でも、上沢井で降りたのは我々のグループのみであった。

上沢井の登山口で軽い準備運動をおこない、登山を開始した。雑木林の急坂をしばらくジグザグ登ってゆくと、一ノ尾尾根に着いた。そこからは、真っ白な富士山を展望することができた。落葉で敷き詰められた、なだらかな尾根道を登り、しばらくすると別の登山口である和田からの登山道と合流する場所があり、その辺りから桜も多く素晴らしい景色が広がった。



青空の下、満開の桜に酔う
高尾山の桜は格別だ！

階段状の急坂を登ると一気に展望も開け、陣馬山の頂上となった。武田信玄が陣を張った場所であることから「陣馬山」と名付けられたそうである。360度の展望であり、周辺の見晴らしも良かった。又茶店やトイレもあり、広い公園のようにもなっている。公園の隅にはシンボルの白馬像があり、そこで記念写真を撮った。

その後、新緑のなだらかな尾根道を、アップダウンを繰り返しながら、影信山へ向かう。この影信山は高尾山と陣馬山の間でありその頂上には、茶店が有り大変な賑わいであった。桜が満開の中、空いているテーブルを見つけ、昼食となった。山では何と言っても梅のおむすびと味噌漬がおいしい。また、桜と共に、ミツバツツジ、エイザンスミレ、ヒトリシズカ、といった花々も目を楽しませてくれた。

20分程の昼食休憩の後、今度は高尾山に向けて出発した。小仏峠を通過した時中央高速道路が見えた。この中央自動車道に交差する形で圏央道が建設される計画だそうだ。高尾山を貫通し、高尾山一帯の自然が壊されるということで反対運動も起こっているようだ。便利さと自然を残すということは永遠の課題なのか複雑な思いがする。高尾山頂にたどり着く階段はきつかったが、一気に駆け登った。山頂は、日曜日ということもあって、銀座のような、すごい人混みであった。うわさどおり東京の人気スポットなのだと思った。ここでは記念撮影をして早めに降りることにした。下りはケーブルカーを利用した。勾配の急な眺めのよい乗り物だった。

高尾山は、東京都の八王子市にあり、奥多摩山地の東南、都心から約50kmに位置し、富士山と並んで、ミシュランの三つ星に指定されたという素晴らしい山でもある。山桜が満開のそして天気の良い日に、高尾山とそれに連なる影信、陣馬とこれも初めての縦走であった。足慣らしとしても、気分転換としてもとても良い山行となった。高尾の自然をもっと知りたいと思った。リーダーはじめ参加の皆さん一同に感謝です。



山桜は咲きはじめ、新緑は芽吹きだし、春を満喫できました

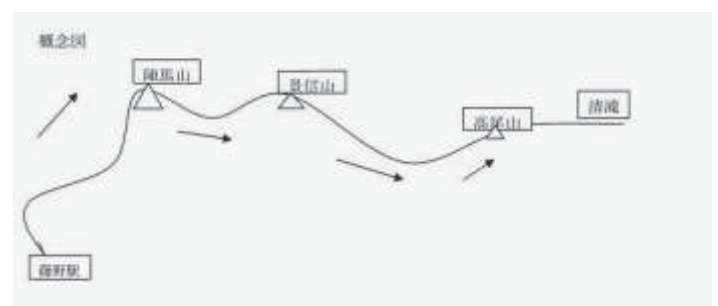
概 要

山名	陣馬山～景信山～高尾山		
月日	平成22年4月25日(日)		
山城	中央線沿線	地形図	1/25000 与瀬・八王子
形式	日帰り	グレード	2 A
目的	桜と新緑を楽しむ		
費用	3,000円	交通機関	JR・京王線・ケーブル
行程	我孫子 5:33→藤野 7:51/8:11→上沢井 8:18/25→一ノ尾尾根 8:55→和田分岐 9:25/38→陣馬山 10:05/15→奈良子峠 10:45→明王峠 10:50/55→白沢峠 11:35→景信山 12:10/40→小仏峠 13:03→一丁平 13:43→高尾山 14:30/45→ケーブル高尾山口 15:15→ケーブル清滝駅→京王線高尾山口→JR高尾→我孫子 <歩行時間6時間>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・上沢井バス停から一ノ尾尾根登山道までは、標識もしっかり有り解りやすい。 ・縦走路は幾つかアップダウンがあるが、全て巻き道がある。 ・分岐にははっきり標識があり、迷うことはない。 ・トイレには困らない。 		
参加者	田村(L)、中村八(SL)、高橋英、品田、箕輪カ、箕輪完、佐藤健、藤倉、佐藤明、矢野貞、瀬田、本田、矢野裕、中村育 男3名 女11名 計14名		



高尾山頂にて記念撮影

概念図



< 6 7 9 > 春山山行

唐松岳
(2,698m)

村松敏彦

白き峰々が織りなす
ダイナミックな景観と解放感

常磐線が事故のため遅れ、ずいぶん慌てて新宿駅発ムーンライトの指定席に落ち着く。既に北川さんは心配そうに待っていた。思えば深夜の新宿駅発の夜行列車には多くの感傷とロマンと懐かしさがいまだに残っている。昭和30年代の後半、日本山岳会がマナスルに初登頂して登山ブームに火が付き（当時、娯楽が少なかった事も原因）引切り無しに深夜の臨時便が大菩薩峠、三つ峠、乾徳山、八ヶ岳へと満員の登山者を乗せて出発していた。又、その列車に乗車するために何時間も前からホームに並んで仲間と未知の山に対する不安感、期待感など話したり、なかには恋人が差し入れを持参して皆に羨ましがられたり、ホームは若者たちで溢れかえっていた。そんな郷愁と懐かしさを後に新宿駅を出発して毎年恒例の雪山合宿に出発した。

このムーンライト信州号は松本駅等で乗り換えせず、直接白馬駅まで運んでくれる（以前は定期列車だったが現在は季節による臨時列車になったのは残念）。早朝、白馬駅に着く。以前は信濃四谷駅と言う駅名だった。前夜発を利用したため1日目の行動には余裕充分だ。別荘地帯をウロウロしながら乾杯用のビールをザックに収め、ゴンドラリフト・アダムの駅に向かう。連休のため大勢のスキー客が並んでいたが早朝のためスムーズに乗ることが出来た。アダムを降りてからも2本のリフトに乗り継いであつというまに終点の八方山荘に着いてしまった。

ここで身支度して本格的な雪山登山が始まる。空は青く晴れて白い雪とのコントラストが美しい。登山者を見かけるがほとんどの人が軽装備なので山小屋が開設しているので、その利用者ようだ。この八方尾根には多くのケルンが立っている。これは数十年前、逗子開成高校生の大量遭難事故が起きたため、建てられたケルンだがその後でも遭難事

故は絶えない。悪天候のときは充分気を付けたい。第1ケルン、第2ケルン、第3ケルン、と進み、第3ケルンの近くの八方池はまだ全面雪の中、何処にあるか解らず、ただ雪原が広がっているだけだ。風が無く、雪崩の心配のないテント場を探している内に下の樺と云う名の所に平らな良い場所を見つけたので設営した。早速トイレと風除けのブロック塀の作業に取り掛かる。メンバーは慣れたもので短時間で今夜の御殿ができた。夜間は強い風が絶え間なくテントを襲う。



テント場にて

2日目

昨夜の風は収まり絶好の登山日和だ。アイゼンを利かし、早朝の雪面にステップを切るのは何とも気持ちが良い。2張りのテントが設置されている上の樺を過ぎると左手には鹿島槍ヶ岳がその優美な双耳峰を天狗尾根を従えて聳えていた。一昨年、同じ時期に挑戦した数々のシーンが頭を過ぎる。又右手には不帰ノ嶮がその名の通り険悪な斜面を抱えて輝いていた。さらに眼を移すと白馬三山が真っ白な雪を抱いて迫っていた。

↓ 剣岳を目の前に



↑ 唐松岳最後の登り

最後のケルン、丸山ケルンを過ぎると間もなく北アルプスの主稜線に着いた。営業を始めた山小屋を横に見ながら最後の急登を越えたと山頂に着いた。雲ひとつない青い空に周囲の峰々が太陽に輝いて、360度の展望は

息を飲むような美しさだ。特に向かいの剣岳がハッ峰を前衛に圧倒的な迫力でその勇姿を見せてくれた。以前、連続 10 年間通った剣ノ峰々のルートが岩壁が雪渓が思い出される。この自然の美しさ、迫力、等はいかなる人も描くことは出来ないだろう。又、どんな文章を持って書き表すことが出来ないような気がする。登った人、経験した人のみが許される世界だと思う。



山頂にて

去りがたい山頂を後にテント場に戻る。予定ではもう一日有るのだが予想より早く行動出来たので今後の予定をどうするか皆で検討した結果、テントも食料も充分あるので（本当は早く家に帰っても誰も遊んでくれないので）一応、下山して白馬町のキャンプ場を探して翌日、早朝帰ることにした。

観光協会で聞いたグリーンスポーツの森キャンプ場に移動して豪華に尚、且つ今回の山行の余韻に浸りながら最後の夜を過ごして翌日、早朝、長野新幹線で帰宅した。

今回の山行は何よりも絶好の天気恵まれ、メンバーの足並みもそろい、雪の北アルプスのダイナミックな景観、広々とした解放感、そして自然の織りなす圧倒的な美しさをたっぷり体験出来た山行だと思う。同行したメンバーと天候に感謝。



五龍岳を望む

概要

山名	唐松岳		
月日	平成22年5月1日（土）～4日（日）		
山城	北アルプス	地形図	1/25000 白馬町
形式	テント	グレード	4D
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・美しくも厳しい雪山への挑戦 ・雪と氷の技術の習得 ・雪上のテント生活を楽しむ 		
費用	20,000 円	交通機関	JR, バス
行程	前夜	我孫子 22:45 (15分遅れ) → 新宿駅 00:05 (ムーンライト信州号) 10分遅れ →	
	1日目	→ 白馬駅 5:40/6:30 (バス) → 八方バスターミナル 6:35/7:15 → 山麓駅 7:50 → 八方池山荘 8:20/8:45 → 第2ケルン 9:15/10:00 → 八方ケルン 10:10 → 下ノ樺 11:00 (BCテント泊)	
	2日目	BCテント場 6:15 → 丸山ケルン 7:20 → 唐松山荘裏手のピーク 8:10 → 唐松岳山頂 8:30/8:45 → 唐松山荘 9:00 → 丸山ケルン 9:20 → 下の樺 BCテント場 10:30/11:00 → 八方池山荘 12:10 (リフト乗り場) → 山麓駅 12:55 → 八方バスターミナル 13:20/13:40 → グリーンスポーツの森 14:00 (泊)	
3日目	グリーンスポーツの森 6:00 → 白馬駅発 6:25 (バス) → 長野駅 (新幹線) 7:30/7:55 → 上野駅 9:30 → 我孫子駅 10:13 着		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・夜行バス運行していないため臨時便のさわやか信州号の夜行便を利用した。全席座席指定のため事前に座席指定券を購入する必要がある (料金は510円) ・八方バスターミナルから山麓駅迄は解りにくい。別荘地らしき通りを歩くが標識が少ないため迷いやすい。 ・トイレ (冬は使用不能) のある第2ケルンはテント場には良い。 		
参加者	村松(L)、外崎、北川、青山 男2名 女2名 計4名		

概念図



< 6 8 0 >

鷹ノ巣山 (1,737m)

塩原百合子

5月9日晴れ。成田線始発に乗り、我孫子から千代田線に乗り新松戸經由西国分寺、立川、奥多摩駅下車。東日原までバス。奥多摩駅は登山に向かう人たちでいっぱいでした。バスも2台が満員状態。こんなに山に登る人がいるんだと驚きながら東日原に向かいました。途中下車する人たちもいて終点に行く人はまばらでした。

9時15分いよいよ出発。今回は事前に地図も見えていたので、かなり急なところも行くんだと覚悟していました。登山口からすぐのところ、幅1メートルもない木の橋、しかも斜めになってる。最初に恐怖心が沸きこんな所渡った事ない。無理。どうしようと思いつつほかの選択肢がないことがわかりおもいつきて渡る事にした。やってみると意外となんてことない大きな気持ちになった。

それからいざ登り始めると、いやまたしても難関。道なき急登。最初は面白かったが、リーダーに遅れまいと一生懸命やった結果、そのうちふくらはぎに違和感を覚えリーダーに申告。それでは早めに手当てをしないとよけいに張って痛みがくると言われ、シップと塗り薬をお借りする。再び登りだすと、違和感もなくなり歩けるようになった。歩くというより登るといった感じの道。登れど登れど先が見えず途中嫌になる。もうやめたい

と思ったが皆の手前言える訳もなくひたすら登る。やっと道らしい道になり稜線を歩けた。

かなり予定より遅れて鷹ノ巣に到着。周囲を見渡すと山並みがきれいに見えた。頑張っけて登ってきて良かった。しばらく困難にぶつかる生活をしていなかったの少し新しい発見が出来た。人間やれば出来る。頂上でしばらく休憩後下山開始。

今度は一般登山道の中ひたすら下る。上りの疲れで思うようにスピードが出ない。下山は途中休憩もなくひたすら下る。川の水の音が聞こえて心が洗われるが味わっている暇などなく、やっと巳の戸橋を渡り東日原のバス停へ。水のみ場の水のおいしかったこと。トイレ横の水道で顔を洗うとしょっぱさが伝わる。こんなにも汗が出たのかと驚く。

駅近くの店で反省会。なんとビールのおいしかったこと。我孫子には21時半に到着。予定より大幅に遅れてしまったが、皆さんが理解をしめしてくださって助かりました。ありがとうございました。新緑のきれいな山行でした。



鷹ノ巣山を望む



概要

山名	鷹ノ巣山		
月日	平成22年5月9日(日)		
山城	奥多摩	地形図	1/25000 奥多摩湖、武蔵日原
形式	日帰り	グレード	2B
目的	鷹ノ巣谷を挟んだ2つの尾根		
費用	約3,200円	交通機関	JR, バス
行程	<p>我孫子駅 5:33→立川駅 7:00/7:05→奥多摩駅 8:28/8:35→東日原バス停 9:05/9:15→巳ノ戸橋 9:25→尾根の末端部 10:13→739m地点 10:25→カラ沢尾根との合流点 12:20→カラ沢の頭 13:00→水根山 13:35→鷹ノ巣山 14:00/14:25→ヒルメシクイのタワ 14:45→稲村岩への分岐 16:05→沢へ 16:25→巳ノ戸橋 16:50→東日原バス停 17:10/17:22→奥多摩駅 17:45/18:32→立川駅 19:48/19:55→我孫子駅 21:30着</p> <p>晴れ<行動時間7時間55分、 歩行時間6時間25分></p>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鷹ノ巣谷にかかる5Mの木橋が傾斜して渡るのに一苦労する。 ・ネズミサス尾根上に赤テープは殆どない。カラ沢尾根合流点で初めてはっきりした赤テープを見る。カラ沢尾根には赤坑が進路にあり、「プロット32」(立ち木の管理委託契約地)の標識が現れ、登るに従い東京都水道局の石標が数回出現し、カラ沢の頭に到着する。 ・カラ沢の頭には侵入禁止のためのロープが張ってある。 ・稲村岩はルートが赤ペンキで表示してあり、登ることは可能。 ・沢沿いから稲村岩を見上げると圧巻。新緑と岩のコントラストが素晴らしい。
参加者	<p>青山(L)、村松敏、外崎、田村、瀬田、末永、塩原</p> <p>男1名 女6名 計7名</p>



ネズミサス尾根にて休憩する

概念図



< 6 8 1 >

巢神山～小法師岳
(1,226m) (1,593m)

千葉有子

袈裟丸連峰を歩き、法師尾根を通過して渡良瀬溪谷に下りる山行に参加したのは、1年前の5月のことだ。わかりにくい法師尾根をなんとか突破して小法師岳を過ぎ、後は一般ルートを下るだけだったのだが、魔がさしたのか全く違うルートをたどってしまう。やっとのことで正規のルートに戻り、車道に下り立つと同時に日が暮れた。

その折、途中の開けた場所でワラビが豊作だったのと、すでに終わっていたヤシオツツジを今年こそは見ようと思って、去年より1週間ほど早く出かけてみた。

巢神山までは沢沿いを登り、1時間で尾根に上がる。笹に覆われた道をたどる。トウゴクミツバツツジ、アカヤシオは巢神山付近までは結構花をつけているが、それから先はまだまだ蕾が固い。

雨降沢源頭の水場は、地図にはコルから往復20分とあるが、約1分でチョロチョロと流れる沢に出られた。小谷さんがバイルと底をとったペットボトルを使い、すばらしい水場を作ってくれる。水場近くの尾根上は一面の笹原。



バイルで掘り、
ペットボトル
の底を抜いて
作った水場。美
しい!!
しかし翌朝は
イノシシ?が
荒らしていた。

笹を倒してテントを張った。近くにテントを張るのに格好の笹の剥げた平地があったが、鹿のヌタ場。ヌタ場とは、鹿やイノシシが泥浴びする場所で、地面に体をこすりつけて、虫を落としているそうだ。うっかりこの上にテントを張ると虫が体に移るおそれあり。

さて、目当ての山菜だが、今年は見当たらない。やはり去年より寒いのもっと遅く芽を出すのだろう。ワラビをたくさん採って天ぷらにしようと思論んだのだが。持参したてんぷら油とてんぷら粉、そしてワラビの灰汁抜き用の重曹がむなしかった。

テントを張ってから明るいうちに外で食事を作り、ゆっくりと日が暮れるまでお酒と食事、談笑を楽しんだ。夜は満天の星が輝いていた。

2日目も快晴。小法師岳は山頂が2か所あり、法師岳寄りの方に三角点がある。法師尾根上はずっと笹原とカラマツ林が続く。右に庚申岳～鋸岳、その先に皇海山。前方に法師岳と、左手に伸びる袈裟丸連峰を眺めながら前進する。

1年前もルート探索に難儀した笹の平は、やはりどこを通るべきかが分からない。南側寄りの踏み跡に入ったがすぐに見失う。途中で笹をかき分けながら北側に抜けると、笹のない開けたところに出られた。

それにしてもこの尾根は鹿が多く生息しているようだ。姿こそ見なかったが、休憩しようとしても座る場所に困るほど糞が散在していた。去年の秋に脱落したらしい牡鹿の角もたくさん落ちていた。小谷さんが4本、明子さんが2本、佐藤さんが1本拾った。

さらに、途中たき火跡のすぐ横に鹿の骨と毛皮、足が横たわっていた。まだ真新しくお尻の部分の白い毛がまぶしい。もしかして猟をして食べた痕だろうか? ちょうど読んでいた「狩猟サバイバル(服部文祥)」を思い出した。

去年来た時には全くなかった残雪のかたまりが、小法師岳あたりから頻繁に出てくる。標高1700mを越えると雪がかなり斜面をふさぐようになった。

袈裟丸～法師岳の尾根(コル)直下で時間切れ。あと40分もあれば法師岳まで行けたのだが、断念して往路を引き返すこととする。

テント場から往路をそのまま戻るつもりだったが、巢神山から登山道より明瞭な道がまっすぐ伸びていて、そちらに進んでみることにする。地図上にはない道だ。すぐに林道に行き当たる。どうやら林道に下りる道のような。車でこの林道を登って来れば巢上山まであっという間に着けるのだ。ところが、この林道は渡良瀬川の方には通じていない。そこで、かすかな踏み跡をたどって南方向への尾根を下ることとする。途中落ち葉で埋まった崖のようなところに出て、補助ザイルを使って懸垂で下に下りる。やがて沢沿いの道に出て畑沢の堰堤に出ることができた。

ちょうどこの日は袈裟丸山へ中村さん率いるパーティーが貸切バスで来ていた。そこで何度も中村パーティーに連絡を取り、帰りに乗せてくれるようお願いする。下りの道で手間取ったため少し遅くなってしまったのだが、優しい仲間は国道にマイクロバスを止めて、われわれを1時間も待っていてくれた。

概念図



小法師岳山頂にて



概要

山名	巢神山～小法師岳		
月日	平成 22 年 5 月 15 日～16 日		
山城	足尾	地形図	1/25000 足尾・袈裟丸
形式	テント	グレード	3C
目的	つつじ観賞と山菜とり		
費用	約 5000 円	交通機関	J R、東武、わたらせ渓谷鉄道、マイクロバス
日程	1 日目	我孫子 6:01→柏 6:05/6:10→春日部 6:25/6:56→大間々 9:14/9:46 (渡良瀬谷谷鉄道)→原向駅 10:45⇒巢上山登山口 11:30/11:45⇒巢上山 13:55/14:05⇒雨降沢の頭手前のコル 15:05 (テント泊) <行動時間 4 時間 20 分 歩行時間 3 時間 40 分>	
	2 日目	テント場 6:00⇒雨降沢の頭 6:25⇒小法師岳 6:45/50⇒小法師岳 (三角点) 6:54/7:00⇒休憩 7:25/7:30⇒笹平 7:45⇒笹平を抜ける 8:00⇒休憩 (H1600m コル) 8:30/8:35⇒休憩 9:40/9:45⇒袈裟丸～法師岳稜線コル直下 (引き返し地点) 10:20/10:25⇒休憩 11:52/12:10⇒笹平⇒小法師岳 (三角点) 13:25⇒雨降沢の頭⇒テント場 14:00/14:15⇒巢上山 15:10⇒休憩 (林道) 15:26/15:36⇒麓の林道 17:00⇒バス合流 17:25⇒我孫子 20:55 <行動時間 11 時間 25 分 歩行時間 9 時間 45 分>	

ルート状況

- ・ 巢神山までは子供も行くハイキングコースということだが、登山口には何の標識もなく、分かりにくい。駅前の国道から银山平へ通じる道に入り約 1km、渡良瀬川にかかる橋を渡ると 10m 程歩いた地点、沢の横に赤テープがあり、そこから入る。
- ・ 沢沿いを登り、1 時間ほどで尾根に上がる。テント場まで笹に覆われた道だが、気をつければ見失うことはない。
- ・ 雨降沢の頭直下のコルの右下、雨降沢源頭に水場あり。
- ・ 笹の平はほとんどルートが分からない。南側寄りの踏み跡に入ったがすぐに分からなくなる。途中で笹をかき分けながら北側に抜けると、笹のない開けたところに出られる。
- ・ 行きは問題ないが、帰りの雨降沢頭から巢神山の途中で银山平の方へ向かうらしい道が分かれ、間違っこちらに入りやすい。

参加者 千葉(L)、佐藤健、佐藤明、小谷、森戸(ゲスト) 男 2 名、女 3 名 計 5 名



笹藪を行く熊？ このような笹藪とカラマツ林が続く

< 6 8 2 >

袈裟丸山

(1,878m)

中村隆泰

笹原に行く熊？ このような笹原 とカラマツ林が続く。

悪いことが多い。この山もそうである。幸い大勢さんの参加を得てマイクロバスを利用することができ、奥にある折場登山口まで一気に進むことができた。

登山口からいきなり階段状の急登に入る。エンジンが温まるまではゆっくり歩くよう2班のリーダーにお願いした。

アカヤシオを期待したが、なかなか現れず、賽の河原付近でようやくちらほら見ることができた。今年は例年より遅いのかも。たくさんのケルンを眺めながら、帰りの塔の沢への分岐を確認して先を急ぐ。

なだらかな尾根を満開のアカヤシオを想像しながらしばらく歩き、急坂を一気に登ると、小丸山山頂である。袈裟丸山山群が大きく見えた。日光連山や庚申山の眺めが素晴らしい。急坂を下り広い平地に出ると避難小屋がある。笹とダケカンバの中を歩く。



花の競演

そこを過ぎるとやがて急登にかかる。登る人と下る人が狭い急斜面でぶつかる。お互いに譲り合いながらよじ登り袈裟丸山山頂（前袈裟丸）に到着した。一等三角点に挨拶をしてみんなで登頂を喜び合った。ちょうど昼時である。

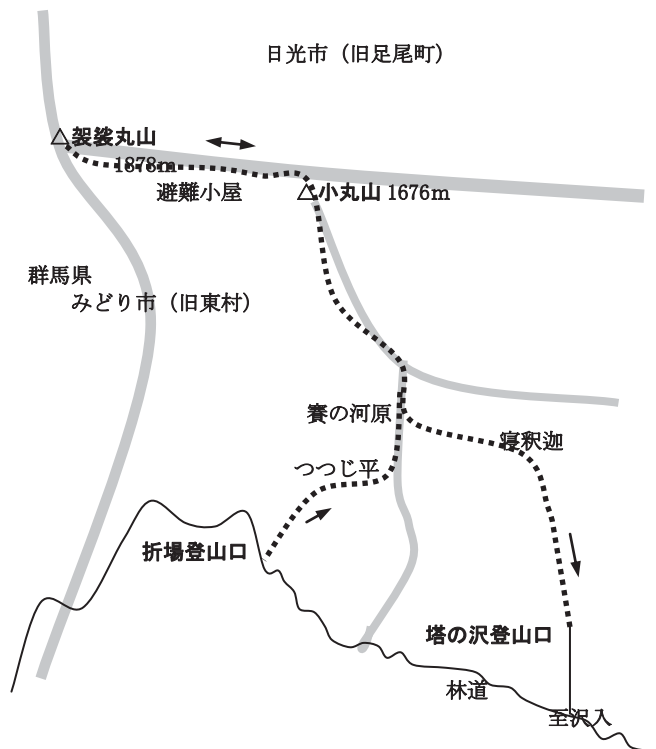
しばし食事をしながら周囲の山を見回すが、立木に阻まれて小丸山ほどの眺めは得られない。下りはいったん賽の河原まで戻り、塔ノ沢コースを下る。山頂直下の急坂を慎重に下り、避難小屋から小丸山を巻いてヤシオツツジのトンネルを歩く。残念ながら花は少ない。

賽の河原から塔ノ沢コースへ入る。何度も沢を渡渉しながら、消えかかった踏み跡を慎重にたどり進んだ。途中寝釈迦さんに会う。自然石を掘った寝姿のお釈迦さんである。

沢筋を気持ちよく下り、バスが待っている塔ノ沢登山口に辿り着いた。全員無事下山できて何よりでした。多謝。



概念図



追伸

わが岳人あびこの千葉さんチームが前日から近くの法師岳に挑戦していて、この日下山予定である。法師岳は袈裟丸山の北3kmほどのところにある山であるが、ルートは袈裟丸山の東を流れる餅ヶ瀬川の東の尾根を登る難コースである。

バスで下っている途中で千葉リーダーに電話したら、かなり下まで下山していることがわかったので、下山口付近で待つことにした。待つこと約1時間半、大きなザックを担いだ6人が現れた。バスは満杯となって帰途に就いた。コンビニを探してビールで乾杯したのは当然です。乾杯！

概要

山名	袈裟丸山		
月日	平成22年5月16日		
山城	足尾山地	地形図	1/25000 袈裟丸山
形式	日帰り	グレード	2A
目的	新緑とアカヤシオ、1等三角点		
費用	3,690円	交通機関	マイクロバス
行程	我孫子駅 5:30/5:35→柏 IC 5:50→蓮田 SA 6:15→佐野藤岡 IC 6:53→折場登山口着 8:35/8:55⇒展望台 9:47⇒賽の河原 9:50⇒小丸山 10:40⇒鉄の避難小屋 10:58⇒袈裟丸山 11:55/12:20(昼食)⇒鉄の避難小屋 13:10⇒(まき道)⇒賽の河原 14:10⇒寝釈迦 15:10⇒塔ノ沢登山口着 15:55/16:05(バス)→千葉パーティを待つ 17:25→草木道の駅 17:38/17:48→佐野藤岡 IC 19:15→蓮田 SA 19:50→柏 IC 20:33→我孫子駅北口着 20:55 <行動時間 7時間>		
ルート状況	・道標はしっかりしていて迷うところはほとんどないが、地図を見て、ポイントや方向を予測、確認を繰り返すこと。特に下山道の沢筋は渡渉を繰り返し、踏み跡不明瞭の所がある。 ・小川会長の地図読み研修によると登山口付近と山頂直下に急登がある。適度のピッチで休憩をとり、ゆっくりでもペースを守ればコースタイムは確保できる。		



袈裟丸山山頂にて

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・麓の新緑と山上の芽吹きは十分堪能できたが、アカヤシオは残念ながらちらほらだった。3~4月の天候不順で花期が1~2週間ずれてしまったようだ。 ・マイクロバスは登山口まで入るが、途中離合場所は少ない。ハイシーズンは駐車場が満杯となる。今回のようなアクセスが不便なところはバス利用がいい。機動力を生かしてコース設定が幅広くなる。別山行の千葉パーティー(法師岳)をピックアップできたのもバスならではのである。携帯で連絡しあい下山口付近に待機、合流できた。
参加者	中村隆(CL) A班 田村(L)、中村八、箕輪カ、堀口、小松、本田、中村育(SL)、塩原 B班 瀬田(L)、品田、原田和、小川誠、藤倉、坂巻、矢野 男6名 女10名 計16名



賽の河原から袈裟丸山

< 6 8 3 >

小野子山 ～ 十二ヶ岳
(1,208m) (1,201m)

飯沼トミ子

憧れの姉妹つつじを

五月晴れの気持ち良い朝、新幹線での山行計画は参加人数が多数になりバスにて快適な山行へと我孫子を出発した。姉妹つつじ登山口に 8:30 分に到着。準備運動等を済ませて 8:50 分登山開始。天気は登山日和で約 1 時間登ると目の前にリーダー待望の五葉つつじ(シロヤシオ)が満面の笑みで私達を歓迎してくれました。

シロヤシオは群馬県の天然記念物だそうです。樹齢 700 年と言われる銘木です。リーダーの期待に充分答えて白い花のダンスは新鮮な緑の林の中で素敵に踊っていました。しかし、リーダーの様子が少々落ち着かない・・・?何かを求めてウロウロ、姉妹つつじだからもう 1 本は・・・すると一人の登山者が降りて来ました。リーダーが「姉妹つつじのもう 1 本はどこに有りますか」と質問。答えは妹のシロヤシオは数年前に枯れてしまったとの事。残念無念でした。リーダーは非常に残念そうでした。多分恋人に逢う様な気持ちでこの美しい純白な五葉つつじの競演を楽しみにしていたことでしょう。五葉つつじを見降ろしながら、また、歩き始めました。

小野子山～鞍部～中の岳と進み、中の岳で昼食タイムです。中の岳の大パノラマ眺望は最高でした。自然の美しさとおにぎりでお腹を満たし十二ヶ岳へと下り始めました。小野子山からの下りよりは楽でしたが食後の一時間故に充分気をつけて下りました。いよいよ十二ヶ岳です。中腹で中の岳を振り返って見ると中々立派な山容をしていました。十二ヶ岳山頂は細長く狭い山頂でした。二等三角点が有りました。

ある資料によると、十二ヶ岳の山名を有する山は全国で類似名を含め 5 山有るそうです。この山の名前の意味は「山の人々が信じる神は、東北地方では女神とされ、12 人の子を持っていると考えられていた。12 月 12 日を山の神祭り日とし、「十二様」と唱えて崇めた」と記されている。十二と言う数字に神性を認めるのは予想外でした。

十二ヶ岳は展望抜群と言われるように流石の

大パノラマでした。浅間山、赤城山の姿は美しい。美しいシロヤシオにも逢えリーダーはご満悦の様子でした。皆さん快調、快足で予定より早めに下山。ゆっくりと湯野上温泉で汗を流した後、反省会をして帰路。楽しい山行でした。ありがとうございました。



樹齢 700 年の五葉つつじが満開



小野子山山頂にて

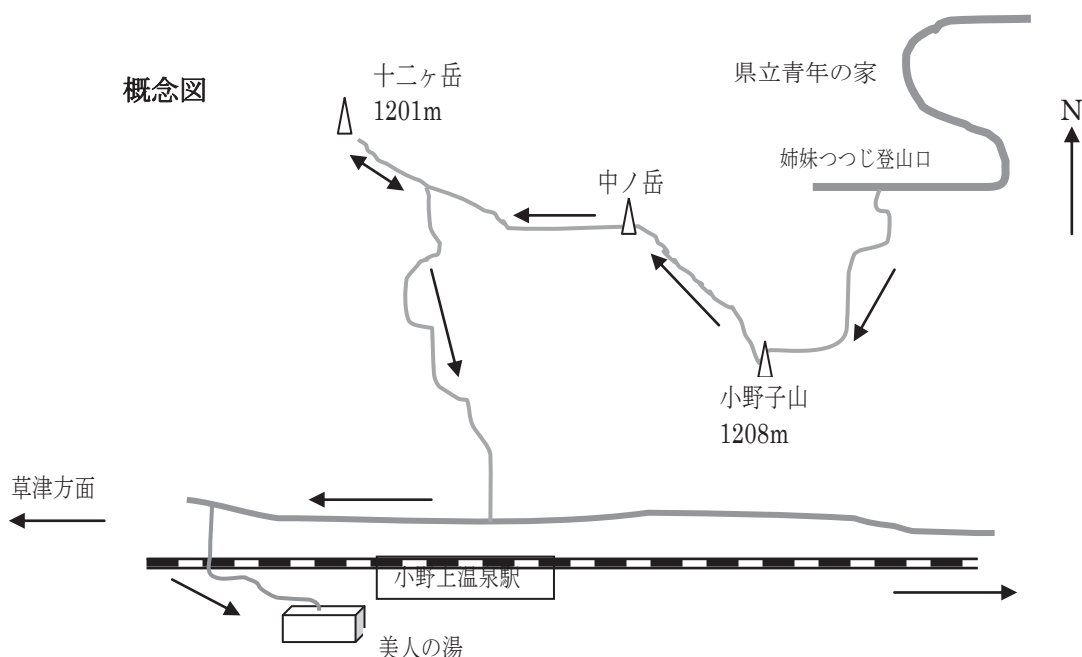


十二ヶ岳山頂にて

概要

山名	小野子山～十二ヶ岳		
月日	平成 22 年 05 月 22 日(土)		
山城	上州	地形図	1/25000 上野中山、金井
形式	日帰り	グレード	2B
目的	新緑と五葉つつじの銘木を楽しむ		
費用	6700 円	交通機関	貸切バス
行程	<p>我孫子駅 5:30(バス)→柏 IC5:45→上里 SA 7:10/7:30→渋川・伊香保 IC7:47→子持ち道の駅 7:55/8:10→姉妹つつじ登山口 8:40/8:50⇒衣服調整⇒休憩 9:27/9:32⇒五葉つつじ 9:45⇒尾根に出る 9:50⇒小野子山 10:10/10:25⇒鞍部 10:50⇒中ノ岳 11:15/11:45(昼食)⇒鞍部 12:00⇒男坂と女坂の分岐 12:05⇒十二ヶ岳 12:20/12:40⇒男坂と女坂の分岐 12:53⇒鞍部 12:57⇒林道 13:38⇒十二ヶ岳名水 13:55/14:00⇒バス乗車 14:15/14:15→湯野上温泉(美人の湯)14:25/15:45→四川(反省会)16:00/17:10→渋川・伊香保 IC17:40→嵐山 PA18:15/18:25→上島 IC18:43→我孫子駅北口着 20:20 (解散)</p> <p>晴れ<行動時間 5 時間 25 分 内、歩行時間 4 時間 15 分、休憩時間 1 時間 10 分></p>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のコースは昨年 11 月に昔の仲間と登ったことの有る山で、コース全体は十分に理解していたので安心して行動が取れた。 ・コースは登りより下りが急降下で足場も悪く危険で注意が必要である。十二ヶ岳は男坂と女坂が有るが安全を取って女坂を利用した ・天候は快晴で足元も乾いていたので歩きやすかった。 ・ルート上や分岐点等には案内標識
参加者	<p>原田和(L)、佐藤明(SL)、小川誠、瀬田、本間、飯沼、佐藤健、藤倉、田村、坂巻、</p> <p>男 4 名、女 6 名 計 10 名</p>



< 6 8 4 > 県連ウイークデーハイク

太郎山
(2,367m)

原田和昭

新緑とツツジ鑑賞を求めて

第13回県連ウイークデー山行参加者は53名で、中型バス3台に分乗して行きました。バス1台が初めて我孫子駅北口に配車されて6時半に出発し、当会からの3名は我孫子駅から乗車して参加しました。バス全体は千葉方面から来るバスが遅れたため時間的に遅れが出ていた。車窓から見える景色はいろは坂付近の新緑は素晴らしい緑に覆われていた。中禅寺湖付近まで登ると山ツツジの赤い花が満開の状態でした。新緑と赤いツツジの花を楽しむことが出来ました。湯の湖～戦場ヶ原を通過して山王峠に着くと春は遠く感じました。

バスが1時間以上の遅れで到着した。山王峠に下車すると天候は前夜からの雨が残る暗い天候で雲は低く山全体がガスに覆われていた。峠付近は残雪が残り木々の新芽は出始めたばかりでした。

遅い春の初めの感じで新緑もツツジの花も見られる状態では有りません。早速、班編成を整えて、遅れを取り戻すべく岳人あびこは柏かがり火の会、東葛山の会の合同班(9名)を結成して歩き始める。登山口から急坂で残雪が多く滑り易い危険個所の連続でした。ゆったりとした速さで安全確認をしながらの山行で花の咲いている所は少いが所々に小さな白いセリバオーレン、ヒメイチゲの花が咲いていた。

概念図



山王帽子山付近まで登ると周りのガスは段々と無くなり展望は開けて来た。雨の心配も無くなり全員の気持ちは明るくなって来た。

53名と言う多くの登山者なのでコースタイムはゆっくりとしたペースで、アップダウンを繰り返しながら予定より1時間半遅れで小太郎山に着いた。この頃になると天候は回復して周囲の日光連山を見渡すことが出来るようになって来た。ここで遅くなった昼食を食べてから目的の太郎山へは時間的に無理と判断して引き返すことにする。帰りは来た道を引き返すので慎重に前後で声を掛けあいながら下山する。

50人以上の仲間が6時間半の行動を共にして何の事故も無く下山することが出来た。解散式は光徳園地まで降りて行い次回の再開を約束して解散する。帰りのバスは朝から一緒に行動した仲間との親睦を図りながら我孫子駅まで送ってもらう。参加者の協力で足並みも揃い楽しい一日を共に出来たことに感謝します。

山王帽子山山頂 →



概要

山名	太郎山		
月日	平成22年5月27日(木)		
山城	日光連山	地形図	1/25000 男体山
形式	日帰り	グレード	2B
目的	新緑とつつじの鑑賞		
費用	5,000円	交通機関	小型バス
行程	<p>我孫子駅 6:30/6:30(バス)→柏 I C 6:50→蓮田 S A 7:24/8:12(千葉から来るバスを待つ)→光徳園地 10:10/10:25→山王峠登山口着 10:40/10:45⇒衣服調整⇒山王帽子山 11:45/11:50⇒鞍部 12:15⇒ハダカタテノ頭分岐 12:38/12:43⇒小太郎山(昼食)13:45/14:20 時間が遅れているので太郎山は断念して下山⇒ハダカタテノ頭分岐 15:14⇒鞍部 15:30/15:40⇒休憩 16:00/16:05⇒山王帽子山 16:28⇒山王峠下山着 17:20/17:30(バス)→高徳園地解散式 17:40/17:50→羽生 S A 19:30/ 19:47→柏 I C 20:35 →我孫子駅北口着 20:50 (解散)</p> <p>曇り<行動時間 6時間 35分、 歩行時間 5時間 35分></p>		
参加者	<p>原田(L)、小谷、瀬田 男2名 女1名 計3名 (県連全体では53名の参加)</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・山王峠登山口到着は予定より約1時間遅れて到着する。今回のコースは急登と急降下で足場は雪と石に加えて木の根がはびこっていた。 ・登山口付近から残雪が有り足場は滑り易く、ところによっては残雪に穴が開くことも有って危険でした。参加人数が多いのでゆったりしたスピード登山になる。案内標識は少ない。 ・ハダカタテコースは危険のため禁止になっていた。 ・小太郎山到着が遅れたため目的の太郎山を直前にして断念する。ルート上や分岐点等には最少の案内標識が設置して有るので迷うような場所は無かった。 		



小太郎山から男体山を望む



山王帽子山からの絶景



< 6 8 5 >

古峰原高原・横根山～井戸湿原
(1,373m)

柴 勇

1日目 晴のち曇り

東武電車の車窓の右側には、スカイツリーがかなり目立って見えた。2年後には完成して東京の新名所として期待されている。新鹿沼駅からの古峰神社へのバスは、私たちのほかには3人だけだ。一緒に乗り合わせた人の説明によるとズミの勢力が強くて、山ツツジなどを駆逐してしまうという。この辺りでは、ズミは歓迎されていない。

古峰神社からは、舗装された県道を暫く歩く。勾配があるので、いろは坂のように多くのカーブがある。途中県道を外れて、ふみ後を見つけて近道を進んだ。途中から、山道があるはずだが、その入り口が分からず、その入口を通り越して古峰原高原の目的地に着いていた。

古峰原高原(1144m地点)からは、古峰原湿原が見渡せる。ここには1面に広がる満開のツツジが私たちに歓迎してくれた。ズミ、ヤマツツジ、トウゴクミツバツツジ。ここで昼食を楽しみ、4人全員カメラマンとして撮影を楽しんだ。どんな写真が撮れたか。

緩やかな山道を進むと3枚石にたどり着く。3枚石は、1つの岩だが、横に割れ目が入っていて、3つの岩が重なって見えるところから名づけられた。すぐ脇に祠がありここには、不動明王が祀られている。修験者が座禅修行をしたところから三昧岩ともいわれている。

前日光ハイランドロッジには、2時には着いた。途中ほとんど平坦に近いルートなので、疲れはなかったが、先ず温泉に入り、渴いた喉をジョッキの生ビールで潤し、バーベキューを頂いた。この山小屋は、鹿沼市のもの第3セクターが管理している。私たちが到着したときには、地元の栗野小学校の児童が前日に宿泊して活動を終え帰る準備をしていた。この小学校では毎年1泊しこの山に登る。夜には星座の説明を受けたり、夜の山道を散策したりするという。小さいときに自然に親しむ時間を授業に組み込んでもらっているこの子達は幸せだ。

2日目 曇り

朝もやの中を、牧場の牛に別れて、横根山を目指す。牧場の標高が1300mなので、山頂はわけもない。山頂の標高は1373m。これが山登り？簡単すぎて驚く。

井戸湿原に向かう途中には、シロヤシオ、トウゴクミツバツツジが多く見られた。井戸湿原の周りには、鹿の侵入を防ぐ為にネットが張られていた。ミズバショウは既に終わり、コバイケイソウ、トリカブトが次の出番を待っていた。少し先にある5段の滝は、この湿原からの水が流れている。象の鼻からは、霧の為日光連山や、富士山、皇海山、庚申山などの展望は、出来なかった。

ツツジ平は、さすがにヤマツツジが道の両側をトンネルのように埋め尽くしていた。満開のものと、蕾のものが混在していて、咲きそろえば見事でしょう。

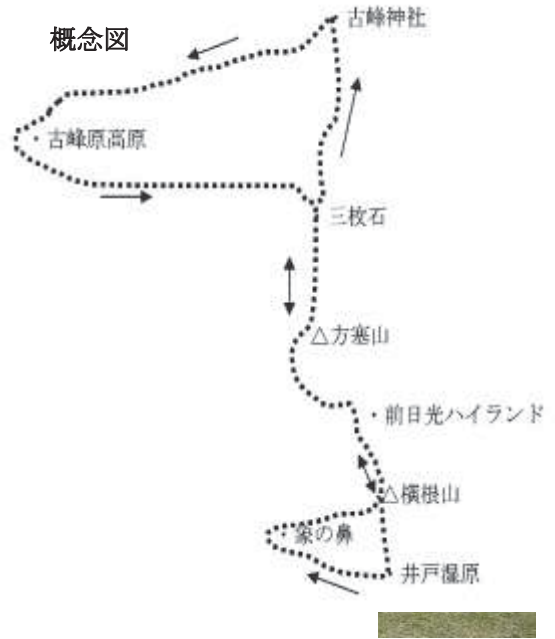
3枚石から古峰神社への下りは、少々きついが、シロヤシオが所々に咲いていて気持ちよかった。アカヤシオに会うためには、10日ほど早い必要があった。



五段の滝



古峰原高原 集合写真



概要

山名	古峰原高原・横根山～井戸湿原		
月日	平成23年5月28日～29日		
山域	前日光	地形図	1/25000 古峰原
形式	山小屋	グレード	1A
目的	ヤシオツツジ、レンゲツツジを楽しむ		
費用	11,500円	交通機関	JR, 東部、バス
1日目	我孫子駅 6:51→北千住駅 7:14/7:21 (東武日光線) →新鹿沼駅 8:47/9:10(バス)→古峰神社 10:00/10:05⇒行者橋 11:10⇒古峰原高原 11:30/11:55 (昼食) ⇒天狗の庭 12:30⇒三枚石 12:40/12:45⇒方塞山 13:10/13:20⇒前日光ハイランドロッジ 14:05 (泊) 《歩行時間:3時間20分》		
2日目	前日光ハイランドロッジ 7:30⇒横根山 7:45/7:50⇒五段の滝 8:20/8:25⇒井戸湿原 8:35/8:45⇒象の鼻 9:00/9:15⇒前日光ハイランドロッジ 9:30/9:55⇒方塞山 10:25⇒三枚石 10:40/10:50⇒三枚石新道入口 12:00⇒古峰神社 12:10/13:00(バス)→新鹿沼駅 13:50/14:51 (特急) →春日部駅 15:40/15:49 →柏駅→我孫子駅着 16:35 《歩行時間:3時間30分》		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新鹿沼のバス停は、ロータリーから 200m ほど駅前を直進する。バスの本数は、1 時間に 1 本程度。 ・古峰神社バス停近くには、トイレがある。 ・古峰原高原の登山口の分岐には、駐車場がありここまでは、マイカーでくることができる。 ・3枚石を過ぎて、方塞山に向かって少し進むと、右奥に水場がある。 ・前日光ハイランドパークには、トイレ、食堂、温泉、駐車場がある。ここまでマイカーできて、ハイキングをする人も多い。 ・井戸湿原の途中にある象の鼻展望台からは、日光連山が展望できる。 ・今回のルートは、おおむね平坦に近く、ところどころに土留めの丸太の階段はある。3枚石から古峰神社への下りだけは、急傾斜で多少の注意を要する。
参加者	柴(CL)、村松、外崎、中村育 男2名 女2名 計4名



トウゴクミツバツツジ

< 6 8 6 > 市民登山

茶臼岳～三本槍岳～朝日岳
(1,915m) (1,917m) (1,896m)

やまたんより転載

雄大な景観と秘湯を楽しむ

A 班

< 1 日目 >

- ・ロープウェーを降り体をほぐしながら歩き始めるタイミングをうかがったが、行列が途切れないので、大勢の人に混じって登り始めることとした。軽装、スニーカーの人が多く。中には、ヒールのある靴をはいている女性もいて、平地の観光地に遊びに来ている感じ。多くの人は、周遊コースの分岐で牛が首方面へ向かったので、茶臼頂上を目指すコースに入ると少しは静かになった。下見でコース外を歩くと落石の危険があることがわかっていたので、今日はペンキのマークを忠実に追い、コースを外れないように注意しながら歩く。
- ・茶臼山頂では曇り空ながら展望はよくきき、山麓や南那須の山々が見渡せたが、風が冷たく寒いので、早々に峰の茶屋目指して下る。峰の茶屋での昼食休憩30分の間に、明日予定している剣が峰斜面のトラバースするコース上の雪渓の状態を、リーダーの高橋重さん、村松さんと共に偵察、大丈夫との見極めをつけた。
- ・峰の茶屋から三斗小屋温泉までは、よく踏まれた登山道で危険な箇所もなく、延命水で5年程命を長らえ、舞鶴草の群生やサンカヨウ等の花を愛でながらゆっくりと下った。途中、雨がパラパラときたので雨具をつけたが、大降りになる前に大黒屋に到着した。

< 2 日目 >

- ・快晴、申し分ない登山日和。大黒屋を出て直ぐに隠居倉への登りが始まる。本日のコースの中で最も辛いと予想した登りなので、極力ペースを落としゆっくりと登る。途中、噴気孔（三斗小屋温泉の源泉）を過ぎると灌木が低くなり、素晴らしい展望を楽しみながらの登りとなった。真近に茶臼、流石から三倉山の那須の山々、遠くに白く雪を頂いた会津駒から燧、日光の山々が見渡せた。隠居倉に上がると、会津方面も視野に入り真っ白な雪をいただく飯豊も見えた。空は澄み渡り、山の斜面には満開の峰桜、とても素晴らしい。
- ・熊見曾根東峰で那須連峰の縦走路に出て、ここ

から清水平を経て三本槍までは、多少のアップダウンはあるものの、高山らしい素晴らしい散歩道。ただ、熊見曾根から清水平への木杭の階段には歩幅が合わず閉口させられる。

- ・三本槍頂上は那須の最高点であり眺望は素晴らしい。大勢の登山者で混み合っていたこともあり、昼食休憩を20分で切り上げたが、市民の方からあと10分はほしかったとアンケートでお叱りを受けた。反省！！
- ・朝日岳の頂上は岩場の小さなピーク。足元が切れ落ちているだけに高度感がある。愛らしい石造りの鳥居が置かれてあった。
- ・朝日の肩から峰の茶屋までの区間が本日の最難関箇所。ザレ場はストックを活用しバランスをとりながら慎重に下る。鎖のある岩場や小さくなっていたとは言え雪渓のトラバースもあり気が抜けない。峰の茶屋まで来るとあとは下るだけで、危険な箇所もなくバスの待つロープウェー駐車場へ向かった。
- ・変化に富んだコースで市民の方の中には、多少は怖い思いをされた方も居られたかと思うが、絶好の登山日和に恵まれたこともあり、登山の楽しさを満喫していただけたことと思う。難度の高い箇所もあったが、ヒヤリ・ハットもなく無事に下山できたことは何にもまして嬉しい。パーティの皆様ありがとうございました。

(武内)



↑ 茶臼岳山頂 ↓ 三斗小屋温泉大黒屋





眼前に三本槍岳・眼下に清水平が広がる
(熊見曾根東峰にて)



三本槍岳頂上にて

B 班

< 1 日目 >

- ・関東北部には雷注意報が出ており、道中何回かの稲妻とドシャ降りに遭遇したが、ロープウェイ山頂駅は雲が湧く程度だった。気温は 10℃ に届かず、少し寒いが青空も出ていた。活火山で砂礫と火山岩の茶臼岳は、人気の山で、手頃に登れるのでいつ来ても人が多い。我々には良い足慣らしになった。
- ・大気が不安定なのか、途中で降ったり止んだりの雨に遭ったが、濡れないで早い時間に三斗小屋温泉大黒屋に着き、付近の散策を楽しんだ。
- ・風呂は源泉かけ流しで少しぬるめだが、ゆっくり入るには最高だった。混雑もなかったようだ。岩風呂に浸り、消灯前の 8 時半過ぎには就寝できた。

< 2 日目 >

- ・煙草屋旅館の前を通り、古い狛犬の温泉神社にお参りし、雲ひとつ無い尾根を登る。もうもうと煙を噴き上げる元湯を見物する頃には視界も大きく開け、雪を被った会津駒や日光の山々などが見え始める。隠居倉へ登ると三本槍や朝日岳、飯豊連峰など 360 度の展望に大満足。こんなに晴れていて良いのだろうか？と思うほどだった。



剣が峰の岩場を慎重に下る

- ・熊見曾根東端から三本槍へは緑と湿原の中を歩く。青空を背景にした薄紅色のミネザクラと、その中でさえざるウグイスが心を和ませる。三本槍頂上は一等三角点もあり、混雑している。前日、NHK で那須のツツジとミネザクラを放映？したと下山してから聞いた。
- ・全員がバスに終結したのは 14 時チョイ過ぎだった。到着後アイスクリームを食べている女性陣の姿が印象的だった。天候に恵まれすぎて、最高の登山日和となった那須岳登山も無事終了した。
- ・道路も混んでいるようなので、風呂への立ち寄り中止し、八幡崎のヤマツツジを車中から見て、コンビニで祝杯のビールを購入し、東北道—北関東自動車道—常磐道と走り、予定より一時間遅くはなったが 8 時過ぎに我孫子駅に到着した。
- ・B 班の方にはあまりお役に立てなかったのではないかと反省している。ご容赦下さい。その分外崎 SL がしっかりフォローしてくださった。皆様ありがとうございました。(高橋重)



茶臼岳山頂にて



大黒屋前にて



朝日岳と茶臼岳をバックに



三本槍です。そして尖った旭岳

C班

<1日目>

- 今年3～4月の天候不順のお陰で季節が半月ぐらい遅れているのか、花の開花も遅いようだ。それもあってか6月になっても五月晴れとはありがたい。1日目は白い雲は浮いていたが空気は澄んで展望はよかった。2日目は朝から雲ひとつない快晴で、遠くの山まで山座同定を楽しめた。
- 那須（黒磯市）は昔仕事で2年間いたことがある。その頃も那須岳はあったはずだが、全く眼中になかった。専ら仕事に熱中し、たまに那須野ヶ原のサイクリングや温泉を楽しんだものだ。もしこんな素晴らしい山に少しでも触れていたなら、山のとりこになっていたかもしれない。それから10数年後、三浦初代会長にはじめて那須岳に連れて行ってもらった。山が楽しくて夢中になっていた頃だ。再会が楽しみである。
- 噴煙上がる活火山の茶臼岳、岩稜そそり立つ

朝日岳、名前に似合わずどっしりとした1等三角点の三本槍岳、それぞれの装いで我々を迎えてくれた。登山道もそれぞれ特徴のある趣をもっていた。茶臼岳に向かう登山道は火山礫ゴロゴロで軽装の観光客は歩きにくそうだった。峰の茶屋から小屋までは樹林帯の中を新緑と花を楽しみながら下る。パラついた雨も大したことはなかった。

<2日目>

- 2日目はさわやかに晴れて、隠居倉までの急坂もあまり気にならず快調に登る。しばらく行くと1,900m 峰が待っている。登り下りの木段がいやらしい。清水平の木道は一部壊れていて水がたまったら心配である。ハイマツやシャクナゲの茂る道をたどって三本槍に向かう。また違う雰囲気である。頂上は広いが多くのお客さんでごった返している。1等三角点の近くに方位盤を作るための工事を

していた。今度来たら山座同定が楽であろう。早々に退散する。帰りは能見曾根まで引き返す。途中 1900m 峰の長〜い木段の上りが待っている。休みたい気持ちを抑えゆっくり上る。

- ・朝日岳西肩の鞍部で昼食をとって最後のピーク朝日岳を往復する。頂上では 360 度の展望を楽しんだ。次の班が来るといっばいとなる。場所を空けて下山する。ここから峰の茶屋までがコース最大の難所である。気をつけて下ろう。ガレ場、鎖場を過ぎ、岩稜伝いの道を下る。最後に雪渓が現れてびっくり、ゆっくり横切って無事峰の茶屋にたどりつく。今日も風はない。
- ・後はなだらかな下りをひたすら駐車場まで歩けばいい。ゲストのみなさんも元気に踏破し、お陰で楽しい山行ができました。多謝。

(中村隆)



足取り軽く、出発！



↑ 桜咲く山道を登る

← 三本槍山頂にて



朝日岳の鎖場にて

D班 (別名チャラン・ポラン班)

< 1 日目 >

- ・標高 1,690mのロープウェイ山頂駅到着後、念入りなストレッチ後、飯沼 SL を先頭に火山礫の歩きにくい急斜面を茶臼岳の山頂を目指す。
- ・ほどなく那須岳神社の小祠のある山頂に着く。天気は曇り時々晴れ、視界は北東の関東平野方面が緑のじゅうたんのよう美しい。目の前には茶臼岳のシンボルの噴煙が天高く吹き上げていた。
- ・峰ノ茶屋にある避難小屋で軽く昼食後、三斗小屋温泉に向かって下山に掛かる。途中延命水でおいしい水をたっぷり飲んで周囲の花の名前を勉強しながら大黒屋を目指す。但し、延命水を飲み過ぎてあまりにも長生きすると周囲に憎まれたり、社会保障が大変らしいので適当にした方が良くとの意見があった。



那須岳山頂にて

< 2 日目 >

- ・心配した隠居倉迄の登りは温泉に入って充分休んだせい皆さん元気溘刺、天気は雲ひとつない快晴、登山道脇のミネサクラが可憐な花を咲かせて皆を励ましてくれた。周囲の展望も素晴らしい、白く雪を纏った尾瀬の燧岳、日光連山、たおやかな山頂の会津駒ヶ岳、北西には飯豊連峰が太陽に照らされて白く輝いていた。目の前にはこれから辿る主峰、三本槍岳がそのどっしりした山容を見ることが出来た。
- ・清水平から三本槍岳に向かうルートは高山の雰囲気を充分感じさせるようなはい松の緑とミネサクラのコントラストが何とも美しい。
- ・那須連山で唯一の一等三角点のある三本槍岳は多くの登山者で賑わっていた。山名はその昔、会津、那須、黒羽 3 藩が国境確認のために槍を立てたことに由来するそうだが 360 度の展望は飽きることがない。
- ・かっこう良い (あるメンバーが吹いた) 形の朝日岳も中途の峰ノ茶屋までの難所も無事通過してチャラン・ポラン班は大きなトラブルもなく和気あいあいの 2 日間を過ごす事が出来た。メンバーの皆さん協力有難う御座いました。

(村松)



朝日岳山頂にて



↑ 茶臼岳より峰の茶屋へ下る

剣が峰の岩場を慎重に下る →



岳人あびこ市民登山に参加して

A班 小池ミナミ

岳人あびこの会の皆様、ありがとうございます。すばらしい山行でした。

今まで、小さな山には年に一、二度ツアーで行っていましたが、この会の山行は準備万端、用意周到、細かく対策を立てておられ、さすがと感じ入りました。

山は本当にすばらしく、三斗温泉小屋への道はずっと、まいずる草の群落を眺めながら、サンカヨウ、エンレイ草なども楽しむことが出来ました。特に2日目は快晴で、カッコウ、ホトトギス、ウグイスなど、心地よい鳴き声をききながら隠居倉へ、また三本槍への道では峰桜のかわいい花を間近に見ることが出来ました。六月の桜は初めてです。

山頂では三百六十度の展望を満喫、この山行で、何度しあわせを感じたことでしょうか。

会の皆様には大変親切にいただき感謝しています。私の体力ではこの位のレベルが限度かなと思いましたが、来年もチャンスがあればお世話になりたいと思っています。

感想文

B班 浅井芳郎

茶臼岳から三斗小屋温泉の途中、会員の女性の方と、「自分が中学生のころ、『宇宙に果てがあるか？ないか？』とよく考えたことがあった」と何故か宇宙が話題になった。

その深夜のこと、旅館でビールを飲み、9時前に就寝した私は12時前に目が覚め、タバコを一本と新館と旧館の間の庭に出ると、そこはしっ黒の闇で満点の空に輝く星でいっぱいでした。1ヶ月前に白内障の手術を受け、視力が1.5に回復した私にとって、中学時代以来のまさしく驚きの光景で感動ものでした。

今回の山行きで一番の思い出となり、一生忘れることはないでしょう。

幕末動乱の主演だった坂本竜馬は近代化に向かう外向きのベクトルと尊王攘夷の内向きベクトルとに対立した人格解離した日本人を人格的に統一した。

それができたのは、理論であれ、観念であれ、いったん自分の身体を通して納得したことしか言わなかったからでしょう。

現代の日本ではエライと言われる政治家から子供たちまでが頭の中で考えることを日本文化（組織）のなかで強いられるように見える。こんな世相の中で、今回の山行中、高校生や若人のグループとの出会いが多くあったことに安堵

感を覚えた。その空間でエネルギーを発散し、身体で感じ、汗をかくことで頭だけで考えることなく、身体全体で物を捉える思想が芽生える兆しとして心がわくわく興奮を覚えた。

今回、参加された会員・市民の皆様が三斗小屋温泉に輝いた星の如く、年相応にキラキラと光り、また私たちの子供・孫たちが身体で考える日本文化を創造することを願うものである。

待望の三斗小屋温泉へ

C班 榊原三郎

昔々、学生時代の頃、観光パンフレットで‘ロマンチックなランプの宿’として紹介されていた三斗小屋温泉の文字をあびこ公報で見つけ早速参加の手続きに入りました。昔、行ってみたいと思っていましたがなにやかやと日常の忙しさのためこの温泉のことすっかり忘れてしまっていたところでした。

又、私は本格的登山の経験は全くなく、家内に誘われ時々山は行っていましたが今回の様な茶臼岳/隠居倉/三本槍岳/朝日岳の縦走は初めてであり皆さんに心配をかけるのではないかと不安がいっぱいでした。しかし家内に励まされ行ってみることにしました。

早朝、那須ロープウェイに行く途中雨が降ってきましたがそれも止み、4班に分かれ登山開始となりました。

茶臼岳山頂駅に着きまずびっくりしたのが、石のごろごろした山で初めから急登なことでした。活火山のため草木のないことは分かっていたのですが、駅を降り山頂を見上げた時は圧倒されました。茶臼岳山頂になんとか着き三斗小屋温泉めがけ下山開始しました。芽吹きが始まった草木がとても素晴らしく目も心も癒されました。

旅館に着きしばらくして待望の温泉にはいり、疲れをさっぱりとおとし夜が来るのを待ちました。昔、頭にインプットされたランプが点く代わりに何と太陽光発電の電燈がついた事にびっくりでした。時代が変わっていることつくづく思い知らされました。

次の日早朝宿を出発し、隠居倉/熊見曾根/清水平/三本槍岳と今回のメインコースを歩き、山桜が満開なことに感動しました。またダケカンバの芽がでそらい始めたばかりでここは高山なこと思い知らされました（山の裾野はツツジが満開でした）。

最後の朝日岳の登頂を終え、登り口目指し歩き始めましたが、途中岩場の鉄鎖のついた恐ろしい処も無事通過し何とか今回の旅程終えました。

このように参加者全員が無事帰って来ること出来たのも全て岳人あびこの皆様の素晴らしい気配

り、サポートのお陰と感謝、感謝致しております。来年も体調/スケジュール調整をして何とかまた参加させていただきたいと思っています。再度、岳人あびこの役員/会員の方々に感謝致すとともに、皆々様の御健勝とご発展お祈りいたします。

ミネザクラと360度の眺めに感動

D班 綿引美沙

出発前の空模様は不安定でしたが茶臼岳から三斗小屋には無事に早々と到着し安心。かつての三斗小屋の思い出とは異なりお部屋も布団も快適でした。

翌朝は天気も良く希望と不安と共に出発。思いがけず峰桜があちらこちらに見られ感激。三本槍の往復では丸太の階段には膝が緊張。皆様の助けを借り頂上に立て天気の良さもあり360度の眺めに又々感動。

本日最高の気掛かりの朝日岳鎖場。リーダーの一步一步の適切な指導に無事通過出来ホッと一安心。雪渓も無事通過し峰の茶屋が見えた時は感謝の念で一杯でした。70歳の登山万歳！「終わり良ければ全て良し」

岳人の皆々様ありがとうございました。



ミネザクラ

今回の那須岳山行の感想は？

- ・皆さんフレンドリーで親切にいただきました。二日目は天気も上々で素晴らしい山行でした。(小池ミナミ)
- ・お天気が最高。私にとっては、結構きつい山歩きでしたが皆様のおかげで無事成功でき、感謝申し上げます。(杉山道子)
- ・好天にも恵まれ大変いい山行でした。会員の皆様には大変お世話になりました。
 - ① 2日目の昼食時間はあと10分多くしてほしいかった。

② 初日三斗小屋着はもう少し遅くていいのではなかったか。(山本包介)

- ・適当なエネルギーの消費であった。深夜の星空は今回ご参加の女性と同様美しくありました。(浅井芳郎)
- ・下準備から細部にわたり本当によく考えていると感心いたしました。一人ではとても見ることの出来ない景色を見ることが出来ました。皆さんとても気さくに話しかけてくださり、色々教えていただきました。ありがとうございました。(小山みえ)
- ・天気に恵まれ最高！ 役員がよく気配りして下さりいつも感謝しております。山の花、新緑、足元も天気が良かったので歩きやすく、周りを眺める余裕も出来た。朝日岳のパノラマは最高でした。お世話になりました。(大久保俊夫、すみ子)
- ・(大変申し上げ難いのですが)
 - ① 休憩時間はキチンととっていただきたい。水分はキチンと補給したい。
 - ② 歩くペースを出来る丈同じようにしていただきたい。特に下山時はペースが上がり易く、ヒザを痛める可能性がある。(戸山光晴)
- ・今後も時間が許せる限り参加したいと思っています。(榊原三郎)
- ・とても充実し楽しい2日間でした。岳人あびこの方々に感謝いたします。(高橋富美子)
- ・山で温泉が入れてよかったです(柳日出子)
- ・久しぶりの参加で大変皆様方にお世話になりました。2日目は天気にも恵まれ最高でした。皆様(山岳会の)大変ありがとうございました。(綿引美沙)



朝日岳から流石山～三倉山を望む

市民登山<那須連峰>を終えて

岳人あびこ市民登山実行委員長
高橋 重

今回で十数回を数える市民登山は、入会後の年数も短く、経験も2回しかない私が人生の諸先輩をご案内できるか心配でしたが、市民の皆様の温かいご協力、そして成功のために一丸となって力を発揮いただいた実行委員や会員の皆様のご尽力により全員が事故無く、我孫子発着で同じ行程を踏破出来たことを実行委員の1人として大変嬉しく、厚く御礼申し上げます。

計画は那須に行くなら『個性のまるで異なる茶臼岳一朝日岳—三本槍岳を結ぶことが最上級』、またもう一つの良さ『秘湯』をプラスする、これを合わせて<案>をまとめました。

初日は不安定な天候、常磐道は土砂降りと稲光！東北道方面へ向うと天気は少し良くなるも、またも雨の中。天気予報では南東へ移動する雨雲の動きが遅く、急な雨と雷があるかも知れぬとラジオを持って家をました。『晴れの素』が消えるのではないかと、茶臼岳へ登りながらラジオに入る雷の雑音をイヤホンで聴きながら天候の急変をととても心配しました。

次の心配は5/22下見山行時にあった2つの雪渓です。これは1日目、峰の茶屋跡から5分ほど剣が峰寄りに村松・武内両リーダーと偵察したところ、一つは解けて無くなり、スリップすれば300mほど滑り落ちそうだった雪渓のトラバースルートも、かなり大きいステップの状態、下山時のスリップの危険は殆ど無いと判断できました。

三斗小屋温泉への新緑の谷の途中からは会員や市民の方の念力？で『晴れの素』が大きくなり、ラジオの雑音も聞こえなくなりスイッチを切りました。谷に咲いていたサンカヨウの花は上品な香りがするそうです。どこかで匂ってみたいと思っています。ムラサキヤシオツツジやオオカメノキの花も綺麗でした。小屋の周囲にはコチャルメルソウなども咲いていました。



夕食は全員集合して御膳でいただく

御膳で出された大黒屋旅館新館での夕食は全員集合、缶ビールで乾杯しました。座敷、御膳、酒、とても山の中の宿とは思えません。これまで34名が食事をした記録があったそうですが今回は37名、新記録です。食事後も市民の方とゆっくりと交流出来ました。夜は北斗七星や北極星が瞬いていました。



大黒屋の風呂

翌日は、雲ひとつ無い快晴です。隠居倉まではひたすら登りなので、昭文社のコースタイム1時間10分のところを、ゆっくりと登れば良いだろうと思っていましたが、コースタイムどおりで到着しました。皆の足が揃っていたと思います。三本槍頂上は人が多くゆっくりと休めそうも無いので、再び朝日岳肩へと戻りました。途中の木の階段登りはとても辛く感じたのは私だけではなくかと思っています。朝日岳肩からは、各班ともザックをデポし朝日岳を往復しました。肩からの下りは急でザレており、スグに数箇所の鎖場となり、怖いと思われた方もおられたようですが、茶色の岩は乾いており、無事通過できました。前日偵察した雪渓もストックをうまく使い、難なく歩けました。この鎖場と雪渓の間でバスの向社長から電話が入り、「昨日NHKの放映のためか、バスは峰の茶屋県営駐車場も、山麓駅からの道路も乗用車の駐車で身動きが取れない。ロープウェイ山麓駅駐車場で待つ」との電話が入りました。皆様には少し長く歩いていただくことになり、そして締めくくりに温泉にも入浴できませんでしたが、変化に飛んだコースを十分に楽しまれたことに免じてお許し下さい。

岳人あびこでは、会員の総力を結集し今後も市民の方に山を楽しんでいただこうと思っています。もちろん私たちも一緒に楽しみます。来年もぜひ一緒にできれば幸いです。



2010/6/5-6 市民登山 茶臼岳～三斗小屋温泉～三本槍岳～朝日岳

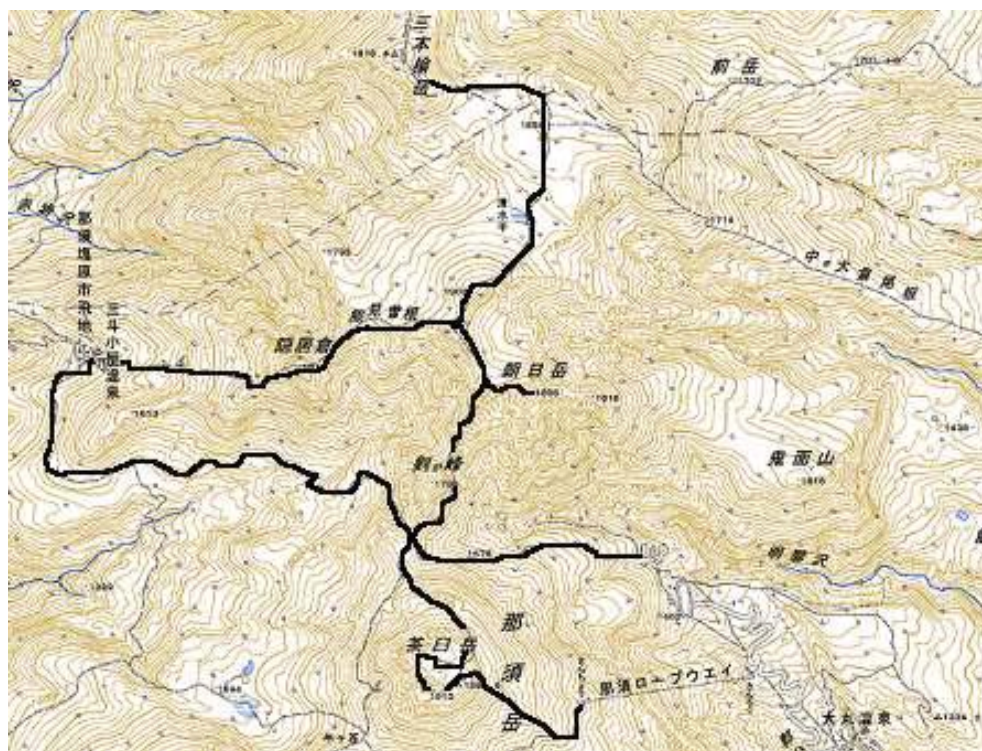


三斗小屋温泉の源泉湯けむりを
見ながら隠居倉へ



隠居倉を越えて茶臼を望む

概念図



← 這松が美しい1900m ピーク

ミネザクラと朝日岳 →



概要

山名	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳		
月日	平成22年6月5日(土)～6日(日)		
山城	那須連峰	地形図	1/25000 那須岳
形式	温泉旅館泊	グレード	2A
目的	市民と楽しむ源泉の宿と噴煙上がる那須火山		
費用	約16,500円	交通機関	貸切バス
行程	1日目	<p>我孫子 5:30/5:40(バス)→谷田部 IC6:18→笠間 PA6:58/7:15→黒磯 PA8:38/8:50→那須 IC8:55→那須岳山麓駅着 9:30/9:48(ロープウェイ)→山頂駅 9:55</p> <p>A班：登山開始 10:00⇒(衣服調整)10:23/10:28⇒茶臼岳 10:40/10:50⇒峰の茶屋 11:23/11:55(昼食)⇒雨具着用 12:20/12:23⇒延命水 12:45⇒三斗小屋温泉大黒屋 13:15 曇時々小雨<行動時間 3時間 15分、歩行時間 2時間 25分></p> <p>B班：登山開始 10:05⇒茶臼岳 10:50/11:00 ⇒峰の茶屋 11:30/11:55⇒延命水 12:40 ⇒沼原分岐 12:50⇒三斗小屋温泉大黒屋 13:15 <行動時間 3時間 10分></p> <p>C班：登山開始 10:05⇒茶臼岳山頂 10:40/11:00⇒峰の茶屋 11:24/11:50⇒三斗小屋温泉大黒屋 12:50 <行動時間 2時間 45分></p> <p>D班：登山開始 10:00→茶臼岳 10:45/10:55 →峰の茶屋 11:30/11:50→沼原分岐 12:30→三斗小屋温泉大黒屋着 13:05 <行動時間 2時間 45分></p>	
	2日目	<p>A班：大黒屋発 7:10⇒(衣服調整)7:44/7:47 ⇒休憩 8:12/8:20⇒隠居倉 H1819m 8:26/8:34⇒熊見曾根 9:02/9:12⇒清水平分岐 9:35⇒三本槍岳 H1917m 10:15/ 10:35(昼食)⇒清水平分岐 11:10⇒熊見曾根 11:30⇒朝日岳分岐 11:40⇒朝日岳 H1896m 11:50/11:55⇒朝日岳分岐 12:05/12:14⇒峰の茶屋 12:53/13:00⇒駐車場 13:40/13:45⇒山麓駅駐車場着 13:55 快晴<行動時間 6時間 47分、歩行時間 5時間 30分></p> <p>B班：大黒屋発 7:13⇒隠居倉 8:25/8:35⇒熊見曾根東山 9:05/9:15⇒清水平 9:40⇒三本槍岳⇒10:30/10:40⇒清水平 11:15⇒朝日の肩(昼食) 11:50/12:07 ⇒朝日岳 12:15/12:20 ⇒朝日の肩 12:25/12:30⇒峰の茶屋 13:10/13:20⇒峠の茶屋 13:55⇒山麓駅駐車場着 14:05 <行動時間 6時間 50分></p>	

2日目	<p>C班：大黒屋 7:15 発⇒隠居倉 8:25/8:34⇒熊見曾根 9:18⇒清水平 9:31/9:38⇒三本槍 10:15/10:25⇒清水平分岐 10:50⇒熊見曾根 11:24⇒朝日岳分岐 11:40(昼食) 12:00 発⇒朝日岳 12:10/12:20⇒分岐 12:26⇒峰の茶屋 12:55/13:00⇒山麓駅 13:40 <行動時間 6時間 25分></p> <p>D班：大黒屋発 7:15⇒隠居倉 8:25/8:35⇒三本槍岳 10:30/10:45⇒清水平 11:30⇒朝日岳 12:20/12:25⇒峠ノ茶屋 13:10⇒山麓駅着 14:05 <行動時間 6時間 55分> バス発 14:25⇒コンビニ 14:50/15:05⇒花の城 15:45/16:10→那須 IC16:17→壬生 PA 17:58/18:15→千代田 PA19:10/19:20→谷田部 IC19:35→我孫子駅北口着 20:10</p>
	<p>・ペース配分：両日とも朝一番いきなりの登り始めとなる。ストレッチを十分して、ゆっくりペースで確実に登りたい。特に一般参加者の状況をよく把握すること。</p> <p>・2日目水場なし。充分の水を用意する。花つみの場所もないので要注意。</p>
ルート状況	
参加者	<p>A班：武内(L)、青山(SL)、原田、中村美、齊田、瀬田、小池(市民)、杉山(市民)、山本(市民)</p> <p>B班：高橋重(CL)、外崎(SL)、小川誠、小松、品田、本田、浅井(市民)、大久保俊(市民)、野口(市民)、小山(市民)</p> <p>C班：中村隆(L)、田村(SL)、高橋英、矢野貞、藤倉、戸山(市民)、榊原(市民)、大久保す(市民)</p> <p>D班：村松(L)、飯沼(SL)、坂巻、桐生、加藤、矢野裕、高橋富(市民)、柳(市民)、綿引(市民) 男 15(会員 10、市民 5) 女 22(会員 14、市民 8) 計 37(会員 24、市民 13)</p>



サンカヨウ

< 6 8 7 >

御正体山 (1,682m)

矢野貞子

前の週に市民登山で那須岳に行き2週続けての山行だった。「御正体山」という名前にひかれ参加を決めたので前知識はまるっきりありませんでした。

富士急行線都留駅からタクシーで20分位行きトンネルを抜けたところで車を降りた。他の登山者は見たらずバイクのツーリングの人が数人休んでいた。

前月に登山マラソンの同コースで行われたらしく、マラソンの道案内が残っていた。歩き始めて20分位登ってもツーリングをするバイクの音が響きわたり山道は静かだが、人里から離れた感覚にはなれなかった。山道は比較的登りやすく苦労する登りはないが山が大きいだけあって長かった。調度花の葉境期だったらしく終わった赤い花びらのこりが付いた「やしお」がたくさんあった。足元の花達にもあまり会わなかった。時期が2~3週間早ければ花がみられたのではないだろうか？そのかわり「とりかぶとの花」がたくさんあるのとブナ林の新緑が明るくきれいでした。また、山頂付近にはあと少しで開きそうな「こばいけいそう」がたくさんあり満開時に見事なお花畑になるのだろーろと思いました。

山頂には祠とベンチがあり、白い花が咲いていましたが、見晴しは全然ありませんでした。山頂から分岐までも「こばいけいそう」がたくさんあり花の時期にはもう一度来てみたいと思いました。途中地図読みや同定からの山の位置確認などを行いながら比較的歩きやすい尾根道下りましたが、分岐を過ぎ尾根をはずれ下り始めると、登りはさぞ大変だったろうと思われるほど、マラソンで道が荒らされていて、滑らない所を選んで下り、マイクロバスの待つ地点まで下りました。バスは山中湖の湖畔を走り富士吉田駅まで40分位かかりました。大きくてアクセスが不便な山です。仲間と登るので挑戦できる山だと思いました。

また、この山では他のパーティに1回も出会いませんでした。本当に静かな山静かな山行でした。富士吉田駅では打ち上げ場所の決定にまごまごしましたが、駅の反対側のスナックで焼そばを肴に反省会をして我孫子に帰ってきた。



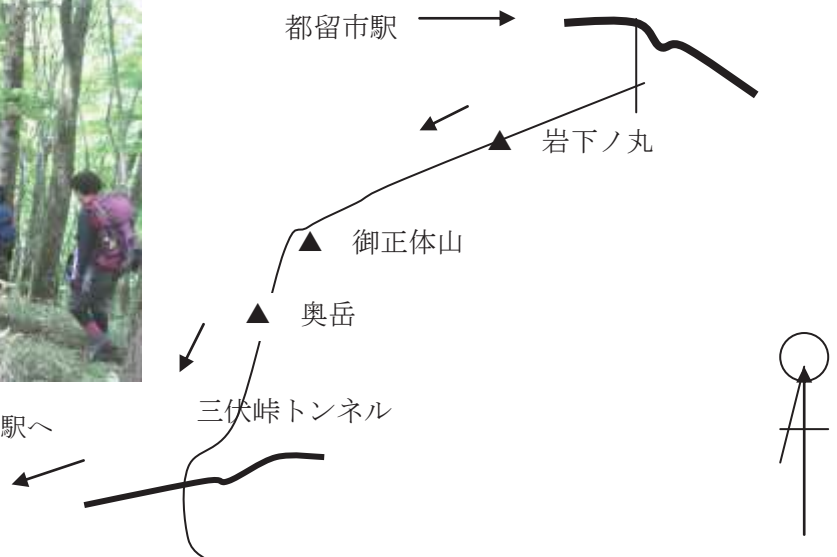
白井平分岐で休憩



ブナ林の中を行く

富士吉田駅へ

概念図



概要

山名	御正体山		
月日	平成22年6月13日(日)		
山域	道志山塊	地形図	1/25000 御正体山、都留
形式	日帰り	グレード	2A
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・丹沢、道志山塊の最高峰に登る ・新緑のブナ林を楽しむ 		
費用	5,800円	交通機関	JR、富士急行線、タクシー
行程	<p>我孫子駅 5:33→新松戸駅 5:46/5:51→西国分寺駅 6:47/6:55→高尾駅 7:22/7:26→大月駅 8:14/8:19(富士急行線)→都留市駅 8:35/8:45(タクシー)→道坂峠トンネル登山口 9:06/9:15⇒尾根分岐 9:30⇒ガンギ沢の頭 9:46/9:51⇒岩下の丸 10:27/10:35⇒ぶどう沢峠 10:44⇒白井平への分岐 11:32/11:39 ⇒九合目 12:20⇒御正体山 12:35/13:00(昼食) ⇒前ノ岳 13:35⇒中ノ岳 14:05/14:15⇒鉄塔 14:45/14:50⇒奥ノ岳 15:00⇒石割山への分岐 15:05⇒山伏峠トンネル下山口 15:40/15:47(タクシー)→富士吉田駅 16:20/17:27→大月駅 18:15/18:24→高尾駅 19:08/19:12→神田駅 20:14/20:16→上野駅 20:22/20:33→我孫子駅 21:04 着曇り<行動時間:6時間30分、歩行時間:5時間30分></p>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・道坂峠登山口は都留市駅方面から向かった場合、道坂トンネルを抜けた右手、林道終点の脇から。この林道は旧道坂トンネルに通じているのだが、現在のトンネルが出来てから使用されなくなった。何年か前まで真っ暗なトンネルが口を開けていたが、安全のために入口がコンクリートで塞がれてあった。また、林道入口にはゲートも付けられてあった。 ・白井平分岐から道志村の白井平に下る道は、エスケープルートとして便利。しっかりと道が踏まれている。 ・トレイルレースが開催されたばかりで、あちこちに標識やリボンの数が目立った。登山道はそれほど痛んではないが、山伏峠に下る坂道の一部の土が大きくえぐれ、非常に滑りやすい。
参加者	外崎(L)、田村(SL)、原田和、武内、矢野貞、瀬田、本田、塩原 男2名 女6名 計8名



全員集合(御正体山山頂にて)



< 6 8 8 >

白谷沢

堀口昭二

梅雨時期の沢と言う事で、空模様を気かけながら、さわらびの湯のバス停で降り、名栗湖（有間ダム）から白谷沢方面を遠望すると、空が重く漂い、今後の天気不安を予感する。

林道から10分程登った所から左へ沢に降り、3個目の堰堤の上に出て装備装着する。

小滝の連瀑帯、ゴーロをなんなく遡行して行くと、関東ふれあいの道の立派なザイルが掛けてある所を左に、2段9mの藤懸ノ滝、左岸を直登する。

天狗の滝、傾斜の滝だが直登出来ずにふれあいの道に行き、ハイカーの仲間入り！下山時に、白孔雀の滝で懸垂下降・登攀を楽しむ。

滝事態の高低は小さいが、岩が逆層だったり、手掛かりが微妙な状態なので、それなりの楽しみ方が出来ると思う。沢全体は初級。



↑濡れなくても更に厳しいとT女史
ホールド無く滑りやすい苔岩



↑核心部の藤懸ノ滝の上段(5.5m)
細かいホールドを拾ってリードで登る

最後に近い白孔雀の滝 14m
逆層に阻まれ、ルートファインディングに悩む↓



概要

山名	白谷沢		
月日	平成22年6月13日(日)		
山城	奥武蔵	地形図	1/25000 原市場
形式	日帰り	グレード	2B
目的	沢登りを楽しむ		
費用	約3,000円	交通機関	JR、西武、バス
行程	我孫子 5:31→池袋→飯能 7:40(バス)→さわらびの湯 8:20→白谷沢入渓 9:20→藤懸ノ滝 11:10→天狗ノ滝 11:14→白孔雀ノ滝 11:25 下山 11:30→白孔雀ノ滝 11:35(懸垂下降・登攀) /12:15→林道 12:37→さわらびの湯 13:10/14:18(バス)→飯能→池袋→我孫子		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コケが美しいが、岩が全体にぬめり気味。 ・倒木が沢をふさいでいる。 ・登山道（関東ふれあいの道）が沢と並行している。 ・滝自体は直登するにはCクラス。 		
参加者	堀口(L)、千葉、佐藤健、小谷 男3名 女1名 計4名		

概念図



< 6 8 9 >

釈迦ヶ岳～鶏頂山
(1,795m) (1,765m)

坂巻 明

リーダーとして行った初めての山行でした。思い返せば、3年前リタイヤをきっかけに運動不足を解消するために入会した。リュックサックをかっいで旅行したい。そのためには体力づくりが必要と考え、山登りは一石二鳥ではあるまいかと思った。

山登りを始めたころは皆さんに迷惑をかけながらの山行でした。体力の無さに驚き、きつい、つらいだけだと思っていましたが、だんだんとその魅力に取りつかれて行きました。自然がある山には沢山の魅力がありました。山登りを続けることで体力がつき、いろんな面で行動力が増した気がします。

山行計画を作った。ここは去年、私が行きたい山として希望を出した山である。昔、何回かスキーに行ったのでどんな山か興味があったからである。

ひと月前の5月半ばに下見山行に行った。鶏頂山荘からスキー場をだらだらと登り、鶏頂山を往復してみた。温泉が目的とはいえ、いま一つの感があった。しかし、計画書作成の段階では行った道を引き返す折り返しのプランでしたが、参加者が多くいたのでマイクロバスに切り替え、縦走計画に変更した。おかげで、変化ある行程になった。

今年は季節の進行がおそく、草木の芽吹きが遅れているようだ。山行当日の花木の開花状況に内心期待した。

2001年に中村隆泰さんがやった逆のコースを辿った。山行後に入る温泉は塩原温泉が良いか鬼怒川温泉が良いか考えどころだ。

山行部長からリーダーとしての「山行の手引き」がEメールで送られてきた。参加者全員に実施計画書を送り、山行部長に留守宅本部をお願いし、原田さんに装備の貸し出し依頼をして会の旗等を借り出しました。準備OK!

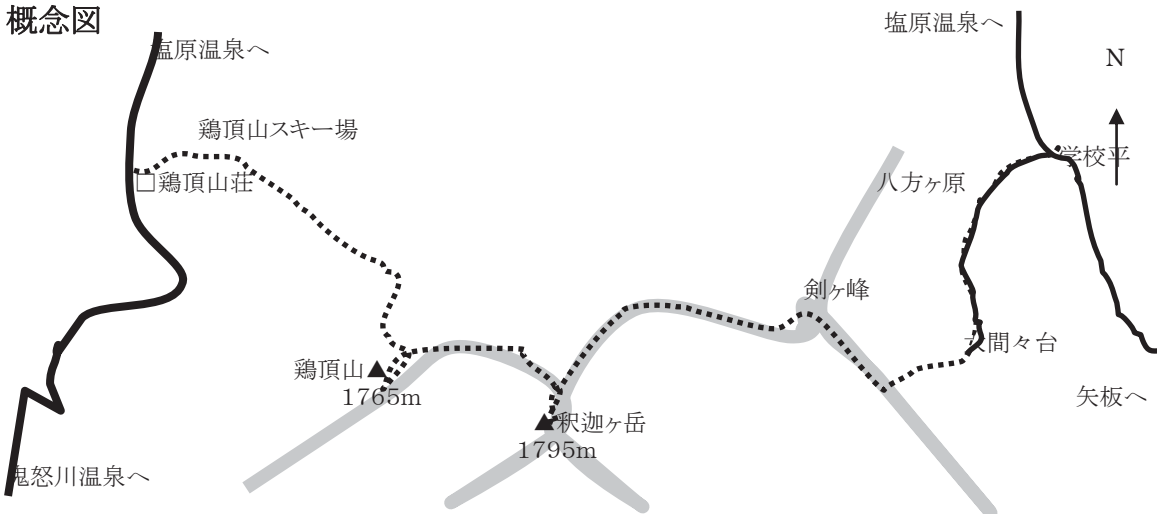
前日になり、当日の天気予報は雨マークなので心配のあまりメンバーの先輩方に相談の電話を入れました。予報が外れてくれて助かりました。

予定通り5:30出発の8:30到着。挨拶、準備体操よろしく、講師の紹介をしました。スタート地点からいくつかのコースがあり、選ぶ必要がありました。ところが、私が説明する前にコースが決まってしまう、私は仕方なしにそれで行きましょうと言いました。

地図読み山行のスタートです。武内講師指導のもと、現在地確認をして出発しました。その後、それぞれ休憩地点、分岐、山頂での位置確認(読図)ができ、楽しく学べました。初心者には勉強になったと思います。

梅雨時期で天気が心配されたが、曇り空のなか、雨にも合わず新緑の尾根歩きを楽しむことができた。日光連山の眺望が得られなかったが、季節の草花を楽しむことができた。枯木沼湿原では、ツツジが咲き誇り、頂上付近ではシロヤシオが可憐に咲いていた。山行中、モリアオガエルの産卵後の樹にぶら下がった泡、ツバメオモトの花(ひとつひとつは小さなユリの花でした)も初めて目にしました。

概念図



瀬田さんの念力が効いたのか、ときどき陽がさし、恥ずかしがっていた釈迦岳が頭を出してくれたり、山里の景色を見ることもできました。釈迦岳、鶏頂山とも、頂上では霧のため山並みを眺めることはできなかったのは残念。

お昼過ぎになると雷の音が聞こえてきた。空模様が変わってきた。雷に追われながらの山行となる。

行程が終わりに近づき、弁天沼に差し掛かるところでワラビの群生に出会いました。予想外の山からの贈り物に大はしゃぎです。ワラビ採りも楽しかったです。大変美味しくいただきました。

急峻で結構厳しい箇所もあったが、慎重に行動することによりヒヤリハットはなかった。バリエーションルートは始めてという参加者もいたが、現在地を頻繁に確認しながら歩いたので、特に不安に感ずることはなかったと思う。

この会入会時、新人指導員だった外崎さんが見つめていてくださったのが心強く思いました。梅雨時期に入ってじめじめした日が続いている。当日は風がなく蒸し暑かったが、しかし、梅雨の合間を縫っての山行としては十分満足できる山行となった。

皆さんのおかげで楽しい山行ができました。感謝です。有難うございました。



←山頂付近:急斜面を下山

概要

山名	釈迦ヶ岳～ 鶏頂山		
月日	平成22年6月20日(日) 日帰り		
山城	日光	地形図	1/25000 高原山
形式	日帰り	グレード	2A
目的	ツツジ、湿原の草花を鑑賞、新緑を楽しむ		
費用	5,500円	交通機関	マイクロバス
行程	我孫子駅 5:30→(R294)→下館→真岡→(R408)→さくら市→(矢板)→八方ヶ原→大間々台 8:30/9:00⇒見晴しコース 9:30/9:35⇒八海山神社 9:55/10:00⇒剣ヶ峰 10:20⇒休憩 11:45/12:10⇒釈迦ヶ岳 12:40/12:55⇒鶏頂山 14:00/14:10⇒弁天沼⇒鶏頂山荘 15:35/15:40⇒日塩もみじライン→鬼怒川温泉 16:40/17:15→宇都宮→(R4)→(R123)→(R408)→真岡→下館→(R294)→ 取手→我孫子 20:10 (解散) <行動時間6時間35分 内、歩行時間5時間35分、研修と休憩時間60分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロバスを使用して我孫子から大間々台登山口まで一般道で所要3時間。 ・大間々台から鶏頂山荘への尾根道は薄いながらも踏み跡を忠実に辿れば迷うことはない。 ・釈迦岳山頂付近は上り下りとも急峻、滑りやすいので慎重に歩行せねばならない箇所がいくつかある ・分岐にはそれぞれ標識があつてわかりやすい 		
参加者	坂巻(L)、中村隆(SL)、武内、小川誠、外崎、品田、中村八、藤倉、瀬田、矢野裕、中村育 男4名、女7名、計11名		

← 釈迦岳山頂:集合写真



↑ 現在地確認: 図読の講習風景

< 6 9 0 >

守門岳
(1,537m)

武内勇二

第 1 日目

我孫子を6時に出発し3時間余りで小出 IC を出た後、JR 只見線沿いに R252 を走った。数年前の中越地震で被害を受けた山古志村は直ぐ近くだ。国道沿線にも崖崩れの修理跡が何箇所か見える。ナビに導かれて渋川で左折、この後猿倉橋を渡り、二分のキャンプ地よりさらに林道を進み、10時半過ぎには保久礼小屋手前の駐車場に到着した。

当初の計画では、二分のキャンプ地で車を止め、そこから30分ほど歩いて保久礼小屋に行き宿泊する計画だったが、幸いにも林道が保久礼小屋手前まで伸びていたため、予定より大幅に時間短縮できたことになる。

駐車場は30台位は優に停められそうだ。既に20台以上は駐車している。長岡ナンバーが多いということは、守門岳は地元の人達にも人気の高い山の様である。林道途中の駐車できるスペースにも駐車している車が見受けられた。こちらの方は、山菜採りで入山とも考えられる。山菜採り禁止の立て看板も見受けられるので、裏を返せば山菜は豊富ということなのだろう。

保久礼小屋は、駐車場から緩やかな坂を下って直ぐにある。2階建ての小屋は外壁が黒くくすんでおり、建ててから随分日が経っているらしい。小屋の中は、土間と床に分かれているが、床は土足で上がった後、掃除もしていないのであまり綺麗ではない。壁面にベニヤ板が立て掛けてあり、寝床はこのベニヤを敷いて設営することになるのだろう。水場は小屋の脇にあり、冷たい水が樋から取れるが、小屋がいま一つ綺麗ではないので、ここで泊まりたいという気にはなれない。

当初計画ではこの小屋泊まりであったが、更に先のキビタキ避難小屋まで行こうということになった。小屋の名前になっているくらいだから野鳥のキビタキが多く見られるのだろう。ちなみに、キビタキは東南アジアに生息する渡鳥で、夏場に日本にやってくる鳥で、福島県の県鳥となっているそうである。

登山道は擬似木の階段で整備されている。階段は歩幅の制約を受けるので歩きにくい。横の踏まれた箇所を選んで歩いた。剥き出しの赤土に適當



早めに宴会準備…そして宴会

にステップがあるので、こちらの方が歩きやすい。尾根道ではあるが、樹木に遮られ展望は全くない。蒸し暑く汗が滴り落ちる。20分程登ったところで北面が開けた場所があり、暫しの休憩で汗を鎮めた。

擬似木の階段が切れて暫らく登ったところで、キビタキ小屋の水場があった。水量はそれほどではないが、冷たい水が樋から流れている。水場から1分程登り、キビタキ小屋の表示に従いわき道に入ったところに小屋が建っている。外壁は明るいカラートタンに覆われ、見た目は好ましい感じ。中もそれ程綺麗ではないものの、保久礼小屋よりはましかった。広くはないものの、詰めれば10人は宿泊できるだろう。

突然の侵入者に驚いたのか、1メートル程の蛇がゴソゴソと壁の隙間から床下に逃げ込んだ。我々は、ここを1夜の宿と決め、下の水場から水を汲んできて昼食とした。まだ、12時で守門岳往復は無理としても、大岳へは登ってくる時間(約2時間)の余裕は十分あったが、「ビールでカンパイ」で3人の意見が一致、大岳、守門登山は翌日回しと決めた。

小屋を経由して大岳へ登る登山ルート上の比較的平らな場所で宴会場設営した。主ルートのみわき道なので、ここを通る登山者は少ない。直ぐ脇を通る主ルートを下る登山者の声が聞こえる。小屋を覗きにきた登山者が数名いたが、皆、日帰り登山者なので、我がパーティのみで小屋を占有できた。3時頃から細かい雨が降り出したが、それほど強い雨ではない。明日の天気予報でも雨の予報ではあったが、元より雨は覚悟の登山だったので、余り心配せずに早々に眠りについた。

第 2 日目、

夜半過ぎ、強い雨がトタンを叩く音で眼が覚めた。朝には小降りになっているだろうと期待しながら、また眠り予定通り3時半に起床。相変わらず

ず雨足が強い。このまま降り続ければ、細い林道の崩落が心配されるので、大岳登山も諦め下山することとした。

昨夜来の雨で、登山道は小川になっていた。赤土で滑りやすいので、ストックでバランスをとりながら慎重に下る。昨日車で賑わっていた駐車場には、我々の車が1台のみ。さすがにこの悪天候で山に登ろうとする人はいない。温泉に入り、汗を流したかったが、まだ朝の6時前、どこも受け入れてくれるところはないだろうと思ったが、未練がましく鏡ヶ池道の駅で温泉情報がないか、立ち寄ったが何の情報も得られなかった。「湯沢に出れば何とかかなるか」と期待しながら高速に入らず時間をかけて国道17号で湯沢駅に出たが、頼みの江神温泉も13時オープンと分かり温泉は諦めて帰路についた。

湯沢近辺では雨もあがり、「ひょっとすると登れたかも？」との思いが頭を掠めたが、山で無理は禁物、またいつか再挑戦すればよいと3人の意見が一致した。昨日、大岳だけでも登っておけばよかったのだが、後悔先に立たず、ビールの誘惑に負けた山行だった。



キビタキ小屋

概要

山名	守門岳		
月日	平成22年6月26日～6月27日		
山城	越後	地形図	1/25000
形式	テント	グレード	3B
目的	ヒメサユリを求めて		
費用	9000円	交通機関	自家用車
1日目	我孫子駅北口車発 5:55→柏 IC6:10→高坂 SA7:15/7:35→小出 IC9:20→食料品調達 9:22/9:40→キャンプ場跡 10:30→駐車場着 10:40/10:55⇒保久礼小屋 11:00⇒キビタキ小屋着 11:45 (泊)		
2日目	3時半起床し天候情報を確認、降雨状況から撤退を決定する。 キビタキ小屋発 4:40⇒保久礼小屋 5:15/5:35⇒駐車場着 5:40/5:45→鏡ヶ池道の駅 6:22→湯沢 IC7:57→土樽 PA 8:10/8:20→大田桐生 IC9:20→五霞道の駅 10:50/11:00→柏市松葉町着 11:55 (解散)		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場から約200mの地点に保久礼小屋(2階建)があった。最近の使用された形跡は無い。水は小屋の近くに有る。トイレも小屋の後方にある ・保久礼小屋から約45分登った所にキビタキ小屋があった。平屋建てで外観は下の保久礼小屋より綺麗だった。宿泊人数は10人前後泊まれると思う。水は小屋から約100m位下った所にありトイレは無い 		
参加者	石垣(L)、武内、原田 男3名 女0名 計3名		

概念図



キビタキ

< 6 9 1 >

御岳山 ～ 日の出山
(929m) (902m)

齊田記代美

暑さに弱い私にとって「夏場の低山歩き」に参加することに迷いましたが、来たる夏山シーズンに向けてがんばろうという思いを胸に参加しました。

梅雨の最中で、前日から天気も悪く「これは雨の山行になりそう、暑いのとどっちがいいか」と心の中で天びんにかけていました。

リーダーからは「天気予報はパッとしませんけど昼間は降らないようなので決行します」というメールが入り、出発しました。

御岳山から日の出山は数年前の冬に友人と登ったことがあり、その時は定番の青梅線の御嶽駅で下車し、バスで滝下に行きそこからケーブルカーに沿うようにして歩きました。その時は寒い中のツェルト体験をしようというものであり、未体験あったため、いろんなことを体験しました。

今回はその御嶽駅を通り過ぎ、先の鳩の巣駅で下車し、町を抜けるとすぐに登りになりました。

雨は、電車に乗っている間降ったり止んだりとなかなか思わせぶりでしたが、歩き始めるころには小雨になり、すぐに雨が上がったことで、木々が緑鮮やかになり、モグラが走り出し、カエルも飛び出して活動を始めました。林の中は風の通りもなく蒸し暑く汗が滴り落ちます。その後は下山まで雨には合わずに歩くことができましたが、暑さとの戦いになりました。

たびたび水飲み休憩を入れながら、大樽峠まで一時間半の登り、さらに御岳山まで一時間半「最後に300段以上の石段が待っていてくれるよ」と脅かされながら（励まされながら？）歩きました。

休憩時木々の間から見下ろす景色は暑さを忘れさせてくれ、歴史も感じさせてくれる神代ケヤキはパワーを与えてくれて、石段もやっとこさっと登ることができました。

登山道では他の登山客と会うことも少なかつたのですが、御嶽神社では、さすがに参拝客も多く賑やかで、国際色豊かな若者のグループにも出会いました。神社の前で昼食を摂り、日の出山へ向かいました。

山頂は霞んではいるもののこの時期にしては

かなり良く関東平野を見渡すことができました。下りはつつる温泉にむかってみんなの気持ちは一つ、足取りも軽く…と、私はそうはいかず、ひたすらに遅れないことを考えて道標の後何kmに励まされて黙々と歩きました。

いつものことながら林道は長く感じますが、突然大きな道路に出て、つつる温泉に着き、しっかり汗を流し、その名の通りつつるになって、その後バスで武蔵五日市へ戻り反省会をしました。

大声を出してはいけないこだわりの蕎麦屋ということで、笑いをこらえながら楽しくそして美味しくいただきました。

皆さんに付いていくことで暑さにも負けずに、6時間近くの長い道のりを歩くことができたことをとともうれしく、そして自信にもなった山行でした。



暑い！！ 皆さん元気ですか？



給水ポイント: 里の風景

概要

山名	御岳山～日の出山		
月日	平成21年7月4日(日)		
山城	奥多摩	地形図	1/25000 武蔵御岳
形式	日帰り	グレード	1A
目的	夏場の低山		
費用	3,500円	交通機関	JR、路線バス
行程	我孫子駅発 5:33→新松戸 5:51→西国分寺 6:55→立川 7:06→鳩ノ巣駅 8:25/8:35⇒小 休止 8:55⇒小休止 9:35⇒大檜峠 10:08/10:25⇒小休止 11:10⇒小休止 11:50 ⇒御岳山 12:00(昼食)/12:30⇒日の出山手 前(小休止) 13:15⇒日の出山頂上 13:25/ 13:35⇒つるつる温泉 14:55(入浴)/16:00 →バス 16:15→武蔵五日市駅 16:45(反省 会) /17:40→武蔵五日市駅 18:02→拝島 18:26→立川 18:41→西国分寺 18:50→新松 戸 19:50→我孫子駅着 20:02(解散) <歩行時間; 5時間00分>		

ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> 登山ルートも案内標識もよく整備されていて、道迷いの心配は無い。段差のあるところは殆ど無く、急登、急降下も殆ど無い。 大檜峠までが登りの殆ど。そのほかには、御岳山頂上の御嶽山神社の手前の石段 320段、日の出山手前の登り約100m、などがあるが、その他はほぼ水平の道。 日の出山からつるつる温泉までの下山道も、よく整備された道。
参加者	小川誠(L)、原田和(SL)、品田、箕輪カ、箕輪完、桐生、齊田、新谷、塩原、男3名 女6名 計9名

日の出山山頂

概念図



< 6 9 2 >

八間山 ・ 白砂山
(1,940m) (2,140m)

中村育子

華麗な花！花！そしてブナの研修

群馬の県境まで行ってたくさんの花を見た。八間山と白砂山は新潟・長野・群馬の県境にある。

7月11日、群馬県長野原草津駅下車。ジャンボタクシーで30分、10時半過ぎに野反峠に着く。天気良し。野反湖（ダム湖）は二千メートル級の山々に囲まれ、青色をして足元に広がっていた。ノゾリキスゲが一面に咲いていて、タクシーを降りるとみんな歓声をあげる。



野反湖峠登山口で花一面の湖畔

11時、八間山に向けて峠を出発。総勢9人、先頭はリーダーの原田さん。八間山（1940m）は藤倉さんが希望した山。野反峠から北東方向に登り始める。八間山からそのまま直進して行くと白砂山に行き着くが、白砂山は明日登る。登山道は良く整備されていて、笹と灌木の道は太陽にじりじり照らされる。登り始めてすぐコマクサの群落があった。淡い色が風に揺れている。ここは花の百名山。色々な種類の花が咲いている。前後の人たちが名前をいいあっている。ハクサンフウロ・マイヅルソウ・ウスユキソウ・カラマツソウ。よく晴れて花も周りの山々も素晴らしい。振り返ると浅間山と連山もよく見える。去年市民登山で登った湯ノ丸山か

四阿山ではないか。



八間山の頂上で展望を楽しむ

1時間半弱で頂上到着。汗を拭いていると皆さんから次々と差し入れが回ってきた。原田さんはゆで卵を人数分持ってこられた。広島から届いたばかりで、奥さんの君子さんが味付けしたものを保冷剤で冷やし、タオルでくるんで持って来たのだ。とてもおいしくて君子さんにも感謝した。12時50分下山開始。青い湖を見下ろしながら雑木林を降り、2時前に野反湖畔到着。行動時間4時間。

ロッジ着3時。2部屋とることが出来た。泊まり客は私たちの他にもう1団体だけで静かで快適だ。すぐ入浴する。

4時から「ブナ林」についての勉強会。講師は原田さん。坪田和人著「ブナの山旅」の抜粋配布。原田さんの話の中で印象に残ったこと。

- ・ブナは、木偏に「無」と書くように、油分がなく役に立たない木であるが、保水力があつてブナ林全体ではダムに匹敵するくらいの水を蓄えている。
- ・ブナの葉に落ちた雨は枝から幹、幹から根元へと伝わってゆく。そのため水分が多く、苔が沢山つく。
- ・ブナの寿命は200～300年。「今ブナ林を流れている水は江戸時代に降った雨かも知れない。」
- ・戦争が続くとその土地には木が育たない。等。原田さんの言葉、「山は有り難いという気持ちが無くては山を踏んではいけないと思う」が強く心に残った。原田さんの山に対する、熱くて暖かい思いがしみじみと伝わってきて心がじわ～んとなる。ウグイスが鳴き、湖から涼しい風が吹いてくる。風呂上がりなのと、アル

コールのほろ酔いとで心地よい湖畔の宿の時間が過ぎていく。研修は雑談に移っていったが、山と自然について考えるよいきっかけになった。いつのまにか部屋には夕暮れの柔らかい光が差し込んで、下界のことは忘れてしまった。

明るる12日は白砂山。予定を早めて4時半出発。予報では昼頃から雨。朝食用のおにぎり とテルモスをリュックに詰める。

登山口からハンノ木沢まで降り、そこから樹林帯を登る。沢添いの道でブヨがうるさく顔にまとわりついてくる。会の虫除けスプレーと藤倉さん持参のをを使ってお互いにスプレーを吹きかけまくる。小雨になり、周りの山々は完全に見ることが出来なくなった。昨日が上天気だったから文句はない。猟師の頭あたりから山頂にかけて低灌木になると、花が沢山咲いていて素晴らしいお花畑が続いた。

頂上は狭かった。雨具を着ていると折り良く一団が登ってきたので、全員の集合写真を撮ってもらおう。帰りは先頭が外崎さん。しんがりを歩いていた原田さんが途中から中々下りてこなくなる。実は花の写真を撮っていたのだった。白砂山は奥さんの君子さんが希望した山で、今回来られなかった奥さんのために写真を撮っていたのだと私たちは気がついた。ゴゼンタチバナとギンリョウソウはどこまでも道沿いに咲いている。後ろを歩いていた箕輪完二さんが「午後になってもゴゼンタチバナ。これだけは覚えた」と言っているの、私も覚えた。

雨が上がった。水場の所で雨具を脱ぐ。するとみんな余裕が出て来て、ブナの木を探すようになった。木の特徴を教わり、山を下りながら

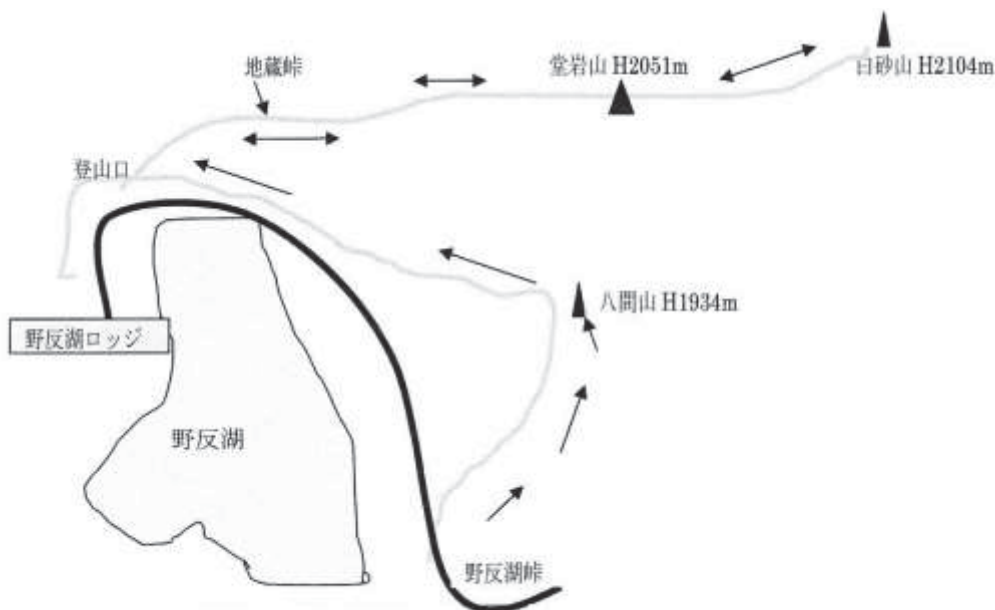
目を凝らす。葉はギザギザ、樹肌は斑模様、根元には苔。始めは見あたらなかったが次第に目につくようになり、麓に近づくころには「あれがそうかも」「これもそうかな」などと声が上がるようになった。でも、どの木も細くてブナらしくない。ブナといえば大木という固定観念がある。ないのかとあきらめて林道まで降りた。すると目の前に一本の大木があつて、あれはもしかしてブナ？みんな急いで近づく。ブナだ！ツタがからみついているが、まぎれもなくブナだ！山行の終わりに、ついに大木のブナに出会えた。研修の総仕上げだ。みんな元気になり、樹を見上げ、撫で、記念撮影をした。空はすっかり晴れて太陽が照っていた。

午後1時半、ロッジを出て、「応徳温泉やすらぎの湯」に立ち寄る。帰りの電車の中で今回見た花を出しあつた。女性陣の記憶と、また瀬田さん持参の植物図鑑が大活躍して、上記の花の他に以下の名前があがった。

コバイケイソウ、シャクナゲ、エンレイソウ、ツルアジサイ、ミネザクラ、ハクサンシャジン、ツリガネソウ、ハクサンチドリ、イワカガミ、ウラジロヨウラク、ノリウツギ、シロバナクモマニガナ、クモマニガナ、コメツツジ、イワツメクサ、オニアザミ、ナナカマド。タクシーで来る途中、ヤナギランが沢山咲いていた、と本間さん。

山はいいなあとしみじみ思った。みんなでゆっくりと夜を過ごし、よい山に登ることが出来ることは幸せなことだ。原田さん始め皆さんにとっても感謝している。

概念図



概要

山名	八間山・白砂山		
月日	平成22年7月10日(土)～11日(日)		
山城	上信越	地形図	1/25000 野反湖
形式	山麓泊	グレード	3B
目的	湖を見下ろす花登山、三県に跨る秀峰		
費用	18,000円	交通機関	JR、タクシー
日程	1日目	<p>我孫子駅発 6:12→上野駅 6:45/7:20 (特急草津1号) →長野原草津口駅着 9:49/9:55(タクシー)→野反湖峠着 10:35/10:55⇒休憩 11:40/11:45⇒イカ岩の頭 11:50⇒八間山 12:15/12:50(昼食)⇒登山口に出る 13:52⇒湖畔で休憩 14:00/14:20⇒野反湖センター14:40/14:55⇒野反湖ロッジ着 15:05 (泊) <行動時間 4時間 10分 内、歩行時間 2時間 55分></p>	
	2日目	<p>ロッジ発 4:30⇒登山口 4:40⇒ハンノキ沢 4:53⇒(衣服調整)5:03/5:06⇒地藏峠(切明への分岐)5:20⇒休憩 5:52/6:10(朝食)⇒水場 6:50/6:55⇒堂岩山 7:25/7:30⇒猟師の頭 7:55⇒休憩 8:12/8:17⇒白砂山 8:50/9:10⇒休憩 9:52/9:57⇒猟師の頭 10:02⇒堂岩山 10:25/10:32⇒水場 11:02/11:15(昼食)⇒雨具を脱ぐ 11:50/11:54⇒地藏峠 12:28⇒ハンノキ沢 12:52/13:33(タクシー) →応徳温泉くつろぎの湯 14:10/15:15(入浴)→長野原草津口駅 15:30/16:07→高崎駅 17:30/17:40→上野→我孫子 <行動時間 8時間 55分 内、歩行時間 7時間 30分></p>	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・八間山のコースは緩やかな登りで眼下の野反湖を眺めながらの山、ハイキングコース位の登山で危険な所は無かった。 ・白砂山コースはロングコースで案内標識や地点表示の看板等が少ない。コースは間違えるような箇所はない。 ・ハンノキ沢から堂岩山までの登りは地藏峠で分岐が有って、その後は一直線で水場からは急登になる。 ・堂岩山から白砂山間はアップダウンが激しくて目的地までが非常に長く感じる。白砂山直下は急登になる。 		
参加者	原田和(L)、外崎(SL)、箕輪完、品田、藤倉、瀬田、本間、中村、箕輪カ 男2名、女7名 計9名		



三県に跨る白砂山頂上で元気な仲間たち

「ブナ研修山行」を実施



八間山・白砂山

教育研修として、前日の予備学習から始まり、ブナの木を見つけて実態調査をする。

< 6 9 3 >

農鳥岳 ～ 黒河内岳
(3,051m) (2,733m)

千葉有子

倒木をくぐり、巻き、踏み越え 荒川をさかのぼって…

「白峰三山縦走は、広河原から北岳に登り南下するのが一般的。野呂川林道が開通する前は、鷲住山から野呂川に下り、荒川をさかのぼって農鳥小屋に出るルートがよく使われた。ペデの岩小屋、煙滝、三ツ瀑、熊ノ平など、年配者には懐かしい場所だ。」と「山梨百名山」(山梨日日新聞社刊)にある。この道を探しながら荒川沿いに農鳥岳を目指すこととなった。

甲府駅で岡山労山の加治さんと合流。加治さんは歌のプロ。個性的で美しい女性だ。1日目は野呂川発電所から5分ほど歩いた堰堤の脇でテントを張る。入山祝いを行い、夜は更けた。

終わりは突然……

2日目。工事用車道を辿る。ほどなく右側に煙滝が見えてくる。落差100mほどもある立派な滝で、この後も同じような滝が出てきて遠くにも関わらず水しぶきが飛んでくる。



煙滝

出発から30分程で荒川を渡渉。去年は工事用にトラックの通れる橋が架けられていたとのことだが、その橋は流れにより倒壊した模様。なるべく流れの優しい個所を探し、裸足になり、ストックをつきながら渡った。

車道の終点には工事用の小屋と、川が増水した時のための避難梯子が残っていた。ここから右側斜面の道を登っていく。急だが道は明瞭。やがて左手に荒川に落ちる滝が何本か現れた。落差のある滝が多い。これらが先の本にある「三ツ瀑」だろうか。

細沢合出には工事用の飯場跡があり、とても開けていてテントが張れる。

ここでつり橋を渡る。渡った先に続くのは尾根沿いの道。重い荷物を背負って登ることなどまったく考慮に入れていないような、急で真つすぐな道だ。



細沢のつり橋を渡る

胸をつくような登りにうんざりした頃、左側の斜面のトラバースルートに入る。目印に赤いテープが木にくくりつけてある。また、道を示すケーブルがずっと張られている。しかし、道は不明瞭。踏み跡はケーブルからはるか下方であることも多く、崩壊、倒木によりケーブルは途中で何度も切断されている。踏み跡が分からなくなると、その都度斜面を上ったり下ったりしながら何とか歩きやすいルートを探す。ざれたルンゼを何度もわたる。倒木も多く、くぐったり、巻いたり、踏み越えたり……。

ケーブルに従い、一度農鳥沢出合上部で荒川に下りる。ここでなぜかケーブルは右岸に渡してある。かといって右岸に道が続いているようには見えない。明日目指すべき稜線はるか上方に見える。左岸の河原を100mほど歩いたが、岩壁にぶつかりたどれなくなった。少し戻って荒川に落ちる小さな流れを少し登ると、トラバースの踏み跡に出られた。この地点から奥の二股までは踏み跡が割としっかりしていて歩きやすかった。

奥の二俣に着いたのが午後1時頃。あと1時間ほど頑張るか、それともこのあたりでテント場を探すか、と思案。ところが、上部を偵察に行き帰ってきた小谷さんが困ったような顔をして右靴を指し示す。見ると、ソールが剥離している。この靴では先へは進めない。そこで、上部台地の多少平坦な場所の石をどけ、草を刈って敷き、幕営地とした。沢に突き出したような場所だ。

テントを張って落ち着くと、来し方、谷の下流を望み、目指すはずだった上流とその先の稜線を望む。もちろん周りに他のパーティーはいない。風が木々を揺らす音と、沢の音だけが耳に響き、我々の心を震わせる。バリエーションルートならではの幸せかもしれない。

また宿題が一つ

翌日1時間ほど上部を探索。道らしきルートをたどったが途中でわからなくなった。偵察最高地点から西農鳥岳らしき峰、それを挟んで両側の谷に雪渓がビッチリ残っているのが見えた。

後ろ髪をひかれながら、昨日来た道に戻る。小谷さんの靴は針金で応急処置。軽アイゼンを付けて出発。

この日も暑く、汗が噴き出る。昨日と同じように一度荒川に下りると踏んでいた私は、500m1ペットボトル1.5本ほどの水しか持っていなかった。荒川に下りることなくそのままトラバースルートを進んだため、水の残量が極めて不安になる。

細沢のつり橋を渡る手前で水補給できて、ホッとす。

細沢の飯場を過ぎ、しばらくすると左手に明瞭な作業用の道ができています。こちらの方が早いかもしれないと、10分ほど進んでみたが平行に進むばかりで一向に下らないので諦めて元の道に戻った。

野呂川発電所に下山してきたのが15:00頃で広河原行きのバスは既に終了。携帯も電波が悪く

通じない。さらに先日来の大雨で奈良田～身延間が通行不能になっているという。16:00まで待つて奈良田行きバスに乗っても、そこから先が身動きとれないのだからどうしようもない。

どうしようかと思案に暮れていたところ、ちょうど通りかかった車が日本郵便の車。広河原にタクシーがいれば来てくれるように伝言を頼んだ。来てくれるかどうか不安だったが、30分後に乗り合いタクシーが来てくれた。さすが通信のプロ、日本郵便のことはある。

今回のルートは奥の二股まで不明瞭で歩きにくい箇所はあるものの、なんとかたどれることが分かった。この後稜線までのルートはどうなっているのだろう。是非来年再トライして確認したい。



農鳥沢出合上部でいったん荒川に下りるざれたルンゼを何度もわたる。倒木も多く、くぐったり、巻いたり、踏み越えたり

概要

山名	農鳥岳～黒河内岳		
月日	平成 22 年 7 月 21 日(水)～23 日(金)		
山城	南アルプス	地形図	1/25000 塩見岳、奈良田、間ノ岳、夜叉神峠
形式	テント泊	グレード	3 C
目的	荒川からの黒河内岳(笹山) 登頂		
費用	約 16000 円	交通機関	J R、タクシー
日程	1 日目	我孫子 10:53→新松戸 11:06/11:15→西国分寺 12:10/12:15→高尾 12:45/12:48→甲府(加治さんと合流)14:26/15:00(タクシー途中買物)→野呂川林道・荒川出合(発電所)16:30(泊)	
	2 日目	起床 4:00/野呂川林道テント場発 5:30→荒川渡渉 6:25/30⇒休憩 7:20/30⇒細沢つり橋通過 8:20⇒休憩 8:27/37⇒休憩 9:10/20⇒休憩 10:00/10⇒農鳥沢出合上部 11:45/12:10⇒奥の二股(標高約 1900m) 12:50 テント場 13:50(泊)	
	3 日目	起床 4:00/テント場周辺探索 6:00～7:00/テント場発 7:30⇒尾根上休憩 10:00/10:10⇒細沢つり橋通過 11:44⇒休憩 12:50/13:10⇒荒川渡渉 14:00/20⇒野呂川発電所 14:48/15:00(乗合タクシー)→広河原バス停 15:20/16:00→甲府 17:00(入浴及び反省会) /21:09(スーパーあずさ)→我孫子 23:50	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・野呂川発電所(出発地点)から 30 分程で荒川を渡渉しなければならない。 ・野呂川発電所(出発地点)から 60 分程で工事用の舗装道路を離れ、右斜面作業用に作られた道を登る。かなり急。 ・細沢出合に飯場跡あり。ここまで道は明瞭。細沢を渡る吊り橋あり。 ・細沢を渡ってから尾根沿いの急な道。1 時間ほどで荒川左岸の斜面をトラバースするようにルートをとる。道を示すケーブルあり。しかし道は不明瞭。 ・農鳥沢出合から 150m ほど上流で一度荒川の河原に降りる。道を示すケーブルはここでなぜか右岸に渡してある。この後上流にケーブルはなし。(帰りは河原に降りず、そのままトラバースルートをとった) ・河原に降りてから 100m ほど左岸の河原を歩き、岩壁でたどれなくなったため少し戻り、荒川に落ちる流れを登るとすぐにトラバースの踏み跡に出られた。 ・この地点から奥の二股までは踏み跡が割としっかりしていて歩きやすい。 		
参加者	千葉(L)、佐藤健(SL)、佐藤明、小谷、加治(ゲスト) 男 2 名 女 3 名 計 5 名		

概念図



奥の二股から稜線を望む。農鳥岳は見えない

< 6 9 4 >

硫黄岳 ～ 赤岳
(2,760m) (2,899m)

矢野裕子

純白のコマクサ

行きたかった山、八ヶ岳に希望を出すと、一番いい時期に叶えてくださいました。

コマクサに会いに行きましょうねと外崎さんから早々に日程を確かめてもらい、いよいよ夏本番！前夜は興奮して寝付かれず朝三時から起きてしまった。

9人であずさ1号に乗り込み、快晴の茅野駅からタクシーで御柱街道を一直線。標高1300mの美濃戸口で入山記録を提出して、樹林帯の長い林道をスタート。意外に木陰は少なく、強い日差しと厳しい暑さ。川沿いの水音が心地よく、豊富な水量の流れや白い滝が疲れを癒してくれる。ちょうどよい間隔の美濃戸山荘と赤岳鉱泉にて休憩。あふれ出る冷たい水で喉を潤し紺碧の空にごつごつした岩肌の横岳を見上げて一息つく。ここからいよいよ硫黄岳へ厳しい登りが始まる。日帰り山行とは違って、慣れない重さのザックに私の肩はもう悲鳴をあげてキンキン痛い。頭もボーッとしてくる。我慢して登り、赤岩の頭へ出ると急に展望が開けた。ゆっくり黙々と歩を進めるが、私にはきつくて頂上寸前のところで腿の内側がツーンと攣ってしまった。皆さんの励ましを戴き、ダブルストックで何とか頂上へ辿り着く。ゴロゴロした広い硫黄岳山頂で記念撮影。まるで日本中の山が見えるようだ。真正面に横岳・赤岳・阿弥陀岳がそびえ天狗岳・蓼科山の向こうに白く北アルプスも見える。そして御嶽山、南アルプス。さらに進んで爆裂火口壁を恐る恐る覗き込む。その直ぐ先、あった！大群落のコマクサに疲れを忘れてシャッターを押す。真下に硫黄岳山荘の青い屋根が見えるのだけど、右も左も一面かわいいピンク色で何度も足が止まってしまった。



純白のコマクサ



硫黄岳頂上にて

硫黄岳山荘は入ってびっくり、ウォッシュレットの清潔なトイレ。こんな山の上の個室で、温かい所にゆっくり座れるなんてこの上なく幸せ。夕方は外に出てここに一輪だけあるという純白のコマクサを確かめ、赤く染まった空と静かに沈む夕日を眺めた。強い夏の日差しに私は疲れすぎて、水分ばかりで夕食もちゃんと食べられないまま、早々にぐっすりと眠りに付いた。

翌朝は4時起床、朝食は頼んでおいた弁当で済ませて5時出発。ずっと続く大展望の中、大同心を見て次々とくる鎖場を緊張しながらゆっくりゆっくり渡っていく。岩場・鉄階段・鎖のスリルを満喫し、立ち止まると辿ってきた横岳の迫力に胸が高鳴る。地蔵の頭で無事を祈って手を合わせ、赤岳天望荘を経てやっと頂上小屋へ上りきった。



夏空のもと硫黄岳と横岳

素晴らしい眺め。昨夜はここに大勢泊まっていたらいい。もうずいぶん歩いてきたけどまだ朝の8時半。出発してからここまでの3時間半、本当にさわやかな空気の中を、雲上のアルプスから富士まで眺めながら来た。足元にはチシマキョウやコマクサ、素晴らしい八ヶ岳を堪能できた。ゴロゴロ石の急降下、文三郎道を緊張して下ると行者小屋。私は急激に空腹を感じ、買い求めたおで

んと冷やしトマトがこの上なく美味しかった。ここまでは朝4時の弁当もたいして食べられず、カラカラの暑さでパンも口にできずバテかけていた。想像以上にきびしい初八ヶ岳だったが、贅沢な眺望と岩のスリル、清潔な小屋が魅力的で、また違う季節にも訪ねてみたい。そして、まだまだ懐の深い八ヶ岳の他の頂や北側の森と湖も是非きつといつか♡と思う。



やったー赤岳だ！！

概要

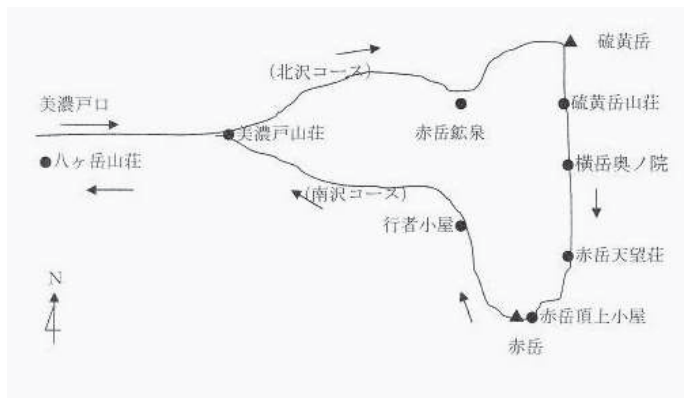
山名	硫黄岳～赤岳		
月日	平成 22 年 7 月 24 日 (土) ～25 日 (日)		
山城	南八ヶ岳	地形図	1/25000 八ヶ岳 西部・東部
形式	山小屋泊	グレード	3B
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・変化に富んだ八ヶ岳の魅力を探る。 ・花の女王、コマクサを観賞 		
費用	11000 円 (交通費)	交通機関	JR、タクシー
行程	1 日目	我孫子 5:31→日暮里→新宿 7:00(スーパーあずさ1号)→茅野 9:08/9:20(タクシー)→美濃戸口 9:40/10:00→美濃戸山荘 11:00/11:05 ((北沢コース)⇒赤岳鉱泉 13:05/13:20⇒ジョウゴ沢 13:30⇒赤岩の頭 15:00/15:05⇒硫黄岳 15:30/15:35⇒硫黄岳山荘 16:00 (泊) 快晴<行動時間：6時間00分>	
	2 日目	硫黄岳山荘 5:00⇒クサリ場入り口 5:40⇒横岳 5:50/5:55⇒三叉峰 6:10/6:18⇒地藏尾根分岐 7:15⇒赤岳天望荘 7:20/7:30⇒赤岳頂上小屋・赤岳 8:20/8:35⇒(文三郎尾根)⇒行者小屋 10:08/10:30⇒美濃戸山荘 12:30/ 12:45⇒美濃戸口 13:30/14:10(タクシー)→茅野 14:30/ 15:18(スーパーあずさ22号)→新宿 17:24→日暮里→我孫子 18:35 快晴<行動時間：8時間30分>	

ルート状況

- ・登山口となる美濃戸口は、茅野駅からタクシーで 20 分程。5 人乗りタクシー1台 5100 円。美濃戸口から 2 度ほど山道を近道し、美濃戸山荘まで 1 時間、砂利道を歩く。
- ・美濃戸山荘前からコースが二つに分かれる。右手の南沢コースを行けば行者小屋へ。私たちは左手の北沢コースをたどり赤岳鉱泉へ。このコースは、行程の半分(約 1 時間)は林道を歩く。
- ・「赤岩の頭」は、どこからでも目立つザレ場。左手へ行けばオーレン小屋へ。ここで樹林から抜け出し、稜線へ。
- ・硫黄岳山頂は野球が出来るほど広い。ガスが濃い時は、北東面に大きく口を開けた噴火口に近づかないよう要注意。ロープが張られている。
- ・硫黄岳山荘は、硫黄岳と横岳の間のゆるやかな広い鞍部に建っている。
- ・横岳山頂付近から赤岳天望荘近くの地藏仏まで、鎖と梯子の連続。足場がしっかりし、鎖もしっかり取り付けられているので安全だが、慎重に行動することが必要。
- ・赤岳天望荘から赤岳までは岩稜帯の急峻な登り。ジグザグに、後半は鎖につかまって登る。赤岳北峰には赤岳頂上小屋があり、南峰に三角点と神社がある。
- ・赤岳頂上直下の鎖場も難しくはないが、慎重に下ることが必要。
- ・文三郎尾根は、浮石がゴロゴロして非常に歩きづらい。昔と道が変わってしまった気がする。
- ・行者小屋からの南沢コースは、林道歩きがない分、楽かも。堰堤を越えると、目の前に美濃戸山荘が見えてくる。

参加者 外崎(L)、石垣(SL)、藤倉、桐生、瀬田、小松、本田、矢野裕、齊田
男 2 名 女 7 名 計 9 名

概念図



< 6 9 5 >

白馬岳 ～ 朝日岳
(2,932m) (2,418m)

外崎 蓮

白馬・雪倉・朝日岳 夕日を浴びて荘厳

7/30 夜

山のような雑事を片付けて新木駅へ走ると、窓口のシャッターが閉まっていてスイカのチャージが出来ない。昨日やっておけばよかったと後悔する。我孫子駅に着き、電車が2番線に入ったものと思い込んで、階段を駆け上がって隣のホームに下りた。6の数字が目に入った。と同時に隣のホームに電車が入ってきた。全速力で再び階段を駆け上がり、先ほどのホームに戻って来てそれに飛び乗った。あわて者の私は、我孫子駅で皆に合流するまでが大変だ。

秋葉原中央改札口を出てロータリーに向かう。ここが指定されたバス乗り場だが、半円形のロータリーのどこからバスが出るのか不明だ。登山者に聞くと、バス停はないのだそうだ。夜の9時50分かきりに竹橋行きのバスが現れて、毎日新聞社の玄関まで運んで行った。ロビーは登山者で混雑していたが、行き先ごとに受付が済むとガラッと静かになった。私たちは猿倉行きのバス・毎日アルペン号の2号車に収まる。椅子が倒せるだけで何のサービスもない夜行バスだが、乗り換え無しで猿倉まで行けるので大助かりだ。

7/31 大雪渓を一步一步登って別天地へ

バスはあちこちで登山者を降ろし、山道を抜けて終点の猿倉に着いた。猿倉荘に大勢の人が集まって来ていて、雨具を着たグループが三々五々出発して行く。登山届けの提出を呼びかけているのは、地元の山岳会だろうか。軒下で準備を整えると、男女3人ずつの我がグループも白馬尻へ向かった。雨もいい具合に上がっている。白馬鍮温泉の分岐を通過するとき、昔、へとへとに疲れてここに下りてきた日のことがなつかしく思い出された。

砂利道を歩いて1時間で白馬尻小屋に着く。キヌガサソウはとっくに枯れていてみる影も

ない。

人混みに混じって小屋前のテラスで一息入れていると、雪渓を伝ってくる風が汗を吹き飛ばしてしまふ。さらに笹やぶの中を20分ほど行き、ガレ場でアイゼンをつけた。いよいよ大雪渓に取り付く。雪はたっぷりとおる。見上げれば、雪渓の果てと空が混沌として見境がつかない。時折り白いガスが雪渓上に立ち込めれば視界を遮る。スプーンカット状の雪面は、思ったより歩きやすい。振り返ると、登山者が引きも切らず、谷底から沸いてくるかのように後を絶たない。今日中に下山する人は別にしても、これだけの登山者を上の二つの小屋とテント場とで収容しきれののだろうか、と要らぬ心配が先立つ。岩塊の斜面でアイゼンはずし、今日のコース中で一番の悪路を通過する。この付近は、何年も前には左手から右手へ向かって、靴一足分の幅の雪渓をトラバースするようになっていた筈だ。転落を避けるためにコースを変えたのだろうか。それとも単に雪が消えたのだろうか。

鋭く尖った杓子岳の天狗菱がすぐ近くに見えてきた。お花畑の中をゆるゆる登っていくと、道端に大きな岩が転がっている。一見何の変哲もない岩だが、氷河期の証拠を残すめずらしいものだという。体力の有り余る重さんは、花にカメラを向けて飛び回っているうちにどこかで脛を怪我した。大したことはなさそうだ。ひと踏ん張りして正午過ぎ、村営頂上宿舎に到着。休憩を入れて白馬尻から4時間45分、約1200mを登った勘定だ。



4号雪渓付近からの杓子岳を登り始めて2時間強。もうすぐ葱平

私は計画を立てた時点で頂上宿舎に泊まろうと決めていた。労山会員証の割引もある。上の白馬山荘は白馬岳に近い分、宿泊者が多く、

手が足りないのか俗化しているのか待遇がかなり悪いと聞かされていたからだ。武内さんと重さんは、下の建物で受付を済ませて小屋の裏手のテント場に向かった。残る4人は食堂とは別棟の2階をあてがわれた。蚕棚の下の段だが、横になって両手を伸ばしても隣の人に手が届かない。

時間がたっぷりあるので、テント場の脇から白馬三山の縦走路にあがった。目に飛び込んできたのが岩の殿堂・剣岳と立山連峰。雄峰が屏風のように肩を並べている。穏やかで風一つなく、別天地からの眺めは飽きることがない。180張ほど張られたテント場の中に、武内さんの橙色のテントが見える。テント場はハクサンイチゲとウルップソウに囲まれていた。

重さんが診療所に行ってみるといので、私も着いて行った。昭和医大の風采のあがらないインターンが私を重さんの奥さんと勘違いし、診療所の中に入れてくれた。診療所とは名ばかりで、陰気臭い物置部屋といったところ。如何に湿気が多い場所で1ヶ月ほどしか開けないにしても、棚や床や寝具は掃除しているの？と、重さんの傷よりこちらの方が気になった。それにつけても長い診察だった。

夕食は5時から。残飯が出ないようバイキング方式だ。なかなかのご馳走で、牛タンのお刺身は特に美味しかった。やはり、こちらを選んで正解だった。休憩室で雑誌を見て過ごし、部屋に戻る。

8/1 シロウマアサツキと朝日小屋のご馳走に魅せられて

4時半の朝食は、登山者にとっては本当にありがたい。今朝もバイキングで品数がいっぱいあった。テント組みと5時にテラスで待ち合わせる。北アルプス最大の山小屋・白馬山荘までは100mの登りだ。白馬岳で日の出を見た登山者たちが、空身でどんどん下りて来るのに出会う。大きな建物の間から白馬岳山頂に上がった。どっしりした銅製の指示盤が直ぐに目に止まった。これは新田次郎の「強力伝」のモデルである小見山正が、昭和16年8月に、約50貫(188kg)もある指示盤をここに担ぎ上げたのだという。到底信じられない話だ。彼は富士山の強力で知られ、あの金時娘の父親でもある。

白馬岳から三国境に下る途中、左手旭岳方面の空にブロッケン現象が現れた。手を上げると輪の中でも手が上がる。ぴよんぴよん飛び跳ね

ると同じように動く。楽しい空中ショーに我がパーティは勿論、前に行く他のパーティも大いに湧いた。ショーは足許にも。登山道脇の斜面一帯から、おそらく谷底までコマクサで埋め尽くされ、淡いピンクの絨毯が敷かれているようだ。

三国境からは、ほとんどの登山者が右手、白馬大池方面に下っていく。私たちは左手の鉢ヶ岳方面に向かう。比較的静かな山域と言われているが、夏山シーズンはそうでもなさそうだ。三国境の採石場あとを通り過ぎた辺りに、何株かマツムシソウが咲いていた。山が大きく開け、思わず深呼吸をしたくなる場所だ。近くの鉢ヶ岳は、嬉しいことに登山道がなく中腹を巻く。鉢ヶ岳斜面一帯は見事なお花畑だ。巻き道から左手に曲がるように行き、スプーンカットの雪面を慎重にトラバースして広い斜面に出た。急に濃霧に覆われ視界がぼやけ出した。霧雨も混じっている。足許だけを見ながらどんどん先を急ぐ。

目の前に突然建物が現れて驚いた。鉢ヶ岳と雪倉岳の鞍部にある雪倉岳避難小屋だ。中に入ってみると、板の間が二段に区切られた面白い間取りで清潔な小屋だ。先客たちが陣取っていたので、私たちは小屋の外で休んだ。

小屋からすぐに雪倉岳の急登がはじまった。前に行くパーティが道端の花を觀賞しながら登るので、私たちも釣られる。そうして花に気をとられている間に登ってしまった。雪倉岳の山頂はゆるやかに丸みを帯びていて、中心部のわずかな岩塊に三角点がある。本日の行程のやっと半分を歩いた。ここから朝日小屋に電話し、2名がテントに泊まるので夕食をキャンセルしたいと伝えた。ところが、女性の小屋主が「アラ～ご馳走食べないの～」と残念がる。私は傍らの二人に手を合わせて拝み倒し、小屋主に「食べま～す」と答えた。

雪倉岳から広いザレ場を下る際、再び濃霧にまかれた。登山道脇の赤いペンキ印を見落とさないよう注意する。印が短い間隔で付けられているのは、ガスが発生しやすい地形なのだろう。尾根が狭くなって、雪倉岳のカーブを右下に見ながら岩場を下ると、腰を下ろしたくなるような高台に出た。付近はお花畑で、私は初めてシロウマアサツキに出会った。すんなりと伸びた長い茎の先に、紅紫色のボンボリをのせている。とても愛らしくてたちまち虜になった。大切にしたい貴重な植物だ。

妙な山名のつく赤男山も山腹を巻く。山の様

相は進むたびに変化して、湿っぽい樹林を抜けたかと思うと、突然に大岩がゴロゴロと今にも崩れそうな所に出たり、急に広々とした草原の木道に導かれたりと実に目まぐるしい。湿地帯だった小桜ガ原は乾燥化して、名前の由来のハクサンコザクラが減っているそうだ。確かに他の植物に占領されて、隅に追いやられている感じがした。

朝日岳と水平道の分岐で休憩する。昨年この山に来た友人曰く、水平道に騙されては駄目だよ、と私に念を押した。結構アップダウンがあり、時間的に大差ないと。明日は来ないのだから当然稜線に向かう。しかし、疲労した足にとって400mの登りはかなりきついものであった。朝日岳から蓮華温泉へ向かう分岐を過ぎて間もなく、大きな標識の目立つ山頂に出た。誰もいない。三角点に心を込めてタッチした。それを見届けたかのように雨が降り出す。折角の展望も感慨に酔いしれる間もなく急いで下山する。木道は山頂から下まで敷かれてあった。水谷のコルで左からの水平道と合流し、朝日小屋までさらに木道を急ぐ。

ぐっしょり濡れて午後の2時半、朝日小屋の玄関に入った。小屋は賑やかで電話の相手の女性が忙しく対応に追われていた。すぐにストーブの焚かれた地下室に降りて行き、人のいないのを見計らって全部着替えた。我ながらあっぱれだ。

雨があがって外に出ると、目を見張るような光景が繰り広げられていた。今日越えてきた白馬・雪倉・朝日岳の雄峰が夕日を浴びて静かに居並んでいる。「ありがとう」私は大きく手を振った。朝日小屋はこのすばらしい立地条件を選んで建てられたのであろう。

荘厳なショーを見たあとは、豪華な夕食だ。高山の山小屋で、新鮮な魚の昆布ジメが食べられるとは思ってもみなかった。テント組の二人の顔もほころんだ。良かった！

夕食後、玄関脇の張り紙に書いてある番号に電話し、北又小屋までタクシーを予約した。

8/2 山よ、さよならご機嫌よろしゅう また来…

今朝は肌にべったりまとい付くような蒸し暑さだ。タクシーは、北又小屋に11時に約束してあるので、朝食後すぐ出発する。朝日平のはずれに来て振り向くと、赤い屋根の朝日小屋が小さくポツンと見えた。大きく開けた草原の中の木道を快適に下る。朝日平の次は夕日ヶ原だ。何と美しいネーミングだろう。起伏のある緑の草原がどこまでも広がる。次第に尾根道になり、1875mのピークから足場が悪くなる。慎重に下って、さらに一登りでイブリ山〔恵振山〕へ。ここが10合目で、1合目ごとに石柱が立っている。5合目のブナ平には5分位の所に水場があると書いてあった。3合目のブナの巨木の下でゆっくり腰を下ろす。0号目は北又川の吊橋だ。対岸に渡って、コンクリートの長い長い階段を力を振り絞って車道に上がる。4時間40分かかって北又小屋にたどり着いた。小屋が一軒しかないのに道が舗装されているのは、近くに北又ダムがあるからに違いない。この小屋は朝日小屋と経営者が同じだそうだ。

それまでうっかり忘れていたが、今回の山行は研修の山で、「水分の取り方・食事の取り方」であった。そこで私は先に水を飲んでから「乾杯！」。お～、推して知るべし。ある人に話すと、逆にすればいいんだよと諭された。

そこへ予約したジャンボタクシーが来た。先ずは「らくちーの」というユニークな名前の温泉へ連れて行ってもらう。「らくちん」になったところで、さらに先ほどのタクシーに泊駅まで送ってもらう。北陸本線は海岸線ギリギリをのんびり走る。海が穏やかだ。下山を北又小屋に選んだのは日本海が見たかったこともある。糸魚川から特急で越後湯沢に出た。

北アルプス最北端の雪倉岳・朝日岳は、20年近くも胸の底に暖めてきた山であった。そのせいか思い入れも大きく、道端の一木一草、石ころまでも愛しい気がした。花の季節を選んだお陰で、数知れぬ花々との道連れであった。



朝日小屋とテント場

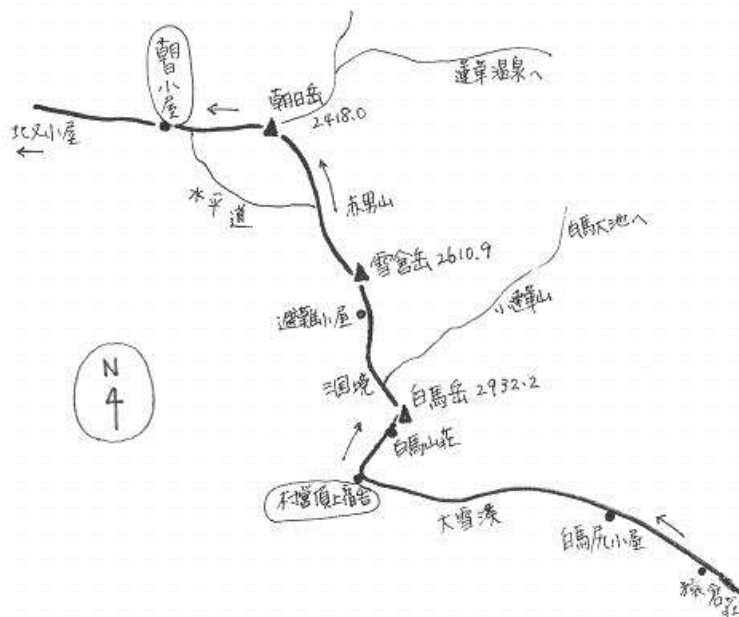


←白馬山頂で6名記念写真

白馬、雪倉、旭が見えたよ！！
夕食後、お花畑の朝日平から



概念図



概要

山名	白馬岳～朝日岳		
月日	平成22年7月30日(金)～8月2日(月)		
山城	北アルプス	地形図	1/25000 白馬岳、越後平岩、小川温泉
形式	山小屋/テント	グレード	3C
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日本三大雪渓の一つ、白馬大雪渓を登る。 ・北アルプス最北端の静かな山城を訪ねる。 		
費用	37,000円	交通機関	JR・夜行バス・ジャンボタクシー
前夜	我孫子駅 20:27→日暮里→秋葉原駅 21:04/21:50(バス)→竹橋毎日新聞社西口 玄関ロビーで受付 22:40(夜行バス、毎日アルペン号)→		
	1日目	白馬駅→猿倉 5:22/6:10⇒白馬尻小屋 7:20/7:30⇒大雪渓入口 7:50/8:00⇒岩室跡⇒避難小屋 10:45⇒村営白馬岳頂上宿舎 12:15(泊) <行動時間：6時間05分>	
	2日目	村営白馬岳頂上宿舎 5:00⇒白馬山荘 5:20⇒白馬岳 5:42/5:55⇒三国境 6:30/6:35⇒鉾山道分岐 7:00⇒雪倉岳避難小屋 8:10/8:25⇒雪倉岳 9:10/9:25⇒雪渓・水場の上の広場 10:20/10:40⇒ツバメ岩 11:20/11:30⇒小桜ヶ原 12:00⇒朝日岳分岐 12:20/12:30⇒朝日岳 13:42/13:50⇒朝日小屋 14:30(泊) <行動時間：9時間30分>	
3日目	朝日小屋 5:40⇒夕日ヶ原 6:25⇒1875mピーク 6:50/6:55⇒イブリ山 7:20/7:30⇒7合目 1500m 8:10⇒4合目 1140m 8:55⇒3合目 1020m 9:18/9:30⇒1合目 840m 9:57⇒北叉小屋 700m 10:20/10:50(黒東ジャンボタクシー)→温泉(ラクチャーノ) 11:30/12:30(ジャンボタクシー)→北陸本線泊駅 12:38/13:00→糸魚川駅 13:26/14:38(ほくほく線・特急白鷹15号)→越後湯沢駅 15:56/16:08(MAX谷川418号)→上野駅 17:34/17:54→我孫子駅 18:30着 <行動時間：4時間40分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・大雪渓の雪は、この時期豊富で歩きやすい。 ・杓子岳の壁面から常時ザザーと音を立てて、石や砂が崩れ落ちている。 ・雪渓上には、所々に大きな石が転がっている。常に落石に注意がいる。 ・三国境から北面一帯は浮石のガレ場。右手に鉾山道があり、蓮華温泉に通じているが一般向きではない。 		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鉢ヶ岳は山頂を通らずに、鉢の鞍部からほぼ平坦な巻き道を歩く。すばらしいお花畑が展開する。 ・鉢ヶ岳と雪倉岳の鞍部に建つ雪倉岳避難小屋は、土間から板の間が二段構えになっていて、どちらにも寝られる清潔な小屋。 ・雪倉岳の山頂は、ゆるやかな丸味を帯びたピーク。ここで白馬岳から朝日岳までのコースの約半分。 ・雪倉岳のカール末端は水場。残雪の状態によって涸れることもある。 ・赤男山は山腹を巻く。ツバメ岩は、右の斜面がガレていて今にも落石が起こりそうな危険箇所。 ・小桜ヶ原付近から水平道の分岐まで、気持ちのいい木道が続く。 ・水平道は朝日岳の中腹を巻いて水谷のコルまで行くが、アップダウンが多く、朝日岳直登コースと時間的に変わらない。また水平道は、沢が遅くまで残雪に埋まっていることがあるので、事前に朝日小屋に確認が必要。 ・梅海新道へは、朝日岳直下右手に分岐がある。日本海の親不知海岸まで稜線が続いている。 ・朝日岳を下りきった水谷のコルで、左手からの水平道と合流。 ・朝日小屋の建つ朝日平は広い平坦地で、テント場も広い。ここからは、越えてきた白馬～雪倉～朝日岳の山並みが一望のもと。圧巻の一言。 ・朝日平から夕日ヶ原は、大きく開けた草原の木道の下り。 ・目の前のピーク、イブリ山へは、いったんヤセ尾根のクサリ場を下り、ゆるやかに登り返す。イブリ山にはベンチがある。ここが10合目。 ・5合目1305mは、5分位の所に水場があり格好の休み場。 ・北叉小屋は、北叉ダムに架かる吊橋を渡って、対岸のコンクリートの階段を上る道路まで上がった所にある。朝日小屋と経営者が同じ。タクシーが呼べる。
	参加者

< 6 9 6 >

霧ヶ峰（車山）
（1,925m）

原田和昭

真夏の涼風を求めて

真夏の山行で1 Aクラスの山行計画は無いのが普通である。今年は特別に、8月初旬に高度2000m位の高原の涼風を求めて計画した。日帰りの山行としては遠距離なので交通費が高く付くため参加者の少ない場合は中止も考慮して募集した。ところが募集結果は6名の希望者であらずさ特急回数券が有効に利用出来るので実施した。

目的は「花の百名山、そよ風に揺れる花を求めて」である。朝から晴れ間の多い天候で、気温は30度を超えているが乾燥した空気で心地よい涼風が吹いていた。定刻に霧ヶ峰ビジターセンターに到着する。

センター付近はビーナスラインを利用したマイカーの客で賑わっている。南の高原ではグライダーが風に乗って気持ち良く飛んでいる。霧ヶ峰高原一帯は高山植物の特別保護地域に指定されているので登山道の両サイドにはロープが

設置されて植物保護が徹底されている。

花の百名山に相応しく両側に、赤いナデシコやニコウキスゲ、マツムシ草などの多くの花達が夏の光を受けて咲き誇っていた。コロボッコル小屋から丸い気象観測所の有る車山頂上に登る。頂上にも多くの登山者がいた。頂上で霧ヶ峰高原の360度のパノラマを楽しみながら昼食をする。

頂上からは車山乗越までの急坂を下り、蝶々深山に登り返す。高原のハイキングコースは歩き易いので多くの登山者と挨拶しながら歩く。物見岩を過ぎて鏡ヶ池キャンプ場の奥霧小屋迄来た所に米山正夫作詞・作曲の「山小屋の灯」の歌詞記念碑があった。多くの人に歌われたこの歌がこんな自然環境の中で作られた歌で有ることを再度認識した。

八島ヶ原湿原からはルートを変更し東側外周ルートで沢渡に出た。ここからゴマ石山に向かっては、あまり人が歩かないのか笹藪と樹海の中で蒼苔の着いた石の上を慎重に登り返してビジターセンター駐車場に戻った。

予定した時間で高原の風に吹かれながら真夏の一日を楽しむことが出来た。バスで上諏訪駅に帰り駅前の庄屋で反省会を行い、あずさ特急自由席に全員が座り帰路に着いた。



車山山頂にて…集合写真を撮る

概要

山名	霧ヶ峰 (車山)		
月日	平成22年8月1日		
山城	信州	地形図	霧ヶ峰 1/25000
形式	日帰り	グレード	1A
目的	花の百名山、そよ風に揺れる花を求めて		
費用	11,500円	交通機関	JR,バス
日程	<p>我孫子駅発 5:31→日暮里駅 6:00/6:07→新宿駅 6:27/7:00(スーパー特急あずさ1号)→上諏訪駅 9:14/9:50(バス)→インターチェンジバス停 10:30/10:45⇒車山肩(クロボッコル小屋)11:40/11:45⇒車山 12:25/12:55(昼食)⇒分岐 13:10⇒蝶々深山 13:32/13:37⇒物見岩 14:05⇒奥霧小屋 14:33/14:38⇒山小屋の灯歌碑⇒分岐 14:45⇒分岐 15:00⇒沢渡 15:15⇒水補給 15:35⇒ゴマ石山分岐 15:45⇒インターチェンジバスバス停 16:05/16:11→上諏訪駅 16:42(反省会・庄や)/17:44(あずさ特急30号)→新宿駅 20:07/20:11→日暮里駅 20:31/20:36→我孫子駅着 21:04(解散) <行動時間5時間20分、歩行時間4時間35分></p>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高度 2000mに近い高所ハイキングコースで子供達も歩ける一般コースルート全体は整備されていて危険な場所はない ・案内標識も整備されている ・予定していた八島湿原の外周を回るコースを変更して反対周りにした。沢渡からゴマ石山までは普段は誰も歩かないコースで、背丈もある笹藪と樹海で歩く道が分り難かった。特に、樹海の中は苔の着いた石が重なって滑り易く危険でした。人が歩いた足跡も無く、ロープを便りにルートを確認しながら慎重に歩いた
参加者	原田和(L)、品田(SL)、小川誠、小川洋、原田君、藤倉 男2名 女4名 計6名

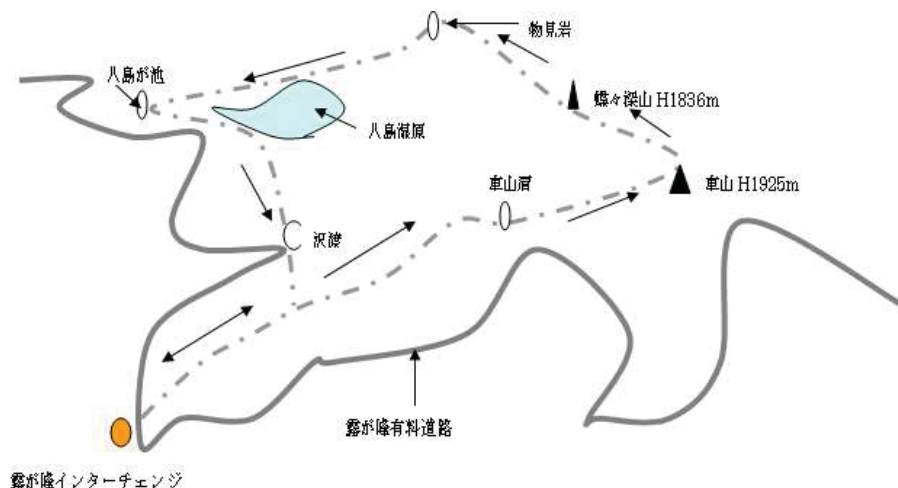


コオニユリがあちこちに咲いていました



ドームのある車山山頂に向かって

概念図



< 6 9 7 >

長尾谷 (標高差 約 600m)

堀口昭二

夏の沢遊び、苦もあれば楽もありと言う事で、倉沢バス停で下車、倉沢谷の沿って林道を魚留橋の先を行き、地藏橋の先の木製の橋が掛っている所だ装備支度を済ませて入渓。

入渓してから5m・3mと苔むした小滝を水を浴びながら進むうち、大崩壊地にて水流が堰き止められている。途中、逆行図と現地の二股を選択するのに迷いながらも、水流が無くなったガレ場にて装備を解除して、稜線に向かってひたすら獣道らしき踏み跡を進み水源巡視路に出た。下山は長沢背稜路から烏屋戸尾根の長かった事、途中、マムシをペットボトルに入れる芸当を見たり、リーダーの一言で記念撮影をするために、登り返すなどのしごきを強制せる場面も……！。川乗橋バス停に到着して定刻のバスに間に合わない人が出たが、最後には奥多摩駅の近くでアルコール付きの反省会をすることが出来、今日一日の語らいの一時が持てたことに感謝して、次のステップアップにつながりますように。



水流多し

概念図



小滝を次々と越える



概要

山名	長尾谷		
月日	平成22年8月8日(日)		
山城	奥多摩	地形図	1/25000 武蔵日原
形式	日帰り	グレード	2 B
目的	夏の沢遊び		
費用	3,000円	交通機関	JR、バス、タクシー
行程	<p>我孫子 5:33→新松戸駅 5:46/5:50→西国分寺 6:46/6:55→立川 7:00/7:05→奥多摩駅 8:28/8:35(東日原行きバス)→倉沢 9:00→地藏橋 9:50⇒林道終点(入渓点) 10:00/10:25⇒5M滝 10:50/11:10⇒仕事道下 11:26/11:40⇒3M放水状滝⇒2段 10M滝 12:00⇒5M石積堰堤 12:20⇒ガレ場 13:05⇒二俣 13:10⇒奥の二俣 13:40⇒装備解除 14:22/14:47⇒長沢背稜縦走路 15:09⇒鳥屋戸尾根分岐 15:16⇒笹ノ岩山 16:18/16:25⇒川乗橋 17:32→奥多摩駅 17:45/20:33(反省会)→我孫子 23:21</p> <p style="text-align: center;"><行動時間 8時間 32分></p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・長尾谷はガイドにあった通り、ザイルを使用するような滝はなく、特に危険な箇所は見受けられなかった。 ・下りに取った鳥屋戸尾根は尾根の半分までにピークが3か所ほどあり、急なアップダウンが沢で疲れた足にこたえた。後半は急な下りがひたすら続くルート。 		
参加者	千葉(L)、堀口(SL)、高橋英、佐藤健、青山、佐藤明、小谷、中村育 男4名 女4名 計8名		



忍法 はりつきの術



笹ノ岩山で記念撮影。やはりポイントごとに集合写真撮影は怠りなく

< 6 9 8 >

餓鬼岳 ～ 燕岳
(2,647m) (2,763m)

矢野裕子

今回の参加者四人の中で私一人が足を引っ張ることになるのでは…。このルートにはハシゴ・クサリが多いのでロープ、シュリング、カラビナ持参とある。私の昭文社の地図には「！」マークが付いており、これは頂上手前のガレ場のことだろう、と。大丈夫だろうか。

大きな不安とともに深夜の出発。ムーンライト信州で浅い眠りの5時間を過ごし、翌朝女性ドライバーのタクシーで白沢登山口へ。こちらへのお客はとても少なく、狭くてすれ違えないこの道は運転手さんも苦手とか。曲がりくねって辿り着いた登山口には地元タクシーの電話番号が大きく書かれた看板があった。

いよいよ沢沿いを出発。やがて木のハシゴ、金属板の橋、鉄のハシゴ、次から次へと出てきて緊張する。どれも古い危険箇所にはちゃんと手すりもあり、昨日の雨で濡れているので慎重に進む。涼しげな水音の沢を何度も渡り、紅葉の滝、魚止めの滝を見上げて疲れを癒す。

この辺から急登が延々と続く。小まめな立ち休憩で、千葉さんがみかんを四つ。まだ青い新鮮な果汁。みかんパワーでまた登る。ひらひらとアサギマダラ。初めて見るなんてきれいな色、美しく舞うのを見てまた励まされる。トリカブトの深い青紫、シラヒゲソウ、ウサギ菊、ハクサンフヨウ、シャジン、キンバイ…。



風車が風にゆれて



餓鬼岳小屋とアルプス展望

まだかまだかと辛抱して、やっと辿り着いた餓鬼の小屋は小さな赤い屋根。想像に違わずうら寂しい感じの素朴な小屋。裏手にこんもりと高い丘があり、小屋番のお兄さんが出て来て迎えてくれた。テーブルとベンチで休み彼方へ目をやると、ちょうど真向かいに明日の燕山荘も見える。

そこから空身で直ぐ上の餓鬼岳山頂へ。ここは360度の素晴らしい眺望。薄曇りだが、剣も槍もゼンブ見える！地図を開いて山座同定。烏帽子、針の木、鹿島槍、これこそ最高のご褒美。しかし実は、今回のアルプス展望はこれで見納め。そうと分かっていたら、あそこでもっとゆっくり眺めてたよなあって英さん。



餓鬼岳山頂360度大展望

餓鬼岳小屋は部屋一つ。お盆の最中だけど、今夜のお客は私たち四人とあと一人。薪ストーブに小さなちゃぶ台と長机、壁際に積み上げられた布団。世俗を離れた感じの手伝いのお兄さんとお喋りし、ゆっくりとくつろぐ。夕飯のちらし寿司は本当に美味しかった。

夜の間雨音がしていたが、朝もやっぱり深い



靄の中。真っ白な中、雨具を付けていざ燕へ。背丈ほどの深い樹林帯と岩場の連続。尾根に出ると強い風に煽られて先頭の外崎さんが一瞬立ち止まる。風は収まる気配なし。

意を決して大岩に手を掛けゆっくりと向こう側へ消えていく。まるで真っ白な空中へ吸い込まれていくようで怖かった。横岳と同じよと言われたが、天候が違ふと私には全く別の感覚だった。前へ進むしかない。外崎さんの手の位置、足の位置と同じところへ踏み出す。時折雨も強くなりバチバチと雨具を打つ。

途中峠の広い原に立つが靄の中進む方向が分からない。さっと皆が散らばって確認する。こっちだ！熊笹が登山道を覆い足元すら見えないまま、歩き続ける。靴の中がドボドボだよ！と後ろの声。ああ、みんな同じなんだ。コマクサの群生地が見えた。白砂の斜面にピンク色が広がり、やがて頂上。視界は全く無いが石標に顔寄せ合って記念撮影。私は雨具の中のシャツも濡れていた。初めてのずぶ濡れ体験。あと30分で大きな小屋に着く…と気持ちを支えてやっとの思いで燕山荘に辿り着いた。

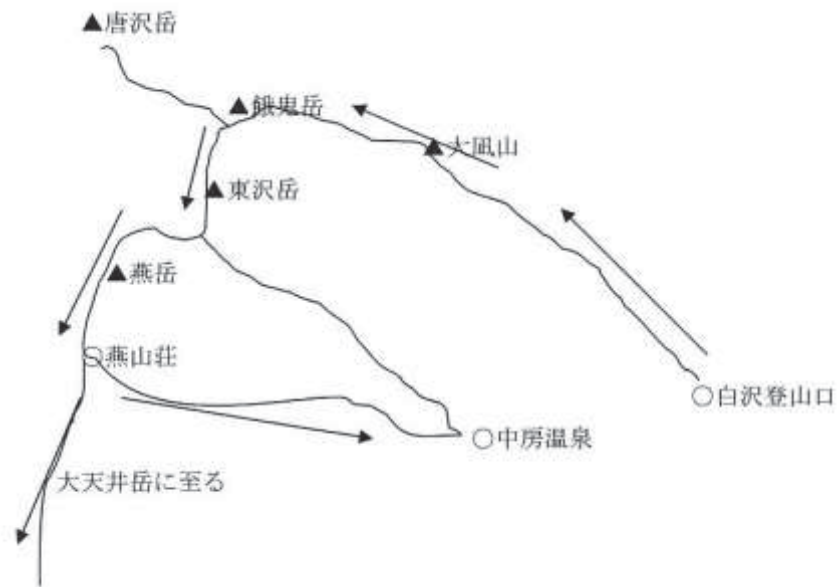
週末の小屋は、昨日とは打って変わって大勢の客とたくさんの若いスタッフでごった返していた。受付から迷いそうなくらい奥へ奥へと案内され、立派な設備と広さに驚いた。商売上手な小屋主の夕飯トークやアルプスホルンの演奏、売店グッズやランチメニューまで全く感心してしまった。幼子のファミリーや若いグループも多く食事も3交代400人の賑やかな夜だった。

最終日、合戦小屋を経て中房温泉へ下った。温泉は脱衣所の向こうがいきなりの露天で、餓鬼岳を見上げながらすべすべのいいお湯でした。今回、視界がない中を歩くときの先輩たちの用心深さ、気持ちを一つにした協力体制に、私はまた一つ貴重な経験をさせていただき同行の三人に深く深く感謝いたします。

概要

山名	餓鬼岳～燕岳		
月日	平成22年8月12日～15日		
山城	北アルプス	地形図	1/25000
形式	山小屋	グレード	3C
目的	秘峰に展望と花をたずねて		
費用	3,5000円	交通機関	JR, タクシー
行程	1日目	我孫子駅 22:34→日暮里→新宿駅 23:54(ムーンライト信州号)→信濃大町 5:11/5:30(タクシー)→白沢登山口 5:45/5:55 紅葉の滝⇒7:05⇒魚止の滝 7:35⇒細かい桶状の滝 7:55/8:00⇒最後の水場 8:20⇒大風山山頂 10:30/10:45⇒百曲がり⇒餓鬼岳小屋 13:45/13:53⇒餓鬼岳 14:00/14:10⇒餓鬼岳小屋 14:15 ＜歩行時間 8時間 30分＞	
	2日目	餓鬼岳小屋 5:45⇒ケズリ岩 7:00⇒ピーク 8:05⇒東沢岳 9:25⇒東沢乗越 9:55/10:00⇒北燕岳 12:15⇒燕岳 12:45/12:50⇒燕山荘 13:20 ＜行動時間計 7時間 30分＞	
	3日目	燕山荘 6:10⇒三角点 6:40⇒合戦小屋 6:50/7:00⇒第二ベンチ 8:20/8:30⇒第一ベンチ水場 8:45/8:55⇒中房温泉 9:25 (入浴) 11:05 (タクシー) →穂高駅 11:40 (打ち上げ) /15:22(あずさ 26号)→新宿駅 18:34/18:44→我孫子駅 19:40 ＜行動時間計 3時間 15分＞	
ルート状況	1日目はほとんどが沢沿いの道で特有の狭いやらアップダウンがあり、また木ハシゴが非常に多い。 2日目は岩稜が多くまたアップダウンが多い。 3日目は下山道で中房温泉から登山者多い為道は整備されている。		
参加者	高橋英 (L)、外崎、千葉、矢野裕 男1名 女3名 計4名		

概念図



朝もやっぱり深い霧の中。真っ白な中、
雨具を付けていざ燕へ。背丈ほどの
深い樹林帯と岩場の連続。尾根に
出ると強い風に煽られて一瞬立ち止ま
る。風は収まる気配なし。 →



← 燕岳山頂は真っ白

< 6 9 9 >

聖岳 ～ 光岳
(3,013m) (2,591m)

田村光子
小松庸信

憧れの山 南ア最南部聖岳

田村光子

1日目 (8月18日) 晴れ

念願の聖岳・光岳に行ける事となった。我孫子駅 6:51 分発の電車に乗り、東京駅から新幹線で静岡に行く。駅前から大型の静鉄バスで畑薙ダムまで揺られる事 3 時間、途中トイレ休憩が 2 回あった。大井川鉄道の井川駅ではお土産などが売っていたりして、お茶を御馳走になる。畑薙ダムで東海フォレストバスに乗り換え榎島ロッジまで行く。バスは人数が揃った為、14 時 30 分発の予定でしたが、13 時 40 分に発車してくれました。道の悪い林道で、道には大きな石が所々に落ちていて、又いつ落石があるか分からないような所が何か所もあった。途中長い吊り橋が見え、茶臼岳に行くにはこの吊り橋を渡って行くそうです。幅も狭く、高い所に架かっている、高所恐怖症の人はとても渡れそうも無いなと思いました。所々でシナノナデシコ・フジクロセンノウを車窓から見る事ができました。

明日登る聖沢登山口の前を通り、赤石岳登山口を過ぎるとロッジに着きました。7 時間近く乗り物に乗ってやっと登山口に到着、奥が深いのをつくづく感じる。

受付を済ませ、荷物を部屋にかたづけ、乗り物疲れを庭に出て先ずはビールで乾杯をする。途中で雨が降り出し雷も鳴りだしたので中に入ったが、雨も直ぐやみ、雷もさほどひどくなくほっとする。

2日目 (8月19日) 晴れのち雨

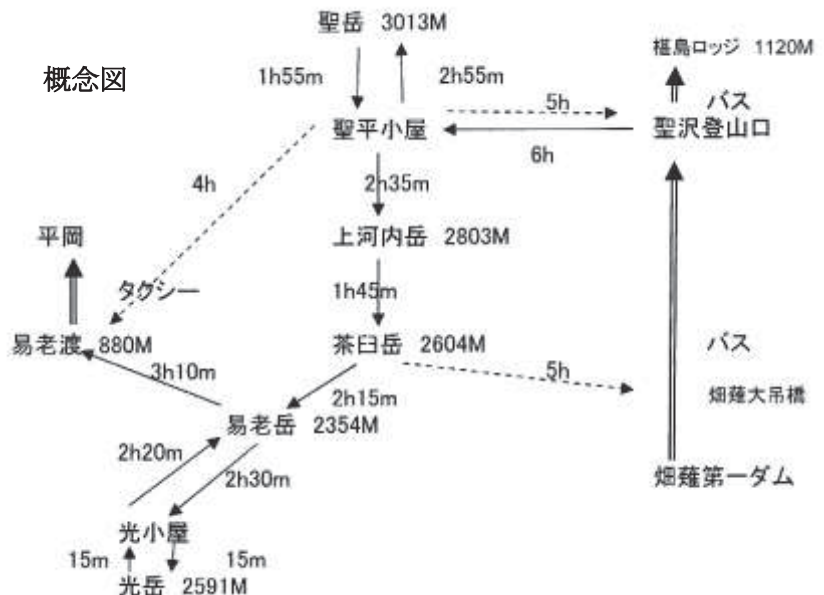
朝 5 時半に朝食を取り、6 時半の送迎バスで聖沢登山口まで乗って行く。バスで御主人に「今日は午後から天気崩れるので早めに小屋に着いた方がいいよ。」と言われる。

登山口からしばらく登ると出合所小屋跡で、樹林の中をさらに登り、聖沢吊橋を渡った所で小休止を取る。これから先は急登でゆっくりつづら折りに登って尾根に出た。

少し傾斜がゆるくなり、造林小屋の横を通り過ぎ、尾根道を進むと乗越に着いた。道をトラバースぎみに進み、吊り橋を渡って岩頭滝見台到着、かなり上から 2 本の滝が流れ落ちていて、見ごたえがあった。ここで昼食を取る。雲行きが少し怪しくなってきたので、小屋に着くまで何とかもって貰いたいと思いながら早々に出発する。聖沢本流の橋を渡り、道はぬかるみで転ばないように気をつけながら沢に沿って登る。やはり雨が降り出し、雨具を着けようか迷っているうちにやんで、濡れることも無く済んでラッキーでした。樹林帯を抜けた途端、トリカブトの群生に思わず歓声をあげてしまいました。

小屋の赤い屋根が見えた時はほっとしました。私たちが小屋に入ってまもなく雨が降り出し、何人もの人が濡れて小屋に到着していた。私たちが途中で休憩取っていたら降られたと思う。「休憩しなくてもいい」と言うひとことで小屋まで来たことが、大正解でした。小屋の寝具は薄いシラフで床が固く、腰骨が痛くなりなかなか眠る事ができませんでした。

概念図



3日目 8月20日 曇りのち晴れ

朝5時15分に小屋を出て念願の聖岳に向かう。曇り空でなんとなく霧も架かっている。木道をしばらく行くと聖平。左に行けば明日行く光岳方面、今日は右に折れてしばらく登ると斜面一面のトリカブトとマルバタケブキのお花畑にびっくりする。お花が咲いているとほっとする。青空も見えてきて、気分も明るくなる。急坂を登り、小石の尾根道を登りきってやっと小聖岳に到着した。大勢の人が休んでいたため、私たちは少し上がった所で休憩を取った。空模様が怪しくなり、霧で辺りが見えづらくなってきた。いよいよ頂上に向けて出発。小聖岳から戯れの縁へ行く途中にタカネビランジが岩の間に咲いていて、気持ちをなごませてくれた。道は戯れていて登りづらく、広い斜面をジグザグにゆっくりと登って行き、疲れ切った所でやっと聖岳山頂に到着。山頂は広く赤石岳方面が辛うじて見えたが、ほとんど展望は望めなかった。



前聖から奥聖間のお花畑

奥聖岳に向かう間稜線歩きを楽しみ、岩の尾根を下るとお花畑が広がっていてチングルマがまだ咲いていた。奥聖岳には三角点とケルンがあるが標識はない。ツアーの人たちが代わる代わる写真をとっていたので終わるのを待って、我々も記念写真を撮った。

前聖岳に戻り、休憩を取りながら霧が晴れるのをしばらく待ったが、晴れそうもないので下山することにする。滑らないように注意しながらゆっくり下りて行った。途中よわい雨が降りだしたので、上だけ合羽を着る。岩の所にライチョウがいて、霧と岩で解りづらかったが重さんが写真にバッチリ収めてくれました。分岐まで戻ると天気も回復して、青空が見えてきました。時間が早かったので聖平で昼食を取りなが

ら、濡れた合羽などを乾かし、ゆっくりして小屋に戻った。筑波から来た人と一緒になり、おしゃべりをしながらビールで乾杯をする。小屋でスイカ割りのサービスがあり、割れたすいかを皆に御馳走してくれました。山で食べるすいかの美味しいこと、今日の疲れも取れるような気がしました。



聖山頂:8月19日8時過ぎに聖岳山頂

光岳

小松庸信

4日目 8月21日 快晴

山に入って4日目となる明日は聖平小屋から光岳小屋間の長丁場の縦走を控えて、早目に就寝した。夜中に聖平小屋のトタン屋根を打ち叩く雨音に目が覚められた。事前の山行計画では天候によっては光岳への縦走を割愛することも考えられていたので「縦走が計画通りに出来るだろうか」と心配しながらも疲れから又寝入ってしまった。夜半にトイレに行くために戸外に出て見ると何と満天の星空になっているではないか。嬉しかったことは言うまでもない。

朝5時に薄明かりの中を出発していく。昨日の聖岳登山時と同様に木道を5分程歩いて分岐点を今度は左折していく。歩みを進めていくと樹林の中の登山道にとりついた。暫く山道を登ると、木の間から陽光を受けた聖岳が見え隠れして来たが何と雄大な大きな山であったことかと感動さえ覚えた。昨夜、聖平小屋で床が隣で関西から一人で来られた74歳のおじさんが百名山の百番目が聖岳と聞いて驚いたが今日の天候はまるでその登山を祝っているかのような快晴である。森林限界を過ぎてガレ場の稜線を進む。

岩頭から望む聖岳の展望は更に雄大さを増して来る。南岳からは聖岳を中心に南アルプスの山々が見渡せる絶景である。南岳～上河内岳間は東側の稜線をたどり、遠くに雲海の上に聳える富士山が望める贅沢な山行である。更に稜線の周辺にはお花畑が続き、特にトリカブトの群集が一带を紫色に染めて、これでもかと言う程に見せつけられた。

上河内岳の肩に着くと、ザックを置いて往復20分位の上河内岳(2801m)に登る。360度の眺望に暫らく言葉なく聖岳、赤石岳、荒川岳の南アルプスの光景を堪能した。上河内岳の肩から奇岩の竹内門まではやせ場の急坂を下る。下った所から振り返ると、上河内岳の雄姿がより聳えて見えた。まるで鳥が羽を広げたような雄大さだ。平坦な湿地帯のお花畑を通り、ザレ場の道を登ると開けた茶臼小屋の分岐点に出た。ここから望む山々の眺望はロマンチックなアルプスのハイジと呼ばれていると聞く。ここまでの今日の行程の半分弱である。

岩石が積み重なって形作っている茶臼岳(2604m)の頂きを通って樹林帯に入る。仁田池、希望峰と平坦な道ではあるが、所々にヌカルミがあり、木々の間から僅かに望める程度である。易老岳に到着するが山頂と言っても樹林に囲まれた小さな広場である。更に進む先にはヒダ、立枯れの木々があり、急坂を下りていく。ヌカルミの低地の林道を行くとその辺が三吉平付近である。ここから光岳小屋までは高低差が約300mの登り返しである。ゴーロの谷筋の厳しい登り道で歩き難く、疲労感と重なって結構キツイ。静高平の水場では自炊用にと8リットル位の水を補給した。平坦な湿地帯の木道を通ると間もなく光岳小屋に到着する。今日の縦走の総時間は約10時間と本当に長丁場であった。

小屋の内外には結構な宿泊者が寛いでいたが我々は食堂の近くに比較的ゆったりとしたスペースが確保でき、レンタルの寝袋を使用して寝れた。因みに光岳小屋の食事提供の条件はグループ全員が50歳以上で且つ3名以下のパーティで15時までには手続きを完了する必要があると言った厳しいものであった。

5日目 8月22日 晴れのち曇り

翌日は光岳山頂を目指して、空身で夜明け前の5時頃に出発する。樹林帯の中の緩やか山道を登ると樹林の中にある小広場の一角に頂上の標識が立っている。その場所からの眺望はない。山頂から急坂を下って10分程度のところに光岳の名の由来となった石灰岩質の「光石」がある。その光石に攀じ登っての夜明けの空、雲海の

山々はこれまた絶景であった。



雲海と光石

来た道を小屋に戻って、いよいよ長い下山の開始である。易老岳迄は昨日と同じ山道に戻ることになる。易老岳手前の分岐点(2350m)から易老渡(880m)までは高低差約1500mの下りである。下り開始時、木々の間から今朝登った光岳が遠望できた。暫くしてその雄姿も雲に隠れてしまった。下りの急坂には木の根が所々あって、下り難いところがあった。倒木帯、面平、小さなコルと呼ばれる針葉樹帯の中の急坂を下っていく。最後50分位はジグザクな急坂である。やっと下山口の易老渡へ予定時間に到着できた。下りの所要時間は3時間半位であった。下山と同時頃に予約していたタクシーが到着し、休憩する時間もなくタクシーに乗り飯田線の平岡駅へ向かう。駅のビル内の温泉風呂「竜泉湯」に早速入浴して4日間の汗を流して、すっかりした気分で東京への帰路についた。



5時半光岳山頂

概 略

山名	聖岳～光岳		
月日	平成22年8月18日(水)～22日(日)		
山城	南アルプス南部	地形図	1/25000 上河内岳、赤石岳、畑薙湖、光岳
形式	山小屋	グレード	4C
目的	最南部の3000m峰と百名山の晩夏の花		
費用	53,000円	交通機関	JR、バス、タクシー
行程	1日目	我孫子 6:51→東京駅 8:03(ひかり)→静岡駅 9:06/9:50(バス)→横川 10:55/11:05 →井川 12:05/12:20)→畑薙ダム 13:20/13:40 東海フォレストバス→14:40 榎島ロッジ着	
	2日目	榎島ロッジ発 6:30→聖岳登山口 6:42/6:47⇒休憩 7:23/7:30⇒出合所小屋跡 7:23/7:30⇒聖沢吊橋 8:05/8:10⇒休憩 8:43/8:50 ⇒造林小屋跡 9:10⇒休憩 8:20/8:30⇒乗越 10:35 ⇒岩頭滝見台 11:20/11:30⇒聖平小屋 12:55 <行動時間 6時間 10分、 歩行時間 5時間 20分>	
	3日目	聖平小屋発 5:15⇒薊畑 5:38⇒(休憩 6:20/6:30)⇒小聖岳 6:38⇒(休憩 7:10/7:15)⇒前聖岳 7:40/8:05⇒奥聖岳 8:25/8:45 ⇒前聖岳 9:02/9:10⇒小聖岳 10:00⇒薊畑 10:45⇒聖平 11:05/11:30⇒聖平小屋 11:40 <行動時間 6時間 25分、 歩行時間 5時間>	
	4日目	聖平小屋発 5:05⇒(休憩 5:40/5:45)⇒岩頭 6:10/6:20⇒南岳 6:50/7:00⇒上河内岳肩 7:30/7:33⇒上河内岳 7:40/8:05⇒上河内岳肩 8:15⇒竹内門 8:23⇒(休憩お花畑 8:45/8:55)⇒茶臼小屋分岐 9:17⇒茶臼岳 9:40/9:50⇒仁田池 10:05/10:10⇒希望峰 10:30⇒鞍部 10:55/11:10⇒易老岳 12:05/12:12⇒三吉平 12:58/13:05⇒(休憩 13:45/13:50)⇒静高平 14:25/14:40⇒光岳小屋 15:00 <行動時間 9時間 55分、 歩行時間 7時間 50分>	

5日目	光岳小屋発 5:00⇒光岳 5:17/5:22⇒光石 5:30/5:37⇒光岳 5:46/5:48⇒光岳小屋 6:02/6:15⇒静高平(水場)6:30/6:38⇒三吉平 7:15⇒(休憩 7:30/7:35)⇒易老岳 8:32/8:45⇒倒木帯 9:40/9:53⇒面平 11:00 ⇒小さなコル 11:25/11:30⇒(休憩 11:58/12:10)⇒易老度 12:25/12:30 (タクシー) →飯田線平岡駅 13:45/15:42→東海道線豊橋駅 18:13/18:32 (こだま) →東京駅 20:47→上野駅 21:08 →我孫子 21:45 <行動時間 7時間 25分、 歩行時間 6時間 10分>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・聖沢登山口から聖平小屋間は数箇所水が取れる。 ・小聖岳～前聖岳は砂礫の大斜面。 ・南岳～上河内岳～茶臼岳～仁田岳分岐までは快適な稜線。 ・易老岳～三吉平～静高平は樹林の中。シダが美しい。 ・光小屋の水場は遠いので、静高平で水を補給する必要がある。
参加者	高橋重(L)、田村(SL)、小松、桐生 男2名・女2名、計4名



シナノナデシコ



遠く光岳:南岳(2702m)付近から左手に上河内岳、はるか遠くに光岳への稜線が続く。

< 7 0 0 >

常念岳～大天井岳～槍ヶ岳
(2,857m) (2,922m) (3,180m)

品田千恵子

憧れの名山

8月19日(木)

新宿より夜行バス利用で松本バスターミナルに0時52分に到着。BTより徒歩5分くらいの東横イン松本に泊まる。(4495円)

8月20日(金)

ホテルのロビーに6時10分に集合し、ヒエ平(一ノ沢)までタクシー(5200円)を利用する。準備体操を行い、常念岳～槍ヶ岳めざして出発する。山ノ神のトチの実が沢山落ちている道を、汗をかきながら登り、王滝ベンチに出る。この水場は、風通しの悪い林内の登りを続けてきた体には、冷たくておいしい。急な木段の山腹を歩き河原に出たら、ペンキマークをたどって下る。胸突き八丁を過ぎ、木橋を渡ると最後の水場に出た。それぞれのペットボトルに冷たい水を汲む。

先はまだまだ長く、林内をじぐざぐに登る道が続くと、常念乗越の水場で汲んだ水がとてもおいしく力水になる。ようやく着いた常念小屋のバックには憧れの山、槍ヶ岳が見える…常念小屋のベンチで遅い昼食をとり、優雅な三角形の常念岳を目指す…岩屑の斜面を直登する。中腹になるとガスりはじめ、常念小屋が見えなくなった。360°の展望のはずが残念ながら見ることは出来なかったが、展望図の刻んだ円盤を見てほしいを想像する。夕食前に団らん室でお疲れ会をしていると、隣にいた男性が「58年ぶりにベスト4に進出した成田高校は敗れたよ。」と教えてくれた。残念。明日の用意をした後、本日の疲れをとるため、早めに就寝する。

一言インタビュー

武内さん「大パノラマが望めなくて残念。雲よ、去れ！」

外崎さん「開放的な山で素晴らしい。苦労した甲斐がある。」

藤倉さん「疲れたけど登れて良かった。二度と登れないわ。」

飯合さん「荷物が重くてくたびれた。」

品田「長い歩行時間で疲れたが常念岳の美しい三角形が見られて良かった。」

8月21日(土)

常念小屋から美しい日の出を見る。(5時10分頃)雲海の上に茜色の日の出。本日もお天気は良さそう。食堂は最高のロケーションで、明日登る槍ヶ岳が間近に見えて、早く来てよと手招きしているようだ。小屋の前で記念写真を撮って出発。

横通岳の中腹を左へ巻き、盛りを過ぎたコマクサ、数少ないタカスミレを見ながら東天井岳の肩に出る。ここまで来ると槍ヶ岳の脇に小槍が見える。本日泊となるヒュッテ西岳と東鎌尾根までみえる。大天荘に荷物をデポして大天井岳に登る。昨日の常念岳と違い、素晴らしい大展望を満喫することが出来た。北方に鹿島槍、白馬、燕、西方に槍、赤牛、水晶岳、穂高等々。今日のルートはここを頂点とする馬蹄形なので、常念岳からここまで来た道、これから進む喜作新道ルートもよく見える。馬蹄形ルートは初めての経験。



大天井岳山頂よりの展望
明日は行こーよ、あの頂に

大天荘から大天井ヒュッテまで、ハシゴの連続で注意しながら歩く。お天気が良いので屋根に布団が干してある。大天井ヒュッテはお昼前ということもあり、売店にも人の気配がなく、大きな声で水購入を頼んだ。ちなみに水1リットルで200円(雨水かな?)。5分間の休憩だが、静かで爽やかな風が吹き抜け、ゆっくりと落ち着いた気分になる。ここまでの道程はたいへんだっただけに、この静けさは有り難い。笹と木立に挟まれた岩ゴロゴロの足下の悪い道とハシゴの連続の道を歩いていくとやがてビックリ平に出る。この後も岩場の急下降の繰り返しとなるが、展望がよく、時々立ち止まって武内さんが解説をしてくれる。あそこが南アルプス、北岳、眼下は安曇野、梓川、徳沢、七倉ダム、

等々。後で地図を開いてみたが、大変勉強になった。途中、高山植物も多く見ることが出来た。特にトリカブトが多く、色が濃くてとてもきれいだった。

ヒュッテ西岳荘は常念小屋に比べたら質素でトイレは外にあり、満天の星空の下を歩いて用を足すなんてのも…。外気温は寒くなく明日は晴天になりそうだ。

一言インタビュー

武内さん「自分の健康・家族の理解・ちょっとしたお金があれば、この絶景が見られる。」

外崎さん「北鎌尾根を目の前に、それと平行して歩いたが厳しさを感じる。天気良く、素晴らしい展望が見られた。」

藤倉さん「連れて来てもらっただけで幸せ。」

飯合さん「来て良かった。お天気に恵まれ、素晴らしい展望が見られて良かった。」

品田「お天気に恵まれ、今日歩いて来た道と、これから進むルートが良く見え、このことを馬蹄形ルートと知ることが出来た。」

8月22日(日)

本日も快晴。早めの食事を済ませ、5時35分に出発する。ヒュッテ西岳を過ぎると進路が南から西へ変わる。鎖と梯子の岩場の急下降、水俣乗越の鞍部を過ぎると東鎌尾根の岩稜の登りで梯子と鎖場を通過しながら高度を上げる。ヒュッテ大槍まで10分、3分と道標が立っており、疲れた体に安堵感を覚える。ヒュッテ大槍で槍ヶ岳を見上げながら休息する。ふと、あんな困難そうな岸壁を登ることが出来るんだろうかと思った。



槍ヶ岳(ヒュッテ大槍前にて)

目の前に槍ヶ岳、殺生小屋、上高地、それぞれ道標が立っており、このまま東鎌尾根を直進するのか、殺生小屋を経由してジグザグ道を登るか、みんなで話し合う。その結果、東鎌尾根を直進することになった。またまた、岩稜と梯子の登りを繰り返しながらようやく槍の肩に着く。



槍ヶ岳山頂にて

槍ヶ岳山荘にザックを置き、トイレ清掃タイム 9:30~9:45 を待ち、槍にトライする。(ここで用を済ませておかないとね。) 20分ほどで山頂に立つことができ、困難な岸壁をついに登った。「登頂成功したよ!」なんて、思わず携帯電話をしてしまった。西鎌尾根南斜面から雲が登ってきたが、他はよく晴れて十分に展望を楽しんだ後、記念写真を撮り、外崎さんが持ってきてくれたぶどうを食べたりして15分ほどで下山する。本日、槍の頂上に立つことができたので、宿泊予定していた槍ヶ岳山荘はキャンセルして出発する。テント場脇の飛騨乗越道標から2800mまでは、大小の石をガラガラゴロゴロ、ザークザークと石音をならしながら下る。2700mを下る頃になると斜面が緑色に変わり、シオガマ・リンドウ・ダルマユリ・フウロ・黄色ダイコンソウなどが咲いており、心癒される。チヌ乗越分岐には救急箱が置いてあり、靴のソール・ガムテープ・水・ビニールテープ・救急用品・非常食・電池等が入っていると明記がされているが施錠されていた。2100mを過ぎると鳥の鳴き声を聞くことも出来、予定通り2時に槍平に到着した。夕食前に武内さん慣例のおいしい「お汁粉」をごちそうになる。憧れの名山槍ヶ岳登頂にビールで乾杯! 小屋はシルバー割引(500円)があった。

一言インタビュー

武内さん「みんなに360°の展望を楽しんでもらうことが出来て本当に良かった。」

外崎さん「参加希望していなかったが年齢的に最後かな?と思い参加した。来て良かった。思ったより槍はあっさりと登れた。」

藤倉さん「念願の槍の頂上に立ったときは涙が出ました。山頂で食べた外崎さんのブドウがとてもおいしかった。」

飯合さん「楽しく登れました。思っていたより、登ってみれば、なんだって感じで登れた。」

品田「ここまでの道程がたいへんだだったので、槍だけにもう少しヤリ甲斐があると思っていた。でも、槍の穂先に立つことが出来て感激です。」

8月23日(月)

今日も快晴。北穂高を見ながら出発。すると武内さんが「♪♪穂高よさらば、また来る日まで♪♪」とハミングしている。今回の行程がほぼ終了しそうなので安心したのかな?私もつられて♪♪顧みずれば遠ざかる♪♪と歌い出してしまった。途中、滝合出合で雪解け水を飲みながら小休憩する。この天然水のなんとおいしかったことか。新穂高温泉には10時頃に到着、松本直行バス13時40分まで時間がたっぷりあったので、女性4人は新穂高ロープウェイ(2800円)で、西穂の観光に出かけ、予定外の行動にちょっと得した気分になった。快晴って何ていいんだろう。武内さんとは観光から戻ってから中崎山荘で合流し、汗を流した後、おそばを食べる。小鉢のそうめん南瓜の和え物がおいしかった。

武内さんのきめの細かい助言と行動のおかげで痩せ尾根の岩稜とハシゴハシゴの連続コースを無事に計画通り歩き終えることができた。それぞれに思い出も作り、今年の夏山山行ができたことに、本当に感謝します。

研修山行「山での食事と水分補給について」

水・水分補給はこまめにする。

・行動時間×体重×5

感想：目安になるので余分な水を持たなくてすみました。

食・歩きながら食べられるもの。例えば、ナッツ類・ドライフルーツ・あめ・チョコレートなど。

感想：携帯に便利で生ゴミが出なくてよい。

概要

山名	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳
月日	平成22年8月19日(木)夜～23日(月)

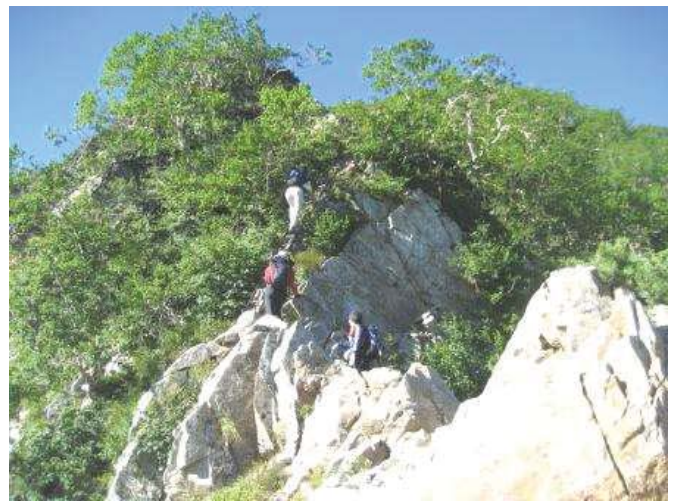
山城	北アルプス	地形図	1/25000 槍ヶ岳、穂高岳、信濃小倉、笠ヶ岳
形式	山小屋/テント泊	グレード	3C
目的	①槍穂高の展望を楽しむ ②研修(山での食事と水分補給)		
費用	山小屋:45,000円。 テント:18,000円	交通機関	高速バス、路線バス、JR、タクシー
行程	前夜	我孫子 20:03→新宿 21:04→高速バスターミナル 21:10/21:40(高速バス松本行)→松本バスターミナル着 0:52→東横イン松本駅前本町(泊)	
	1日目	東横イン 6:10→松本駅 6:20/6:32→豊科 6:54/7:00(タクシー)→一の沢常念岳登山口(ヒエ平)7:25/7:45⇒衣服調整 8:15/8:20⇒大滝ベンチ 8:55/9:05⇒烏帽子沢 9:30⇒笠原沢 9:55/10:05⇒胸突八丁 10:40/10:45⇒最終水場 11:20/11:30⇒常念小屋 12:35(チェックインおよび昼食)/13:50⇒休憩 14:30/14:35⇒三俣分岐 15:00⇒常念岳 15:10/15:30⇒常念小屋 16:30(泊) 曇り時々晴れ<行動時間 10時間 20分、内、歩行時間 8時間 00分>	
	2日目	常念小屋 6:10⇒道標 8:00/8:10⇒東天井岳の肩 8:35⇒休憩 8:50/9:00⇒大天井荘 9:40/9:45⇒大天井岳 10:00/10:15⇒大天井荘 10:20(昼食)/10:40⇒大天井ヒュッテ 11:30/11:40⇒ビックリ平 12:10/12:20⇒赤岩平 13:00/13:10⇒西岳登り口道標 13:50⇒ヒュッテ西岳 14:00(泊) 晴れ<行動時間 7時間 50分 内、歩行時間 6時間 20分>	
	3日目	ヒュッテ西岳 5:35⇒水俣乗越 6:35/6:40⇒ヒュッテ大槍 8:30/8:40⇒槍ヶ岳山荘 9:30/10:05⇒槍ヶ岳 10:25/10:40⇒槍ヶ岳山荘 11:00(昼食)/11:30⇒飛騨乗越 11:40⇒千丈乗越分岐 12:30/12:35⇒槍平小屋 14:00(泊) 晴れ<行動時間 8時間 25分 内、歩行時間 7時間 05分>	
4日目	槍平小屋 6:00⇒滝谷出合 7:00/7:10⇒白出沢出合(林道)8:25/8:50⇒穂高平小屋(山道入口)9:30⇒林道 9:50⇒新穂高温泉 10:10(自由行動・入浴・食事)/13:40(バス松本行)→松本バスターミナル 15:50/16:20(高速バス新宿行)→新宿着 20:10⇒新宿駅 20:29⇒神田→上野 20:54→我孫子 9:30(解散) 晴れ<行動時間 4時間 10分 内、歩行時間 4時間 05分>		
ルート状況	・常念小屋への登りは、笠原沢出合を過ぎてから最後の水場への登りがきつい(胸突八丁)。水場を過ぎてもジグザグの登りが約1kmあり、疲れた体にはこたえる。		

- ・常念小屋から常念岳へは岩屑の登りで、小屋にチェックインして緊張を解いた後だけにきつく、空身で登っても1時間20分を要した。(コースタイム1時間)
- ・常念小屋～大天井荘は、危険箇所もなく槍・穂高の展望もよいのでルンルン気分で歩ける。大天井荘～大天井ヒュッテのトラバース道は、石のゴロゴロした下りで滑落しないよう緊張を強いられる。大天井ヒュッテ～ヒュッテ西岳(喜作新道)は、山腹を巻くトラバース道で、危険箇所はない。
- ・ヒュッテ西岳から鞍部までいきなりの急下降となり、鎖、梯子が連続する。鞍部から槍ヶ岳より派生する痩せ尾根(東鎌尾根)が始まる。登って下ると水俣乗越で槍沢への分岐がある。乗越から槍ヶ岳までは岩稜の登りが続き、危険箇所には梯子がかけられているが、痩せ尾根のため気は許せない。
- ・槍の飛驒乗越からの下りは、岩屑のジグザグ道で、危険はないが単調な長い下りでウンザリする。
- ・槍平～滝谷出合(藤木久三のレリーフあり)は不揃いな石畳の道で歩きにくい。白出沢出合からは林道となり、穂高平小屋前で林道をそのまま行ってもよいが、山道に入ればショートカットして、再度林道に出ることが出来る。

参加者 武内(L)、外崎、品田、藤倉(SL)、飯合(会友)
男1名、女4名、計5名

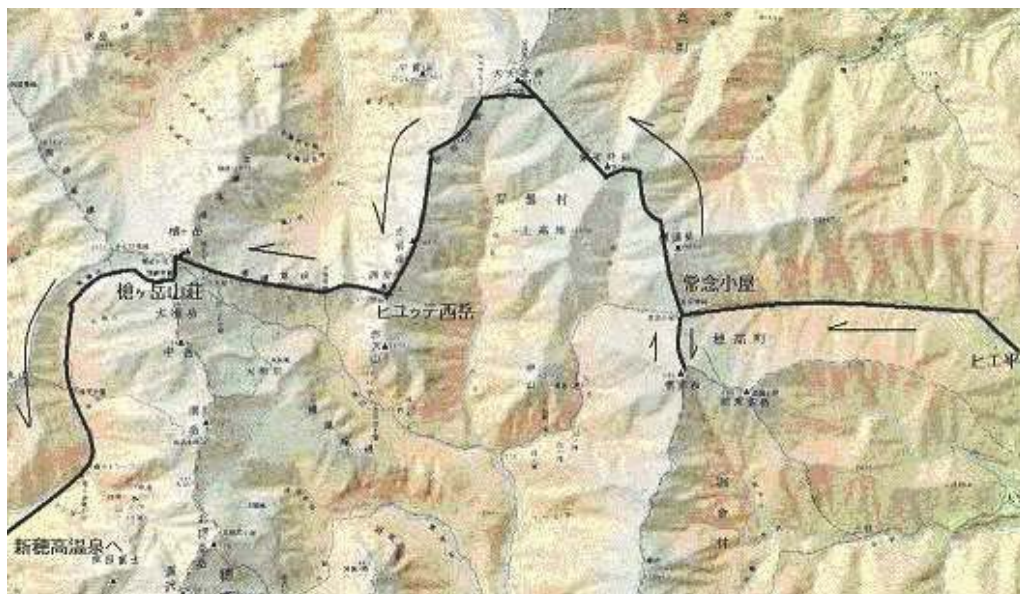


穂高岳と遠くに乗鞍岳・御岳



東鎌尾根を登る

概念図



< 701 >

ナメラ沢
(標高差：900m)

佐藤健一

2010年6月の山行部会議で承認された中に、長尾谷(8/8L:千葉)、ナメラ沢(8/21~22L:堀口)、北鎌尾根縦走登攀(8/25~28L:佐藤)が有った。尤も山行部会議で承認され、次月のやまたんに計画が掲載されながら、日の目を見なかったのは北鎌尾根縦走登攀計画だけであったが。

奥秩父の久渡沢水系の一つにナメラ沢が有る。西破風山から東破風山の稜線を分水嶺とし、西は青笹尾根で仕切られ、広瀬湖に注ぐ沢の一つで、他にもヌク沢、鶏冠谷、釜ノ沢東俣、西俣等名の知れた沢がこの広瀬湖に注ぐ。この湖から出た流れはやがて笛吹川となって甲府盆地を横切り、その後富士川と名前を変えて駿河湾に流れ込む。

さて、このナメラ沢はその名のごとく、ナメが主体で登攀の要素は少ない。比較的初級向けの沢と云えるが、長く展開する滑りやすいナメ滝は、ナメテかかると怪我をする。

それに、我孫子からのアプローチと遡行行程の長さ、下山に要する時間を考えると前夜泊日帰りが避けられない。又、盆を過ぎたとはいえ、この時期の日曜の中央道は大渋滞にしばしば悩まされてきた。下手に風呂や二次会で時間を食うととんでもない事になりかねない(帰着時間が)

という事で、沢新人のYさんを伴った6名の男女が前夜の9時に我孫子駅北口に集合し、レンタカーで大した寄り道もせず、目的地の広瀬湖レイクサイドホテルに着いたのは夜中の零時であった。すぐさま風通しの良すぎる屋根の下に、各々持参の寝具やら軽食、アルコール飲料(これは共同?)を持ち込んで宴会が始まった。勝手知ったる手慣れたメンバーはヤイヤイ言いながら胃袋を満足させていたが、かのYさんはアルコールが大の苦手なうえに、箱入りで育った環境に比べての余りの落差にとてつもないカルチャーショックを感じていたに相違ない。

翌22日は5時頃起床し、広瀬湖レイクサイドホテルを引払い、トイレ、食事を済まして雁坂トンネル前駐車場に6時に着いてそのまま歩きだした。しばらく舗装された林道を歩いて沓

切沢橋を渡り、いよいよ不明瞭な山道を歩くと、ナメラ沢への案内板が有った。降りた所は峠沢でそこで全員沢装備をととのえ、峠沢を下降して7時30分にナメラ沢の出口に到着、そのまま遡行を開始した。

10分ほどでこの沢で唯一登攀の名に価する岩壁状の滝F1に出会う。高さは釜の深部を加えても5m位しかない。しかしこの滝が中々登れない。沢山行の講師K氏が流芯の右側中央に取りついたがハングが越せない。そこでリーダーの堀口氏が釜の中に入って自身の肩を足場代わりにと差しだした。エライもんである。全身濡れながら犠牲的精神で自身より重いK氏の足場になっている。凄いと思っていたらもっと驚いた。なんとK氏の足はリーダーの肩を離れ、堀口さんのヘルメット上にあるではないか。こんなの有り?とわが目を疑ったが、登りきったK氏も、頭を提供した堀口Lも何事もなかったように涼しい顔であった。(カメラの捕らえた位置とK氏のフェルト靴が同じ高さだった為の虚構かな)



我慢の子である

その後、堀口Lから続いて登れと肩を差しだされたが、私の小さい心は堀口Lの肩に足を乗せる事さえはばかられ、フェルト靴が柔らかそうな肩に触れただけでバランスを崩し、滝壺の中に落ちてしまった。この小さき心を生んだ亡き母を、私は誇っていいのか蔑んでよいか考え込んでしまう。

結局私は左岸から取り付き中央にトラバースして流芯を登り、他も其々のルートをとってこのF1を終えたのが8時20分、ここだけで40

分も遊んだ事になった。

すぐに中ノ沢の分岐を過ぎた後は 20mや 30mの大小のナメ滝を通過した。綺麗な沢も有れば倒木で行く手を遮られた沢もあり、綺麗な沢だと言った堀口Lも、時の経過で様相が変わったナメラ沢に異なった印象を抱いているようだった。

遡行も終盤に近くなって、長さ 60mもあったかと思われた滑りやすいナメ滝をザイルを使いながら全員が登り終えた。沢は次第に水が少なくなっていき、やがて涸れ、倒木が藪状に散乱し、大小の石がガレ場となって沢を埋め尽くす中を延々と詰め上がり、一息ついた頃装備解除の指示が出た。時は 11 時過ぎ。昼食を兼ねて大休憩の後、沢の左に並行して走る青笹尾根を目指してトラバースする事となった。

普通ならそのまま地獄の詰めを稜線まで続け、西破風山を経て登山道を下山するのだろうが、リーダーの立てた計画はまるで違っていた。沢の右岸に上がってそのまま藪の繁みに突っ込んだ後、程なく露出した岩石群に出る。その岩石群が切れたあたりからまた樹林帯に入って行った。そこから 10 分ほどのアルバイトで青笹尾根に当たり、そのまま下山する予定が、どっこいその道が見当たらない。

20 分はウロウロしたろうか、さらに若干高度を上げて推定 2200m辺りの上部で堀口Lが、30m位下の方では小谷講師が、ほぼ同時に目当ての青笹尾根を見つけて声を上げた。それからしばらくは薄すぎる踏み跡を慎重に探しながら尾根を外さないように下りて行く。バリエーションルートと一口にいても、踏み跡が明瞭であったり、テープ等の目印が導いてくれる場合は鼻歌交じりということもあるが、この青笹尾根は人には勧められない。回りを見渡しても目印になるような物は無く、地図と磁石といっても教科書のようなわけにはいかない。比較的明瞭な踏み跡が見つかった時もそうであった。安心して隊はスピードをあげてそれを追ったが、降りて行く先は明らかに方位が違う。この時もけもの道と的確に判断したのは小谷講師だった。すぐに引き返し、手分けして別の踏み跡を探す。私には読み切れない地図も、彼においては頭の中にもるで地図が入っているように下山のルートを見つけ出していく。

それでも 8 月の 2000m~1800mの雑木林は、濃く、長く、不安が無いわけではない。現在位置の把握が確信できない自分には、日も傾き始めて、長く漕いできた藪にも飽きてきた。もうあと少しだろうと勝手解釈し 1859 ピークを 1735 と言った時、小谷講師から静かにたしなめ

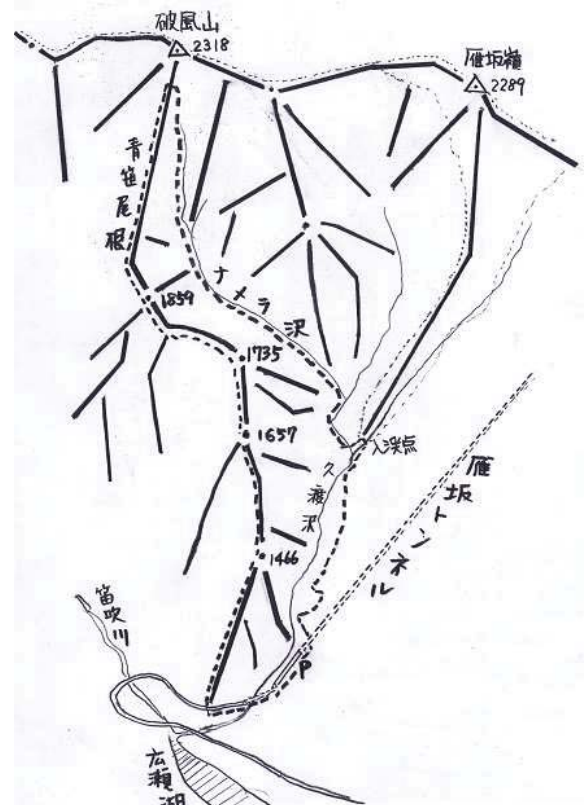
られた。2万5千の地形図を見ればピークの形状が違う事は明らか。まだまだ遠いという事を実感しつつ、ルートが間違っていない事に安心したりもした。

その後、痛い足をなだめながら、夕方 4 時前に 1735 地点に到着し、防火帯を駆け足で降りて 5 時前に鶏冠山大橋に飛び出した。本当はナメラ沢遡行よりその後の遡行終了地点から青笹尾根の下山の方が何倍もきつく不安なものだっただけに、沢が初めての Y さんにはなんと思われたか心配で聞けない。

いつものように安い風呂を探して汚れを落とし、ラーメンを食って勝沼から中央道に乗ったのは午後 7 時を過ぎたころだが、我孫子に到着したのは日も替わって 23 日(月)の午前 1 時頃。全員を自宅まで送って堀口Lが自宅に帰ったのは午前 2 時にはなっていたに違いない。

長い事生きて、長いこと中央道を通ったが、こんなに時間を食ったのは生まれて初めての経験だった。本当の主役は沢遡行でもなく、アドベンチャー豊かな下山でもなくて、古典的な中央道の交通渋滞だったとは、ああああ、思い出したくもない。Y さん、人生なんてこんなもんだけど、緑と白い岩と清冽な流れで彩られた本来の沢が、もっといいとこ沢山あるよとだけは伝えたい。

概念図



概要

山名	ナメラ沢		
月日	平成22年8月21日(土)～22日(日)		
山城	笛吹川・西沢	地形図	1/25000 雁坂峠
形式	夜行日帰り	グレード	2B
目的	夏本番の沢を楽しむ		
費用	4,500円	交通機関	レンタカー
行程	前夜	我孫子駅北口ロータリー21:00 出発→広瀬湖畔東屋到着 24:00	
	1日目	起床 5:00→東屋出発 5:40→雁坂トンネル手前駐車場 6:00⇒クツキリ橋⇒峠沢 7:00/7:30 ⇒ナメラ沢出合 7:35⇒10m3 段滝 7:40/8:20 ⇒中ノ沢分岐 8:26⇒15m2 段三条滝 8:55/ 9:15⇒きれいなナメ 60m10:00⇒潤沢・装備解除 11:10/11:50⇒ナメラ沢から青笹尾根へトランクス開始 12:20⇒青笹尾根出合下山開始 13:00⇒1896m 地点 14:35⇒1735m 地点 15:45⇒鶏冠山大橋 16:45⇒駐車場 17:00 →入浴完了 18:15→ラーメン屋出発 19:00→勝沼IC付近・甲州街道へ 19:15→大月IC中央道へ→到着 23日 1:45	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・クツキリ橋から雁坂峠への登山道を行くと、右側にナメラ沢左への標識が有り、そこを下ると峠沢、この沢を下ると右手に久渡沢、そしてナメラ沢へ入る ・入渓して、しばらくはナメと美しい沢ですが、詰めて行くと倒木が目立ってくる ・青笹尾根は、最近では人の入った形跡がなくルートが読みにくい 		
参加者	堀口(L)、千葉、佐藤健、佐藤明、矢野、小谷 男3名 女3名 計6名		



初挑戦お見事



この先、試練の始まりとは、誰もが気づかず

<702>

北岳
(3,192m)

箕輪完二

花と虹と絶景の3日間

1日目 広河原～白根御池小屋

バス時刻変更のせいもあって、30分遅れて登山口である広河原に到着。文句なしの快晴である。見上げる先には日本で第二の高峰、北岳の威容がとびこんでくる。野呂川にかかる吊り橋をわたり、広河原山荘の野外休憩所で昼食をとる。登山準備のあと村松リーダーより役割分担と安全第一で登ろう、との訓示があり皆で確認しあう。山荘の脇から登山開始、今回のルートは北岳登頂のメインルートであるとのこと。20分ほど歩くと分岐が有り、そこを左側に進路をとり大樺沢を通過し二俣に出て、白根御池小屋に向かうというものだった。蒸し暑い時期でもあり、樹林帯の急登コースよりも、沢のコースの方が涼しくて良いということのようだ。しばらくすると、大きな清流とぶつかり、涼しさが感じられ「いいわねー」という声も上がった。しかし、ちょうど12時からの登山開始で、いきなり2時間の登りはきつい。でも30分程ごとの小休憩は、正直いって助かった。分厚いバットレス（胸壁）と雪溪を見ながら……。



ミヤマハナシノブ と
シノブⅡ

そうした中で、清楚にして優雅な花「ミヤマハナシノブ」に話題が及び、「これは私の花よ」「あなたはシノブでなくアザミでしょ」「あらあ！私、高校時代、ワングルで八ヶ岳に登ったのよ」「誰と」「モトカレと。あっ言っちゃった」などと冗談をとぼしながらの登りは、いくぶん辛さを和らげてくれる。そうして、二股の分岐に着いた。ここで、10分ほど中休憩をとった。あとは樹林帯の中を30分程トラバースして、今日の宿泊地、白根御池小屋に到着。まずは、記念撮影を行い、そしてビールとアイスクリームで乾杯。小屋からは1昨年前に登った鳳凰山の山並みが見えている。



白根御池小屋

地図を持って、山座同定も行われ、賑やかな夕暮れとなった。雪崩を受けて、崩壊し再建されたという山小屋はとてもきれいだし、水もきれいだ。平日ということもあって9人で1部屋を確保できた。5時から夕食をとる。山小屋の食事も最近はとても良くなったねという声がかかれた。翌日の登山準備がおわると、三々五々食堂に集まり、山にまつわる話題で盛り上がった。その中で印象的だったのは、登山での足の運び方についてであった。小川さんの足の運び方について、2歩あるところを、3歩にして歩くべきという村松リーダーの指摘だった。この結果については、翌日村松さんが先頭に立ち、小川さんがその直後につくことにより、登った結果、「非常に効果が有り、足が楽だった」、という小川さんの感想からも重要な指摘だったと思う。

2日目 白根御池小屋～北岳～北岳山荘

山小屋の朝は早い。4時起床（前夜は8時の消灯）5時朝食を済ませて5時40分の出発となっ

た。今日も天気は良好だ。樹林帯を抜け出し、草すべりという急坂にはいる。苦しいコースであるが、皆元気だ。周囲は高山植物でセンジュガンピ、ヤナギラン、キタダケトリカブト、イブキトラノオ、キンロバイ、等とても覚えきれないほど名前が出てくる。でもその全てに的確と思われる名前を付けて行くのが高橋重さんだ。大きなカメラを持って、嬉々として、飛びまわっている。何度か休憩をとった後、ようやく小太郎尾根に出た。眼前に甲斐駒ヶ岳、仙丈岳、そして南に富士山、北に中央アルプス、遠くは北アルプスの山々も見え、眺望満点だ。また、高山植物の多彩さで疲れも、忘れさせてくれるようだった。北岳固有の希少種である、サンプルクリンドウ、タカネマンテマ等が今日の探し当てる目標だそうだ。北岳肩の小屋の屋外休憩所で、昼食をとり、そして北岳山頂を目指した。その途中でサンプルクリンドウ、タカネマンテマ等の希少種も発見できた様である。



サンプルクリンドウと
ヒメコゴメグサ



ミネウスユキソウと
タカネナデシコ

頂上はちょっとした双耳峰になっており南側に主峰があった。10時5分、憧れの北岳山頂に無事到着、360°の大展望だ。握手と万歳を繰り返し、記念撮影も惜しみなく撮った。その後時間をかけ周囲の絶景や希少植物等を観ながらゆっくりと下り、12時20分、今日の宿泊北岳山荘に到着する。この頃になると周囲から雲が立ちあがり、山荘も見え隠れして、空模様も怪しくなり、到着時には、雨もパラついてきた。山荘でしばらく休息した間に雨も降った。改めて山の天気急変することを実感する。同時にその天気のもたらす恵みにも驚いた。夕方、それぞれ数人で雨あがりの外に散歩に出た。しばらくして、富士山方面に丸く虹が出来てきた。その中に影らしき者が出来てきた。なんと、自分が手をふれば、虹の中の影も手を振り返すで

はないか。ブロッケン妖怪である。離れた場所にいた仲間もこのブロッケン現象ををを観たという。まさに、奇遇だと思った。そして、その夜も食堂で山談義は続いた。



ブロッケン現象

3日目 北岳山荘～八本歯の科尔～反省会
4時起床。朝食の前に日の出を見ることに。5時13分、雲の間から日の出を拝む。今日も晴れのような、無事下山出来ますようにと。朝食をとり、6時35分、山荘を出発。キタダケソウの保護柵をみる。この辺りにもお花畑が拡がり、高山植物が咲き誇っている。ホシガラスやイワヒバリといった高山鳥も我々を案内するように先へ先へと、飛びまわっている。かわいいものである。八本歯の科尔から梯子とロープの架かった急斜面を下って行く、細心の注意と集中で下山する。大胸壁バットレスが見えてくる。バットレスという言葉は建築用語として、控壁として使われており、北岳を支えている壁としての意味もあるのかもしれない。数人が挑戦しているらしく遠くにやっと確認できた。同時に山裾のほうからは、蟻の行列をなして登ってくる人の姿も確認できた。登りで、中休憩した大樺沢二股に到着。ほっと一息。いやいや、油断は禁物。しばらくすると、たちまち、狭い登山道で、登りと降りの渋滞を起こした。今日は土曜日なのだ。若い人たちが多い。シーズン中は、平日山行が良いようだ。11時40分広河原山荘に無事到着。広河原バス停に出ると、タクシー会社の涉外担当といった人が、「今すぐバスと同程度の安い運賃で甲府駅までどうですか」という案内であった。需要と供給の関係で、話は素早くまとまり、さらに、「途中で温泉に1時間立ち寄り、最後は甲府駅まで送ります」との話になった。タクシー会社お薦めの温泉に浸かり、疲れた身体を癒した。1時間の後、再びタクシーで甲府駅まで送ってもらう。甲府駅前のなじみの食堂で乾杯、冷やっこ、ほうとううどん等、美味しく頂いた。皆元気で安全に南アルプスの頂点に位置する、北岳に登ることができた。リーダー始め一緒に登った皆さん一同に感謝致します。

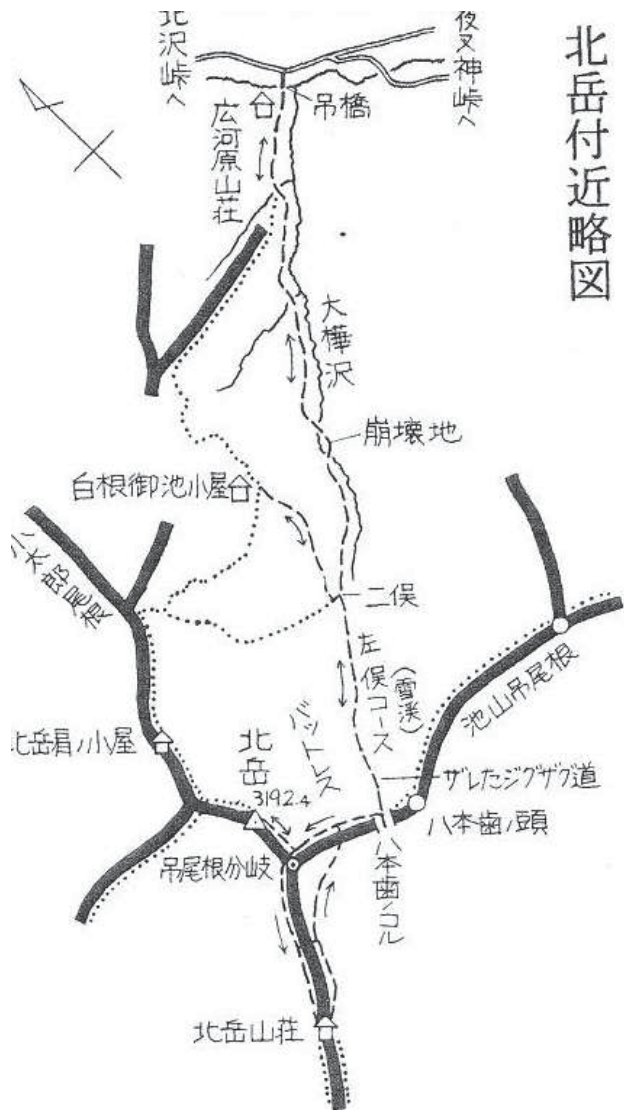


北岳山頂：万歳、ばんざい、バンザイ、九つバンザイ！！

概要

山名	北岳		
月日	平成 22 年 8 月 26 日(木)～8 月 28 日(土)		
山城	南アルプス	地形図	1 /25000 仙丈ヶ岳、間ノ岳、鳳凰山
形式	山小屋	グレード	3C
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日本第 2 の高峰に登る ・種類豊富な高山植物に出会う。 ・山小屋生活を楽しむ 		
費用	25,000 円	交通機関	タクシー、J R, バス
行程	1 日目	我孫子駅 5:31→日暮里→新宿 7:00(特急スーパーあずさ)→甲府駅 8:28/9:30(バス)→広河原着 11:30⇒広河原山荘 11:40/ 12:00 ⇒二俣 14:40 南アルプス市営白根御池小屋 15:20 (泊)	
	2 日目	白根御池小屋 5:40⇒草すべり尾根分岐 8:14 ⇒肩の小屋 8:57/9:15⇒北岳山頂 10:05/10:40⇒北岳山荘 12:20 (泊)	
	3 日目	北岳山荘 6:35⇒八本歯の科尔 7:00⇒二俣 9:38/9:45⇒広河原山荘 11:34/11:50⇒広河原 12:00 (タクシー) →駐車場付近の白鳳会館入浴 12:40/13:40 (タクシー) →甲府駅 14:40 (反省会) /16:10 (かいじ 118 号) →新宿 17:57→上野→我孫子 19:15	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のルートは北岳登頂のメインルートのため標識、地図等確認して行けば迷う心配はない。但し山頂直下の岩稜帯ではペンキ印、踏み跡等注意が必要。 ・大樺沢は例年に比べて今年の暑さのせいか雪の量は少ない。 ・二俣には夏期限定でトイレユニットが設置されていた。ジーゼルエンジンにて発電しているバイオ式。これは大樺沢に登山者が増えたため沢の水が汚染され問題になり数年前から備えられている。大自然の中で 		

ルート状況	<p>ジーゼル発電機の音は何か異様だがここまでしないと自然は保たれないのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白根御池小屋は数 10 年前雪崩で崩壊したが南アルプス市で再建されて木の香りも豊かな小屋になっていました。トイレは水洗、電気は一部太陽光発電で近代的な山小屋に変貌していた。平日のため宿泊客は 30 名位で 1 部屋 9 人で独占。水は南アルプスの天然水が豊富。 ・この小屋から見る夕闇に煙る早川尾根から鳳凰三山へ至る稜線はきれいなカーブを描き美しい。2 年前、辿った記憶がよみがえり何とも懐かしい。 ・北岳山頂からの展望は日本第 2 の高峰だけあって何回来てても素晴らしい。南東には雲の中に浮かぶ富士山は勿論、南アルプスの巨大な峰々が存在観を誇示するかのようには圧倒的な迫力で迫ってきた。又、中央アルプス、北アルプス、八ヶ岳その他 360 度の大展望が我々を祝福するかのようには待っていた。 ・八本歯の科尔から二俣迄は梯子とロープの連続、細心の注意力と集中力で下山する必要がある。思ったより時間が掛かる。 ・八本歯からの下山に掛かると登ってくる登山者の多いこと。狭い登山者に道をゆずっていると歩く時がなくなる。さすがメジャーな山です。シーズン中は平日山行しないと小屋も登山道も山頂も人で溢れるのではないだろうか。 ・広河原から人数が纏まっていればジャンボタクシーの利用が便利。交渉次第では甲府までバス代+100 円で OK。
	参加者



北岳付近略図



八本歯のコルへ下る



富士とキタダケトリカブト

< 703 >

戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山
(2,578m)

中村育子

前白根山、全員で登頂！

「楽しくテント山行」という名前にひかれ、楽かな～と期待して出かけた。

1日目は湯の湖を通って戦場ヶ原一周。2日目は白根山。リーダーの柴さんが、足に自信があってもなくても楽しんでみんなで登りましょうといわれたので、その言葉に励まされて前白根山までは4人全員で登った。その後柴さんと私は奥白根まで足を延ばした。

第1日目(8月28日)。北千住発6時半、湯元温泉(1485m)着10時。装備品の大半を詰めて体が軋みそうな大型リュックを背負った柴さんにくっついて5分ぐらい歩いてゆくと、湯元キャンプ場に着いた。スキー場はゆるやかな斜面になっていて、草が一面に生えていて心地よい。すぐテント張りだが、テントの張りかたがよくわからない。柴さんに教えてもらって4人で2張り完成。11時、雨具と弁当を持って戦場ヶ原に出発する。



テント完成 余裕のポーズ！！

標高1450mの樹林の中は高原のように快適だ。湯の湖で昼食をとっているとポツリポツリと雨が降り出した。予報では雨が降り出すのは3時頃からだというし、戦場ヶ原は心配ないと根拠もなく思ってしまった私は傘だけを持って出かけたのだが、これはとんでもない間違いだった。もちろん、他の3人はちゃんと雨ガッパも持っていった。小田代橋のところ、私が貴婦人をみたいといったので遠回りをするこ

になった。その時、雨はまだ降ったり止んだりしていた。シロヨメナの花がたくさん咲いている道を抜けて木道に出ると、ワレモコウ、キツリフネ、アザミの花が目につきだした。小田代ヶ原の貴婦人のみえる展望台までゆくと、休憩所の中はバスを待つ人であふれかえていた。傘を持っていない人も多かった。そのころから雨はものすごいどしゃ降りになった。この時、日光に大雨警報が出たのだと後で知ったが、降り方はすさまじかった。アスファルト道の轍のところに雨が集まり、小川になって流れていった。傘では防ぎようがなく、ズボンも靴もぐしょぐしょになっていった。大きな雷鳴と間隔の近くなってくる稲光の中、傘の先端が雷につかまらないように、歩きながら神様に祈るので忙しかった。1時間以上も歩き続けたころ、雷鳴は次第に遠のき、赤沼のバス停に着いた時ようやく雨は止んだ。雨具を着ていた他のメンバーも靴の中はぐじゅぐじゅだった。貴婦人を見たいと言った私のせいで遠回りをする事になり、皆さんには申し訳なかったなあと思った。

キャンプ場に着くとそんな気持はどこかに飛んで、まずは缶ビールを4本、冷たい水につけた。テントの炊事場は広くて使いやすく、水は美味、豊富に流れていた。夕飯は飯沼さんの畑で採れた野菜たっぷりのカレー。新谷さん作成のサラダ。肉厚なレタス、熟したトマトとキュウリ。梨のデザート。冷たいビール。テント泊とは思えない贅沢さ。夜、近くの日光高原ホテルで温泉入浴。飯沼さんと新谷さんがホテルから新聞をたくさんもらってきてくれた。靴の中に入れておいたら翌朝靴は乾いていた。夜中に私は紙袋をガサガサさせて、二人を起こしてしまった。月明かりの夜だった。

第2日目(8月29日)。3時半起床。3時起床と勘違いした私は二人を起こしてしまう。勘違いと分かり再び寝る。2人には大迷惑の夜と朝。

朝食後、テントはそのままだ、5時出発。夜明けの空は次第に明るくなって今日は上天気のような。キャンプ場から続くグレンデはヒメジョオンの咲く草原となり、とてもきれいだ。そこから北に進む。登山口から前白根山までの標高差は700m。道はすぐ急坂になり難所が続く。柴さんは私たちの体力をみながら、時には指示を出してゆっくり登っていく。段差の大きい所や大きな木の根を乗り越えながら登る。

樹林帯の道は涼しいのが有り難い。外山鞍部7時50分着。ここまでが難所だった。天狗平からはハンゴンソウの群落が続いた。この花はシカが食べないので、白根山では斜面一面が黄色く見えるほど繁茂しているとガイドブックに書い

であるがその通りだった。(ハンゴンソウは奥白根の山頂近くまで咲いていた。)

↓ 急坂を一つづつクリア、ふう！



↑ ハンゴンソウの群落の中で

やがて道は広くなり、前方に奥白根山がデンと構えているのが見えてきた。大きく静かな山という印象だ。前白根山頂(2373m) 9時10分到着。難所を登ってきたのでみんな達成感でうれしさいっぱい。「よくここまで頑張ってきたね」と柴さんも私たち3人をねぎらってくれた。眼下に青色をたたえた五色沼(2170m)が見える。よく晴れて日差しがまぶしく、遠くの山々が見渡せる。五色沼のすぐ先に奥白根山がかぶくよくそびえている。北関東以北の最高峰だ。無骨な感じだがひとときわ高く、存在感のある山だ。

9時半、下山する組と、奥白根山に向かう組とで、前白根山から二手に分かれることになった。下山することにした飯沼さんと新谷さんは、五色山(2379m)を通り、国境平・中ツ曾根の道を経て湯元まで下る。新谷さんは空の雲行きが怪しいとにらんだのが、正解だった。その時までよく晴れていたのに雲が広がりだし、やがて空は一面の雲に覆われてしまった。二人は湯元で大テントを畳み、荷物を片付けて待っていてくれた。私たちが着いた途端、雨がザッと降

り出したのでテントを畳んでもらったのはとても助かった。

一方、柴さんと私は避難小屋(2240m)まで急坂のガレ場を下り、小屋のところで昼食をとることにした。好天の日ざしの中、食担の2人が用意してくれたサンドイッチと卵スープは、これまたとてもおいしいのだった。

小屋の周辺がトレール走者の人たちでごった返してきたので、早々に出発する。道は山頂近くになるにつれて岩石が多くなり、歩きにくくなった。トレール走者が続々と降りて来る。脇に寄りたり、寄ってもらったり。奥白根山頂(2578m)到着11時35分。山頂は狭く、人であふれている。空は雲に覆われてしまった。晴れていれば燧ヶ岳や上州武尊山などが見えて360°の素晴らしい展望なのだという。でも雨に降られなかっただけでも幸運だった。



北関東最高峰、白根山頂！

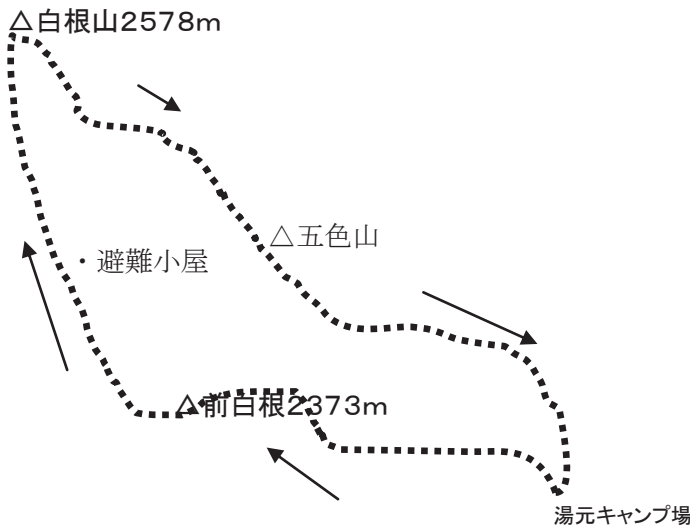
いよいよ下山。頂上から阿弥陀池(2250m)までの下りは300メートル。ものすごいガレ場を池までいっきに下り、次に池からは五色山の頂上めざして100メートル登る。山頂からは先に下山した2人と同じコースをたどった。中ツ曾根の尾根は笹が道を覆っていて、先の見えない悪路になっていた。場所によって笹は背丈ぐらいになる。先を行く柴さんが見えなくなる。道が雨に流され、落ち窪んでいるところも多い。先に下りた2人も難儀したかもね、などと話しながら歩いてゆくと、若い男性が一人、しょんぼりしているのに出くわした。足をくじいたのだった。歩けるから大丈夫だという。こんな場所ではさぞ心細

いだろうと思ったが、私たちは先を急いだ。しばらくすると若い元気なカップルに追い越された。途中で出会ったのはこのグループだけだった。キャンプ場には16時ごろ到着した。飯沼さん新谷さんは温泉に入ってゆっくりしていたが、私たちにはそんな時間はなかった。

テント泊は、星を見ることはなかったが(寝ていたので)、面白い経験になった。同行の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいだ。



新白根山頂、よくぞここまで来たもんだ



概要

山名	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山		
月日	平成22年8月28日(土)～29日(日)		
山城	奥日光	地形図	1/25000 男体山
形式	テント	グレード	3C
目的	北関東以北の最高峰に登る。 近場で高山植物に出会う。		
費用	8,500円	交通機関	JR,東武日光、バス
1日目	我孫子 5:41→北千住・東武改札口 6:10(集合) /6:32(快速)→東武日光 8:26/8:36(バス)→湯元 10:02⇒湯元キャンプ場 11:00⇒昼食 11:30/11:50⇒湯滝 12:10⇒小田代橋 12:50⇒展望台 15:00⇒赤沼 BS14:45(バス)→湯元キャンプ場 15:00 《行動時間：3時間45分》		
2日目	湯元キャンプ場(起床) 3:30/5:10⇒外山鞍部 7:50⇒天狗平 8:25⇒前白根山 9:10/9:30⇒避難小屋(昼食) 10:00/10:30⇒奥白根山 11:35/11:45⇒阿弥陀池 12:32⇒五色山 13:30/13:40⇒中曽根分岐 13:55/14:05⇒キャンプ場 16:00/16:30(テント撤収)⇒湯元 BS16:50/17:15⇒日光駅 19:33→我孫子 21:46 《行動時間：10時間50分》		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・戦場ヶ原、小田代ヶ原とも散策コースとしては特に夏の暑い時期には、大きい木に覆われて、高度も高いので涼しくて快適。軽装のウォーカーが多い。 ・湯元キャンプ場は、環境省が管理している。1人1泊1,000円。炊事場には、水道がありこれが冷たくおいしい。水量も豊富。炊事場の調理台は、コンクリート製で使いやすい。暗い時間帯は照明が1晩中点いていた。しかしトイレは5分ほど歩いた所。(勿論水洗) ・湯元から外山鞍部までの上りは、勾配がきつく所によっては、木の根や、木に掴まって登らなければならない。しかし足場は、滑りにくい。 ・白根山から阿弥陀池への下りは、ザレ場であり慎重に行動したい。 ・中曽根分岐を少し進んでから傾斜のきつい下りが続く。そのうち1km位が笹藪に覆われて足元がまったく見えなかったり、顔まで覆いかぶさったりしている。しかも足元が悪く、粘土ですべり易かったり、急に深い段差があったり歩きにくい。 		
参加者	柴(L)、飯沼、中村育、新谷 男1名、女3名 計4名		

<704>ウイズハイク

愛宕山
(293m)

本田愛子

今年は記録的な猛暑で九月になっても秋の気配はなく今日も朝から気温が高いので連日の記録を更新する日になりそうだ。私は初めてウイズハイクに参加するのでみずきの皆さんにお会いするのは楽しみでもあり不安もありました。

我孫子北口公園前に8:20に岳人会友20名、みずきメンバー10名職員3名がバスに乗り国道6号を茨城方面に向かった。岩間市に入ると車中から今日登る愛宕山や赤い屋根のロッジが見えた。少し登った所の愛宕山駐車場に予定通り10:15に到着。準備を済ませ皆で新しいログハウスのトイレの前で記念写真を撮ってから3チームに分かれて準備体操を行った。

10:40に歩き始めた。5~6分アスファルトの緩やかな坂道をいくと分岐がありそこからは山道で木の階段を登って行った。山道は木陰で涼しいはずだが低山で今日は暑い~短い急登ではダラダラ汗が出てくる。近くを歩いている小川さんと根本君が一本のストックの両端を持って押してるのか引き上げてるのか仲良く登っていた。

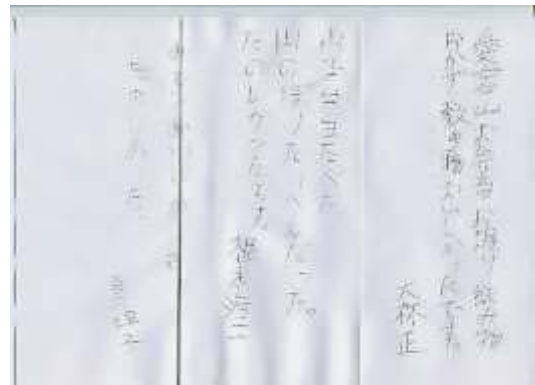
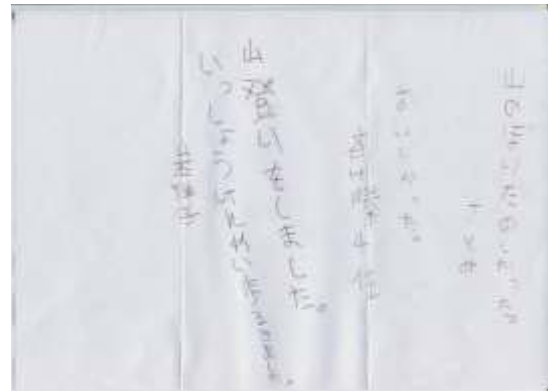
短い急登を三回くらい頑張ったら木製の展望台に着いた。途中で足が止まった人も周りの声かけに励まされ頑張って登ってきた。広場がある南山展望台は眺めがよく海や町並みが一望できる。約一時間足らずの山登りだったが大汗かいて何回も水分補給しながら頑張ったかいもあり皆とてもいい顔していた。

すぐに食担係が手際よくコップェルにお湯をコンロで沸かしてお汁粉と煮てきたおでんを準備して皆さん美味しく頂きお代わりする人もいた。食担さんありがとう!

記念写真を撮って一時間余りの昼食時間も過ぎ12:45下山開始。登ってきた道の反対側を皆滑らないよう気をつけて下っていく。40分程で登り始めの分岐に出てすぐ先の駐車場に一旦戻りトイレを済ませ水分を摂り反対側の階段を登り愛宕神社までで行く。長い階段を途中休みながらゆっくり登った。10分くらい登りつめた所

で愛宕神社のお社の前に出た。参拝して境内の端の展望台の方へいくと岩間の町並み、遠くに霞ヶ浦が見えて素晴らしい展望でした。下りはお社の横側のダラダラ道を下りて駐車場に戻ってきた。14:20大汗をかいて皆トイレやバスの中で着替え一休みしてバスに乗り込んだ。14:50出発バスの中では猛暑の中、皆が頑張って達成できた今日の行程や美味しかった食事の感想を話し、雨だったら行く予定の大洗水族館の方が今日は良かったかな?等と冗談を言いながらいつしか眠りに入っていた。

5時前には我孫子北口前に到着した。またの再会を楽しみに!とても楽しい充実したウイズハイクでした。みずきの皆さん、食担係り、各係り、リーダーの方、皆さん本当にお疲れ様でした。私も初めての参加でとても楽しい一日を過ごせたことを感謝しています。



全員集合

ハイキング風景

H22 レポート

(職員) 田中芳枝

毎年「雨?晴れ?」と悩むウイズハイクですが、今年は朝から晴天。

とても暑い1日でしたが、愛宕山に登ると日影が多く、少し風が吹けば気持ち良い山登りでした。(岳人さんの団扇も最高でした。)

今年は8名の利用者と3名の職員が参加させていただきました。初めての参加職員もいたので少し不安でしたが、登り・下りが不安なメンバーも岳人さんと一緒に安心して山登りを楽しむことができました。

とても楽しいウイズハイクでした。ありがとうございました。

次は、市内でお仕事を頑張っている福祉施設の仲間たちにも声をかけたいと思っています。

概要

山名	愛宕山		
月日	平成22年9月4日(土)		
目的	ウイズハイク、施設の若者と山行を楽しむ		
山域	筑波	地形図	1/25000 岩間
形式	日帰り	グレード	1A
費用	2,900円	交通機関	貸切バス
行程	我孫子駅北口集合 8:20/8:25(バス)→愛宕山駐車場 10:15/10:35⇒水分補給 2回⇒南山展望台 11:30(昼食・おでんとお汁粉)/12:40⇒水分補給⇒愛宕山駐車場 13:37/13:50⇒愛宕神社 14:00⇒愛宕神社駐車場着 14:20/14:50⇒我孫子駅北口 16:40(解散) 晴れ<行動時間3時間45分 内 歩行時間2時間20分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・連日の猛暑で乾燥し土埃りが舞い上がる乾いた道のルートでした。 ・途中2箇所急勾配の坂道があった。障害の有る人にとってはきつくてしんどい坂でした。 ・案内標識や看板も整備されていて迷うことは無い。 ・最後の愛宕神社への階段は急傾斜で苦しかった。
参加者	<p>A班 外崎(L)、本間(CL)、桐生、小谷、藤倉、高橋重、清家、品田、大林(みずき)、徳本(みずき)、山本(みずき職員)</p> <p>B班 柴(L)、小川誠(CL)、中村育、新谷、本田、武内、根本(みずき)、加納(みずき)、藤本(みずき)、大久保(みずき職員)</p> <p>C班 石垣(総括 L)、中村隆(CL)、小川洋(SL)、原田君、千葉、原田和、斉藤(みずき)、堀(みずき)、吉水(みずき職員)</p> <p>岳人あびこ：20名 みずき：11名</p>



昼食中

概念図



< 7 0 5 >

飛龍山
(2,069m)

新谷直恵

奥多摩駅からバスで終点の鴨沢西で下車し、お祭りまでは20分程歩く。そこから単調な林道をひたすら歩く。山の斜面からは豊かな水が滲み出し、水滴が緑の中に涼しげだ。ところどころにワサビ田も見える。このあたりは都内の水を賄う水源地でもあり、両日とも東京都水道局の表示を多数目にするようになる。また緑の中イワタバコや大文字草の可憐な花が咲いている。途中車にひかれたらしいヤマカカシの死骸があり、子供の頃に出会ったへび談義にしばし花が続く。

黒滝橋、釜の沢橋、後山橋など小さな橋を経て、塩沢橋を渡ったところで昼食をとる。13時、青岩谷橋のところようやく長い林道が終わり、沢を渡ると鬱蒼とした緑陰の山道に入る。林道とは異なって樹陰の中はやはり気持ちが良い。13時45分三条の湯に到着。



三条の湯山小屋前にて

小屋の前には「かき氷」の旗がひらめき、女性群は歓声を上げる。この小屋は三条の湯というだけあって温泉があり、男性たちは喉を潤す前にまずひと風呂浴びると言い、その間に女性たちはかき氷を楽しむ。

40 畳ほどの広間に、客は私たち6名と他に男性が1人。小屋は鬱蒼と茂る木立に囲まれ、昨日までの下界の猛暑は嘘のよう。お風呂上がり、それぞれにおつまみを出してビールで山談義が始まる。なんとも贅沢な避暑である。

夕食にはローストビーフならぬローストシカが出た。小屋の主は増えるカモシカを許されているという。温泉も、かつては傷付いたカモ

シカがそこに流れる鉱泉で傷を癒していることから発見されたという。お湯は鉱泉を沸かしたもので、男女交代に12時から21時まで入ることができる。素朴なお湯に身心ともに癒される。夕食後にもう一度湯に入って、早めに休むことにする。山の静寂と冷気、そして温泉とおいしい食事と、ここはまさに山の天国だ。小屋の下にテント場があるが、沢の音が大きくてなかなか眠りにつけなかったと言っていた。

翌朝は5時半に朝食をとり、小屋の横で坂巻さん音頭のラジオ体操をしてから6時半に出発。小屋の裏手を登り深い雑木林の中、ジグザグ道に行く。飛龍山頂手前の北天のタルまでは比較的歩きやすい道だが、北天のタルからは岩の段差や木道が続く。下を見るとかなりの高さがある。足がすくむので、前を見ながら慎重に進む。リーダーはザイルも用意してくださったが、結局使わずに進む。

飛龍山頂への道は見過ごしやすく、リーダーは下見の際、飛龍権現まで進んでから山頂へ往復されたということで、みんなで注意しながら歩いた。木にかかる「飛龍山頂への近道」という標識は小さく、なるほど見落としやすい。10時5分山頂に到着。まわりへの視界は開けずここも原生林の中。途中大きな石楠花の樹があり、花の咲く頃は見事だと想像する。

飛龍権現に下るが、その右手に禿岩という標識の方へ進むと、一気に視界が開け、奥多摩の峰々、富士山の絶景が楽しめる。ずっと樹林帯を歩いてきたので、一同まるで大岩の上に集う天狗のような気持ちで、しばらく景色を楽しむ。



禿岩にて(岳人あびこ初登頂)

急斜面を登って前飛龍に行くが、山頂は標識もなく、このあたりかなというところで昼食をとる。そこから熊倉山への道はさらに急勾配が続く。木の根につかまりながら、必死でいくつかの峰を超える。岩場を過ぎるといつのまにか岩倉山を過ぎていて、そこからしばらくは緩斜面のなだらかな尾根を下ると、やがて広い竿裏峠の十字路に着く。

竿裏峠は、果てしなく続く急斜面のジグザグ道。時間にしては1時間程だが、まだか、まだ

か、…と嫌になるほど、ただ下る。リーダー曰く「ここは精神修養の道」。ようやくたどり着いた丹波下山口は 15 時 52 分。そこからシカ除けの金網が張り巡らされた野菜畑をいくつか通ってバス停へ。市街にある「のめこいの湯」で入浴し、そこで反省会。この日の行動時間は 9 時間 40 分におよび、温泉の湯でパンパンになった足の疲れを癒せたのは仕合せだった。



← 飛龍山頂にて

飛龍山中腹の富士山 ↓



概要

山名	飛龍山		
月日	平成 22 年 9 月 1 日(土)～1 2 日(日)		
形式	山小屋	グレード	3A
山城	奥秩父	地形図	1/25000 雲取山、丹波
目的	初秋の手頃な山		
費用	13,000 円	交通機関	JR、西東京バス
行程	1 日目	我孫子駅 5:31→日暮里 6:01/6:07→新宿 6:27/6:44→立川 7:09/7:15→青梅 7:51/7:54→奥多摩 8:29/8:35(バス)→鴨沢西 9:15/9:26⇒お祭バス停 9:45/9:50⇒休憩 10:00/10:05⇒休憩 10:30/10:40⇒黒滝橋 10:55/11:00⇒後山橋 11:15⇒塩沢橋(昼食)11:20/11:45⇒蔦久保橋 11:55⇒休憩 12:45/12:50⇒青岩谷橋(林道終る)13:00/13:05⇒三条の湯 13:45(泊) <行動時間 3 時間 55 分 歩行時間 3 時間>	
	2 日目	三条の湯 6:20⇒休憩 6:55/7:00⇒休憩 7:42/7:47⇒休憩 8:30/8:35⇒北天のタル分岐 9:05/9:15⇒山頂近道分岐 9:40⇒飛龍山頂上 10:05/10:20⇒権現 10:45⇒禿岩 10:50/10:55⇒飛龍権現 11:00/11:05⇒前飛龍山(昼食) 11:50/12:10⇒熊倉山 13:05/13:15⇒休憩 13:37/13:42⇒竿裏峠 14:10/14:20⇒休憩 15:05/15:10⇒休憩(標識のある広場)15:20/15:25⇒丹波下山口 15:52⇒丹波市街バス停 16:00⇒「のめこいの湯」(入浴と反省会) 16:20/18:22(バス)→奥多摩駅 19:10/19:26(JR)→青梅 20:04/20:08→立川 20:37/20:39→西国分寺→新松戸→我孫子 22:00 <行動時間 9 時間 40 分、歩行時間 7 時間 55 分>	

ルート状況

- 登山ルートも案内標識もよく整備されていて、道迷いの心配は無い。
- 飛龍山頂上(2069m)の手前 1800m 位まで(北天のタルまで)は段差も岩場も木の根も無い歩き易い道。
- 北天のタルから上は、木の根、岩の段差や、木道がある。木道は、それを踏み外すと危ない高さを綱渡りのように歩くところもある。
- 北天のタルからの登山道は道なりに行くと飛龍山の下を通過して飛龍権現に達する(飛龍権現から頂上往復となる)。飛龍山頂上への近道に入る小さな標識と直登の道がある。下を向いて道なりに歩いていると見落とす。この近道のルートを取って頂上に達し、飛龍権現に下りるコースを取れば、飛龍権現まで行ってから頂上往復するルートに比べて 1 時間強節約になる。
- 飛龍権現から禿岩に寄り道をしたが素晴らしい眺め。岳人あびことしては禿岩初登頂のつもり。
- 飛龍山頂上から前飛龍山を経て、熊倉山までの途中までは急勾配を下る岩場あり、木の根に掴まる登りもあり、道が崩れていて大きな倒木と岩を越えるところもある。雨天は難渋する道。
- 前飛龍山から下りの岩場を過ぎると、熊倉山までの途中から竿裏峠までは、水平の歩きやすい道。
- 経路ははっきりしていて、道もしっかりついているが、標識がない距離が長く、不安とまでは行かないが寛がない。前飛龍山の頂上は、ここと思うところに標識がない。「熊倉山」は注意していたが、標識を見落とすまま通過した。

参加者 小川誠(L) 箕輪力(SL)、榊原、新谷、箕輪完、坂巻 男 3 名、女 3 名、計 6 名

概念図



< 7 0 6 >

二子山 ・ 両神山
(1,166m) (1,723m)

中村 隆泰

岩稜のスリルを楽しむ

1日目 二子山

バスで民宿「登人」近くの登山口まで入り、不要の荷物を宿に預ける。声の大きいおばちゃんが迎えてくれた。今日は貸切りだとか。

先ず沢沿いの爽やかな道を登り詰めると双子のピークの間にある股峠につく。ここで岩登りの装備（簡易ハーネス、シュリング、カラビナ）を身につけて東岳に向かう。滑りやすい土の斜面から、登るにつれ岩が増えてくる。ロープ、鎖のある岩場をよじ登り山頂へ。山頂からの西岳の眺望は素晴らしい。あれを登るのかと思うと胸が躍る。

岩場は登りより下りが大変。一か所補助ロープを使って確保したが、何事も経験のつもりで、確保なしでも通過できる場所ではあった。

股峠で昼食をとり、西岳へ向かう。上級者コース（岩壁を直登）と一般コース（迂回）があるが、一般コースに行く。とは言っても岩場の連続で簡単には頂上へたどりつけない。ただ石灰岩の壁なのでホールドやスタンスは豊富で、鎖なしでもしっかり確保して登れる。西岳の頂上で明日登る山や周囲の山を確認しながら小休止。

ここからの下りはいきなり本日の核心部、リッジ。足元は遥か下まで切れ落ちており、這うようにして進む。緊張の連続でバランス力を問われる場面だ。手足に神経を集中しながら高度を下げていく。



西岳から西に伸びるリッジ



西岳の雄姿(東岳より)

魚尾道峠に辿り着いてようやく緊張が解けた。振り返れば歩いてきた東岳と西岳がくっきり、険しい岩場を乗り越えた満足感に浸る瞬間だ。一路風呂と泡とご馳走が待つ宿へ。

概念図



↑二子山東岳の下り

↓両神山 東岳への登り



第2日目 両神山

八丁トンネル登山口は駐車場とトイレがあり、二子山の眺めもなかなかである。入山届を出して歩き始めると、早速クサリのお出迎え、温まっていないエンジンにはこの急登はこたえる。途中坂本からの道を合わせ八丁峠につく。両神山を遠望するとギザギザの山稜が特徴であり、これからそこを歩くわけである。気合いを入れ直して八丁峠を出発。

雑木林の中を行くとクサリ場の登りになった。垂直のように見えるクサリの定員は1名で頭上に人がいる間待つことになる。そのクサリ場を登り切った所に「行蔵峠」の標識があった。そこから下ってまた露岩とクサリ場を繰り返す。息つく暇がなかった。西岳で小休止。昭文社の地図に「東岳～西岳クサリ場の連続、登降には十分注意」とある。垂直に落ちる岩場を谷底まで下られ、そして再び登り返す。登降を繰り返して東岳へ、ここまでくれば核心部を通過したことになり、頂上を目指す。岩場は少なくなったが、いくつかのピークに騙されながらやっと両神山山頂に着いた。狭い山頂には大勢の人でにぎわっている。

昼食を済ませて、下山にかかる。山頂直下にもロープやクサリ場があり、急坂の下りが続く。清滝小屋で美味しい水を補給しながら小休止。10年前の市民登山が懐かしく思い出される。今下ってきた急坂を市民のみなさんは登ったのだと思うと脱帽である。

これから先は長い下りが続く。下りとはいえ地球の引力に逆らうと疲れた足には相当こたえる。バスの待つ日向大谷へひたすら歩く。

今回の2日間のコースは予想以上に手ごたえのある山行ではなかったでしょうか。怖い思いをしながら、それを無事達成したみなさんに拍手と感謝。多謝



概要

山名	二子山・両神山		
月日	平成22年9月18日(土)～19日(日)		
山城	奥秩父	地形図	1/25000 両神山、中津峡
形式	民宿泊	グレード	2C
目的	奇岩、岩稜のスリルを楽しむ。		
費用	17,400円	交通機関	マイクロバス
行程	第1日目	我孫子駅北口 5:30(バス)→柏 IC5:50→嵐山 PA7:38→花園 IC7:58→秩父駅(太田さん乗車)9:13→坂本登山口(民宿登人)9:55/10:10→股峠 11:15/11:35→二子山東岳 12:10/12:25→股峠 13:15/13:28(昼食)→二子山西岳 14:20/14:30→西岳西峰 15:10→魚尾道峠 15:45→国道 16:50→民宿登人 17:10(泊) <行動時間7時間、歩行時間5時間40分>	
	第2日目	民宿登人 5:50(バス)→八丁トンネル登山口 6:15/6:30→坂本への分岐 7:28→八丁峠 7:40→行蔵峠 8:53→両神山西岳 9:10→両神山東岳 10:40→両神山 11:45/12:10(昼食)→両神神社 12:43→清滝小屋 13:45→弘法之井戸 14:02→八海山 14:28→沢で休憩 14:40→最後の休憩 15:35→日向大谷着 16:25/16:40(バス)→秩父駅(太田さん下車)17:40→花園 IC 18:48→嵐山 SA19:00→柏 IC20:45→我孫子駅北口 21:08 <行動時間9時間55分、歩行時間8時間30分>	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・両日とも道標はしっかりしていて迷うところは殆どないが、岩稜帯は踏み跡が不明瞭の所や分散している所がある。全員がルートファインディングを心掛け、早めの軌道修正が肝要である。 ・目的の奇岩、岩稜を楽しむことはできたが、2日目大勢のパーティーのため、難所の通過や対向者との離合に時間を要し、予定の行動時間を大幅に超過した。 ・「1日目は岩登り訓練です」と宣言、股峠で簡易ハーネス・シュリング・カラビナを装着し、厳しい岩場に備えた。結果的には殆ど使うことなく険しい岩稜帯を通過できた。お守りと思えば気分的に安心である。その訓練の成果か、2日目両神山までの連続するクサリ場にも十分対処し、無事通過することができた。 ・マイクロバスは両日とも登山口まで入るので、1日目約30分、2日目約2時間の短縮ができた。特に2日目は八丁峠下の八丁トンネル入口まで入るので助かる。両方の登山口にトイレあり。 		
参加者	中村隆(L)、田村(SL)、村松敏、榊原、原田君、大島、原田和、小川誠、桐生、矢野貞、斉田、坂巻、太田(ゲスト) 男6名 女7名 計13名		

< 7 0 7 >

津梅川・追良瀬川

千葉有子

白神に魅せられて

白神に通う理由

『溪を遡り、ブナ林の台地で焚き火を囲み、自然の恵みをいただく。そしてその懷に抱かれて眠る。いま夢中になっている遊びである。』

溪巡りの醍醐味を味わうにはまだまだ未熟であるが、日常生活で補うことのできない、充足できないものを満たしてくれることは、確かである。

最小限の生活用品だけを背負い、自分の足で自然の中に分け入る。世俗との乖離、とは言わないが、長い人生のほんの僅かなひとときを、全身全霊をもって、自然の中に身を委ねる。そして自然と交感できる喜びにより、歪んだ心のひだが蘇生していく瞬間を自覚する。これほど贅沢な遊びは今のところ他に見つからない。

溪巡りに徐々に目覚め、自然との交感を通して魂を揺さぶられる思いに駆られていく私は、森林の民の遺伝子を受け継いでいることを確信するとともに、自然回帰への無意識的な願望が、むくむくと頭を持ち上げてくることを予測するのである。』（『白神山地巡りの旅』 内田伸子）

白神の沢に初めて足を踏み入れたのは6年前の夏。そのときから白神の沢に魅せられている。なぜかと聞かれてもうまく説明できない。今回の山行中も佐藤さんに尋ねられた。

「千葉さんは白神が素晴らしいって言うけれど、何がそんなにいいの？」疲れ果て、不安をいっぱい抱えた状態で健一さんの口調は当然ながら少々恨みがましい。そのときは答えに窮してしまっただが、内田さんの文章がその答えを言い尽してくれている。

内田さんは岡山労山の方で、今まで私が四度訪れた白神のうち、二度を御一緒させていただいた。最初の時も一緒だった。初めてなのに無謀にも4泊5日、2度の稜線越えがあ

る山行に参加した私は、最初の稜線越えで泥壁と悪戦苦闘した。2回目は秋田、青森観測史上最大の大雨に遭遇。リーダーの英断で2日目に撤退。撤退した日は薄日も差していただけに少し残念な気がしたが、その夜から雨脚が強くなり翌日はバケツをひっくり返したような雨。私たちと同時に白神に入っていた横浜のパーティーは撤退の時期を誤り、ヘリコプターでピックアップされた。

その英断を下してくれたのが小谷リーダーだ。白神の沢に道はない。滝が出てくればどうやって越えるかを考える。奥多摩や丹沢など人気の沢にはガイドもあれば、ちょっと探せば横の斜面に答えが見つかる。残置シュリングやハーケン、巻道の跡が残っているからだ。しかしいくら探しても白神の沢で答えを見つけるのは難しい。今回も二日目、ウズラ石沢の滝で残置シュリングと踏み跡を見つけた。しかし、その道はすぐに断崖にぶつかり、そこからどうやって下りたのかは痕跡が何も残っていなかった。そんな折も小谷さんは必ず確かな答えを見つけてくれる。



何度懸垂をしたらろう。

足回りについて

沢では最近ほとんどの人が溪流シューズを履く。底がフェルトになっていて、滑らない。しかし、稜線越えや滝の高巻きの時など泥壁には無力だ。そこで小谷さんが考案したのが鉤付きの地下足袋だ。林業に従事する人が利用するもので、地下足袋の底に鉤が打ってある。溪を歩くときはこの地下足袋にフェルト製のわらじをつける。従来のわらじがフリクションの面では最高なのだが、弱くてもたない。私はモンベルの溪流サンダルを利用して

いる。そして稜線越えの時はわらじを脱ぎ、
鋌付きの地下足袋で歩くのだ。

ルート探索について

ルート上もっとも困難なのが稜線越えだ。
越える地点を誤ると、とんでもない方向の沢
へと下ってしまう。今回も3日目、追良瀬川
黒滝沢から稜線を越え、津梅川小又沢へ下る
ルートが難しかった。「やまたん」のその部
分を転載する。

- この日の稜線越えは地点を間違え、違う沢
を下降すれば、困難な滝に出たり、全く違
う方面（秋田側）に下りたりしてしまう。
GPS、地図、磁石、高度計を最大限に利
用。地形も読みながら、山越え地点を間違
えないよう気を付けた。
- しかし、最低鞍部 790mにつきあげる沢に入
ろうとしたが、1本早く入ってしまったら
しい。高度計が 800mを越え、850mを越え
てもまだ稜線につかない。途中大樹が倒れ、
行く手を阻む。あまりに大きくて越えるに
越えられず、枝が多くて、くぐろうにもく
ぐれない。下は泥状で滑ることこの上なし。
各人悪戦苦闘しながらやっとのことで踏破。
- 曇りがちだった空がこのころからきれいに
晴れあがり、稜線に上がると周りが鮮明に
見渡せる。胸がすくように気持ちがいい。
ここまでの大変な思い、行く手の不安も忘
れしばし、白神の風景に見とれる。
- 晴れたおかげで振り返ると歩いてきた沢の
向こう側に、823mとそれに連なるピークが
見える。最低鞍部でなく、861mピークに向
かっていたことが判明。「この稜線を西北に
下れば目的の最低鞍部につく。そこから左に
沢を目指せばいい」と、小谷さん。晴れてい
ればこそできた現在地確認。白神にやはり神
様はいた。西に沈んでいこうとする太陽を見
ながら先を急ぐ。
- 今日こそ明るいうちにテント場につきたい。
その思いと裏腹に日は非情に傾いていく。
鞍部から沢をめがけて下り始めたが、斜面
は恐ろしく急。下方から沢の音が聞こえて
きたもののこんなところを下りられるのだ
ろうか。滑りながら、笹に必死につかまり
ながら沢に下り立った。

最も重要なのは地図を見て地形を読むこと。
最近これに加わったのが GPS だ。今回もゲス
トの阿部さんが GPS を持参した。GPS にもいる

いろいろあるのかもしれないが、阿部さんののは事
前に地図上でいくつかのポイントを定め、それ
を GPS に登録。歩行中は「ポイント4から
西北に何メートル」というように一番近いポ
イントからの距離と方向を教えてくれる。今
回、もちろん高度計（気圧式）も利用。高度が
はっきりする地点でその都度調整しながら見
ていたが、あまりあてにならないのが分かっ
た。最終日、早く駐車場につきたいと高度計
とにらめっこ。もうすでに二俣についている
はずの高度なのに、実際の二俣ははるか遠か
った。

あと何回訪うことができるかはわからない。
しかし、これからも白神の沢深くに分け入り、
水の流れると、その周りを埋め尽くす生命の鼓
動を感じたい。そう強く願っている。

（詳しい沢の記録は「やまたん」を参照して
ください）



黒滝。右岸を大高巻き。

概念図



概要

山名	津梅川・追良瀬川		
月日	平成22年9月22日(水)～26日(日)		
山域	白神山地	地形図	1/25000 大間越、二ツ森
形式	テント	グレード	3C
目的	白神の沢の遡行を楽しむ		
費用	約19,000円	交通機関	車(レンタ)
行程	1	柏 7:10⇒常磐道⇒磐越道⇒東北道⇒秋田道⇒大間越 15:30 (道の駅泊)	
	2 日目	大間越林道終点 6:45/7:05⇒二股 7:22⇒最初の越えられない滝 8:10⇒赤滝の沢出合 9:50⇒大滝下 9:57⇒大滝上 10:40/11:05 (休憩) ⇒越えられない滝 11:57⇒左から枝沢 13:00⇒三階滝下 13:15⇒三階滝上 13:55⇒テント場 15:00 (カネヤマ沢出合すぐ下)	
	3 日目	テント場 7:30⇒カネヤマ沢出合 7:40⇒左から枝沢 8:00⇒左から枝沢 (2本目) 8:15⇒左から枝沢 (3本目) 8:25⇒2段 12m滝下 8:40⇒2段 12m滝上 9:15⇒十字出合 9:25⇒源流沢涸れる 11:30⇒稜線越え 12:00⇒沢に出る 13:40⇒ウズラ石沢 14:30⇒左岸から沢 17:56⇒テント場 18:10	
	4 日目	テント場 7:30⇒追良瀬川出合 8:05⇒サカサ川出合 9:05⇒白滝沢出合 10:25⇒白滝 10:30⇒稜線越え 15:30⇒沢に出る 16:45⇒テント場候補 17:45⇒最終テント場 18:30 (泊)	
	5 日目	テント場 6:40⇒滝上⇒滝下 (二股すぐ上) 7:30⇒滝 9:45⇒カンカケ沢出合 12:40⇒大又沢出合 13:20⇒林道終点 13:40/13:50⇒八森ハタハタ館 14:10/15:00 (入浴) ⇒ 柏 22:30	

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート上、道はない(下記小又沢・カンカケ沢出合～林道の道以外)。滝の巻き道もほとんどわからない。他のパーティーにも全く出会わなかった。 ・熊の多い地域なので、メンバー全員熊よけの鈴を携帯。沢がカーブして先が見えないところでは笛を吹いて、熊にこちらの存在を気づかせるようにした。 ・沢が開けたところでは、探せば幕営地になる台地が見つかる。万一増水しても危険でない場所を選んだ。 ・最終4日目、津梅川小又沢とカンカケ沢の出合少し上流から左岸に道あり。途中から道は右岸に移り、出合からは右岸に道がずっと続いている。途中崩壊している箇所もあるがその部分だけ沢に下りて迂回できる。 ・常に高度計、磁石で現在位置を確認しながら進んだ。しかし、高度計は途中合わせながらも、狂いがちだった。
参加者	千葉(L)、佐藤健(SL)、北川、佐藤明、小谷、阿部(ゲスト) 男4名 女2名 計6名



↑ これが白神。

← 白滝。
この上にまだ滝は続く。
開けていて明るい場所。

< 7 0 8 >

北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳
(2,862m) (2,840m) (2,898m)

武内勇二

(1日目)

出発日まで富山は大雨だったが、翌日以降の天気予報は曇り、曇り時々晴れと回復の予報が出ており、天気図でも北からの高気圧が張り出しつつあるので、山行決行を決めた。

高速バス・ドリーム号で富山駅前に到着、富山地鉄に乗り換えて有峰口まで行った。例年ここから有峰林道小見線を経由して折立行のバスが出ているが、今年は土砂崩れによりバスは運休中なので、やむなく小口川線を利用してタクシーで折立まで入った。林道通行料込みで15,600円は割高だが他に手段がないので已むを得ない。運転手は、前日は大雨だったので山に入れるか心配したというが、有難いことに雨はすっかり上がり、山の中腹2000メートル近辺にガスがかかっているものの、稜線ははっきりと見えており雨は心配なさそうだ。「晴れ男」神話はまだ生きている!! 自信が湧いてきた。

折立から三角点(1870m)までは急な山道を登る。三角点にはベンチがあり、ゆっくり休憩できる。折立(1356m)～太郎平小屋(2350m)間の標高差1000mのほぼ中間地点だが、水平距離ではまだ1/4といったところ。ここから草原の中のゆったりとした気持ちのよい登りが始まる。高くなるに連れ薬師岳が大きく姿を現し、また西方には加賀白山と思わしき高山が雲海の上に顔を出していた。太郎小屋は空いていて、我々4人のため個室を用意してくれた。



ヤッター!!
黒部五郎岳登頂、
背景は薬師岳

(2日目)

薄くガスが巻いている中を北ノ俣岳を目指して出発した。程なく薬師沢、雲の平へのルートを左に分け、広々とした草原の中を緩やかに登って行く。神岡新道を右に分けると間もなく北ノ俣岳のピークの道標があった。山頂はのっぺりとしているので、道標がなければそれと知らずに通りすぎてしまうかもしれない。薬師沢から吹き上げる風を遮るものがないのでとても寒く、山頂の道標を横目に写真も撮らずにそそくさと通過し、10分ほど歩いたところで岩陰を見つけて休憩した。



なだらかな草原の稜線が続く
左、赤木岳 右奥、北ノ俣岳

北の俣岳～赤木岳へは這松と草原の中を緩やかな上り下りを繰り返しながら行く。赤木岳山頂付近には「雷鳥多い」との標識があるが、快晴となり陽が燦々と降り注いでいる中では出てこないだろう。澄み切った青空の下で、薬師、赤牛、水晶、鷲羽、三俣蓮華、黒部五郎、等黒部源流の山々の景観は息をのむほどに素晴らしい。反対方向には、大笠・小笠が一本に重なった笠ヶ岳が秀麗な容姿で聳えている。



間もなく黒部五郎岳、背景は薬師岳

中俣乗越もそれと気づかぬうちに通過、急な登りとなって喘ぎながらの 1 時間半の苦労が黒部五郎登頂となって報われる。頂上から見下ろす紅葉が始まったカールは箱庭のように美しく、アルプスの奥座敷・雲の平を眼下に、振り返れば朝から辿った赤木岳～北の俣岳～太郎平への道が遠く伸びている。

黒部五郎の肩からジグザグの道を下り、カールの底の水流のほとりで大休憩。頂上を頭にして左右に大きく両腕を上げた大岸壁、夏には花が咲き乱れるであろう残雪の残る草原、羊が群れているような花崗岩の白く輝く巨石、まるで別世界に入り込んだ気分だ。アルプスの清流で作った餅入りぜんざいは格別の味。風は岩の屏風で遮られており、暖かい陽射しの中で暫しくつろぐ。

この辺りで本日の全行程の 2 / 3 位のところ。黒部五郎の小屋泊りならばともかく、予定の三俣山荘まで行くとなると、そうそうのんびりとはしてられない。去りがたい想いを振り切りカールを後にした。

五郎平はカールから 1 時間ほど下ったところにある明るい平原で黒部五郎小屋が建っている。小屋前で小休止し、黒部乗越への登りに取り掛かる。岩のゴロゴロした急な登りは疲れた体に応える。黒部乗越で三俣蓮華岳への稜線沿いの道を分け、三俣蓮華岳の裾をトラバース、1 時間弱で三俣山荘についた。

夜は素晴らしい星空となった一方冷え込みが厳しい。小屋の温度計はマイナス 3 度を示していた。十六夜の月明かりに槍がシルエットとなって聳えていたが、寒くて長くは外に居られない。小屋は空いていたのでゆっくりと眠ることが出来た。



黒部五郎岳のカール

(3 日目)

三俣山荘で、これから個人山行で水晶岳を目指す重さんと、明日の新穂高温泉での再会を約して別れた。



**三俣蓮華登り
途中から見た
槍ヶ岳**

三俣蓮華岳～双六岳はアルプスの大展望を期待して稜線コースを取った。期待に違わず、北アルプスの殆どの山は指呼のうち。「来てよかった」。加えて、弓折岳～抜戸岳～笠ヶ岳の長い稜線も目に入る。余りの長さとうんざりもし、「頑張らにゃ」と再覚悟も決める。双六岳の下りで、ビデオカメラを抱えた NHK のスタッフに出会った。明日から3日間の「おはよう日本」での撮影準備とのこと。お天気は大丈夫かな？

双六池はさざ波が立っていて、湖面に映る笠ヶ岳は見えなかったが、池越しに抜戸岳と笠ヶ岳が遠望できた。ここから見る笠は大笠、小笠が分かれて見えた。気が遠くなるくらい向こうにある。弓折乗越付近は槍・穂の絶好の展望台。槍に向かって急峻に突き上げている西鎌尾根、大喰岳、中岳、南岳、大キレットから北穂、瀧沢岳、奥穂、西穂、そして噴煙を上げている焼岳、とまさに荒々しい山肌が眼前に広がる。昨日見た、優美な黒部源流の山々とは対照的である。

弓折乗越で双六岳から先行していた男女7～8名の高年者パーティを追い越した。お喋りが多く何とも喧しいパーティだった。目的地は笠ヶ岳という。秩父平で、お汁粉パーティがお開き近くなった時に件のパーティに追いつかれた。幸いなことに、彼らも休憩に入ったので、これ幸いと出発した。静かな山で、うるさいのは叶わない。

朝からの快晴も、午後に入るとさすがにガスって来る。秩父岩付近の稜線に出て、ようやく笠ヶ岳を望めるところに出たが、山頂付近は時折ガスがかかるようになってきた。明日の天気は分からないので、山荘に着いたらチェックインだけを済ませて、直ぐに山頂に登っておこうと全員の意味統一を図りながら先を急いだ。

山荘に着きいざ山頂に出発という段階で、急に雨が落ちてきた。こうなれば本日の登頂は断念せざるを得ない。それにしても雨に遭わなかったのはラッキーだった。件のパーティはほんの一寸のところで雨に打たれた模様。小屋は予想外に混んでいた。我々3人は老夫婦2名と同室になった。2人は笠新道を登るのに9時間かかったという。

(4日目)

風雨は夜半に上がり、明け方には雲の合間から星が見え月も出ている。夜明け前だったが月明かりに導かれて山頂に向かって出発した。15分程で山頂に到着し、祠に山の安全を祈願した。三角点は祠より離れた場所にある。上空は星が見えるのに槍・穂高山頂付近には厚い雲がかかっていた。「播隆上人が見た槍の英姿を望む」ことは期待出来そうにもないので、記念撮影を済ませ早々に小屋に戻った。

抜戸岳手前まで昨日来た道に戻ると笠新道分岐の道標がある。笠新道は予想通り厳しい下り。杓子平までは明るい斜面で急ながらも楽しいが、杓子平を抜けてからのジグザグ道は、飛び石伝いに歩かねばならないところも多くて気が抜けない。樹林帯に入っても急なジグザグ道が続き、やがて膝が悲鳴を上げ、スピードがぐんと落ちた。左俣林道の登山口付近で、双六から小池新道を下ってきた重さんの出迎えを受けた。何でも1時間近く待っていてくれたという。

登山口の水場で喉を潤し、元気を盛り返したところで1時間ほど林道を歩いて新穂高温泉についた。中崎山荘の湯につかった後、ジョッキを傾けて充実した山行の千秋楽となった。



笠ヶ岳

概念図



概要

山名	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳		
月日	平成 22 年 9 月 23 日夜～27 日		
山城	北アルプス	地形図	1/25000 有峰湖、薬師岳、三俣蓮華岳、笠ヶ岳
形式	山小屋	グレード	4C
目的	北アルプス裏街道の縦走 黒部五郎のカールと草原の道を歩く		
費用	50000 円	交通機関	JR、富山地铁、タクシー
日程	前夜	我孫子 20:50→上野→上野駅入谷口 21:50 (ドリーム号金沢行) →	
	1日目	→富山駅前 6:00/6:18(富山地铁)→有峰口 7:18 (タクシー)→折立 8:35/8:50⇒休憩 9:25/9:30⇒休憩 9:50/10:00⇒三角点 10:40/10:50⇒ベンチ(1233m 地点)11:55/12:10⇒五光岩ベンチ 12:30⇒太郎平小屋 13:30 (泊) <行動時間 4 時間 40 分 歩行時間 4 時間>	

2日目	太郎平小屋 6:00⇒休憩 7:00/7:05⇒神岡新道分岐 7:40⇒北の俣岳 7:50⇒休憩 8:00/8:10⇒赤木岳 8:50⇒中俣乗越 9:20/9:30⇒休憩 10:10/10:15⇒黒部五郎の肩 11:10⇒黒部五郎岳 11:20/11:30⇒黒部五郎の肩 11:40⇒黒部五郎カール 12:10/12:45⇒黒部五郎小屋 13:50/14:00⇒黒部乗越 15:20/15:25⇒三俣山荘 16:30 (泊) <行動時間 10 時間 30 分 歩行時間 9 時間>
3日目	三俣山荘 6:15⇒水平道分岐 6:55/7:00⇒三俣蓮華岳 7:15/7:25⇒中道分岐 8:25⇒双六岳 8:50/9:00⇒双六小屋 9:40/9:55⇒弓折乗越(鏡平分岐)11:00/11:05⇒大ノマ乗越 11:30/11:35⇒秩父平 12:45/13:15⇒笠新道分岐 14:25/14:30⇒笠ヶ岳山荘 15:40(泊) <行動時間 9 時間 25 分 歩行時間 8 時間>
4日目	笠ヶ岳山荘 4:55⇒笠ヶ岳 5:10/5:25⇒笠ヶ岳山荘 5:40/6:25⇒笠新道分岐 7:30/7:40⇒杓子平 8:30/8:40⇒休憩 9:30/9:40 笠新道登山口 10:50/11:05⇒中崎山荘 12:05/14:20(タクシー)→平湯バスターミナル 15:00/15:35 (高速バス新宿行)→新宿駅西口 19:45⇒新宿駅 20:01→神田→上野 20:33→我孫子 (解散) <行動時間 7 時間 10 分 歩行時間 5 時間 25 分>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・有峰林道小見線が土砂崩れにより通行禁止になり、有峰口～折立間のバスは運休中の為、有峰林道小口川線を利用し折立までタクシーで入った。(料金 15,600 円) ・2日目、3日目の歩行時間は8時間を越すロングコースなので、出来るだけ装備は軽く、特に水は途中の小屋で補給できるので最小限に留め置いた。 ・4日目の笠新道の下りは、杓子平を過ぎてからの下りが結構厳しい。
参加者	武内(L)、高橋重、品田、中村育 男 2 名 女 2 名 計 4 名

< 7 0 9 >

天狗角力取山 ～ 障子ヶ岳
(1,376m) (1,482m)

高橋 重

素晴らしい東北の山の研修

今山行は、参加メンバーより一足先に寒河江に入って、友人と一献傾けた翌早朝の合流を、武内リーダーにお願いし、ご許可いただいた。15日17時前に寒河江駅に下りると、仕事を早く切り上げた友人が予期もせず迎えに来ていた。古い温泉である宿泊先のホテルシンフォニーで、2人とも一風呂浴びてから駅前の焼鳥屋でコーゲン類と、かなりの焼酎を消化した。寅年にちなんだ虎屋株式会社（寒河江市）の『虎酔伝説虎虎』の黒ラベルだった。名前も良く、旨かった！

翌朝5時前に電話が鳴り、メンバーを乗せたジャンボタクシーが迎えに来た。登山口の南俣沢の橋までは雨降りで、体内はまだ「酒気帯び」状態だった。車を下りると雨は殆ど止んだ。食料と装備の一部を託されザックカバーを着けて出発する。昨晚「早く切り上げるぞ！」と心に誓った思いは、いつもどおり吹っ飛んでしまい、その罰として緩い登りながら辛さを感じるのは自業自得だ。

今日は「晴れの素」と「雨の素」どちらが優勢だろうか？リーダーの「晴れの素」の勝ちかな？などとたわいもない会話をしているうちに、標識のある「焼峰」や「猟師の水場」を過ぎた。立派なブナや楓の紅葉が現れる尾根道を歩く頃には、体調は正常近くに戻ってきた。



天狗角力山の土俵。背景の山は障子ヶ岳(左)と栗畑(右)

雨量計小屋付近からは視界が大きく広がり、障子ヶ岳の峻峰や鮮やかな秋の紅葉の山を味わいながら、敷き詰められた石畳の階段を栗畑まで登る。天狗小屋も紅葉の台地にポツンと見える。天狗角力取山頂上のすぐ下には天狗相撲取伝説の広場があり、小石の仕切線や土俵が作られていた。「英ノ山」と小兵の「外ノ川」がザックを背負ったまま四股を踏んで対戦した。「外ノ川」が負け、明日は晴れる予感がした。横綱「武勇山」の土俵入りもあり、大笑いで相撲を楽しんだ。

土俵と言われる砂礫と白砂は、地表の凍結と融解による「構造土」のようだ。(日本の典型地形：国土地理院技術資料) 11時半、我が家の床よりはるかにピカピカでキレイなフローリングの天狗小屋に入る。すぐ近くの沢で15リットルほどの水を汲んだ。

2階への階段には天狗面が飾られている。早く到着すれば楽しみは飲むしかない。スナック天狗は12時過ぎに開店した。まずはリーダーから「出発前に言い忘れたことあり。今日はおしゃべり自由です」との話、理由は熊よけの鈴になるからとの説明だった。なるほど???



障子ヶ岳を背景に



紅葉を見ながらの稜線歩きは雄大で気分も最高

その後、入山祝の缶ビール 3 本で乾杯した。手作りのキュウリのキューちゃん風漬物や、ミョウガ・ショウガ・トウガラシ葉の醤油漬、野沢菜、乾き物等々が供され酒がすすむこと……。ほろ酔いで楽しい会話と山の歌を歌っている間、弱い冬型のため小屋の外はゴォーと音を立てていたが気にはならなかった。宴は 5 時間以上も続き自然に？「小虎」になった。

天候もスッキリしないので、今日的小屋は空いているとの予想は外れ、6 時頃には 2 階には私たちを含めて 20 人近くが入った。1 階にも数名がいた。メインルートから外れるコースにこれだけの人が入って賑わうのは、絶壁と紅葉の鑑賞が目的だろうか？食事時には隣のパーティーからビスケットとチーズの差入れもあった。自炊の小屋泊は、他パーティーの食材を盗み見できる良い機会だったが、3 人のお隣さんは焼き肉をしていた。

私たちの夕食は、サトイモやニンジン、ネギ、豚肉などのたくさんの具が入った豚汁改め、最上級のけんちん汁だった。「岳人あびこ」の自炊山行時の食事はバラエティーに富み、これまで山では、どちらかと言うと「寂しい」食生活だったので本当に入会して良かったと思う。今回は教育研修「避難小屋に泊ってみよう」だ。最高！！

翌日は天気も回復し、南北 60 km という朝日連峰の主脈を眺めながら障子ヶ岳に向う。スッキリとしたピラミッド形の障子ヶ岳は 1,482m とは思えないキリリとした雄姿だ。コンサイス日本山名辞典によると、『障子』とは「屏風、幕などと同様に大きな岩壁につけた名称。尖峰をいうこともある。」と記載されている。＜障子岳＞は全国に 5 山あり、10 月末に行く予定の祖母山から古祖母山を結ぶ尾根には天狗岩も障子ヶ

もある。天狗と障子は関係が深いのだろうか？楽しみだ。そして障子山も 3 個、谷川岳と万太郎山の国境稜線には大障子ノ頭、小障子ノ頭などもあり、なるほどと思う。山から戻り、山名などのいわれを知ると山の楽しみが増す。

障子ヶ岳から紫ナデまでは、積もった雪が雪崩となって落ちる風下側が急峻な、東西非対称山稜となっている。朝日連峰の中でも、この付近は後立山連峰と同じ感じだ。

雪崩で磨かれてスッパリ切れ落ちた中先沢のスラブの白と、そこに映える紅葉を見ながらの稜線歩きは雄大で気分が良い。紫ナデから北は大檜原山、赤見堂山などのたおやかな山が遠くの月山へと続いている。紫ナデピークを過ぎ、大クビトの上りが終わると今度は急降下だ。トラロープが何箇所も出てくるし、滑って前の女性に追突するほどだ。1 時間以上下り、休憩をお願いしたくなる頃、漸く出合吹沢に出る。ここで『お汁粉』タイム。「あんこやお餅」などの重い荷物を担ぎ上げて下さるリーダーに脱帽、ありがたい気持ち一杯である。感謝！！するばかり。

林道にはすぐ出た。ここから振り出しの南俣沢の橋を渡り、小一時間歩く間に紫色のアケビの実を見つけるが、蔓が丈夫なのでなかなか取れない。揺ると中の甘い実が落ちてしまう。別の場所で、漸く取れたアケビは、まだ実が開いておらず食べた女性陣の口には合わなかったようだ。下りはリーダーの『話』のとおりで、いつも以上に次々と出てくる話題を聴きながら熊にも会わず、大井沢温泉ゆったり館には 13 時過ぎに着いた。300 円の温泉にゆっくり入浴し、いろいろ端でビールを飲んで秋の朝日連峰の充実感に浸った。

寒河江にタクシーで戻り『“左” 沢線』に乗り継いだ。左と酒は関係が深いのは？などと思う間もなく車中から近々A氏が登る蔵王連峰の三角形の雁戸山が見えた。障子ヶ岳のような派手さはないが何度も登った山が懐かしかった。山形からは新幹線で二時間半、一番後ろの座席をキープし、麦酒や日本酒、焼酎などを飲みなが

らワイワイと語り続けた。長かった東北勤務を思い出し「何番目かの故郷の山」を満喫することができた素晴らしく、楽しい避難小屋泊の研修山行だった。

充実した「秋の東北の山」を計画いただいたリーダーと、メンバーの方に厚く御礼申し上げます。

概念図



概要

山名	天狗角力取山～障子ヶ岳		
月日	平成 22 年 10 月 15 日夜～17 日		
山城	朝日連峰	地形図	1/25000 大井沢
形式	避難小屋	グレード	3 B
目的	紅葉を楽しむ		
費用	23000 円	交通機関	高速バス、タクシー、JR
日程	前夜	我孫子駅 21:00→東京八重洲通り 22:50(東北急行バス TOKYO サンライズ号山形・新庄行)→	
	1 日目	山交バス寒河江営業所 4:45/5:00(タクシー)→南俣沢出合 5:55/6:25⇒焼峰 7:45/7:50⇒猟師の水場 9:00/9:10⇒栗畑 10:20/10:30⇒天狗角力取山 10:55/11:20⇒天狗小屋着 11:30 (泊) < 行動時間 5 時間 0 5 分 歩行時間 4 時間 1 5 分 >	
2 日目	天狗小屋 6:10⇒栗畑 6:30⇒障子池 7:05/7:15⇒障子ヶ岳 7:50/8:15⇒紫ナデ 9:15/ 9:20⇒大クビト 9:55⇒出合吹沢 11:30/12:05(お汁粉タイム)⇒林道 12:10⇒南俣沢出合 12:30⇒大井沢温泉 13:30/15:00(タクシー)→寒河江駅 15:40/15:52→山形駅 16:18/17:05(つばさ 126 号)→上野駅 19:50/20:13→我孫子駅着 20:45 < 行動時間 7 時間 20 分 歩行時間 6 時間 05 分 >		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 熊出没のニュースが相次いでいるので、出会い頭の事故を避けるため鈴を鳴らし笛を吹いて警戒した。 雨量観測所から栗畑の登り(標高差約 70 m)は、山中にも拘わらず形の揃った石を敷き詰めた石畳の道。 2 日目の紫ナデからの下りは、大クビトを過ぎてから出合吹沢までの下りが特に厳しい。 出合吹沢は大雨による水流が多い場合、渡渉は困難となる恐れある 天狗小屋(管理人は 10 月 11 日以降は不在)維持協力金 1,500 円
参加者	<p>武内(L)、高橋重、高橋英、外崎、桐生齊田、青山</p> <p>男 3 名、女 4 名、計 7 名</p>

< 7 1 0 >

乾徳山
(2,031m)

本田愛子

晩秋の10月24日乾徳山(2031m)山行に参加しました。

天気予報では午後から雨が降り出す模様で秋晴れは期待できそうにもないようです。我孫子を13名(男4、女9)マイクロバスで5:30出発 渋滞もなく中央高速を走り談合坂PAで休憩して勝沼インターから塩山市内を通り大平牧場へ向かい道幅の狭い山道を登って牧場入り口の駐車場に着いた。高い駐車料(2000円)だった。ラジオ体操第一を何年か振りで輪になってやって、私達の年代は覚えていて体が解されたようでした。歩き始めると牧場の中に入っていき乾徳山登山入り口の看板が立っていた。衣服調整をして山道を登っていくと林道に出たが横切り再び林の中に入りジグザグ登っていくと左側が開けて雲海と富士山がくっきりと見えた。休憩して緩やかな道を行くと高原ヒュッテ方向との広い分岐点の国師ヶ原に出た。私達は月見岩方向へ向かうがここから急な登りになるが黄金のススキの中を行くのが気持ち良く晩秋を十分に味わいながら登っていくと大きな岩が目前に現れた。

月見岩で遠くの町々や眼下の町を眺められるのんびりしたい場所だった。

そこから段々と岩場が多くなり所々に鎖場があり一気に登るが足場があるので初歩のクライミング気分で緊張しながら楽しんで登れた。いよいよ頂上直下の岩の前にきたが約10メートルの岩登りは前の人の足場をみて後の人に声をかけてもらいながらのロッククライミングは緊張でした。

山頂は360度の展望で風が強かったけど岩場の横で食事をとった。山頂でひと時のんびりして急な岩場を緊張しながら下りていく途中で私は岩場で足が攣った。岩にしがみつじっと動けない状態が2度程ありその後左の腰が痛くなって皆さんに助けを求めシップを貼ってもらいロキソニン薬を飲んで歩けるようになった。ザックも持ってもらい樹林帯の急坂を下っていくと急に目の前が開け高原ヒュッテという避難小屋があった。前で休んでいるとポツポツと雨が降り出したので雨具に着替えたりして後少しと頑張っ歩きだすと元の国師ヶ原の分岐に出て元きた道を下りて大平牧場に戻ってきた。雨も小降りですれほど濡れずに済んで良かった。

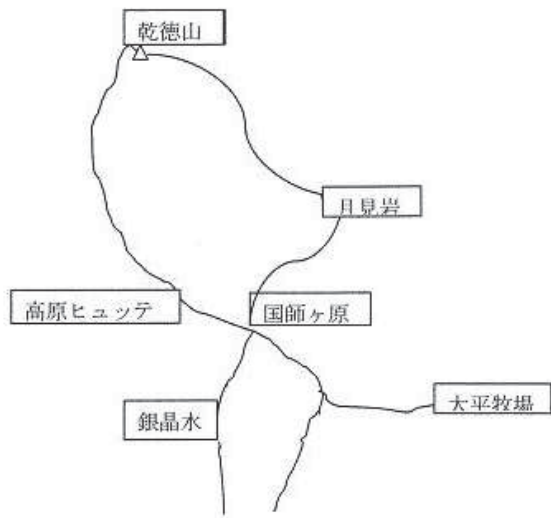
帰りのバスでは宴会気分で民謡や歌謡曲を歌いながら渋滞も気にならずに戻れた。

私は皆さんにご迷惑をかけてしまいましたが皆さんのご好意に甘え無事に下りてこられて感謝しています。秋を満喫して変化に富んだ楽しい乾徳山でした。



乾徳山
頂上で集合写真

概念図



頂上直下：垂直登坂する



概要

山名	乾徳山		
月日	平成 22 年 10 月 24 日		
山城	奥秩父	地形図	1/25000 川浦
形式	テント	グレート	2 B
目的	紅葉と岩峰を楽しむ		
費用	4900 円	交通機関	貸切バス
行程	<p>我孫子駅 5:35(バス)→柏 I C 5:50→談合坂 S A 7:10/7:23→勝沼 I C 7:45→道の駅(花かげの郷) 8:07/8:14→大平登山口駐車場 8:40/8:50⇒登山口(衣服調整) 9:05/9:07⇒徳和への分岐 9:30⇒道満尾根への分岐 9:40⇒富士百景(三富からの富士) 9:50/9:55⇒国師ヶ原 10:05⇒月見岩 10:35/10:38⇒扇平 10:43⇒髭剃岩 11:17⇒乾徳山 12:00/12:30(昼食)⇒休憩</p> <p>13:15/3:20⇒国師ヶ原 14:23/14:40(雨具着用)⇒富士百景 14:53⇒道満尾根への分岐 15:00⇒徳和への分岐 15:07⇒登山口 15:25⇒大平駐車場 15:40/15:50→道の駅(花かげの郷) 16:32/16:53→勝沼 IC 17:22→談合坂 S A 18:30/18:40→永福 P A 20:15/20:25→柏 I C 21:05→我孫子駅北口着 21:22 (解散)</p> <p><行動時間 6 時間 50 分 歩行時間 5 時間 45 分></p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・大平登山口までマイクロバスで入ることが出来る。 ・登山口にはトイレがない。 ・登山道は整備されていてわかりやすく、岩場には鎖も取り付けられてあり、頂上直下の垂直に近い岩も注意して登ればさほど危険ではない。 ・下山道は頂上直下が岩場で鎖はないが、ゆっくり注意して下りば問題はない。 		
参加者	<p>田村(L)、品田、大島、箕輪カ、小川誠(SL)、佐藤健、佐藤明、矢野貞、瀬田、坂巻、本田、矢野裕、原田和</p> <p>男 4 名 女 9 名 計 13 名</p>		

< 7 1 1 >

筑波山 (876m)

川下敬史

こんな企画に参加者居るの？

晩秋から早春にかけて、毎朝利根川の土手の上に見える筑波山は、関東の名山であり、この辺りの小中学校では、利根川と共に校歌に登場する故郷の山でもある。

ロープウェイで登る山、直下までバスで登る山、駅から歩く山、海岸から挑戦する山…、多々有れど、「我孫子から登れる名山」は筑波山が唯一無二であるのも事実だ。

ならば、大利根橋を渡って、近く、そして大きくなる山を追い求めながら歩くのも一興か？ 出発点からピークの見えている山なんて滅多に無い、これは途轍もなく「有難い山」た！ その程度の発想だった。

林道歩きは嫌だって皆言うけど、今回は歩道と車道だろうな、何処で休憩するんだ？ コンビニか？ 休憩料とる山小屋より良いか？ 一日じゃ辿り着けない！ 何処に泊まる？ 一般ルート以外の情報集めは結構大変だが、こいつはマイナールートの比じゃないぞ！

取り敢えずテン場を探す、我孫子から筑波山までの間でキャンプ場は3箇所、11月でも閉鎖していないキャンプ場は1箇所、これで決まりだ、此奴は外せない…、こんな調子で4Aの山行を計画し参加者を募集する。

参加者0なら中止だな、いや1人や2人でも中止だな、なんて思いながら。



天王台駅を出発！

我孫子からと言いつつ、実は天王台駅北口を出発点とする（僅か2.7kmも疲労時は響くセコイようだが、我孫子市内なら何処でも良かった）、白馬駅や新島々駅でも樺平駅でもない天王台駅である。岳人あびこの会員は知っているが、日本中の登山家、登山者は元より登山客、観光客でさえ、そんな駅を知らない。

我々でさえ集合は我孫子駅なのである、それが天王台から歩くのだ、実にお利口な参加者だ。

天王台は6時出発、7人で歩き出す、内3人（武内さん、原田さん、小川さん）は自宅からの歩行だ。「一般的な登山口から登る百名山」と「ロープウェイで登る百名山」以上に「我孫子から登る百名山」と「自宅から登る百名山」は価値が違う、正直3人に負けた。

5時前に自宅を発ったとのことだが、私の場合午前1時前に発たねば無らず仕方がない。←（立派な言い訳）。

一番の功労者で、本日のサポート役をかって頂いた箕輪さんに、テント泊一式を託し出発する。

朝靄の大利根橋を渡る、既に写真撮影モードの人も居る、ワクワクするが肝心の筑波山が見えない、晩秋以降は通勤途中でも視界に入るのに、今朝は見えない、残念。



県境を渡り取手に入る、街歩きだ、知った顔に出会ってもおかしくない場所をザック担いで歩く姿は、少し気恥ずかしい。最初の休憩はファミリーマートだ！ 30m位引き返した、欲しい飲み物や食べ物、簡単にかつ通常の値段で手に入る、当たり前のことだが新鮮に感じた、普段の便利な生活に感謝する。

ここで「燃料のガス」が無いことに気付く、リーダーの手配ミスだ、雪山であれば遭難原因だろう、つくば市内での購入をすることとし、ひたすら謝る、ヒヤリハット報告書を書くこと

で何とか許される。端的に言えば、「隣町」程、変わりもなければ面白味もない、筑波山はまだ見えない。

小貝川の手前で小休止、対岸はつくばみらい市だ、「何でこんな山行に参加したんだろ！」と口々に、横を取手駅西口行きの関鉄バスが通れば「あれに乗れば直ぐ帰れるのに」、今日だけ参加の新谷さんと武内さん以外は、随分言っていました。(本当)つくばみらい市に入ると里山の風景に少しずつ変わってきた、立派な花梨が道端に落ちている、秩父や丹沢の入り口と変わらない。



うっすらと筑波山が見え始め、集落内や畑を通過すると「何処行くの?」「何処から来たの?」と良く声を掛けられる「筑波山までは遠いよ、頑張ってね」と変な集団を応援してくれる。

伊奈東中学校で小休止ををするとする、ここから先は造成地だ、道は広過ぎるが歩行者は居ない、最新の道路地図もネットで拾った航空写真も役に立たない、新しい道と付け替えられた道の連続だ! ルートファインディングは困難を極める(行き場を失うことや滑落の危険性は全くないのだが)。



どの道(短絡を除く)も茨城県道19号取手つくば線(旧道新道複数ある)だった、つくばエクスプレスは高架線でビル群があれば駅があるとすぐに解る、常磐道は工事中(通行止め)の橋を歩いて渡った。

我孫子、取手、つくばみらい、そして最後のつくば市に入る、隣の隣のそのまた隣なのだ。

原野の中をつくばエクスプレスと県道19号線が延々と続く、疲れもピークに近い(でもニセピークだった)万博記念公園駅は300m角の中に街が集約されている(外国の開拓地か)車なら気づかないだろう、つくばエクスプレスに何度も抜かれる、電車と歩行者当たり前だがボヤキが再発するも、ここまで来ると戻るより進む方が楽なのに…。

なんとか学園都市に辿り着き、研究所街を通り抜ける(これも嫌になる程長い)と、「ゆかりの里」はもうすぐだ。

ゆかりの里は、市営で家族連れが多かった、土曜だからだと思うが、入場料210円、1張り310円と安いのだ。

神様、箕輪様の降臨に一同疲れも半分ぐらい吹っ飛ぶ! テン場確保、食事の用意、その前にガスを調達せねば…。



明日都合の悪い新谷さんを駅まで送り、宿泊予定無かった箕輪さんを引き留め、すき焼き～

宴会へ、僅かばかりの薪を燃して中高年の夜は更ける、「明日雨なら良いのに」「箕輪さんの車に乗せて貰うか」「昼まで寝るか」(皆さん酒の上の本音、私も)、「いや6時起きだよ」武内さんが居なかったらここで終わっていたかも(箕輪さんが居なかったら小貝川で終わっていたかも)メンバーに感謝!

山頂を目指して

キャンプ場から筑波山はよく見える、近い、大きい、この辺からはどんどん累進的に大きくなるのであろう、ワクワクしながら畑の中を歩く。



ここで道の選択ミス300mぐらい遠回りをしてしまう、山道とは違う、街中とも違う、農村と研究施設の同居によって道路も複雑で…、言い訳にしかならないが。

お屋敷が多い、博士も多いらしいが、豊かそうな町だ、そして広い広すぎる。

今日も延々と歩く、まずは旧つくば駅(土浦から出ていた関東鉄道)を目指し旧道を歩く、これも19号線だ、筑波山は大利根橋からほぼ真北にある、遠回りをしないように、障害物は「川」のみだ、渡る橋を選んでルート選定をしている、それも最後の桜川を渡れば終わりだ。

旧つくば駅からつくば道を歩けば筑波山神社に続く、旧つくば駅はかつて常磐線経由で上野から行楽列車が出ていた登山口の駅である、商店街ではスタンプラリーの案内をしていた、諸先輩はすでに一つ目のスタンプを押したパンフレットを片手に先を歩いている。

スタンプラリーの他に、山麓収穫祭がつくば道沿い所々で行われていた、テント(山のではない、行事用の)での振舞いや格安での販売が行われていた、味見しろと言われて頂いた物や、誰かが買った餅や団子(皆パックが大きい)をお裾分けされて食べた、最後まで揃わないスタンプを集めている子供の様な諸先輩は実に微

笑ましい。

つくば道は傾斜を増し、歩行者用にそして石段になると神社はもうすぐだ、石段の途中に旧郵便局があった、車全盛の時代ではこの様な場所は難しいな? ここでもスタンプを貰っている…。

筑波山神社に着く11時半だ、実に30時間弱車なら僅かに1時間強なのに! 世の中には手段をいつの間にか目的としてしまう人が居るが、ついこの時ばかりは着いた(本人はやっと登山道に着いた、ここから山に入れると)と安心してしまった。

登山道の方が楽だった(本当)、先が見えているからか、やっと登山ができると思ったからか。

御幸ヶ原に立つ、先着し休憩の終えた武内さんは男体山へも登ると発って行った、残りの5名は女体山を目指す、11月最初の日曜日である神社は「五七三」で賑わっていたが、ここもケーブルカーで来られる場所だ、その延長で混雑している、3年前子供達と登ったときはカラスと閑古鳥しか鳴いていなかったのに驚いた、しかも今日は紅葉をライトアップするとか、一番混雑の日だったのか。

それでも女体山に「岳人あびこ」の旗を掲げなければいけない、すぐに撤収するとロープウェー乗り場へ駆け込む、往路はアプローチの困難さを極めたが、復路はロープウェーで下山の情けない、疲れている。

女体山からロープウェー、つつじヶ丘からバス、つくば駅から電車、おおたかのもり、柏を経由して我孫子へ僅か2時間(乗り換え含む、反省会除く)と、往路の32時間に比べ乗り物の有り難さを痛感するとともに、自分達の行動に呆れる、でも達成感他他の比にならず、しかし再度行こうとも思わず。

最後にサポートをして頂いた箕輪完二さんに参加者一同心より感謝。



やったー! ついに筑波山(女体山)山頂に到達

概念図



概要

山名	筑波山		
月日	平成 22 年 11 月 6 日～7 日		
山城	筑波	地形図	茨城県道路地図
形式	テント	グレード	4 A
目的	我孫子から歩く		
費用	2700 円	交通機関	往路：徒歩 復路：バス、鉄道
日程	<p>1 日目</p> <p>天王台駅北口集合 6:00 歩行開始 6:10⇒大 利根橋南詰 6:35(3260 歩)⇒大 利根橋北詰 6:52⇒国道 294 号線との交差点 7:14⇒休憩 (ファミリーマート)7:20/ 7:30(7535 歩)⇒ 休憩(小貝川・二三成橋)8:30/8:40(15687 歩) ⇒中道川 9:00⇒久保浄水場 9:45⇒休憩(伊 奈東中学校)9:53/10:10(24204 歩)⇒休憩(林 の中)10:55/11:08(29803 歩)⇒昼食(菅丸交 差点)12:15/12:35(37414 歩)⇒つくば E X と の交差 13:35⇒休憩(新豊年橋) 13:45/13:55(45965 歩)⇒ゆかりの森公園着 14:50⇒キャンプ場到着 15:10 (55832 歩) <行動時間 9 時間 歩行時間 7 時間 40 分> 歩行計による推定距離 39.08 k m</p>		

2 日目	<p>キャンプ場歩行開始 6:50⇒公園を出る 7:00 ⇒休憩(ファミリーマート)8:10/ 8:25(8592 歩)⇒国道 409 号線との交差点 8:35⇒桜川君 島橋 9:15⇒国道 125 号線との交差点 9:40⇒ 休憩(北条)9:45/ 9:50(17586 歩)⇒休憩(山 麓祭テント場)10:20/10:30⇒鳥居 11:00⇒休 憩(筑波山神社)11:30/11:35(25504 歩)⇒休憩 11:50/11:55⇒休憩 12:15/12:20⇒旧小屋跡 12:25⇒男女川 12:45⇒休憩(御幸 平)13:15/13:25(29000 歩)⇒筑波山(女体 山)13:45/13:50(29840 歩)⇒ロープウェイ頂 上駅着 13:55</p> <p><行動時間 7 時間 05 分 歩行時間 6 時間 05 分> 歩行計による推定距離 20.88 k m</p> <p>ロープウェイ頂上駅発 14:00⇒つつじヶ丘 駅 14:05/14:20 バス 発 ⇒つくば 駅 15:15/15:25 ⇒流山おおたかの森駅 15:45/17:13(反省会)⇒柏駅 17:20/17:26⇒我 孫子駅着 17:30(解散)</p>
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ルートファインディングのし甲斐が有るコースだった。 ・この時期であれば、利根川からも見えるはずの筑波山がうっすらとしか確認できず残念であった。 ・道路標識は車のための物、最短距離ではない。 ・大利根橋から女体山は、ほぼ真北に有るが、障害特に川が多い。 ・山村・里山の道、常磐道を渡る工事中の橋、研究施設通り、何でも有り。 ・キャンプ場は市営で 210 円/人、310 円/張。 ・畑、生活道路等で良く声を掛けられた「何処から来たの?」「何処へ行くの?」と筑波山神社以南では登山者は珍しいのか? ご高齢の方ほど我孫子を知っている「常磐線」経由で東京へ行ったのだろう、いずれ「つくば E X」と「流山」に世代交代するのだろうか。
参加者	川下(L)、村松、外崎、武内、原田和、小川誠(SL)、新谷(1 日目のみ)、箕輪完(支援) 男 6 名 女 2 名 計 8 名

< 7 1 2 >

高畑山 ～ 倉岳山
(982m) (990m)

箕輪カオル

中央線鳥沢駅で下車して、甲州街道から集落の細い道へと進む。高畑山までは、リーダーの発案によって一般コースではないバリエーションルートを行ってみようということになった。早速、地図にないルートを開拓して進むことになるが、リーダーの構想は準備万端整っていたのであった。

高畑山まで女性5人が交代で先頭を歩くこととなった。一番目は、集落の道から歩き始め、いきなり踏み後の無い雑草をかき分けて行く。たちまちみんなのズボンには草虱が付いてしまう。防護柵（フェンス）の扉をあけて入ると、山道入口の小さい標識がある。どうやら仕事道らしき踏み道とわかり納得だ。

尾根の始まりの急登をしばらく行くとTV電波塔がり、その先の4等三角点を確かめながら二番目の先頭へ引き継ぐ。倒木や藪を縫って道外れのないように小さなアップダウンを進める。三番目も落葉で踏み跡が不明なところを足元に気を配りながら急登に行く。どんぐりなどの木の実や、コウヤボウキの花の多いことなど賑やかに話しながらのこんな歩き方も結構楽しいものである。



コウヤボウキ

四番目は、一般道と合流となり、わかりやすいこのルートに行くことに。五番目は、いよいよ高畑山への最後の急登である。最後尾を歩いていたリーダーを、山頂直前で先頭を切ってもらい高畑山山頂に到着。頂上で喜びの握手を交わす。ズボンに付いていた草虱も、いつの間にかすっかりなくなっていた。

広葉樹林の敷き落葉の藪もまた楽しかりバンザイ！しかも、富士山も見えるではないか。素晴らしい！高畑山は「大月市秀麗富嶽12景」とあるだけに絶景の富士山を拝することとなった。ここで昼食休憩をとる。

倉岳山へ続くアップダウンの稜線歩きとなる。

ここからは、リーダーが先頭である。すべりやすい下りなので足元には十分気をつける。その足元に竜胆が一輪咲き残っていた。しばらく行くと天神山峠。そこから扇山、百蔵山をのぞむ。そして、また下ってすぐ穴路峠。すっぱり道が分かれていて切通しとなっている。分岐要素には標識があってわかりやすい。この峠の標識に、倉岳山まであと20分とある。

赤松の多い倉岳山山頂は二等三角点。ここからまた下って立野峠に出る。水場まで10分とあるので、その水に期待して早足で下る。水音がごうごうと勢い立っている水場に到着するも、「飲料不適」にがっかりしてしまった。この水場からジグザグに何回か沢を渡り、1時間弱で林道に出た。

梁川大橋から山容を見ると紅葉しつつある雑木山の晩秋を実感した。無人露店に売られていた林檎を買ってきた。新鮮でおいしかった。高尾駅前のそばやで反省会を行った。我孫子駅到着はリーダーの山行計画書どおり7時30分であった。リーダーの綿密な計画に感謝。

概要

山名	高畑山～倉岳山		
月日	平成22年11月7日(日)		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000 上野原、大室山
形式	日帰り	グレード	2A
目的	紅葉と峠道		
費用	2,300円	交通機関	JR
行程	我孫子駅 5:33→新松戸 5:51→西国分寺 6:55→高尾 7:26→鳥沢駅 8:15/8:20⇒(1区)地図にない登山口 9:00⇒TV中継塔 9:25⇒(2区)4等三角点 511m 9:35⇒(3区)513m⇒(4区)正規のルートと合流地点 10:42⇒(5区)871m付近⇒高畑山 982m 12:00⇒天神山峠 12:32⇒穴路峠 12:40⇒倉岳山 990m 13:10/13:25⇒立野峠 13:55⇒水場 14:10⇒林道 15:00⇒梁川駅 15:20/15:35→高尾(反省会)→我孫子 19:30 曇り<行動時間 7時間>		
ルート状況	・当日、中央線西国分寺～立川間で高架工事のため前日20:30頃から朝6:40頃まで運転中止の予告が出ていた。西国分寺に着いてみると、運転は再開されており、ほぼ定刻に鳥沢に着くことができた。前日の20:30から10時間におよぶ徹夜の突貫工事、わずかの遅れも許されない厳しい工事であったろう。お陰でわれわれは開通間もない高架線から高みの見物ができたということだ。		

インターネットで周辺の状況を調べていたら、登りの部分に一般ルートでないコース（高畑山北尾根バリエーションルート？）があることが分かった。そこには道標はなく、テープがわずかにあるのみだが、尾根筋をたどるコースなのでルートファインディングはさほど難しくない。とはいえコースを外れると藪が待っている。全員がルートファインディングを心掛け、早めの軌道修正が肝要である。参加者に、同意があればコースを変更したい旨事前に連絡した。標高差 400mの直登ルートである。自然を傷つけないようそっと歩こう。

・駅から歩きだして駅に帰るのは本数の少ない田舎バスの時間を気にしないで済む分気楽であるが、集落を通過しての登山口さがしは事前の調査と地図読み技術が求められる。今回は要所に道標が設置され迷うことはないが、地図にないルートの登山口への案内はない。

ルート状況

参加者	中村隆(L)、大畠(SL)、榊原、品田、箕輪カ、田村
	男1名、女5名 計6名



高畑山山頂にて

概念図



高畑山山頂より富士山



倉岳山山頂にて

< 7 1 3 >

雲取山～天祖山
(2,017m) (1,723m)

新谷直恵

東京の最高峰へ

9月飛龍山へ出かけたとき、そのコースの延長線上に雲取山の名前を見つけ、チャンスがあればいつかその東京の最高峰に登りたいと思っていた。

奥多摩駅にはいつものように登山家たちがあふれ、待機する目的別のバスへ駆け寄り長蛇の列ができる。我孫子から奥多摩までは約3時間。今回は終点手前の鴨沢のトイレをあてにしてとりあえずバス列に並んだため、3台目の臨時バスだったが、座ることができた。

天気予報は土曜日は晴れで、日曜は曇り。3日前、定例会で村松氏による「天気図の見方」の講義を聞いたばかりだったので、前日しっかり眺めた天気図は、関東地方と日本海側の高気圧に挟まれて低気圧が間に横たわっていた。だが車中「武内リーダーは晴男だから、絶対大丈夫！」と品田さんに太鼓判を捺される。

鴨沢からは民家の点する山の斜面へと入り、しばらく行くと道は木立の林道へと続く。30分を過ぎた頃、すでに汗ばみ衣服調整となる。小袖へとならかな山道は続くが、さすがに都内の百名山だけあって、道はよく整備されていて歩きやすい。水場を経て、11時45分堂所で昼食をとる。



富士山を眺めながら休憩（奥多摩小屋手前にて）

その先、道は二手に分かれ、右は「近道、おいしい水あり」と書かれているのを見て、右へ進む。七ツ石山小屋に続く道であったが、小屋の少し手前から左手、奥多摩の山並みの上に富士山が冠雪した美しい姿をみせているのに気づき、感嘆の声を挙げる。七ツ石山小屋の奥庭で、その少し上にある水場から引いた「おいしい水」をいただきながら一休み。富士山を堪能するにはもってこいの休憩所である。

道はさらに二手に分かれ、どちらに行こうかと思案するところに上から下りてきた男性が、「右は急勾配、左は緩斜面だよ」と教えてくれる。リーダーは私を慮ってか緩斜面を選択。たしかに道はまっすぐに進むところが多く、左に絶景を眺めながらの快適な登山道。奥多摩小屋を通り越し、頂上かと思われる小雲取へ。その頂を超すと、雲取山への道は目前にまっすぐに開けている。呼吸は激しくなり汗ばむが、山頂へと誘われるこんなに気持ちの良い道はめったにない。しかも山頂近くに立つログハウス風の避難小屋もスイスの山小屋を思わせる。絵葉書のようなその風景にうっとりとする。周囲には綿毛をつけた立ち枯れのドライフラワーが点在している。すでに季節は晩秋。



富士山遠望(雲取山山頂)

山頂には2つの碑があり、ひとつには埼玉県、もうひとつには東京都と記されている。県境でもあるのだ。登頂記念写真を撮ると、ゆっくりする暇もなくそこから20分ほど下降する雲取山荘へと急ぐ。すでに15時を過ぎている。雲に朱が混じり始め夕景の気配すらあり、晩秋の日はつるべ落としてであることを実感。

丸太組の雲取山荘はその玄関先で、次々と訪れる登山客たちの対応に数名の男性が大わらわ。通された8畳の部屋の真ん中には豆炭こたつが置かれ、夕食までそこに足を突っ込んで、ほっこりと暖をとりながらビールで乾杯。その日の客は約

200名で1部屋10人の定員という。積まれた布団は通常より幅が狭く、1列に5枚並べてひけるようになっていたのには驚いた。

夕食は16時半から4回に分けて食べるとあって、廊下には長蛇の列。私たちは最後の回にゆっくり食べることにした。だが問題はトイレ。200人の宿泊客がいるというのに、外にあるトイレは男女別にそれぞれ2つしかないのである。トイレの前にはこれまた長蛇の列。山頂の紅葉はすでに終わったとはいえ、縦走路にある週末の山荘はまだまだ混み合っているようだ。

朝食は5時半にしようと言っていたが、4時には部屋の電気が一斉に灯り、すっかり目覚めてしまったので、4時半から朝食をとり、夜が明けのを待って6時に小屋を出発。芋ノ木ドッケへと向かう。なんとも変な地名で気になるので、帰ってから調べて見ると、「芋木」とは「コシアブラ」のことであり、かつてこのあたりにはコシアブラの大木が生えていたらしい。またドッケという地名もこのあたりにはいくつかあり、トゲ(刺)、トガル(尖る)、トツ(凸)などと語源を同じくしているらしい。ゴツゴツのトゲトゲのこの小さな山に人影はあまりなく、ほとんどの登山客は白岩山を経て三峰へと抜けるらしい。

地図上では、天祖山まで高度差はあまりないが、登ったり下ったりが続く。8時50分に長沢山に着き、9時35分に水松山を通過して右へと下る。

水松山はアララギ山と読む。長沢山からの北斜面をトラバースしているとき、遠く下方で人や犬の声が聞こえ、やがて鉄砲を打つ音がした。イノシシ狩りらしい。今年は熊の出没がたびたびニュースで報じられ、今回の装備にもクマ除け鈴とあったので、私も可愛い鈴をリュックに付けてきたが、なかなか鳴らない。その点リーダーの鈴は年季が入っていて、しかもチリン、チリンとよい音色を響き渡らせている。



ぶな林の登り(天祖山)

道を見失ったら元に戻ることに

下り路はふたたび天祖山への登攀路となる。立ち止まると風が冷たく、「またいい汗かこう！」と、励まされる。天祖山の奥深くへ進むと針葉樹の大木に囲まれて神社が立っている。かつて山はすべて神だったのである。神が祀られているところが多いが、こんなにも立派なお社が建っているとは。その明るい南の広がりの中でゆっくりと昼食をとった。

紅葉は1000メートル付近で終わり、尾根の縦走は落ち葉を踏みしめながらであったが、このあたりから落ち葉は一層深く、登山靴が埋まるほどであり、気をつけないと落ち葉の下の石に足をとられることもある。リーダーの足元をみると、まるで雪道のように落ち葉をラッセルしながら歩いている。錦の落ち葉は少し前まで見事な紅葉だったことを思わせる。

だが、その深い落ち葉のせいで天祖山からかなり下った大日神社の手前の広い尾根で、道を見失った。私たちより一歩先に、先ほどまで私たちの後ろを歩いていたテントを担いだ単独行の女性が立ち止まって地図に見入っている。そこで一緒に見失った道を探すが、なかなか見つからない。かなり下りたところで、リーダーが「もう一度、目印(赤いテープ)を見失ったところまで戻ろう」と言った。とっさに私は「えっ、あそこまで戻るの?」と思った。かなり登らなければならない。しかも落ち葉の急斜面は滑って足場が悪い。汗をかきながら登り返していると、「あつたよ!」というリーダーの声。

ほっとしたと同時に、大きな学びをしたことに気付く。「道を見失ったら、元の場所に戻る」が鉄則とされているが、実際にその場に立って見ると、登り返すのは面倒で、下に降りた方が楽なのだ。そうして下に降りてから道を探し、さらに深く道を見失うにちがいない。元に戻るというのはその一瞬、勇気がいることなのだ。これから先、道を見失ったときには、この日のことを思い出すに違いない。

しばらく下って大日神社で休憩をとると、今回の山行中もっとも注意が必要といわれていた難所が待っていた。八丁橋手前の急なザレ場の下りだが、上の方はかなり手が入っていて歩きやすかったが、下に行くほど足場が悪く、緊張を強いられる。しかも危険な場所ほど、景色は美しく魅惑的である。だがその景色を味わう余裕もなく道を降りると、リーダーがにこやかに手を出して待っていてくれた。



オーこわっ！きれいな紅葉を楽しむ余裕なし
(八丁橋手前の急斜面のトラバース)

八丁橋を渡ると、日原林道が麓の日原まで 50 分ほど続く。林道の眼下には、今紅葉まったただ中の日原川の絶景が見渡せる。途中溪流釣りの場所もある。無事終わった山行を思い返しながら脱力して麓まで歩く。

東日原バス停ではバス時間まで 1 時間程あり、お蕎麦でも食べながら反省会をと店に入ったところへ若い男性が「タクシーを呼んだので」と誘いに来てくれ、同伴することになった。奥多摩の駅舎 2 階のお蕎麦屋さんで再び反省会。予定より 1 本早いホリデー快速に乗る。神田駅まで乗り変えの必要がなく、ビールの心地よさと疲労感が重なって熟睡。予定より 1 時間早い行動が、途中 30 分程のロスがあったとはいえ、快適な帰路へと繋がった。やはり早起きは三文の得であるらしい。ベテランのお二人に囲まれて歩く学びと幸せを深く噛みしめた。

概念図



概要

山名	雲取山～天祖山		
月日	平成 22 年 11 月 13 日～14 日		
山城	奥多摩	地形図	1/25000 雲取山、丹波、武蔵日原、奥多摩湖
形式	山小屋	グレード	3 B
目的	東京都の最高峰と、晩秋の奥多摩を楽しむ		
費用	10000 円	交通機関	JR,バス、タクシー
日程	1 日目	千代田線我孫子駅 5:33→新松戸→西国分寺 6:46/6:55→立川 7:00/7:05→奥多摩 8:28/8:35(バス)→鴨沢 9:20/9:35→小袖峠 10:10→水場 11:20→堂所 11:45/12:10→七ツ石小屋 13:05/13:15→ブナ坂 13:50→休憩 14:10/14:20→奥多摩小屋 14:25→小雲取山 15:00→雲取山 15:20/15:25→雲取山荘 15:45(泊) <行動時間 6 時間 10 分、 歩行時間 5 時間 20 分>	
日程	2 日目	雲取山荘 6:00→大ダワ 6:20→三峰分岐 6:50→芋の木ドッケ 7:15/7:20→休憩 8:20/8:25→長沢山 8:55/9:00→天祖山への分岐 9:35→梯子坂のくびれ 10:05/10:10→天祖山 10:50/11:25→大日大神 13:20/13:25→八丁橋 14:15→東日原 15:15/15:35(タクシー)→奥多摩駅 15:50/16:23(ホリデー快速東京行)→神田→上野 18:17→我孫子駅 18:54(解散) <行動時間 9 時間 15 分、 歩行時間 8 時間 15 分>	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨沢から雲取山までの登山道はよく整備されており全く問題なし。 ・雲取山～長沢背稜の天祖山分岐間は、よく踏まれてはいるが所々木の根や岩で歩きづらい箇所あり。天祖山の登りは特に問題になる箇所はない。 ・天祖山の下りは入山者が少ないせいかルートが落ち葉で隠れており、微かな踏み跡を辿った。尾根の広い箇所でもルートを見失い 30 分ほどロスしたが、迷った箇所に引き返し事なきを得た。 ・雲取山荘(1泊2食) 7500 円 労山会員証提示により 1000 円割引 		
参加者	武内(L)、品田、新谷 男 1 名、女 2 名、計 3 名		

< 7 1 4 >

奥久慈男体山～月居山
(654m) (404m)

塩原百合子

朝5時に家を出るとあたりは真っ暗。どうしてこんな思いをして山に行くんだらう。春に初参加したときはもう少し明るかったのに。

始発に乗り我孫子に着くと皆さんはバスに乗っていて成田組は最後だった。出発してようやく6時前に空が明るくなってきた。曇ってはいるが、雨にはならないようだ。

大円地から登山口7時40分到着。二時間ほどで着いた。ラジオ体操とストレッチで体を柔軟にする。健脚コースを歩くということで8時5分出発した。しばらく行くと集塊岩が露出した足場の悪い急斜面を木の根や岩角を手がかり足がかりに登っていく。

登りをもくもくと歩くよりはこちらの方がずっと楽しくおもしろい。9時30分に男体山に着き記念撮影。途中休憩をとりながら登ったり下ったりしてようやく12時30分に第二展望台に着く。

展望台といっても岩が張り出していて見晴らしが良いというだけだが、確かに眺めは絶景だった。ちょうど紅葉もばっちりです。黄、赤、緑

と色とりどり何年ぶりかで目にした光景だった。しばらく10分ほど進んで第一展望台、後山に到着。かつて月居城が築かれていて、古戦場であったらしい。またアップダウンを繰り返して月居山13時20分到着。月居山を過ぎ袋田の滝に向かう間、観音堂を見上げて嫌というほど階段をあがったり下りたり、幅の違う階段なのでとても降りずらなかった。

ようやく生瀬の滝に行く所に着いたら道が悪く通行禁止になっていた。左に折れて袋田の滝へ。途中右に行くとそこで生瀬の滝が見られた。そしてまた元に戻り袋田の滝方面に歩く。どんどん階段を下りるとようやく滝が目に入った。

落差120メートルの滝は、岩盤が4段になっていて四度の滝とも言われているようだ。観光客でいっぱいだった。しばらく滝を見て駐車場まで歩いた。沿道ではりんごがたくさん売られていた。

14時45分バスが待っていてくれた。袋田温泉に直行してくれて露天風呂にも入ることが出来た。汗をいっぱいかいたので本当に気持ちよかった。15時40分我孫子に向けて出発。リーダーは肩の荷が下りたのか、バス内ではほろ酔い気分が気持ちよさそうだった。何年ぶりかで山の紅葉を見られてとてもうれしかった。

ご一緒していただいた皆様有難うございました。

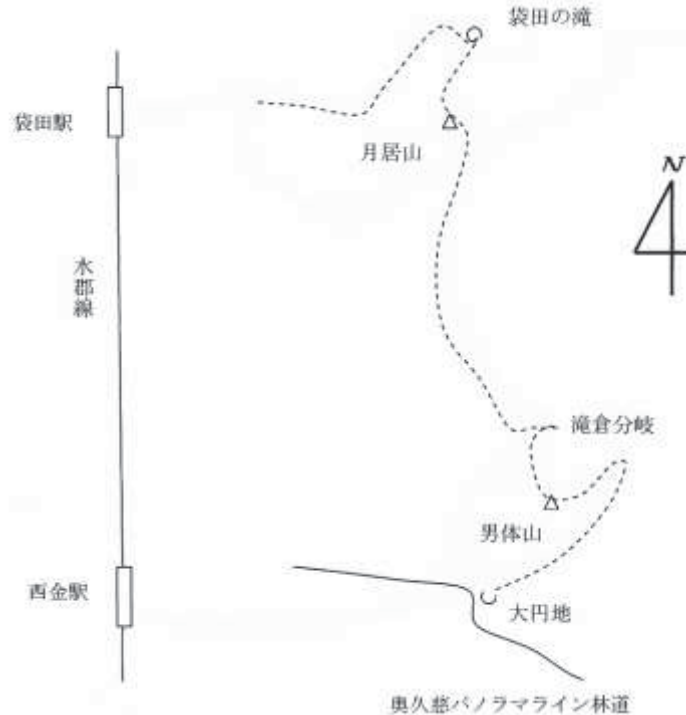


月居城址で全員集合



男体山から

概念図



概要

山名	奥久慈男体山～月居山		
月日	平成 22 年 11 月 14 日		
山城	茨城	地形図	1/25000 大中宿、 袋田
形式	日帰り	グレード	2 A
目的	<ul style="list-style-type: none"> 紅葉を楽しみながらロングハイク 太平洋の眺望 袋田の滝、生瀬の滝散策 		
費用	5000 円	交通機関	マイクロバス
日程	<p>我孫子駅北口集合 5:30→取手 (R294)→谷和原インター→那珂インター→大円地駐車場 8:00⇒男体山頂上 9:30⇒白木山分岐 10:35⇒第二展望台 12:25⇒第一展望台 12:40⇒月居山 13:25⇒生瀬の滝 14:10⇒袋田の滝町営第二駐車場 14:45⇒月居温泉 15:00→那珂インター→桜土浦インター→(R6)→我孫子駅 19:40(解散)</p> <p><行動時間 6 時間 45 分 歩行時間 6 時間></p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> マイクロバスを使用して我孫子から大円地登山口まで一般道で所要 2 時間。電車を使うより一時間ほど短縮できる。 男体山から月居山への尾根道は薄い所が 2～2 か所あるが、踏み跡を忠実に辿れば迷うことはない。 		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 男体山健脚コースは急峻、クサリ場が数か所あり滑りやすい。慎重に歩行せねばならない箇所がいくつかある 分岐にはそれぞれ標識があつてわかりやすい。
参加者	坂巻(L)、桐生(SL)、中野、原田君、高橋英、箕輪カ、田村、矢野貞、本田、矢野裕、齊田、塩原、瀬木 男 3 名 女 10 名 計 13 名



男体山の紅葉

< 7 1 5 >

大山三峰山
(935m)

瀬田映子

丹沢三塊に三峰を名乗る山が2座あるとは知らなかった。一つは丹沢山から北東にのびる尾根にある三ツ峰(1360m)。もう一つは大山の北東に位置する三峰山(935m)。混同されないようにそれぞれ「丹沢三ツ峰」・「大山三峰」と呼ばれているようだ。我々は大山三峰山に登った。

晩秋の空は快晴の山行日和である。本厚木からのバスは超満員で鯨詰め状態!! 煤ガ谷バス停で降りたのは我々を含め数パーティー。準備運動後8:40分登山開始。歩き始めて20分程が過ぎた頃、小谷さんが立派な“ヒラタケ”を発見!! 我々もこれに続けとキョロキョロしながら歩いたが最後まで発見できなかった。

しかし、‘塩’を発見。看板をみると「ヤマビルに注意!!」と書かれていた。当地の善意に感謝しながら杉の樹林帯をひたすら進むと分岐へ出た。この物見峠分岐には「・・・経験者向きの登山道・・・、引き返す勇気が必要です」と書かれた道標が立っていた。結構強烈な脅し文句だ。低い山だからと言って、甘く見てはいけないようだ。小谷さんがしきりに「経験者向きの登山道です、引き返す勇気が必要ですよ!!」と皆に伝えていた。右手は物見峠経由で左手は三峰山へのショートカットコース。我々は三峰山へのショートカットコースへ進んだ。落ち葉を踏みながらしばらく進むと“山の神”の祠を発見。我々の山行の無事をお願いし先へ進んだ。‘

‘山の神’の分岐を過ぎ稜線に出るとやせ尾根に出た。しばらくすると急な登り坂になった。さらに南進すると徐々にアップダウンがきつくなってきた。いよいよこのコースの真骨頂、クサリ場が随所に現れた。大きくはないが、らくだのこぶのように急峻なピークだ。ハシゴやクサリ場・ロープが連続するアスレチックのような尾根だ。小さなピークは沢山あったが一つ目の大きなピークを過ぎ、山頂標識と3等三角点のある二つ目の大きなピークで昼食をとった。

この三峰山には、その名の通り三つの峰(北



鎖や梯子が次々と……

峰・中央峰・南峰)があるはずだが、三つの峰の区別がはっきりしなかった。昼食をとりながら、一つ目の大きなピークが北峰?・二つ目の大きなピークのここが中央峰?これから登り返すのが南峰?なのかな・・・(北峰と南峰にはなんの標識も無かった)

昼食を終え最後の登りにかかる。とても急峻だが距離は短く、意外とあっけなく三峰山頂(南峰)に到着した。山頂には数名のパーティーがいたが、あまり広くないので早々に下山した。下山途中に背の低い“シロヨメナ”が咲いていたのに感動し、まだ残っている紅葉に歓声を上げ、稜線からの大山・丹沢三峰尾根を眺めながら下山した。

南峰から不動尻に下る道も、ハシゴやクサリ場のある急峻な傾斜が続く。唐沢峠分岐を過ぎると傾斜が徐々に緩くなり、やがて沢の音が聞こえてきた。ここでしばらく休息をとった。このあたりにも所々急な岩場クサリ場があった。しばらく下ると沢に出た。数人のハイカーが休息をとっていた。

小さな橋を渡ってしばらく歩くとキャンプ場のある不動尻に着いた。ここからは舗装された林道を歩く。長い「山ノ神トンネル」を通過するとき、出口が明るく見えるだけで足元は真っ暗だったが、小谷さんに「暗いトンネルの中

の歩き方」を教わり無事通過した。



3等三角点のある山頂にて



この松の運命やいかに。崩壊地途中で

帰りに小谷さんが見つけた「立派な“ヒラタケ“」をジャンケンで頂くことになった。強烈なジャンケン競争の末「本田さん」がゲット！！本厚木で反省会后、21時09分に我孫子駅に到着した。

今回の山行は変化に富んだテクニカルコースだったが、足場がしっかりしていたのでハンゴ・クサリ場・ロープ・急峻などの連続するスリルある尾根歩きが楽しめました。

リーダーをはじめ今回山行に参加していただいた皆さん有難うございました。

概念図



概要

山名	大山三峰山		
月日	平成 22 年 11 月 21 日		
山城	東丹沢	地形図	1/25000 大山 厚木
形式	日帰り	グレード	2 B
目的	ちょっとハードで静かな穴場コース		
費用	3200 円	交通機関	J R, 小田急、バス
日程	我孫子 5:33→代々木上原 6:41/6:46→本厚木 7:31/7:50(神奈川中央交通バス)→煤ヶ谷(バス停) 8:30/40⇒衣服調整 9:25/9:30⇒物見峠分岐 9:50⇒山ノ神 10:10/10:20⇒山ノ神分岐 11:14/11:20⇒北峰⇒三峰山⇒南峰(三峰山頂上) 12:00/12:20(昼食)⇒唐沢峠分岐 12:50⇒休憩(沢) 13:18/13:30⇒不動尻 13:40⇒七沢病院入口(バス停) 15:00/15:13(神奈川中央交通バス)→本厚木 15:55/18:48(反省会)→代々木上原→我孫子 21:09 <歩行時間：5 時間 20 分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・登山口から標識はきちんと整備されている。迷いこみやすい個所には注意書き、ロープでの足止めがされている。 ・山の神先の、物見峠への分岐を過ぎてしばらく行くと右側の斜面が大きく薙ぎとなっている。今のところ道はしっかりと注意して歩けば問題はない。 ・山頂を中心とする稜線部は岩場、痩せ尾根だがこれでもかといつこいほどに鎖、梯子が設置されている。 ・頂上部分を過ぎてからの下りはかなり急な部分がある。落ち葉の季節など特に注意が必要。 ・不動尻からは車の通れる林道が通じている。 		
参加者	千葉(L)、高橋英(SL)、小川誠、堀口、田村、瀬田、本田、矢野裕、小谷、末永 男 4 名 女 6 名 計 10 名		

< 7 1 6 >

手賀沼一周

瀬田映子

今年で4回目になった手賀沼一周クリーンハイク。晩秋の空は快晴、風もなく静かな一日になりそうです。

3回目に始めて参加した手賀沼一周クリーンハイクは、歩行距離約23kmと長く、きつかった覚えがあります。しかし、それ以上に「岳人あびこ」の仲間と我孫子の自然にふれたり、手賀沼を愛した文人等の史跡に立ち寄りたり、我孫子の住民なのに初めてみたり聞いたりすることに驚いたり感動したりしながら、来年も参加しようと決めていたものでした。



アビスタ出発。朝礼風景

今回は昨年より参加人数は少なく18名（ゲスト2名含）参加でのクリーンハイクとなりました。昨年同様A班とB班に分かれ開始しました。A班7名は「水の館」を8時に出発。手賀沼北側道路を西へ向い志賀直哉邸跡、杉村楚人冠に立ち寄り記念撮影。その後、アビスタ玄関前に待つB班11名と合流し全員集合しました。

クリーン作戦リーダーの原田和昭さんから「収集ゴミの分別」について説明があり、4種類（①缶類・②ビン類・③タバコの吸い殻・④その他燃えるゴミ）の担当を決め、それぞれの手には軍手・火ハサミ・ビニール袋を持参し8時45分に出発しました。

船戸の森を抜けると武者小路邸跡がありま

す。クリーンハイクの1・2回目は庭師の方が



手賀沼の西北端辺り

来ており庭に入れていただき邸内の散策ができたそうです。今回は邸内には入れませんでしたが、門前から庭の色鮮やかな紅葉がみられました。9時40分に今日の最高峰（20m）といわれる根戸城跡に到着。根戸城跡は沢山の竹林等で覆われていました。北柏のふるさと公園に向う途中の民家の庭先には、見事な皇帝ダリアの花が咲いていました。

10時05分ふるさと公園に到着。ここで最初の休息をとり記念撮影。その後ふるさと大橋を北から南へ渡りました。大津川を渡る「ヒヨドリ橋」の下では数羽の白鳥が気持ちよさそうに日向ぼっこをしていました。また、北千葉導水ビジターセンター付近では魚釣りをしている人が数人いました。

手賀沼沿いに沿って歩いていると今年も柏市のゴミ収集車に出会い、我々の収集したものを引き取ってもらいました。手賀沼南側の遊歩道の沼半分が自転車通行可となっているので高速で走ってくる自転車にぶつからないように、白鳥・鴨・ユリカモメ・オオバンなどをウォッチングしながら歩きました。沼南道の駅に11時30分に到着しました。ここで数人が所用で帰る事になりました。

40分の昼食後手賀沼南側遊歩道を東に向かってフィッシングセンターを目指して歩きました。昨年はここからの距離が長く、少し風もあったので辛かった思いがありました。しかし今回は風も無く気持ちよく歩きました。

手賀川曙橋の手前で高橋重さんが「カワセミ」と大声を上げた。一斉に重さんの指さす方向をみると、一羽の「カワセミ」が飛んでいきました。フィッシングセンターの前でトイレ休

憩をしました。遊歩道の桜並木では今年も赤い実をつけたシロダモの樹木を見つけました。水の館を過ぎ、ゴールである親水公園広場に14:50分に到着しました。親水公園広場には「メタセコイヤ」の実が沢山落ちていました。今年の手賀沼一周クリーンハイクは、一週間前に「手賀沼エコマラソン」が実施されたためかゴミはあまりありませんでした。

それでも総量6.04kg手賀沼をきれいにする一役を担いました。

今回も、地元で美しい自然や素晴らしい文学の道がある事を確認したり、再発見をしたりしながら手賀沼一周クリーンハイクを無事終了しました。



ゴミ回収車にゴミを引き取っていただく

概念図



概要

山名	手賀沼一周		
月日	平成 22 年 11 月 28 日		
山城	我子市及び 柏市	地形図	1/25000 取手
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・手賀沼を一周歩き、ふるさとの自然を見直す。足慣らしと親睦。 ・手賀沼周辺をきれいにするため、ごみを拾って歩くクリーンハイク。 		
費用	なし	交通機関	集合から解散まで徒歩
行程	<p>手賀沼畔の「水の館」駐車場 8:00⇒手賀沼北側道路を西へ⇒志賀直哉邸跡 08:20⇒杉村楚人冠公園 8:26⇒手賀沼公園（アビスタ玄関前）8:40 Bグループと合流/8:50⇒手賀沼北側の道（自動車道路と平行の北側の道）を西へ⇒船戸城址 9:15 通過⇒武者小路実篤邸跡 9:20/9:23⇒根戸城址 9:40/9:45⇒北柏ふるさと公園 10:05/10:15⇒北柏ふるさと大橋を北から南へ渡る 10:15 通過⇒手賀沼南側の遊歩道を東へ⇒道の駅「沼南」にて昼食休憩 11:25/12:10⇒手賀沼大橋は渡らず、手賀沼南側遊歩道を東へ⇒フィッシングセンター13:25/13:40（かわせみと会う）⇒手賀沼北側遊歩道を西へ⇒滝の前団地あずまや 14:15/ 14:25⇒水の館前 14:40 通過⇒手賀沼大橋北側の市役所下交差点（ゴール）14:50⇒手賀沼大橋北側の「COCOS」にて反省会。16:40 解散。</p> <p>Aグループ ＜行動時間 6 時間 45 分、内、歩行時間 5 時間 20 分、歩行距離 22.9km＞</p> <p>Bグループ ＜行動時間 6 時間 00 分、内、歩行時間 4 時間 45 分、歩行距離 20.5km＞</p> <p>クリーンハイクで集めたゴミの内容； 缶などの金属類 1.3kg、ビン類 0.2kg、ペットボトル 0.7kg、紙やプラスチック等の雑ゴミ 2.82kg、タバコ 1.02kg、 合計 6.04kg</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・手賀沼の北側の西半分は道幅が狭く、車が前後から来るので、安全に注意を要する。 ・手賀沼の南側の遊歩道は道幅の沼側の半分が自転車通行可となっていて、高速自転車が通行するので安全に注意を要する。 		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・原田和昭氏が万歩計で計って距離を計算して下さった結果、水の館から（アビスタまで 3,526 歩、2.5km）北柏ふるさと公園まで 9757 歩、6.8km、道の駅まで 16,868 歩、5.0km、フィッシングセンターまで 25,582 歩、6.1km、市役所下交差点まで 32,802 歩、5.1km、合計 23.0km。 ・柏市のゴミ収集車が巡回していて、道の駅手前でゴミを受け取ってくれた。 ・かわせみ、のすり（鷹の一種）に会った。雉、鮭には会わなかった。 ・道の駅「沼南」にて昼食調達可能。
参加者	<p>Aグループ： 小川誠(L)、原田和（クーンL）、原田君、小川洋、箕輪カ、箕輪完、瀬田、齊田、新谷</p> <p>Bグループ： 高橋重(SL)、清家、村松峯、桐生、外崎、本田、小谷</p> <p style="text-align: right;">男 5 名 女 11 名 計 16 名 (A 9 名、 B 7 名)</p>



< 7 1 7 > 忘年山行

御前山
(156m)

やまたんより転載

1 班

- ・定刻より早く御前山青少年旅行村駐車場に到着。1 班が先頭で歩き始める。時間は十分に有るのでゆっくり歩くようにする。
- ・快晴の天気。管理棟を過ぎると急な階段の連続で一汗かいた所で展望台に到着。前方には那珂川の上に。白い霧が水面を流れていた。まわりの景色と一体になって幻想的な雰囲気を出している。
- ・展望台の足元に小さな看板でこの地点が富士山(H183m)と書いて有る。今日のコースでの最高地点で地元では富士山と呼ばれているのかなと思ひ納得する。
- ・途中、林道に2度降りて目的地の御前山に到着。特に、目立つ物はなくて小さな看板が有るだけ、写真を撮ってから次の地点に向かう。
- ・最後の目標地点は鐘つき堂、日立方面から北関東平野一面の展望を楽しむ。北西方向の遠方には白く冠雪した山並みも見えた。
- ・今年の忘年懇親会は城里町の「うぐいすの里」でのバーベキューを楽しむ。設備は満点、気温も暖かく澄んだ空気の中で食担さんが準備してくれた料理を美味しく食べた。食担さんに感謝。
- ・最後は全員でレクリエーションを楽しみ、一年の健康で安全な山行を閉めて帰路に着いた。

(原田和)



▲ 鐘撞堂跡にも御前山の標識があった(1班)

御前山山頂にて(2班) ▶

2 班

- ・師走のモルゲンロートを見ながら那珂川大橋近くの道の駅を經由し青少年旅行村に到着。
- ・8時過ぎ、階段登りからスタート。すぐに眺望の素晴らしい富士山の展望所。遠くに男体山～女峰山、鶏頂山、那須連峰などが見える。那珂川には川霧が立ち込め美しい。
- ・孝謙天皇(女帝)と僧道鏡の話もある御前山エリアの落葉道のアップダウンは「関東ふれあいの道」なので標識はしっかりしている。山頂らしくない御前山標識 156m を過ぎて 10 時 45 分に道の駅着。移動したウグイスの里で、早速グループごとに炭火おこしをして BBQ の準備開始。各位への慰労と、一年を締めくくる山行部長からの乾杯の発声は 12 時前。
- ・ニンジン、玉ねぎ、キャベツなどの豊富な野菜と肉・ウィンナー、きのこなどすぐに食べられるよう手が加えられた食材は、齊田食料担当長と 12 期から 15 期の方々への心こもった事前準備の賜り物、あり難くいただく。どんどん焼ける牛肉・イカ・ホタテなど具材は今回研修生?の末永氏からの掛け声で、スグに鉄板からメンバーの食器に取り去られる。他にも会員からの美味漬物や、差し入れの黒豆の枝豆など大ご馳走!!そして、岳人祭からの申し送りを加えた多種類のアルコール!!皆様の協力のお陰なのだ、とても嬉しい気分になる。キムチ入り焼きそばまで食べて、飲んだ後は、広場で輪になって山の歌。英さんのハッピーバースデーもあり、大いに盛り上がる。帰路のバスの中もカラオケあり、ナマオケあり、楽しいご挨拶や語らいありで、楽しい一日はあっという間に過ぎた。
- ・海に浮かぶ氷山は水面より上の「氷山の一角」しか見えないが、会の行事は、まさしく海面下にある大きな氷山の方だと、いつもながら思う。
- ・実行委員長の武内リーダー、当班の食担・矢野裕子氏とメンバーに大感謝!!!ありがとうございました。いろいろなことがあった一年でしたが、一年締めくくりの良き山行となりました。

(高橋重)



3班

- ・御前山は、以前から行ってみたい山でしたが、アクセスが余りよくなく行く機会がなかった山なので興味はありました。私たちのコースは通常コースの反対側から登りました。
- ・登山口には、予定より早く到着し、登山を開始しました。山の難易度を考慮して、準備運動なしで登山開始。しかし、いきなり少しきついのが続いてからだが目を覚ます。
- ・最初の到達点は、富士山(ふじやま 183m)山頂の展望台。ここからは、霞のかかった(雲海?)那珂川と御前山橋がかすんで見えた。ここからの展望が『関東の嵐山』といわれるところ。
- ・丸太の階段が4箇所あったろうか、小さな上り下りを繰り返し、御前山の表示のあるなだらかな山頂に到着。この先に真っ赤に紅葉したモミジと黄色のタカノツメ(このような名前の木は初めて知りました。この和名の由来は、この木の冬芽の形からと知りました。)が太陽に照らされて、雲のない澄み切った青空に輝いていました。それからまもなく紅葉した山桜の大木が、多く見られました。
- ・鐘撞堂跡には、展望台があり、なだらかな低山が遠くまで続いていました。ここにも御前山の標識がありました。先ほどの表示辺りまでが御前山でしょう。この辺りには、榊が多く自生していました。
- ・このコースの距離が5,712m。登山口にも、下山口にも、トイレが完備されハイキングにはいいところでした。
- ・下山後の宴会会場は、水道、トイレ、バーベキューセットが整っていて、屋根もあり満点のサイトでした。料理内容も準備も良く、十分に楽しむことができました。風もなく暖かいところでの全員での合唱は、幸せを感じました。
- ・総括リーダーの武内さんの下調べが行き届いていたこと、食担の手際よさに感謝。感謝。

(柴)



カンパニー(うぐいすの里にて)(3班)

4班

- ・年1回の忘年山行ですが毎年人数が少なくなっているような気がする。それでも楽しみの忘年山行、天気にも恵まれ常磐道を北に御前山へと4班に分かれての行動。山自体は若干のアップダウンもあり、紅葉の方はほぼ終わっていた。
- ・山行が終わって各班に分かれてバーベキューが始り、各班の作り方やき方いろいろであった。その後広場で輪になっての余興が始まり楽しいひと時でした。大いに親睦をはかれたのではないのでしょうか。
- ・御前山を決めた武内様、食担の材料の選択、本当に有り難うございました、本当に楽しい1日でした。(高橋英)



御前山山頂にて(4班)

総括

- ・風もなく快晴となり、絶好の忘年山行日和となりました。ゆったりとした懇親会にしようとして、少し短めのハイキングを計画しました。歩き足りないと感じられた方もおられたかもしれませんが。
- ・懇親会準備で食担に余り負担がかからないよう、会場はバーベキューサイトとしました。食担の事前準備もばっちり、とてもスムーズに懇親会を始めることが出来ました。美味しい漬物や珍しい黒豆の枝豆の差し入れにも感謝します。シーズンオフだったこともあり、会場を独占し誰に気兼ねすることもなく和やかなひと時を過ごすことが出来たと思います。
- ・今回の忘年山行の参加者は26名にとどまりました。近年にない少ない参加者だと思います。会の行事山行で約5割の参加者しかいないことは、何が原因なのでしょう。企画が悪かった(山の魅力が少なかった)のでしょうか、それとも会員の参加意識が希薄になっているからでしょうか。ちなみに、今年の新人歓迎、忘年山行のいずれにも参加していない会員が14名もいる現実があります。リーダーとしてとても気がかりで残念な思いをしています。(武内)

ハイキング

概要

山名	御前山		
月日	平成22年12月5日(日)		
山城	茨城(鶏足山塊)	地形図	1/25000 野口
形式	日帰り	グレード	1A
目的	一年を締めくくり、会員同士の親睦をはかる。		
費用	3,700円	交通機関	貸切バス(中型)
行程	我孫子駅北口 5:30/5:35(バス)→谷和原IC 6:05→友部SA 6:45/7:05→日立北IC 7:15→道の駅桂 7:37→御前山青少年旅行村 駐車場 7:45(準備)/7:50⇒管理棟 7:55/ 8:03⇒展望台(富士山H183m) 8:30⇒林道 8:55/9:00⇒林道 9:25⇒御前山 9:53/9:57⇒ 鐘つき堂 10:15/10:25⇒東口登山口 10:52⇒ 道の駅桂 10:55/11:10(バス)→うぐいすの里 11:30(懇親会)/14:40(バス)→日立北IC 15:15→友部SA 15:25/15:40→谷和原IC 16:08→我孫子駅北口 16:55(解散) 晴れ<行動時間3時間05分 内 歩行時間2時間35分>		
ルート状況	関東ふれあいの道。ルートはよく整備され歩きやすい。		
参加者	1班 武内(総合L)、原田和(L)、村松峯、箕輪カ、青山、新谷 2班 高橋重(L)、中村隆、小松、千葉、矢野裕、末永、村松俊 3班 柴(L)、小川誠、箕輪完、飯沼、藤倉、齋田、中村育 4班 高橋英(L)、小谷、瀬田、原田君、桐生、本田 男11名 女15名 計26名		



落葉道。1班に続いて3班。



林道に降り立つ。これからどっち？



ゴールは近いぞ！

概念図





カンパニー!



まだ、まだ焼くわよ!



懇親会



平成22年(2010)12月5日
忘年山行 御前山
グリーン社 うぐいすの里

< 7 1 8 >

虎丸山～熊岳～八重山
(468m) (531m) (531m)

坂巻 明

「虎丸山～熊岳山行」に参加して

12月11日(土)は快晴・無風で絶好のハイキング日和でありました。気温は10月を思わせ、日差しは非常に強かった。でも、計画書には防寒対策を厳重にとアイゼンの用意と書かれていました。

いつも利用する武蔵野線はつかわず中央線廻りをとった。東京駅に着き、長いエスカレーターに乗り2階のホームへ行く。快速電車が2階から発車するようになってずいぶんたつそうです。土曜日のため、通勤客が多くみられ少し混んでいるようです。

高尾駅で乗り継ぎ上野原に到着する。改札を出るとバスが待っていて、予定より一本早い便に乗ることになった。新井行きバスに乗り終点まで行く。途中、日大明誠高校前で生徒や他の乗客が降り、気がつくバスの中は私たちだけになっていました。ちなみに公立高校は土曜日休みでも私立は休みではないとのこと。間もなく新井に到着。終点はバスターミナルというより三角形のバス一台のスペースの停留所でした。

バスを降りるや登山口を探しはじめて歩行開始。登山口はわかりにくく2～3回地元の人に尋ね、バス停一つ分逆戻りした。南の山並みを仰ぐと雪をかぶった富士山がくっきりと見えます。20分ほどでようやく登山口に辿り着きました。リーダーの挨拶を聞く「今日は皆で虎(年)娘を祝ってあげましょう!!」 出発準備OK! 季節は秋から急に冬の様相に変わり、歩きはじめると登山道は落ち葉でいっぱいです。

「サクサク、カサカサ・・・」 30分もかからず虎丸山頂上に到着する。用意してきた顔の大きいくらいの虎シールを帽子に付け記念撮影となりました。年女グループでワンショット、年男を加えてワンショット、おまけで参加者全員のワンショットとなりました。仕掛け人様ご苦労様でした。

シールをつけたまま次の目的地能岳に向かいます。すれ違う人はなぜか怪訝そう。30分すると能岳頂上に到着。本日の最高峰です。しかし、視界は良くなく眺望はあまり望めませんでした。

つづいて三番目の目的地の八重山です。一度下って登る。10分ほどで到着。ここまで来ると視界は開け、向こうには来年の正月(来月)に山行がある扇山があり、その向こうに富士山が鎮座しています。展望台は広く、ベンチやテーブルが設置されていて私たちはその一角を占領し、2度目のイベントを始める。とらやの羊羹・とらサメのキャビアやテリーヌを食べながらホットグレープジュースで乾杯しながらメンバーを祝う。



集合写真:虎丸山頂上にて



トラ年と英さんの70を祝って
グレイプジュースで乾杯



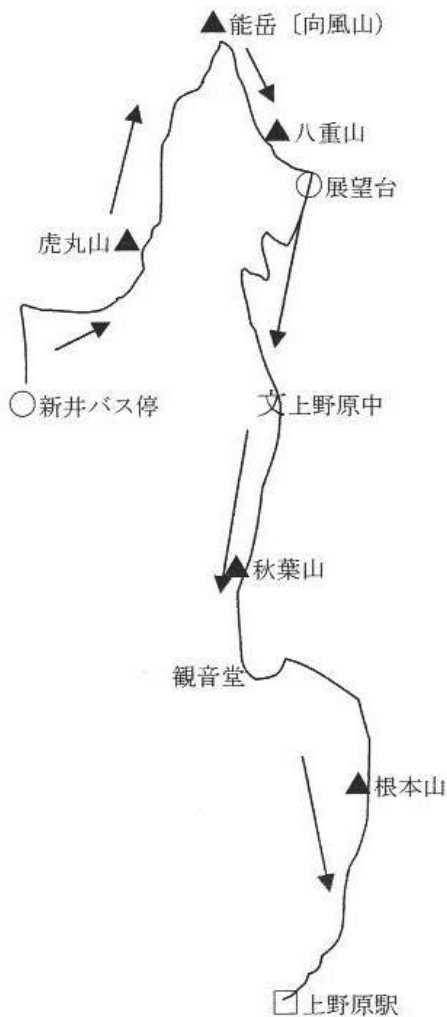
つづいて今度は、喜寿を迎えた高橋(英)さんのお祝いをします。パンケーキにハンズで手に入れた数字のロウソク(70)を立てて火をつけました。還暦と喜寿とダブルでのお祝い行事でした。一時間ほど休憩し、下山開始。少し離れたところの桜の花を模った屋根を有する展望デッキでは、さっき見かけたグループもパーティの最中でした。

八重山の登山道はよく手入れされていて、途中、植樹されたジュウガツサクラが花をつけていました。又、上野原中学校隣の登山口には公衆トイレと駐車場が真新しく完備されていました。

反省会では子トラになり、電車の中では重さんのおかげで大トラになり、トラグループの仲間入り。来年の年男・年女はいるのかな？

今日は小春日和の気候で風もなく最高の一日でした。たまにはこんなゆっくりした山行も良いのではと思います。皆さんお疲れさまでした。

概念図



概要

山名	虎丸山～熊岳～八重山		
月日	平成22年12月11日(土)		
山城	中央線沿線	地形図	1/25000 上野原
形式	日帰り	グレード	1A
目的	寅年「虎」の付く山 陽だまり山行		
費用	3,000円	交通機関	JR、バス
行程	我孫子駅 5:31→日暮里 6:00/607→東京 6:17/6:30→高尾 7:30/7:46→上野原駅 8:08/8:12(バス)→新井バス停 8:23/8:30 ⇒登山道入り口 8:48/8:50⇒虎丸山 9:20/9:28⇒能岳 10:03/10:13⇒八重山 10:30/11:30⇒展望台 11:45⇒八重山五感の森 駐車場(上野原中学校前) 12:15/12:25 ⇒上野原駅 13:15/13:32→高尾 13:51<反省会> /15/30 高尾 15:47→西国分寺 16:23/16:36→新松戸 17:33/17:35→我孫子 駅着 17:50(解散) <行動時間 4時間45分、 歩行時間 3時間15分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新井バス停から歩いて10分位の辺りに登山道に道があるはずが見つからず地元の人に聞く ・虎丸山へ登る道は入り口が狭く、途中からやや広くなり歩きやすいが急坂が続く ・虎丸山山頂には神社があった。そこから急な下りになって又、登り能岳に向かう尾根に出た所から登山道が広くなり歩き易い ・能岳から八重山から展望台へと歩き易い 		
参加者	高橋英(L)、原田和、高橋重、坂巻、原田君、 桐生、矢野貞、齊田、新谷 男4名 女5名 計9名		



虎和公と寅姫たち
はいポーズ!!

< 7 1 9 >

仏果山 ～ 華巖山
(747m) (602m)

小川誠二郎

「鉄人」の山

先週 12 月 5 日 (日) が忘年山行、茨城県の御前山。きょう 12 月 12 日 (日) は丹沢の東で今年の登り納め。鉄人青山さんリーダーの山行。おや？ 昨年と同じパターンだった。平成 21 年 12 月 6 日 (日) に忘年山行、筑波の雪入山。その次の週の 12 月 13 日 (日) に奥多摩の天地山から鋸山。これも青山さんリーダーの山行だった。

忘年山行で今年の納めというのでは納まらない、山への情熱には恐れ入る次第、と言いながら参加する、この心理、自分でも判らない。何はともあれ、今年最後の頑張りだ。

“青山さんの山行”はおおむねいつも尾根伝いにいくつものピークを踏んで歩く。一つ一つの峰はなんとか登れても、それを下ってまた次を登る。これを繰り返すと次第にボディーブローを喰らったように体全体でへたばって来る。昨年は天地山を踏んだあとの鋸山の登りはきつかった。

青山さんはザックに鉄アレイを入れて、大股でどしどし登る。下るときは小股で転がるように進む。とても真似できない。鉄人について行くのは容易ではない。きょうも承知の上で参加。何卒緩いペースでお願いしますと念じながら黙々と歩く。幸い、小学校低学年とおぼしき男の子を若いお父さんが連れて歩く二人組がすぐ前を行くので、そのペースで登る。息子のバンダナがかわいい。お父さんが息子に難しい話をする。何百メートルを何分で来た、頂上まであと何キロある、到着は何時になるか、なんてことを聞いている。大丈夫かと思っていたら息子はそこそこの答を言う。わが子育てはそんなに念入りではなかった、反省。

日陰の木立を抜けて日が差す尾根に出る。仏果上人が修験し開眼したことから名が付いた山だそうで、結構急登や岩場あり、一本入れたりして登る。

仏果山頂上には、何を思うてか鉄骨構造の立派な展望台があり、ザックを置いて階段を登る。大山など丹沢山塊が西に見える。お父さんがあれは何山、その右が何山と博識を披露してくれる。息子は真面目に聞いている。展望台を下りて写真を撮って出発。親子はコンビニのすしなどを食べている。お母さんは居ないのかなんぞといらぬ心配をして先に行く。息子がバイバイと送ってくれた。

急登して革籠石山、それを通過してアップダウンの尾根歩き。一旦林道に下り、次いで経ヶ岳に登る。すれ違った人は経ヶ岳は 15 分ほどで行って来れると言ったがそんなもんじゃない。経ヶ岳は弘法大師がお経を唱えたところだそうで、ゆかりの岩がある。それを巻くように越えて日当たりのいい休憩所で昼食休憩。快晴無風。来てよかった。

その先がいかにも“青山さんの山行”、華巖山まではきつかった。木の根やフェンスにつかまって急降下もした。さらに進んで高取山まで枯葉を踏んで到着。これできょうの登りはおしまい。やれやれ。何度アップダウンを繰り返したやら。途中、鉄砲と犬のハンター 2 人に遭う。いずれも獲物なしで慥然としていた。

下山道は、工事業者の話聞いて予定を変えて歩き易いジグザグ道を下りる。真っ赤な紅葉が何本か残っていて記念写真を撮る。大厚木ゴルフ場に出て、上荻野バス停まで歩く。

“青山さんの山行”をなんとか完走できて密かに達成感を味わった。これで今年納め。満足。感謝感謝。



まだ残る紅葉の下で



頂上にて



はるか下方に広がるエメラルド色

概念図



概要

山名	仏果山～華巖山		
月日	平成 22 年 12 月 12 日(日)		
山城	丹沢	地形図	1/25000 上溝 厚木
形式	日帰り	グレード	2 B
目的	関東ふれあいの道から昔道へ		
費用	約 3,000 円	交通機関	JR、小田急バス
行程	<p>我孫子駅(千代田線 4 両目) 5:33→代々木上原→本厚木駅 7:35/50→仏果山登山口 8:35/45 ⇒ 宮ヶ瀬越 9:45/50 ⇒ 仏果山 10:20/40⇒草籠石山 11:15⇒半原越 11:40⇒経ヶ岳 12:28/40⇒華巖山 13:18/25⇒高取山 13:40/45⇒大厚木ゴルフ場 14:22⇒上萩野バス停 14:48/51→代々木上原 15:35/17:15→我孫子駅 19:40</p> <p>晴れ < 歩行時間 5 時間 20 分 ></p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仏果山頂手前の急登にはロープが張られている。 ・ 宮ヶ瀬越から経ヶ岳間はアップダウンの連続で低山ながら手ごたえあり。 ・ 半原越で法輪堂(おろんど)林道に降り立ち横断して経ヶ岳登山口に進む。 ・ 経ヶ岳直下から南南東に進んで華巖山～高取山(相州アルプス南尾根)を目指す。 ・ 経ヶ岳～華巖山～高取山は東に愛川町、厚木市街地、西に丹沢山塊を見ながらの気持ちよい尾根歩きが続く。 ・ 高取山からの下山路は東尾根は急坂だが、北尾根作業径路は九十九折りのなだらかな下山路 		
参加者	<p>青山(L)、村松敏、外崎、小川誠、北川、千葉、田村、瀬田、本田、塩原</p> <p>男 3 名 女 7 名 計 10 名</p>		

<720>クリスマス山行

巻機山 (1,962m)

外崎 蓮

白銀のテントで祝うホワイトクリスマス

12/18 (土)

携帯電話の苦手な私でも、今はなくてはならないものになった。荷物が重いので、意識して置いてきたのがいけなかった。連絡を取ろうにも見ず知らずの人は簡単に貸してはくれない。そんな中、電車内で貸してくれた若い女性は一緒に心配までしてくれた。我孫子駅でメンバーに出会えたことを知らせようとした時にはもう姿はなかった。この朝の失敗談の中身は、情けなくてここには書けない。

上野駅から越後湯沢までは1時間と少しだが、長いトンネルを抜けたら「雪国」の小説どおり、雪景色に変わっていた。トンネルの向こうは青空だったのに、こちらは重たい空から雪が舞っていた。これが毎日となると気が滅入りそうだ。

駅前から魚沼タクシーで巻機山登山口へ向かう。山手に行くにつれ積雪が多くなって、清水部落の奥で車を降りた。会社の施設らしい人気のない建物の軒下で、身支度を整えて出発。ところが林道をそのまま進むべきだったが、手前の分岐を右手に入ったために道が行き止まりになり右往左往する。そこでいったん下り、東大ワングル小屋前から再出発する。先ほどの分岐を右に見ながら林道を進み、橋を2つ渡って、夏ならここまで車が入る桜坂駐車場に着く。

どんずまりの駐車場から坂を上がって右手の道に入る。べたついた雪のためアイゼンはつけない。雪はしきりに降ってくる。足跡の様子から前を二人ほど歩いているようだ。三合目に来た頃、3合5勺と書かれた木製の看板が目にとまった。東京学芸大登高会と横にしたためられてあった。樹林帯の急坂を登り詰めて5合目に着く。ここは手頃なテント場のようで、ダンロッパー張り張れる平坦地があった。さらに上の方も探したが適地がなく、ここにテントを張る。ダンロップのテントは、5つの大きなザックを入れてもまだ余裕があり、快適な居住空間がある。

今日は一週間早いクリスマスイブだ。何が良く、重いザックを背負って寒い雪山にやって来てクリスマスを祝わねばならないのか。ふとこんな

思いが頭をかすめるが、私はほとんど欠かさずに参加してきた。ほの暗いランタンの灯りと煮炊きするガスの炎がテント内を暖め、さらにそこに集う仲間の心まで暖かく包んでくれる。何がしかのおかずとアルコールがあれば最高。布一枚の外は銀世界。多分こんなことに惹かれているのだと思う。

今晚のメニューは、ホワイトクリスマスに相応しく鶏肉とホタテを入れた牛乳仕立ての飛鳥鍋だ。小さな5個のお菓子里にイチゴを乗せてクリスマスケーキに見立てる。私は100円のプレゼントに櫛を選んだ。男性4人のどの頭にも大して用を成さない贈り物だと思ったが、ある方が大層喜んでくれた。雪は夜中も降り続き、トイレに起きた人がテントの雪を払ってくれた。



5合目(焼松)のテントサイト

12/19 (日)

今朝は見事に晴れている。木の間越しに真っ白な前巻機山の稜線が見える。夜明けが遅く、出発が予定より1時間遅れた。昨日の足跡はほとんど消えている。テント場から少し登ったあたりは、同じ太さのブナの純林が広がり、それは見事な美しさだ。6合目に来ると視界が開けて、左手のヌクビ沢から突き上げた割引岳と天狗岳が近くに迫ってきた。一休みしていると、後から小さなザックを背負った夫婦連れが来て、私たちを追い越して行った。6時半に桜坂を出発してきたという。7合目付近に来ると、昨日入山したと思われる男性の一人が道端にいた。彼は登頂をあきらめ大阪に帰ると言って下山して行った。道端に雪洞を掘ったと言ったが、穴らしきものはなかった。どうやって夜を明かしたのであろう。もう一人は、8合目手前の灌木帯の中に張られた一人用のテントの主であろうか。ということは、私たちの前には3人が先行している筈だ。

8合目の標識は、樹林を抜けた雪野原に埋もれ

ていた。先行者の足跡は、急斜面を詰めているようだ。

あとを付けると滑落しそうなので、わずかな平坦地を見つけて全員アイゼンをつける。アイゼンの威力を今更のように感じる。

前巻機山の直下に来たところで行動を打ち切りにした。11時を限度と決めていたからだ。振り返ると、青空の中に谷川連峰から妙高・火打ヶ岳がくっきりと見渡せる。一度は登ったことのある山々の連なりを見ていると下山が惜しまれる。

昼過ぎにテント場に戻り、暖かな日差しの中でテントを撤収していると、夫婦連れが下山してきた。

それから間もなくテントの青年が下りて来て、これで上には誰もいなくなった。超スローな我が一行もテント場をあとにする。雪が大分とけて、ゴロゴロした石に足をとられ全員よく滑っては転んだ。それでも下りは早いもので、1時間で桜

坂の駐車場に戻ってきた。さらに林道を下って行くと、予約したタクシーがタイミングよく上がってきた。タクシーが東大ワンゲル小屋を通りかかると、大阪に帰った筈の例の男性がまだウロウロしていた。

山道を抜けると魚沼産コシヒカリの田んぼの中を走る。それとは裏腹に寂れた寒村は何を意味しているのか。小さな農家が点在し、腰を曲げたお年寄りの姿がちらほら。雪が3mも積もると運転手が言った。この運転手は実に楽しい人で、私たちに素朴な疑問を次々に向けてくる。そしていちいち驚きの声をあげてみせる。

越後湯沢に戻り駅前の温泉で暖まったあと、そば処の中野屋へ入った。新潟のうまい酒と名物のへぎソバを堪能する。越後湯沢からは、わざと各駅止まりのMax たにがわに乗り、個室(?)を陣取ってゆっくりと上野に戻る。神奈川支部の北川さんとはここで別れた。



←米子頭山への稜線

↓ 前巻機山にて



概要

山名	巻機山		
月日	平成22年12月18日(土)～19日(日)		
山域	越後	地形図	1/25000 巻機山
形式	テント	グレード	3C
目的	①白銀の世界でクリスマスと健康を祝う ②雪と氷の技術の習得 ③雪上のテント生活を楽しむ		
費用	20,000円	交通機関	JR, タクシー
行程	1日目	我孫子 6:12→上野駅 6:45/7:06(MAX とき) →越後湯沢駅 8:11/8:35(タクシー)→清水部落桜坂管理棟 9:20/9:30→東大ワングル小屋 10:10/10:20⇒桜坂駐車場(登山口 10:40⇒ 3.5合目 11:30⇒焼松(5合目)13:30(泊) 雪<行動時間 4時間>	
	2日目	5合目テント場 7:15⇒6合目 8:20⇒7合目 9:35⇒前巻機山(ニセ前機山)10:55/11:05 ⇒6.3合目 12:00⇒5合目テント場 12:35/ 13:30⇒3.5合目 14:00⇒桜坂駐車場(登山口) 14:25/14:35⇒桜坂管理棟 15:00(タクシー) →越後湯沢駅 15:35/18:08(たにがわ) →上野駅 19:34/19:50→我孫子駅着 20:30 快晴<行動時間 7時間 45分>	
ルール状況	<ul style="list-style-type: none"> 越後湯沢駅に降り立つと一面の銀世界。タクシーに行ける所まで行ってもらう。登山口手前30分位の桜坂管理棟の所で運転手ギブアップ。装備、衣類を整えて出発。 早朝に通過したと思われる薄い轍の跡を、登山口に向かう。但し途中、枝道に入り。ロスタイム約30分 広い駐車場には車、及び人の気配はない。但し一人ないしは二人の先行組が新雪の登山道に付けたトレースが目につく。割引沢方面の道を左に分けて檜穴ノ段コースに入る。中途には学芸大登山部が設置されたと思われる標識が現在地の目印になる。何故か4.5合目とか5.5合目と云う中途半端な距離を表示していた。 テント場に良さそうな場所を探しながら5合目(焼松)に1張りなら何とかなる狭い場所をBCにする。 早朝には雪は止み天気は急速に回復、約1m近くの新雪の中を山頂に向かう。6合目を過ぎると展望は開け、左手に見える天狗岩が朝日に輝いて聳えたっている。 急登を喘ぎながら7合目に向かう。ここまで登って来ると快晴の青い空と雪面の白さのコントラストがいかにも美しい。東面の大源太山が鋭角的な山容を見せてその存在観を誇っている。又南東側には谷川連峰の峰々が屏風のように白く輝いていた。 やっとの思いで急坂を登って7合目に着 		

く。時計を見るといつの間にか11時を少し前になっていた。行動する片道の設定時間になってしまったので、ニセ巻機山(8合目)迄登って引き返す。

・脱兎の如く下山して、タクシーにて越後湯沢駅前の公衆風呂に入り何時もの通り、中野屋にてへぎそばと新潟の銘酒で反省会。山頂は踏めなかったがクリスマス山行の目的は充分果たしたと思う。この時季の素晴らしい景観、感動、そして仲間との連帯感、これらを伝承する人たちが出てくることを願い、銘酒、吉乃川を飲みながら感慨に耽りながら新幹線にて帰途に着いた

参加者 村松(L), 外崎、北川、武内、高橋重
男4名、女1名、計5名

概念図



メリークリスマス
イチゴケーキとキャンドル

< 7 2 1 >

富士山（5～7合目） (2400m)

青山寿子

雪上訓練

馬返しに到着すると雪はなく、数パーティーの車が駐車していた。1合目から御室浅間神社のある2合目までは荷物が重く、大変長く感じた。3合目（見晴茶屋跡）からは富士吉田市街の展望がよく休憩するには最適。

4合目（大黒天）、5合目御座石と雪はなく5合目からは八ヶ岳、奥秩父の山々が展望できた。

2003年1月の富士山雪上訓練は馬返しからはたっぷりの雪だったが、今回は2000年8月に富士吉田駅から富士山登頂した時のような夏道だ。

6合目佐藤小屋手前でようやく雪にお目にかかる。佐藤小屋手前の平坦地（雪はなく枯草）にテントを設営し、雪上訓練場所と水を作る雪確保のため7合目まで登り、斜面で1時間アイゼン歩行訓練を行った。

訓練場所から影富士が見え感動する。眼下の忍野、河口湖が写し出され感動！！

2日目は夜明け前から雪上訓練の数パーティーがテント前を通過していく。昨日は雪上訓練の為、佐藤小屋には120人の宿泊者がいると昨日小屋の女将さんから聞いていたが、テント組も含めると200人ぐらい雪上訓練に富士山にきているのではないかな。

7合目半で雪上訓練に適した斜面、滑落しても安全な場所（休憩所がストッパーになる）を見つけ雪上訓練を開始する。



アイゼン歩行、ピッケルワーク、耐風姿勢、トラバース通過時でのザイル確保、滑落停止と約4時間が瞬く間に過ぎ充実した訓練が終了した。

滑落停止でピッケルのピックを雪に差し込む時グレードで打った右胸の打撲の痛みが消滅する3週間、いつまでも雪上訓練の名残を感じていた。

概念図



↑ 滑落停止 止まってる？

← アイゼン歩行
少しさまに成ってきたかな

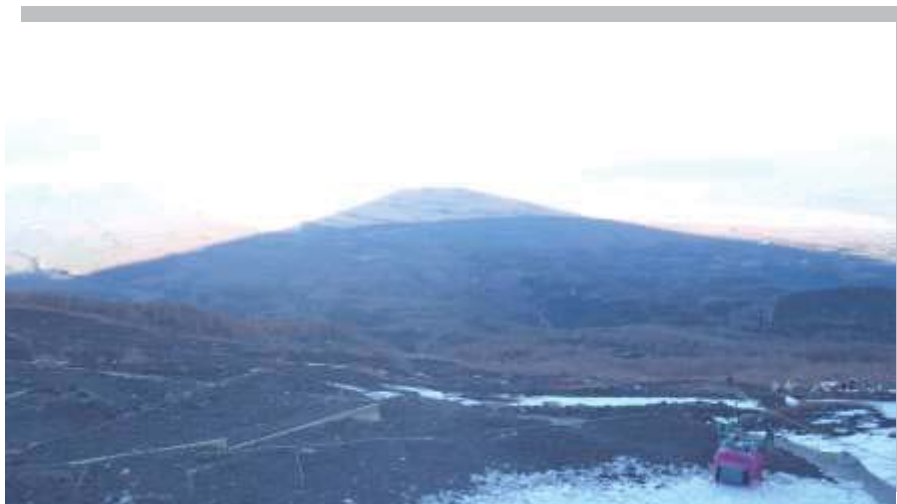


斜面のトラバース 恐怖感が有るのかな？



概要

山名	富士山（5～7合目）		
月日	平成22年12月18日(土)～19日(日)		
山城	富士山	地形図	1/25000 須走
形式	テント	グレード	3C
目的	雪山訓練		
費用	6,500円	交通機関	レンタカー
行程	1日目	柏高島屋バス停前4:50→富士吉田IC7:07 →馬返し7:30/8:15→1合目8:37→2合目 9:10→3合目9:42→4合目半10:58→中宮 11:11→五合目佐藤小屋下11:23/12:30(テ ント設営)→訓練場所13:50(アイゼン歩 行訓練、飲食用水の雪ブロック採取)15:10 ⇒テント場16:00 雪山生活訓練 泊	
	2日目	起床3:30/5:30 雪山訓練場移動⇒祠横5:55 ⇒訓練場所6:44(アイゼン歩行・滑落停止・ 耐風姿勢・その他) 訓練終了11:00⇒ブル 道横11:07⇒テント場11:23/12:30(テン ト撤収)⇒中宮12:55⇒4合目半13:08⇒1 合目13:40⇒馬返し14:05/14:35→富士吉 田IC15:00→柏17:30	
ルート 状況	・馬返しから7合目まで、雪が無くて所々ア イスバーンに成っていたがアイゼンは装 着せずに歩行が出来てしまった。		
参加者	堀口(L)、青山、千葉(SL)、佐藤明、瀬田、 小谷、矢野裕 男2名 女5名 計7名		



7合目からの影富士

< 7 2 2 >

曾倉山～扇山
(940m) (1,137m)

末永三江子

猿橋駅(8:50)からバスに乗り、浅川橋(8:50)下車、身支度、ストレッチを始めたがL(村松さん)、SL(矢野裕さん)、原田さん、高橋重さんが行ったり来たり(何しているんだろう??)連れてきてもらった私は暢気だ。

「ひとバス手前で降りたんだよ」「そこから登るんじゃない?」「あっちから」と色々な言葉が飛び交う。ますます私は??

とりあえず(腹が減っては戦は出来ぬ)と大勢だから安心も手伝って、パンをかじり腹ごしらえ。

行く道が決まり歩き始める(9:05)が、道しるべが見当たらない。墓地に迷い込んでしまう。皆で目を皿のようにして探すと、ピンクのテープが石の上の方に見えた。(ルートに入って良かった)と思いきや「今日のやまなみ末永さんね」と、村松さんの声。断る理由もなく承諾、ちょっと気が重くなった。(さっき暢気にしていた罰かも!)

気持ちを変えて落葉のジュータンがやわらかい足にやさしい道。列を後に付いて行くと誰かが「オー富士山が見える」と言った。進行方向右に木の間から大きな富士が見えたが、木がジャマしてすっきり見えない。「この辺りが曾倉山の頂上じゃない」と村松さん。看板はないが標高の高さで確認した。曾倉山は雑木のいっぱい立っている山でした。

もう1時間以上歩いているのに、今年一番の寒さということもあるのか汗をかかない。扇山が目の前に現れる。勾配がだんだんと急になっ

てきた。皆の息遣いが聞こえる。その時瀬田さんのこぶしの効いた声「頑張ってる」の応援が何度も陽気にひびいた。ここで重心を崩したら下まで落ちるんだろう。薄っすら汗もかく。緊張感。何度もふらつき、最後の勾配を登り切った。頂上だ(11:20)。

頂上は広い。登山者が数十人めいめいに食事したりお喋りや記念写真。雲ひとつない。空が近い。そしてもっとすばらしいものが。真白い晴れ着まとった富士山が厳かにそこにいた。なんて絶景。新年にふさわしい。(感謝、感激、神、あられ)そんな言葉が頭をよぎった。ボーっとみとれていると「皆集まって。記念写真撮るよ」と呼ばれ、その富士をバックに一枚。

昼食、ぜんざいパーティが始まる。皆で持ち寄った食べ物をワイワイガヤガヤ。ほんとうに楽しい。こんなに楽しめるのもこの仲間がいるから。ありがとう、感謝!



いよいよ下山(12:20)。途中、4cm程の霜柱が踏まれて倒れている。凍った柱が輝いて自然は美しいが滑りやすい。危険だ。足を小刻みに進め下りは早い。ここでも汗をかいた。舗装された道に出る。そこから駅まで5kmの道のり。大野貯水池を半周しながら四方津駅に着いた(14:50)。高尾駅に行き反省会。

すがすがしい今年初の登山でした。お疲れ様でございました。



上 扇山山頂にてお汁粉パーティ。

左 山頂から見た富士山



扇山山頂にて

概念図



概要

山名	曾倉山～扇山		
月日	平成 23 年 1 月 9 日		
山城	中央沿線	地形図	1/25000 大月、上野原
形式	日帰り	グレード	2A
目的	1. 1年の初登りは扇(おおぎ)の如く末広がり願いを込めて。 2. 正月の飲みすぎ、食べ過ぎを解消するために		
費用	約 3000 円	交通機関	JR, バス

行程	我孫子駅発 5:33→新松戸駅 5:51→西国分寺駅 6:55→高尾駅 7:26→猿橋駅 8:12/8:18(富士急バス)→浅川公民館前 8:50→登山口 9:10→稜線に出る 10:30→扇山 11:20/12:20→犬目部落 13:30→大野貯水池 14:20→四方津駅 14:50/ 15:02→高尾駅 15:35/16:45→西国分寺駅経由→我孫子駅着 18:34(解散)
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・猿橋駅から浅川行(大月始発)のバスは休日は1便(8:18)のみ(平日でも2便)この便を逃すと後はタクシーを利用するしかない。 ・曾倉山西尾根の登山口は解りにくい。浅川公民館バス停の先(約300m)の大きく左折する前方の左側に「私道宮ノ腰下667番地」と書かれた看板の反対側3m程の道に入る。 ・これを辿るとお墓のある場所に着く。その裏側にかすかな踏み跡があり、まもなく賽銭箱のある社殿に着く。その後方から尾根に乗る。 ・それからは忠実に尾根を辿る。浅川峠からの縦走路に合流すると道は良くなる。 ・曾倉山は山名板もなく、山頂は解らないが多分此处だろうと云うことで通過する。 ・下山路の大野貯水池経由のルートはやたら長い。半分以上は車道を延々と歩く。梁川駅に至るルートを探したが地元の方の話だと通行出来ないとの事。時間が無い場合は扇山山頂からは鳥澤駅に直接下山した方が早い。
参加者	村松(L)、矢野裕(SL)、外崎、高橋英、中村隆、原田和、小川誠、矢野貞、瀬田、高橋重、本田、塩原、齊田、菊地、新谷、末永 男7名、女9名 計16名

< 7 2 3 >

薬師岳
(2,780m)

青山寿子

風に泣かされた薬師岳

積雪期の薬師岳～観音岳は2000年3月、2002年正月と2回経験があるが、2000年3月は積雪が多く、南御室～薬師岳～観音岳間にはトレースがなく、薬師小屋は完全に雪の下に埋もれていた。が、天候に恵まれ観音岳まで登頂出来た。観音岳～地蔵岳のオベリスクを見て、将来はオベリスクに登ってみたいと思った。

2002年正月は2泊3日で地蔵岳のオベリスクに登る計画だったが、南御室に到着してテント設営中にテントポールが折れるほどの強風に見舞われ、翌日薬師岳山頂では強風の為、観音岳～地蔵岳は中止となった。..

今回は2日間好天候の予報だったので、2日目は観音岳までは行けると期待していた。しかし、1日目杖立峠から風が始めて15:40南御室でのテント設営は、テントの中に2人分のザックを入れてもテントが風で飛ばされそうになり苦労した。山火事跡で出会った単独行男性は夜叉神峠登山口を6:00に出発し観音岳までアイゼンなしで登頂出来たとのことだったが、午前中は風は強くなかったのではないだろうか。

4～5人用テントで3人就寝だったので寒さが身に凍みて、珍しくホカロン2枚を張って1夜を過ごした。



夜叉神峠から見る白根三山。右端が北岳。



薬師岳山頂。観音岳はそこに見えているのだけれど。

翌日6:15南御室を出発し、樹林帯で木々の間から日の出に出会い、森林限界を超えると強風が吹き荒れていた。砂払岳～薬師岳は突風で度々体制を崩しそうになった。

薬師岳では記念撮影も困難な程の強風の中、数枚を撮影し早々に下山する。

下山開始直後、南御室でテントを設営していた2人パーティーとすれ違いが観音岳まで行ったのだろうか？お供物のわらじを担いでいたので観音岳まで行く予定でしょう。

又、薬師小屋横にテントを設営していた男女6人パーティーは早朝出発し観音岳まで強風だったが登頂したとの事。よく行けたなあ～

南御室～苺平間で出会った若い単独行男性は夜叉神峠登山口7:30出発で南御室到着10:30とは山岳ランナーではないだろうか。

今回出会った数人の単独行男性は日帰り薬師岳～観音岳を往復していたのにはビックリ！！テント泊ではなく10時間歩くのであれば日帰りを可能かも知れない。テント泊の体力なくなるシニアには考えても良い山行スタイルではないか。



南御室小屋前にて。

概念図



杖立峠にて。風はまだ強い。



葎平から下ってくると左に富士の雄姿が

概要

山名	薬師岳		
月日	平成22年1月21日～23日		
山城	南アルプス	地形図	1/25000 夜叉神峠、鳳凰山
形式	テント	グレード	4D
目的	雪山の素晴らしさの体験		
費用	約5000円	交通機関	車
日程	1日目	前日夜 柏 21:30→(中央HW)→甲府昭和IC→芦安芦倉駐車場(仮眠) 8:00→夜叉神峠登山口 8:55→夜叉神峠 10:05/10:15→杖立峠 11:45/11:55→葎平 14:10→南御室小屋 14:40 (テント泊)	
	2日目	南御室小屋 6:15→砂払岳→薬師岳 7:50/7:55→薬師小屋 8:05→南御室小屋 8:55/10:00→葎平 10:40→杖立峠 11:30→夜叉神峠 12:25/13:00→夜叉神峠登山口 13:40→芦安芦倉→甲府昭和IC→柏 18:00	
ルート状況	<p>①雪が少なく、夜叉神峠登山口はほとんど雪のない状態。</p> <p>②夜叉神峠～杖立峠前半の急な登りの部分は雪が解けて凍った状態。1日目は靴のまま注意しながら進み、2日目の下りでは安全のため、アイゼンを装着した。後半の平坦な部分は問題ない。</p> <p>③②の部分を除けば、前に入った人のトレースもあり歩きやすかった。ルートを踏み外さなければ雪に膝まで潜ることもほとんどない。</p> <p>④南御室小屋は予約すれば人数によって冬季も泊れるのかもしれない。今回は無人だったが、玄関、乾燥室の部分は施錠なく中に入れた。また、冬季開放の部分もあるが、畳敷き。</p> <p>⑤南御室小屋は冬季用のトイレが使える。水場は最初雪に覆われていたが、小谷さんがピッケルで掘り出してくれた。おかげで雪を溶かして水を作る必要なく、湧水をふんだんに使えた。</p> <p>⑥南御室小屋のテント場は強風に吹きさらしになる。</p> <p>⑦薬師小屋の脇にもテントが張れる。こちらも強風にさらされる。薬師小屋は半分以上雪に埋まった状態。</p>		
参加者	千葉 (L)、青山 (SL)、小谷 男1名 女2名 計3名		

< 7 2 4 >

陣馬山 ～ 景信山
(857m) (727m)

原田和昭

厳冬の一歩を歩く

昨年末から連続 33 日も乾燥注意報が出ている。西高東低の冬型気圧配置が続き大型寒気団が連続して南下して一番寒い朝。西国分寺駅を過ぎて高尾駅に向かう車窓から見える真白い富士山に赤い太陽の輝きは素晴らしい感動を与えてくれる。

陣馬高原下バス停には定刻に到着。天候は晴れだが気温は零下、準備を整えて歩き始める橋の袂を左に入り、雪は無いが土は固く凍りつき足元は滑り易い、オキナツル沢左岸尾根に取次いで藪漕ぎを始める。紅い鳥居と祠を目標に登る。竹と雑木の混植に小枝が跳ね返る足元は最悪の急登。30 分程登ると下枝の跳ね返りも無くなりピークに出ると楽になる。ここからは何時ものペースにもどる。

高度 680m の作業小屋を過ぎると間もなく奥高尾縦走路に出る。そこを右折して陣馬山に行く。陣馬山山頂からは霊峰富士山、奥多摩の山々等、江の島の海などが楽しむことが出来た。気温が低くて休むと寒くなるので長い休みは出来ないので写真を撮ると直ぐに歩き始める。



陣馬山山頂にて記念撮影

ここからは何度も来たことのあるなれた道、明王峠を越えて堂所山で昼食を取る。昼食の



間には陽射しはあるが北風が吹いて寒いので早めに切り上げる。どこまで行っても寒さの連続です。

景信山まで来ると登山者も多くて風も止んだのか暖かくなり、陽だまりの暖かい太陽の光に当たりゆったりとした時間を過ごす。ここから建設中の東京スカイツリーや新宿の高層ビル街、横浜のビル街等の関東平野の展望を心行くまで楽しみ、反省会への時間調整をする。

景信山からヤゴ沢への下りはジグザグの登山道で一気に標高差を下げて水場に到着する。水場には備え付けのコップがあって美味しい水を飲む。ヤゴ沢入口からは舗装道路をガラガラと S カーブを描きながら下る。道路の側溝の水は氷結したままで午後でも融ける様子はない。一日中気温は低いままである。やがて右側に大きなお寺、宝珠禅寺があってバス停が出て来た。厳冬の一歩を元気に歩いてバスで高尾駅に出て反省会を楽しみ、一日を元気に終わることが出来た。ありがとうございました。



概念図



概要

山名	陣馬山～景信山		
月日	平成 22 年 1 月 30 日		
山城	高尾山	地形図	与瀬 1/25000
形式	日帰り	グレード	2 B
目的	奥高尾縦走路への静かな登降路		
費用	約 3000 円	交通機関	JR, バス

日程	<p>我孫子駅発 5:33→新松戸駅 5:47/5:51→西国分寺駅 6:46/6:55→高尾駅着 7:20/7:50(バス)→陣馬高原下バス駐車場着 8:22/8:35→尾根に出る 9:00⇒ピーク 9:15⇒休憩 9:35/9:45⇒作業小屋 10:05⇒尾根道に出る 10:20⇒陣馬山 10:45/10:55⇒明王峠 11:30⇒底沢峠 11:40⇒堂所山手前の分岐⇒堂所山 11:55/12:20(昼食)⇒分岐まで戻る⇒鉄塔 12:43⇒景信山 13:10/13:40⇒分岐 13:44⇒水場 14:05⇒舗装道路に出る 14:20⇒小仏バス停着 14:35/14:40(バス)→高尾駅北口着 14:55/16:46→神田駅 17:42/17:44→上野駅 17:50/18:02→我孫子駅着 18:35 <行動時間 6 時間 歩行時間 4 時間 50 分></p>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・積雪はしていなかったが、稜線は霜柱が氷となっていて滑りやすくなっていた。 ・4 6 6 M点迄は急登の上、枝の跳ね返りがうるさい。 ・720M 付近で左の巻道を経て奥高尾縦走路に出たが、直登すると富士トヤ山を経て奥高尾縦走路に飛び出す。 ・陣馬山頂からは南東に富士山、西に江ノ島、南西に新宿が展望できた。 ・下山路の沢沿いの登山道は凍結している箇所があり多々あった。 ・ヤゴ沢は景信山から小仏バス停への最短コース。
参加者	<p>青山(L)、外崎(SL)、小川誠、高橋芳、菊池、原田和、田村、新谷、塩原、末永 男 3 名 女 7 名 計 10 名</p>



堂所山山頂で

< 7 2 5 >

黒斑山・水ノ塔山
(2,404m) (2,202m)

本田愛子
齊田記代美

白銀の浅間山

八ヶ岳、穂高、燧、妙高が見えた

1日目

本田愛子

雪の山を楽しむ黒斑山に行きたいと参加を申し込んでしまいました。しかし、岳人あびこの雪山山行は初めてで昨年新人参加の雪山訓練も参加してない。リーダーから雪山の経験を聞かれ何回か個人で行った雪山を報告しましたがピッケルの使い方やワカンの装着などは初めてで体力も自信はないので諦めていたらリーダーからご一緒しましょうと返事を頂き皆さんの足手まといになる不安はあったが一日目の黒斑山だけでも頑張ろうと思いました。

上野から新幹線に乗り佐久平で下車すると駅前にジャンボタクシーが待っていた。9名(男2名・女7名)が乗って高峰高原に向かった。新幹線の車窓から浅間山と黒斑山が見え雪が少ないかと思ったがタクシーが山を登っていくとだんだんと辺りが雪景色になってきて2,000mまで上ってくるとスキーのゲレンデがあり高峰高原ホテルに到着した。

ホテルに不要な物を預け支度をして玄関前に集合した。登山口はホテルの向かい側にあり黒斑山登山口の看板が立っている所に入っていくと二つのコースに分かれ私たちは南側の方へ向かった。道もトレースしていて緩やかな登りで歩きやすいのでアイゼンを付けずに歩けた。車坂山のピークにくると南側の眺望が良く遠くに富士山や南アルプス、手前に八ヶ岳連峰と裾野に佐久平が広がり素晴らしい眺めだった。今日は天気も良く暖かい登山日和になった。晴れ女、晴れ男がいて幸運だった。そこから少し下った所で休憩してリーダーに確認してもらいながらアイゼンを付けた。急坂が暫く続き樹林帯の雪の中に非難小屋がありそこが槍ヶ鞘と地図に記されている。少し登ると視界が開け浅間山が目の前に現れてその美しい姿と雄大きさにびっくりして暫く見とれて

いた。冬の浅間山は白い縦じま模様で天からミルクをかけたようだと誰かが言った。

浅間山に見とれていたが手前に鋭く一本の岩が空に伸びていた。これから行くトミーの頭辺りらしいが急勾配の登りを行く人が見える。少し下って登るが分岐点があり、中コースとあり下りが45分と記されてある。稜線の樹木には雪が積もりモンスターのようだ。右側に気を付けながら急坂を登りきると見晴らしのいい場所がトミーの頭だった。浅間山をバックに写真を撮り素晴らしい眺めを満喫した。あとひと頑張りで山頂だ。さすが2千メートル以上までくると風も強くなって冷たく顔を刺す。20分位急坂を登りきると黒斑山2404mの山頂に着いた。

ここを登れば黒斑山山頂は近い
(赤ソレの頭付近)火口壁に米粒
のような登山者が歩いている ↓



↑ 黒斑山行メンバー
天気良し！景色最高

山頂はけっこう人が登ってきていた。樹林の中で武内さんがコップェルに湯を沸かしておしるこを作ってくださり、汗をかいてヤッケを脱いだりが寒くなってきた。雪中でのおしるこは体の芯ま

で温まりなによりのご馳走でした。

元気になって下山開始です。登ってきた急坂をトミーの頭まで下りてくると2組の団体がいて隙間がなくそこは通り過ぎ急坂を慎重に下って分岐点まで来たところで下りは中コースの方に下りていくことになった。樹林帯の緩やかな歩きやすい雪道を下って行く途中でリーダーが立ち止まってピッケルの持ち方や滑落止め、急坂の下りは必ずピッケルを突きながら下りていくようにと指導してくださった。所々で明日登る水ノ塔・箆ノ塔山やスキーのゲレンデを眺めながら分岐から50分程で登山口に下りてきた。

アイゼンをはずしホテルの乾燥室で雪山装備を置いて各室に入り浴衣に着替えると登山者から旅行者の気分になり入浴前に男性の部屋に集まり飲み会になった。暫く談笑し、入浴を済ませた頃ちょうど夕食の時間になった。ちなみにお風呂は温泉で南側のガラス壁からの眺望が良く夕暮れの八ヶ岳連峰が美しかった。

食堂の夕食はフランス料理でワインで乾杯をして山では贅沢なディナーコースでした。寝る前にライトアップされた雪景色を湯船の中から見ながらもう一度入浴した。明日は水ノ塔・箆ノ塔山に無事行けること、晴天になることを祈りながら早めに就寝する。

今日は天候にも恵まれて気持ちよく歩いて雪山を楽しめたことを感謝します。

2日目

齊田記代美

今日の天気予報は、午前中は‘晴れ’午後に行くにしたいが崩れるということでした。

朝、青空でとても良いお天気です。7時30分からの朝食をみんな待ちかね時間前にレストラン前に集まりました。昨夜は暗くて分かりませんが、レストランの大きな窓からは八ヶ岳から南アルプスの山々まで眺めることができます。朝食も山行とは思えない豪華さで、食後のコーヒーまでゆっくり飲んでいたので出発の時間までに身支度が間に合わなくなってしまい大慌てです。

昨日は会からお借りしたピッケルを使ってみたくて持って歩きましたが、今日はストックにしました。ところがストックが錆びついたのか一か所どうにも伸びません。なんとか他のところをいっぱい伸ばして左右を合わせ歩くことができたが、出掛ける前のチェックの甘さを露呈してしまった。先輩からのアドバイスでは、しまっておく時はバラしておくとのことでした。山行

に参加するごとに知恵を頂くことになります。

ホテルを出発し車道を登って行ったが行き止まりになっていたのも、元に戻り高峰温泉行きを登り返した。雪道は表面が締まっても一歩足を踏み込むと膝までズボッともぐってしまい、初心者雪道歩きの良い訓練になりました。



シュツパーツ(水ノ塔山)

登山口は高峰温泉前にあり、ここで、アイゼンを付けて、いよいよ登山開始となった。アイゼンを付けることで初心者にとっては滑らないという安心感があり、落ち着いて歩くことができました。カラマツ林の中は急登のところもあり汗ばむ暖かさでした。でも、樹林帯を抜けると今度は風が冷たく感じられ衣服調整をこまめにしなければなりません。一か所道が細く右が崖になっているところがあり緊張しましたが、眺めは最高で白銀の中を黒斑山、浅間の前掛山などを眺めながら登って行きました。水ノ塔山山頂手前では右手の、青空に雪を被った木々が輝いた中を歩き、頂上に到着しました。

頂上からは八ヶ岳をはじめ、穂高からうっすらと見える槍ヶ岳、そして燧石、妙高山などなどの山々の360度眺めることができ最高でした。東籠ノ登山をバックに写真を撮ってもらうために歩こうとすると、山頂は岩と這い松のようで、ところどころ雪洞のようになっていて腰までも潜ってしまいました。ちょうどお昼になり、空は次第に雲が出てきて、帰りの時間を考えると先には進めないということで戻ることにしました。

今度は、巻道の合流点まで南側を歩きましたが、こちらは八ヶ岳方面を眺めながらの下山で雪が付いていない岩もあり登りとはまた違った緊張感と楽しさがありました。下りは一気でしたが、高峰温泉から高峰高原ホテルへの道は、あさま

2000 スキー場の脇の道がとても長く感じられ、高峰温泉のお客を乗せたキャタピラーの車が行ったり来たりしていてとても羨ましかった。次回は高峰温泉に泊まる山行もイイかも・・・と贅沢なことを想像してしまいました。

ホテルで温泉につかり、ジャンボタクシーで佐久平駅へ行き新幹線の中で、反省会をしながら帰途に着きました。

私にとって雪山山行は、今年の谷川岳・吾妻耶山に次ぐ2回目の参加でしたが、天候に恵まれ(帰りの新幹線では雷が鳴り、雨が降ってきました)、空気の澄んだ冬ならではの山々の展望と雪山歩きを楽しむことができました。

概念図



概

山名	黒斑山・水ノ塔山		
月日	平成 23 年 2 月 5 日(土)～6 日(日)		
山城	浅間連峰	地形図	1/25000 車坂峠
形式	山麓泊	グレード	3 C
目的	雪の山を楽しむ		
費用	約 25,000 円	交通機関	JR、タクシー
行程	1 日目	我孫子駅 6:12→上野駅 6:45/6:58→佐久平駅 8:21/8:27→高峰高原ホテル 9:05/9:40→登山口 9:45→車坂山 10:45/10:50→分岐 11:40/11:45→トーマの頭 11:55/12:05→黒斑山 12:25/12:55→トーマの頭 13:15→分岐 13:20→登山口 14:02→ホテル 14:10 ＜行動時間 4 時間 30 分＞	
	2 日目	高峰高原ホテル 8:25→高峰温泉登山口 10:05/10:15→水の塔山 11:35/11:55→登山口 12:30/12:40→ホテル 13:20/14:30→佐久平駅 15:10/15:35→我孫子駅 17:38 ＜行動時間 5 時間＞	

ルート状況

- ・黒斑山 (1 日目) へは、あちこちに延びるスノーシューのトレースに惑わされぬよう南の尾根 (表コース) を進む。避難用シェルターを過ぎた赤ゾレの頭から少し下ると中コース分岐。この付近で大きな浅間山が目の前に顔を出す。トーマの頭へは右の火口壁側が切れた急登。針葉樹の尾根を登ると黒斑山。浅間外輪山と浅間山、四阿山などが大きく見える
- ・水ノ塔山 (2 日目) へは、車坂峠からアサマ 2000 スキー場へ車道を行き、高峰マウンテンロッジ (バス終点) から一番北側のリフト乗場 (トイレあり) へ。そこから滑降コースグレンデ右側を歩き高峰温泉へ出る (バス終点付近から雪上車の跡を辿る) のが正規ルート。
- ・2 山とも多くの人が入っており、降雪直後で無い限りワカンは不要と思われるが、スノーシューで歩いている人も多い。

参加者

高橋重(L)、外崎(SL)、武内、青山、桐生、田村、瀬田、齊田、本田
男 2 名 女 7 名 計 9 名

< 7 2 6 >

皇鈴山～登谷山～釜伏山
(679m) (668m) (582m)

塩原百合子

いつもの始発ではなく5:58湖北発に乗り、我孫子で皆が来るのを不安な気持ちで待ち最初に小川さんが現れ一安心。そのうち皆さんも来られたので安心して池袋に向けて出発。池袋から東武東上線、快速急行に乗り小川町駅下車。バスの時間までだいぶあったので、タクシーに2台で行くことになった。打出の登山口付近で降り、8:40出発。

いかにも里山といった雰囲気の中を歩く。至る所に道標がありとても歩きやすかった。このコースは春には外秩父七峰縦走ハイキング大会があるそう。愛宕山の手前に小さなドーム状の天文台があった。皇鈴山山頂は広くゆったり東屋もあり小休止。



皇鈴山にて

登谷山山頂では晴れていればきっと山々が見えたことでしょう。少し残念でした。登谷高原牧場に下りてくると閑散としていた。春になるとお店は開くのだろうか？釜山神社に入ると六対の狛犬が並んでいた。狼らしい。とても面白かった。

お参りを済ませ丁度テーブルといすがあったのでお昼にした。リーダーがわざわざコップでお湯を沸かし、コーヒーをごちそうしてくださいました。重いのにご苦労様でした。釜伏山に向かい、低山にもかかわらず頂上直下な急な岩場の連続であった。今までのハイキング気分はどこへやら。

すっかり登山者になっていた。下り降りて見上げると岩場のすごさに驚いた。

風布館を過ぎ、車道を歩いていると「風のみち」遊歩道を見つけそちらに入っていくとまた整備されたハイキングコースが現れた。とても気持ちの良い山道を歩くことが出来た。埼玉県はお金があるのかなと思わせた。

しばらく歩いて舗装道路に出て波久礼駅に向かった。波久礼から寄居駅で降り反省会で今日の山行を締めくくった。休憩を含めて七時間近くかかった計算だ。

今日は曇りではあったが、とても気持ちの和むのどかな高原あるきになった。今の時期ろうばいの花がかぐわしい香りをはなっていた。



中村コーヒー店(釜山神社)



ロウバイと四姫

概要

山名	皇鈴山～登谷山～釜伏山		
月日	平成23年2月6日(日)		
山城	奥武蔵	地形図	1/25000 寄居、安戸
形式	日帰り	グレード	2 A
目的	のどかな高原歩き		
費用	4,000円	交通機関	電車、タクシー
行程	<p>我孫子駅(成田線上野行快速) 6:12=日暮里=池袋 6:55/7:00(東武東上線)=小川町駅 8:00/8:15(タクシー) — 打出 8:30/40 登山口⇒二本木峠 9:50⇒愛宕山 10:10⇒皇鈴山 679m 10:40/55⇒登谷山 668m 11:20⇒釜伏峠 11:50⇒釜山神社 11:55/12:30⇒釜伏山 562m 12:45⇒日本水分岐 13:10⇒車道 出会 13:50⇒日本の里(風布) 14:10⇒風のみち歩道入口 14:20⇒同出口 14:50⇒秩父鉄道波久礼駅 15:05/15:21=寄居 15:30/17:21(反省)=小川町=池袋 19:00=上野=我孫子駅 20:00</p> <p>曇り<行動時間 6時間25分、歩行時間 5時間25分></p>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> このコースは東武鉄道が主催する「外秩父七峰縦走ハイキングコース」(注)の最後の部分である。但し釜伏峠から寄居駅まで車道歩きとなるので、今回はそれを避けて釜伏峠から波久礼駅へのコースに修正した。 (注)小川町駅—官ノ倉山—笠山—堂平山—剣ヶ峰—大霧山—皇鈴山—登谷山—寄居駅(全長42.7km、コースタイム12時間) 小川町駅から登山口(打出)までのバスは会社がイーグルバスに変わり時刻も休日は7:09から9:10までない。待つタクシー利用となる。 二本木峠までは集落の中を縫うようにして登るが、七峰縦走のエスケープルートになっているため道標はたくさんある。登山道があって車道はほとんど歩かない。 釜伏山の登り下りは岩稜、特に下りは蛇紋岩の上に落ち葉が乗っていて滑りやすいので注意を要する。 「風のみち歩道」は川沿いに作られた気持ちのよい歩道だ。
参加者	<p>中村(L)、新谷(SL)、飯沼、千葉、小川誠、塩原</p> <p>男2名、女4名 計6名</p>

概念図



釜山神社にて

< 7 2 7 >

畦ヶ丸～加入道山～大室山
(1,293m) (1,418m) (1,588m)

北川勝久

1 日目

今回の西丹沢山行の参加メンバーと新松田駅 8:00 に合流。天気予報では晴れの予報が出ていたが、空はうす曇りでどうにもすっきりしないような天気。そんな天気の中、登山口のある西丹沢自然教室へ向かう。当初はバスで行く予定にしていたが、時間的ロスを考え、急遽タクシー向かうことに。タクシーでの道中、山の景色をみても、まったくと言っていいほど、雪は積もっていないような状況。数日前には関東近郊では積雪があったのだが…。

今回の山行は加入道避難小屋泊まりを予定しているが、水場がないため多少の積雪を期待したいところだが、各自用意した水をそのまま持っていくことに。

適当に体を動かし、準備運動をしてから畦ヶ丸へ向けて9:00頃、登山を開始する。

登山口は自然教室からすぐのところであり、案内板に従って進んで行く。沢を何度か渡り、えん堤を越えながら、徐々に高度を稼いでいく。と、いってもそれほど急坂ではないので、1時間に1回程度、休憩しながら比較的安定したペースで登っていくことができる。「畦ヶ丸」までの距離表示が出ているものの、やはり登りは距離が長く感じられる。途中、出会ったのは2組のパーティーだけ。

ようやく頂上に到着。頂上のベンチでは、先行したパーティーが休憩中であった。天気も相変わらずの曇天であり、ほとんど展望のきかない頂上



畦ヶ丸山頂にて

である。頂上が混みあっていたこともあり我々は、頂上から200m程行ったところにある、畦ヶ丸避難小屋で昼食をとることにする。ここから加入道への登山道を覗いてみると積雪もあるので避難小屋で軽アイゼンを装着。ほとんど人が入っていないのか、トレースもない模様。

概念図



雪道の登り下りを繰り返しながら加入道山手前の白石峠を目指す。途中、多少ペースは落ちたものの何とか白石峠に到着。ここから最後の急坂を登り、16:00頃に加入道山頂上に到着。記念写真を撮り、直下にある避難小屋に入る。

さすがに冬のこの時間は寒いので、軽くザックの整理をして早くも宴会の準備となる。やっぱり、この時間が一番ほっとしますね。

この時期の丹沢で避難小屋に泊まる人はいないのか、今晚は我々で小屋を独占である。お酒も軽く入ったので、そろそろ晩御飯。今夜は食担の青山さんお手製のトン汁。ごはんもおいしく何も言うことなしである。山談義をして多少早いのが19:00頃就寝。一応この避難小屋には枕と毛布があったので下に敷いたり、上に掛けたりして利用できたので、寒いことはなかった。

2 日目

5:00 起床。昨晚食べ切れなかったトン汁とごはんをおじやにして朝食を食べる。テルモス用のお湯を作ったり、ザックを整理したり、各自出発の準備をする。天気は今日も曇天の模様。準備を済ませて一晩お世話になった加入道山避難小屋に別れを告げ7:00前に出発。

今日の行程は犬越路を通り檜洞丸に登って下山の予定である。ここからの単純な高低差は200



加入道山山頂よりいざ出発

mほどだが雪道でもあり登り下りを繰り返す登山道は時間がかかりそうである。2 時間ほどで大室山へ向かう方面と犬越路に向かう分岐に到着。300mほどで大室山へ行けるようなので分岐にザックをデポして大室山頂上へ向かう。平坦な道であり、5分、10分で到着する。記念写真を撮ってから戻る。

犬越路へ向けて下って行く。霧氷がきれいである。下っていくにつれて天気も回復傾向にあるようで、晴れ間も多少出てきた。1 時間ほど下って犬越路避難小屋に到着。



樹氷の林を下る

ここで、これから檜洞丸に登ってから下山するかこのまま用木沢に向けて下山するかメンバーの体力とも相談する。時間的にも厳しくなりそうなので、ここから下山することに決定。

ここからの下山はガレ場でなかなか歩きづらいものであったが何とか無事に下山。が、バスが丁度出てしまった後で、1 時間 30 分ほど待たないと次が来ない。そういう時は早速、キャンプ場の事務所の売店でお酒を買い込み軽い打ち上げを

する。それも事務所の片隅をちょっと借りて。「岳人あびこ」。

ようやくバスの時間が来て、新松田に向かう。ここでもさすが「岳人あびこ」、まだ時間が早い。ため、蕎麦屋で本当の打ち上げ。最終的には計画通りには檜洞丸には登れなかったが、冬の丹沢を十分楽しめたと思う。



花咲か爺さん

概要

山名	畦ヶ丸～加入道山～大室山		
月日	平成23年2月19日(土)～20日(日)		
山城	丹沢	地形図	1/25000 中川
形式	避難小屋	グレード	3B
目的	①冬の変化に富んだ西丹沢の縦走を楽しむ。 ②避難小屋生活を体験する。		
費用	約6,000円	交通機関	JR, 私鉄、タクシー、バス
行程	1日目	我孫子 5:33→代々木上原 6:41/6:48→新松田駅(北川リーダーと合流)8:00/8:10(タクシー)→西丹沢自然教室 8:50/9:00→善六ノタワ 11:06→畦ヶ丸 12:10/12:50→モロクボ沢ノ頭 13:06/13:15→水晶沢ノ頭 15:10→白石峠 15:30→加入道山避難小屋 16:10(泊) 晴れ後曇り<行動時間:7時間10分>	
	2日目	加入道山避難小屋発 6:40→大室山分岐 8:25→大室山 8:35→犬越路 10:10/10:40 用木沢出 12:00→西丹沢自然教室 12:20/14:00→新松田駅 15:35/16:25→代々木上原經由我孫子着 19:05 曇り後晴<行動時間:5時間40分>	
参加者	北川(L)、村松敏、小川誠、武内、青山 男4名 女1名 計5名		



資料

推移グラフ（1996年～ ）

山行一覧表（2010年3月から2011年2月）

活動の記録(2010年度)

山行(山名)索引（1996年～2011年2月）

山行一覽表 その1

No.	山名	山城	月日	山行形式	G	リーダー	参加者	会員	一般
平成22年度 (2010年3月～2011年2月)									
671	日白山	谷川連峰	3/27-28	テント	4D	村松敏彦	村松(L)、清家、北川、武内、青山、佐藤健	6	
672	神峰山～高鈴山 (新人歓迎山行)	阿武隈 山城	4/4	日帰り	1A	川下敬史	A班 田村(L)、瀬田、武内、青山、柴、清家、佐藤健、千葉、中村八、村松敏、高橋英、石垣、佐藤明、末永 B班 川下(CL)、本田(L)、原田君、品田、矢野裕、塩原、小谷、中村育、齋田、中村隆、外崎、原田和、小川誠、村松峯、飯合(会友)	28	1
673	アモウ沢～滝子山	大菩薩	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	佐藤健(CL)、堀口(L)、千葉、小谷、佐藤明、外崎、田村、齋田、森戸(ゲスト)	8	1
674	御前山～九竜山	奥多摩	4/18	日帰り	2B	青山寿子	青山(L)、村松敏、清家、末永	4	
675	比叡山・高野山・金剛山	近畿地方	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	大串(L)、榊原、中野、中村美、品田、飯沼、瀬田、中村育、大串恵(ゲスト)、大桃(ゲスト)、日下(ゲスト)、齋藤(ゲスト)、菊地(ゲスト)、増田(ゲスト)、高橋潔(ゲスト)	9	6
676	鈴ヶ尾山～大桑山	中央線沿線	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	村松(L)、千葉	2	
677	蓼科山	八ヶ岳	4/24-25	テント	3C	高橋重	高橋重(L)、武内、青山、桐生	4	
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	4/25	日帰り	2A	田村光子	田村(L)、中村八(SL)、高橋英、品田、箕輪カ、箕輪完、佐藤健、藤倉、佐藤	14	
679	唐松岳(春山山行)	北アルプス	1/4	テント	4D	村松敏彦	村松(L)、外崎、北川、青山	4	
680	鷹ノ巣山	奥多摩	5/9	日帰り	2B	青山寿子	青山(L)、村松敏、外崎、田村、瀬田、末永、塩原	7	
681	巢神山～小法師岳	足尾	5/15-16	テント	3C	千葉有子	千葉(L)、佐藤健、佐藤明、小谷、森戸(ゲスト)	4	1
682	袈裟丸山	足尾	5/16	日帰り	2A	中村隆泰	中村隆(CL) A班：田村(L)、中村八、箕輪カ、堀口、小松、本田、中村育(SL)、塩原 B班：瀬田(L)、品田、原田和、小川誠、藤倉、坂巻、矢野裕(SL)	16	
683	小野子山～十二ヶ岳	上州	5/22	日帰り	2B	原田和昭	原田和(L)、佐藤明(SL)、小川誠、瀬田、本間、飯沼、佐藤健、藤倉、田村、坂巻	10	
684	太郎山	日光	5/27	日帰り	2B	原田和昭	原田(L)、小谷、瀬田	3	
685	古峰原高原～井戸湿原	前日光	5/28-29	ロッジ泊	1A	柴勇	柴(CL)、村松、外崎、中村育	4	
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳 (市民登山)	那須連峰	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	A班 ：武内(L)、青山(SL)、原田、中村美、齋田、瀬田、小池(市民)、杉山(市民)、山本(市民) B班 ：高橋重(CL)、外崎(SL)、小川誠、小松、品田、本田、浅井(市民)、大久保俊(市民)、野口(市民)、小山(市民) C班 ：中村隆(L)、田村(SL)、高橋英、矢野貞、藤倉、加藤(会友)、戸山(市民)、榊原(市民)、大久保す(市民) D班 ：村松(L)、飯沼(SL)、坂巻、桐生、矢野裕、加藤(会友)、高橋富(市民)、柳(市民)、綿引(市民)	22	14
687	御正体山	道志山塊	6/13	日帰り	2A	外崎蓮	外崎(L)、田村(SL)、原田和、武内、矢野貞、瀬田、本田、塩原	8	
688	白谷沢	奥武蔵	6/13	日帰り	2B	堀口昭二	堀口(L)、千葉、佐藤健、小谷	4	

山行一覽表 その2

No.	山名	山城	月日	山行形式	G	リーダー	参加者	会員	一般
689	釈迦ヶ岳～鶏頂山	高原山	6/20	日帰り	2A	坂巻明	坂巻(L)、中村隆(SL)、武内、小川誠、外崎、品田、中村八、藤倉、瀬田、矢野裕、中村育	11	
690	守門岳	越後	6/26-27	避難小屋	3B	石垣吉朗	石垣(L)、武内、原田	3	
691	御岳山～日の出山	奥多摩	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	小川誠(L)、原田和(SL)、品田、箕輪カ、箕輪完、桐生、齊田、新谷、塩原	9	
692	八間山～白砂山	野反湖	7/10-11	山麓泊	3B	原田和昭	原田和(L)、外崎(SL)、箕輪完、品田、藤倉、瀬田、本間、中村育、箕輪カ	9	
693	農鳥岳～黒河内岳	南アルプス	7/21-23	テント	3C	千葉有子	千葉(L)、佐藤健(SL)、佐藤明、小谷、加治(ゲスト)	4	1
694	硫黄岳～赤岳	八ヶ岳	7/24-25	山小屋	3B	外崎蓮	外崎(L)、石垣(SL)、藤倉、桐生、瀬田、小松、本田、矢野裕、齊田	9	
695	白馬岳～朝日岳	北アルプス	7/30-8/2	山小屋・テント	3C	外崎蓮	外崎(L)、武内(SL)、矢野貞、高橋重、小松、矢野裕	6	
696	霧ヶ峰(車山)	霧ヶ峰	8/1	日帰り	1A	原田和昭	原田和(L)、品田(SL)、小川誠、小川洋、原田君、藤倉	6	
697	長尾谷	奥多摩	8/8	日帰り	2B	千葉有子	千葉(L)、堀口(SL)、高橋英、佐藤健、青山、佐藤明、小谷、中村育	8	
698	餓鬼岳～燕岳	北アルプス	8/12-15	山小屋	3C	高橋英雄	高橋英(L)、外崎、千葉、矢野裕	4	
699	聖岳～光岳	南アルプス	8/18-22	山小屋	4C	高橋重	高橋重(L)、田村(SL)、小松、桐生	4	
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	8/19夜-23	山小屋・テント	3C	武内勇二	武内(L)、外崎、品田、藤倉(SL)、飯合(会友)	4	1
701	ナメラ沢	奥秩父	8/21夜-22	湖畔仮眠	2B	堀口昭二	堀口(L)、千葉、佐藤健、佐藤明、矢野、小谷	6	
702	北岳	南アルプス	8/26-28	山小屋	3C	村松敏彦	村松(L)、箕輪カ(SL)、箕輪完、小川誠、高橋重、小松、本田、矢野裕、坂巻	9	
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	8/28-28	テント	3C	柴勇	柴(L)、飯沼、中村育、新谷	4	
704	愛宕山(ウイズハイク)	茨城	9/4	日帰り	1A	石垣吉朗	A班 外崎(L)、本間(CL)、桐生、小谷、藤倉、高橋重、清家、品田、大林(みずき)、徳本(みずき)、山本(みずき職員) B班 柴(L)、小川誠(CL)、中村育、新谷、本田、武内、根本(みずき)、加納(みずき)、藤本(みずき)、大久保(みずき職員) C班 石垣(総括L)、中村隆(CL)、小川洋(SL)、原田君、千葉、原田和、斉藤(みずき)、堀(みずき)、吉水(みずき職員)	20	11
705	飛龍山	奥秩父	9/11-12	山小屋	3A	小川誠二郎	小川誠(L)、箕輪カ(SL)、榊原、新谷、箕輪完、坂巻	6	
706	二子山・両神山	奥秩父	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	中村隆(L)、田村(SL)、村松敏、榊原、原田君、大島、原田和、小川誠、桐生、矢野貞、齊田、坂巻、太田(ゲスト)	12	1
707	津梅川・追良瀬川	白神山地	9/22-26	テント	3C	千葉有子	千葉(L)、佐藤健(SL)、北川、佐藤明、小谷、阿部(ゲスト)	5	1
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	9/23-27	山小屋	4C	武内勇二	武内(L)、高橋重、品田、中村育	4	
709	天狗角力取山～障子ヶ岳	朝日連峰	10/15-17	避難小屋	3B	武内勇二	武内(L)、高橋重、高橋英、外崎、桐生、齊田、青山	7	
710	乾徳山	奥秩父	10/24	日帰り	2B	田村光子	田村(L)、品田、大島、箕輪カ、小川誠(SL)、佐藤健、佐藤明、矢野貞、瀬田、坂巻、本田、矢野裕、原田	13	

山行一覽表 その3

No.	山名	山城	月日	山行形式	G	リーダー	参加者	会員	一般
711	筑波山	茨城	11/6-7	テント	4A	川下敬史	川下(L)、小川誠(SL)、村松、外崎、武内、原田和、新谷(6日のみ)、箕輪完(支援)	8	
712	高畑山～倉岳山	中央線沿線	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	中村隆(L)、大島(SL)、榊原、品田、箕輪カ、田村	6	
713	雲取山～天祖山	奥多摩	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	武内(L)、品田、新谷	3	
714	奥久慈男体山	茨城	11/14	日帰り	2A	坂巻明	坂巻(L)、桐生(SL)、中野、原田君、高橋英、箕輪カ、田村、矢野貞、本田、矢野裕、齊田、塩原、瀬木	13	
715	大山三峰山	丹沢	11/21	日帰り	2B	千葉有子	千葉(L)、高橋英(SL)、小川誠、堀口、田村、瀬田、本田、矢野裕、小谷、末永	10	
716	手賀沼一周	東葛	11/28	日帰り	1A	小川誠二郎	Aグループ：小川誠(L)、原田和(ｸﾘﾝｸﾞL)、原田君、小川洋、箕輪カ、箕輪完、瀬田、齊田、新谷 Bグループ：高橋重(SL)、清家、村松峯、桐生、外崎、本田、小谷	16	
717	御前山(忘年山行)	茨城	12/5	日帰り	1A	武内勇二	1班 武内(総合L)、原田和(L)、村松峯、箕輪カ、青山、新谷 2班 高橋重(L)、中村隆、小松、千葉、矢野裕、末永、村松俊 3班 柴(L)、小川誠、箕輪完、飯沼、藤倉、齋田、中村育 4班 高橋英(L)、小谷、瀬田、原田君、桐生、本田	26	
718	虎丸山～能岳	中央沿線	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	高橋英(L)、原田和、高橋重、坂巻、原田君、桐生、矢野貞、齊田、新谷	9	
719	仏果山～華巖山	丹沢	12/12	日帰り	2B	青山寿子	青山(L)、村松敏、外崎、小川誠、北川、千葉、田村、瀬田、本田、塩原	10	
720	巻機山(クリスマス山行)	越後	12/18-19	テント	3C	村松敏彦	村松(L)、外崎、北川、武内、高橋重	5	
721	富士山	富士山	12/18-19	テント	3C	堀口昭二	堀口(L)、青山、千葉(SL)、佐藤明、瀬田、小谷、矢野裕	7	
722	曾倉山～扇山	中央線沿線	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	村松(L)、矢野裕(SL)、外崎、高橋英、中村隆、原田和、小川誠、矢野貞、瀬田、高橋重、本田、塩原、齊田、菊地、新谷、末永	16	
723	薬師岳	南アルプス	1/22-24	テント	4D	千葉有子	千葉(L)、青山、小谷	3	
724	陣馬山～景信山	高尾	1/30	日帰り	2B	青山寿子	青山(L)、外崎(SL)、小川誠、高橋芳、菊池、原田、田村、新谷、塩原、末永	10	
725	黒斑山・水の塔山	浅間	2/5-6	山麓泊	3C	高橋重	高橋重(L)、外崎(SL)、武内、青山、桐生、田村、瀬田、齊田、本田	9	
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	中村隆(L)、新谷(SL)、飯沼、千葉、小川誠、塩原	6	
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	北川(L)、村松、小川誠、武内、青山	5	
山行回数								57回	38

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
1	会津朝日岳 (創立山行)	会津	1996	10/12-13	テント	B	細野省二	1	4
298	会津朝日岳	会津	2002	12/21-23	テント	C	川下敬史	4	253
492	会津朝日岳	会津	2006	7/1-2	避難小屋	3C	外崎 蓮	8	46
110	会津駒ヶ岳	会津	1999	6/26-27	民宿泊り	B	大串秀雄	2	60
269	会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2002	6/21夜-24	テント	B+	武内勇二	4	161
121	荒川三山・赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
225	赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
497	荒川三山～赤石岳	南ア	2007	8/4-7	山小屋	3C	外崎 蓮	8	61
445	岩菅山～赤岩山	上信	2006	6/25-27	避難小屋	4B	外崎 蓮	7	47
258	赤岩尾根	西上州	2002	4/20-21	テント	D	柴 勇	4	133
582	赤岩尾根・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
316	赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴 勇	5	26
284	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
56	赤城山 (黒檜山)	上州	1998	6/21	日帰り	A	外崎 蓮	1	98
323	赤城山 (黒檜山)	上州	2003	6/1	日帰り	A	柴 勇	5	42
571	赤城山 (黒檜山)	上州	2008	1/19-20	テント	3C	高橋 重	9	119
524	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2008	2/3-5	山麓泊	2B	村松敏彦	8	135
616	大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
641	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
694	硫黄岳～赤岳	八ヶ岳	2010	7/24～25	山小屋	3B	外崎蓮	12	63
560	赤薙山 (県連平日ハイク)	日光	2007	10/11	日帰り	1A	斎藤清一、県連	9	91
378	赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
330	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
271	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4	168
545	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2007	6/30-7/2	山麓泊	3B	柴 勇	9	52
174	秋田駒ヶ岳	東北	2000	9/16-17	旅館	B	外崎 蓮	3	76
483	熊野古道・悪四郎山	熊野	2007	5/14-17	山麓泊	3B	細野清子	8	18
153	浅草岳・守門岳	会越	2000	5/3-6	テント/民宿	D	村松敏彦	3	20
346	浅草岳・守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴 勇	5	130
21	白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	テント&山小屋	B	細野清子	1	33
399	朝日岳～白馬岳	北ア	2004	9/16-19	山小屋	3C	石垣吉朗	6	78
22	朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112	朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎 蓮	2	63
524	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2007	2/3-4	山麓泊	2B	村松敏彦	8	135
695	白馬岳～朝日岳	北アルプス	2010	7/30～8/2	山小屋/テント	3C	外崎蓮	12	65
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳 (市民登山)	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12	37
99	朝日連峰 (ゴールデンウィーク合宿)	朝日連峰	1999	5/1-4	避難小屋	D	村松敏彦	2	29
165	朝日連峰	朝日連峰	2000	7/28-30	テント	C	柴, 清家	3	47
500	朝日連峰	朝日連峰	2006	9/16-18	避難小屋	3C	千葉有子	8	69
204	鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘/テント	A+, C	細野清子	4	12
242	浅間隠山	上州	2001	11/18	日帰り	A	外崎 蓮	4	95
644	仙丈ヶ岳～アサヨ峰	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	4C	外崎蓮	11	72
411	矢倉岳～足柄古道	箱根	2005	11/8	日帰り	2A	高橋芳恵	6	109
2	愛鷹山連峰	富士周辺	1996	12/14-15	無人小屋	C	柴 勇	1	5
211	愛鷹連峰縦走<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/16-17	旅館	C	清家三保子	7	34
355	足和田山	富士周辺	2003	12/7	日帰り	1A	斎藤・中村	5	151
660	足和田山～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11	114
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2007	6/26-29	山麓泊	5B	高橋 潔	7	49
630	湯の丸山・四阿山 (市民登山)	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11	29
379	畦ガ丸	丹沢	2004	5/29	日帰り	2B	斎藤清一	6	26
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
670	日ノ出山～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11	136
266	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
566	愛宕山・ボンボン山	京都	2007	11/20-22	山麓泊	2A	細野清子	9	105
260	愛宕山～吾国山	常陸	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
29	愛宕山	房総	1997	10/19	日帰り	A	県連、高橋英	1	56
704	愛宕山 (ウイズハイク)	茨城	2010	9/4	日帰り	1A	石垣吉朗	12	95
138	安達太良山	福島	2000	1/15-16	山小屋	C	柴 勇	2	131
267	安達太良山 (公開登山)	福島	2002	6/9	日帰り	A	大串秀雄	4	153
359	安達太良山	福島	2004	1/10-11	山小屋	4C	川下敬史	5	162
14	吾妻連峰	吾妻連峰	1997	5/17-18	山小屋	C	柴 勇	1	22

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
74	一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/	山小屋	B	村松敏彦	1	149
228	吾妻連峰	吾妻連峰	2001	9/15-16	避難小屋	B+	外崎 蓮	4	60
109	湯の丸山・四阿山	上州	2000	6/19-21	民宿泊り	B	外崎 蓮	2	58
512	大峰山～吾妻耶山	谷川	2007	11/6	日帰り	2B	青山寿子	8	104
663	吾妻耶山・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋重	11	120
213	雨ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/1	日帰り	A	外崎 蓮	7	37
177	雨飾山	頸城	2000	10/8-9	民宿	B	大串秀雄	3	84
559	雨飾山	頸城	2007	10/8-9	山小屋	2B	清家三保子	9	89
443	尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2005	6/16	日帰り	2B	斎藤清一	7	41
97	天城連山	伊豆	1999	4/24-25	民宿	B+	細野清子	2	26
337	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎 蓮	5	93
614	西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎蓮	10	110
641	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
405	阿弥陀岳	八ヶ岳	2004	10/11	日帰り	4D	千葉有子	6	93
645	雨引山(ウイズハイク)	茨城	2009	9/5	日帰り	2A	石垣吉朗	11	76
673	アモウ沢～滝子山	大菩薩	2010	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	12	7
32	七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
121	荒川三山～赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
497	荒川三山～赤石岳	南ア	2006	8/4-6	山小屋	3C	外崎 蓮	8	61
341	未丈ヶ岳・荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
344	荒島岳・能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
190	荒船山	西上州	2001	2/4	日帰り	A+	川下敏史	3	104
351	荒船山	西上州	2003	11/9	日帰り	1A	榊原文子	5	142
539	荒船山	西上州	2007	6/3	日帰り	1A	武内勇二	9	35
200	有間山～蕨山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎 蓮	4	5
527	有馬山～蕨山	奥武蔵	2007	4/8	日帰り	3B	青山寿子	9	8
239	安房高山(ふれあいハイキング)	房総	2001	11/3-4	日帰り	A	梶連、外崎	4	90
642	摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	5C	村松敏彦	11	66
292	北信三山(黒姫山・戸隠山・飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
220	飯豊連峰縦走	飯豊連峰	2001	8/2-5	テント	C+	柴 勇	4	48
554	飯豊連峰縦走(北股岳～大日岳～飯豊山)	飯豊連峰	2007	8/24-27	テント	4C	武内勇二	9	75
45	天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
694	硫黄岳～赤岳	八ヶ岳	2010	7/24～25	山小屋	3B	外崎蓮	12	63
555	五十沢～金城山	上越	2007	9/1-2	避難小屋	4C	千葉有子	9	78
291	石鎚山	四国	2002	10/25夜-2	民宿	B	斎藤清一	4	235
194	石割山	富士周辺	2001	2/25	日帰り	A	斎藤清一	3	110
627	石割山	道志	2009	5/17	日帰り	2B	外崎 蓮	11	18
55	伊豆ヶ岳(新人研修)	奥武蔵	1998	6/7	日帰り	A	外崎 蓮	1	97
16	伊豆ヶ岳(新人研修)	奥武蔵	1997	6/8	日帰り	A	柴、細野清	1	26
619	伊豆ヶ岳東尾根	奥武蔵	2009	2/8	日帰り	1B	堀口昭二	10	125
669	伊豆ヶ岳	奥武蔵	2010	2/28	日帰り	1A	矢野裕子	11	134
327	船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21 - 22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
578	子の権現・伊豆ヶ岳(新人歓迎)	奥武蔵	2008	3/30	日帰り	1A	やまたん	10	6
74	一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/	山小屋	B	村松敏彦	1	149
685	古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ロッジ泊	1A	柴勇	12	35
313	稲倉山・御荷鉢山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
332	伊吹山・賤ヶ岳	近江	2003	7/25-27	テント	2A	武内勇二	5	77
77	今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
663	吾妻耶山・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋重	11	120
515	伊予ヶ岳・富山(県連40周年)	房総	2006	11/18-19	テント	1A	高橋英雄	8	112
388	易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎 蓮	6	48
233	祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4	74
340	岩木山・八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿・旅館	3B	高橋英雄	5	102
448	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2005	7/22-24	テント	3D	細野清子	7	56
445	岩菅山～赤岩山	上信	2005	6/25-26	避難小屋	3B	外崎 蓮	7	47
402	岩手山・姫神山	東北	2004	9/18-20	宿	3B	高橋英雄	6	85
545	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	東北	2009	6/30-7/4	山麓泊	3B	柴 勇	9	52
601	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
237	岩殿山	中央沿線	2001	10/21	日帰り	A	日下芳十	4	86
311	岩殿山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	日下芳十	5	14

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
417	岩殿山	中央沿線	2004	12/19	日帰り	1A	高橋英雄	6	121
478	宮地山～岩殿山	中央沿線	2007	4/3	日帰り	3B	青山寿子	8	7
532	岩櫃山	上州	2007	5/3	日帰り	2B	原田和昭	9	17
51	岩山 (リーダー研修)	前日光	1998	5/24	日帰り	B	村松敏彦	1	91
105	岩山 (リーダー研修)	前日光	1999	5/30	日帰り	B	村松敏彦	2	47
162	岩山 (新人研修)	前日光	2000	7/2	日帰り	A	高橋英、安田	3	42
202	岩山 (新人研修)	前日光	2001	4/29	日帰り	A	細野省二	4	6
307	岩山	前日光	2003	3/16	日帰り	A+	柴 勇	5	1
318	岩山	前日光	2003	5/11	日帰り	A	坂口よし江	5	31
418	岩山(登山教室)	前日光	2004	6/12	日帰り	1B	柴 勇	6	141
429	岩山	前日光	2005	4/3	リーダー研修	1B	村松敏彦	7	10
456	岩山 (登山教室)	前日光	2005	8/28	日帰り	1B	村松敏彦	7	131
531	岩山	前日光	2007	4/29	日帰り	2B	柴 勇	9	15
646	岩山	前日光	2009	9/13	日帰り	1B	高橋英雄	11	80
279	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2005	8/19-23	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
552	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2009	8/12-16	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
205	雁ヶ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
369	馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
464	裏高尾縦走	中央沿線	2005	10/16	日帰り	2A	千葉有子	7	100
354	裏妙義	西上州	2003	11/15-16	国民宿舎	4D	柴 勇	5	148
280	越後三山 (越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
465	越後駒ヶ岳	越後	2005	10/16-18	避難小屋	3C	大串秀雄、高橋 潔	7	102
639	越後駒ヶ岳	越後	2009	8/6夜-8	山小屋	3B	高橋 重	11	60
195	越前岳 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	3/18	日帰り	A	武内勇二	7	14
348	恵那山	中ア	2003	10/25-26	避難小屋	3B	石垣吉朗	5	135
493	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2007	7/2-8	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
115	烏帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野清子	3	111
536	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2009	5/21-26	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2005	6/26-27	山麓泊	3B	高橋 潔	7	49
582	赤岩尾根・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
284	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
621	小出俣山	谷川	2009	3/14-15	テント	4D	高橋重	11	1
203	大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
707	津梅川・追良瀬川	白神山地	2010	9/22-26	テント	3C	千葉有子	12	101
633	奥入瀬溪谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	2B	細野清子	11	43
722	曾倉山～扇山	中央線沿線	2011	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	12	142
233	祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4	74
285	大洗海岸水族館 (ウイズハイク)	常陸	2002	9/28	日帰り	A	外崎 蓮	4	217
437	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2006	5/14-16	山小屋	4B	柴 勇	7	28
203	大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
41	扇山 (公開登山)	中央沿線	1998	3/8	日帰り	A	三浦七郎	1	78
249	扇山	中央沿線	2002	2/10	日帰り	A	松本 豊	4	114
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2008	10/21-23	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
575	大霧山	奥武蔵	2008	2/10	日帰り	1B	高橋英雄	9	128
10	大楠山 (新人歓迎)	三浦半島	1997	4/20	日帰り	A	細野清子	1	16
281	大雲取谷	奥多摩	2002	8/31-9/1	テント	C	川下敬史	4	203
543	大雲取谷	奥多摩	2007	6/23夜-24	夜行日帰り	3D	堀口昭二	9	48
372	大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2009	10/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
631	三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	3B	3B	武内勇二	11	38
676	鈴ヶ尾山～大桑山	中央線沿線	2010	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	12	17
140	大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135
95	大鹿山 (新人歓迎山行)	大菩薩	1999	4/18	日帰り	A	細野省、清家	2	22
628	大峰山・大台ヶ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11	20
101	大峰山～大台ヶ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
528	大高山	奥武蔵	2007	4/15	日帰り	2B	中村隆泰	9	10
42	大岳山 (2期生卒業山行)	奥多摩	1998	3/15	日帰り	A	日下芳子	1	80
455	大岳山	奥多摩	2005	8/21	日帰り	2A	中村八重子	7	77
495	大岳山	奥多摩	2006	7/16	日帰り	3B	中村隆泰	8	57
243	奥多摩三山 (大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
551	大岳山～鋸尾根	奥多摩	2007	8/12	日帰り	2B	高橋英雄	9	67
151	大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎 蓮	3	13
373	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
587	大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
87	大岱山	甲州	1999	2/7	日帰り	A++	細野省二	2	9
380	大幡川四十八滝沢	富士周辺	2004	5/30	日帰り	4D	堀口昭二	6	28
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2006	9/25-30	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
366	大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
557	太平山 (ウイズハイク)	北関東	2007	9/23	日帰り	1A	小川誠二郎	9	83
140	大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135
606	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
342	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
512	大峰山～吾妻耶山	谷川	2006	11/5	日帰り	2B	青山寿子	8	104
101	大峰山～大台ヶ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
628	大峰山・大台ヶ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11	20
347	大室山・加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2006	3/20-22	避難小屋	4B	青山寿子	7	5
616	大室山・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
18	大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295	大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
302	大山	丹沢	2003	1/19	日帰り	A	高橋芳恵	4	263
625	大山	丹沢	2009	4/26	日帰り	2A	柴 勇	11	14
564	小川山	奥秩父	2007	11/10-11	テント	3B	柴 勇	9	100
484	小川谷・悪谷	奥多摩	2006	5/21	日帰り	3B	堀口昭二	8	21
102	奥久慈男体山	常磐	1999	5/9	日帰り	A+	中村隆泰	2	43
309	奥久慈男体山	常磐	2003	3/30	日帰り	A	堀口・青山	5	6
231	日光白根山	日光	2001	9/29-30	避難小屋	B	武内勇二	4	69
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴 勇	12	92
541	カヤの平・奥裾花 (市民登山)	北信濃	2008	6/9-10	山麓泊	1A	堀口昭二	9	39
229	奥秩父の沢・川胡桃沢・鶏冠谷右俣	奥秩父	2001	9/23-24	テント	B, D	村松敏彦	4	64
170	奥穂高岳・北穂高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
390	前穂高岳～奥穂高岳	北ア	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
598	奥穂高岳	北ア	2008	8/22-24	山小屋	4C	坂口よし江	10	69
61	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	1999	7/18-21	山小屋	D	村松敏彦	1	107
47	石裂山	前日光	1998	4/19	日帰り	A+	柴 勇	1	87
430	石裂山	前日光	2005	4/10	日帰り	2B	高橋芳恵	7	12
603	石裂山	前日光	2008	10/5	日帰り	2A	高橋重	10	82
486	那須旭岳・大白森山	那須	2007	5/27-29	テント	3C	村松敏彦	8	25
602	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴 勇	12	92
577	お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
537	鬼石沢	丹沢	2007	5/27	日帰り	3C	青山寿子	9	31
479	鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2006	4/9	日帰り	2B	武内勇二	8	9
373	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
617	大室山・赤鞍ヶ岳	中央沿線	2009	1/25	日帰り	1B	瀬田映子	10	120
180	小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎 蓮	3	90
683	小野子山～十二ヶ岳	上州	2010	5/22	日帰り	2B	原田和昭	12	31
481	帯那山	甲州	2006	4/30	日帰り	1A	高橋英雄	8	13
425	お坊山	中央沿線	2005	3/13	日帰り	3B	村松敏彦	7	1
17	表妙義縦走	上州	1997	6/15	日帰り	C	柴 勇	1	27
238	表妙義	上州	2001	10/27-28	テント	C+	柴 勇	4	88
371	表妙義	上州	2004	4/25	日帰り	2B	榊原文子	6	10
401	表妙義	上州	2004	9/18-19	夜	4D	青山寿子	6	83
654	表妙義	西上州	2009	11/8	日帰り	2B	中村隆泰	11	100
361	恩若峰・源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
338	御嶽山・乗鞍岳	木曾・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
594	木曾御嶽山	木曾	2008	8/2-3	山小屋	3B	坂巻明	10	59
66	甲斐駒ヶ岳	南ア	1998	9/11-13	テント&無人小屋	C	細野省二	1	125

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
218	甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
504	甲斐駒ヶ岳	南ア	2006	8/9	山小屋	3C	佐藤健一	8	81
407	宮之浦岳・開聞岳	九州	2004	10/21-24	山小屋	2C	細野清子	6	97
198	蟻ヶ岳～三方分山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
275	加賀白山	白山	2002	7/19夜-7/	テント	B+	細野清子	4	181
698	餓鬼岳～燕岳	北アルプス	2010	8/12～15	山小屋	3C	高橋英雄	12	74
587	大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
155	景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
251	景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本 豊	4	118
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21
724	陣馬山～景信山	高尾	2011	1/30	日帰り	2B	青山寿子	12	146
163	籠ノ登山・水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
27	尾瀬集中登山(創立記念) A: 笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	CL柴勇、L川名	1	47
345	笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎 蓮	5	127
553	笠ヶ岳	北ア	2007	8/17-20	山小屋	3C	高橋 重	9	70
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23～27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
36	笠取山、雁坂峠(クリスマス山行)	奥秩父	1997	12/20-21	テント	B	村松敏彦	1	68
326	笠取山	奥秩父	2003	6/15	日帰り	A	原田君子	5	58
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2006	2/5	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
626	堂平山～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11	16
263	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2004	10/16-17	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
278	鹿島槍ヶ岳	北ア	2002	8/13夜-17	山小屋	C	高橋英雄	4	190
533	鹿島槍ヶ岳	北ア	2007	4/6	テント	4D	村松敏彦	9	19
593	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
389	霞沢岳	北ア	2004	7/23-25	テント	4C	武内勇二	6	51
217	鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
148	四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
347	大室山・加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2005	3/20-21	避難小屋	3B	青山寿子	7	5
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
83	鐘撞堂山(新年鍋山行)	奥武蔵	1999	1/10	日帰り	A	細野清子	2	2
408	鹿野山	房総	2004	10/23	日帰り	1A	原田和昭	6	102
297	加波山(忘年山行)	常陸	2002	12/8	日帰り	A	原田和昭	4	250
476	兜山～棚山	中央沿線	2006	3/12	日帰り	2A	村松敏彦	8	1
305	鎌倉アルプス天園	湘南	2003	2/9	日帰り	A	細野清子	4	270
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
232	上高地～涸沢	北ア	2000	10/6-7	山小屋	B	大串秀雄	4	71
70	神峰山ふれあいハイク	常磐	1998	9/27	(雨の為、水族館他)	A	東葛	1	135
672	神峰山～高鈴山(新人歓迎山行)	阿武隈山域	2010	4/4	日帰り	1A	川下敬史	12	4
649	甑山・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11	87
595	掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
122	茅ヶ岳	中央沿線	1999	9/19	日帰り	A	清家三保子	2	91
608	茅ヶ岳	甲斐	2008	11/2	日帰り	2B	小川洋子	10	95
385	樵ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
541	カヤの平・奥裾花(市民登山)	北信濃	2007	9/10	山麓泊	1A	堀口昭二	9	39
232	上高地～涸沢	北ア	2001	10/6-8	山小屋	B	大串秀雄	4	71
583	涸沢・蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
423	諏訪岳～唐沢山	両毛	2006	2/10-12	日帰り	2A	斎藤清一	6	134
431	モミソ沢・新茅の沢～鳥尾山	丹沢	2007	4/16-19	テント	5B	佐藤健一	7	14
416	鳥場山	房総	2004	12/5	日帰り	1A	細野清子	6	118
227	唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
452	唐松岳～鎧ヶ岳～杓子岳	北ア	2005	8/13-15	山小屋	3C	高橋英雄	7	71
454	唐松岳～五竜岳	北ア	2005	8/21-22	山小屋	3B	原田和昭	7	75
679	唐松岳(春山山行)	北アルプス	2010	5/1-4	テント	4D	村松敏彦	12	23
81	切込湖・刈込湖	日光	1999	12/14	日帰り	A	柴 勇	1	162
640	切込湖～刈込湖	日光	2009	8/10	日帰り	2A	細野清子	11	62
7	川苔山	奥多摩	1997	2/22	日帰り	A+	清家三保子	1	11
100	川乗山	奥多摩	1999	5/2	日帰り	A+	高橋英雄	2	39
356	蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
439	川乗谷・逆川	奥多摩	2005	5/22	日帰り	3C	村松敏彦	7	32

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
655	川苔山	奥多摩	2009	11/15	日帰り	2A	清家三保子	11	102
205	雁ヶ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
513	大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2007	5/7	山小屋	4D	大串秀雄	8	106
580	勘七の沢	丹沢	2008	4/13	日帰り	3C	佐々木侑	10	16
89	官ノ倉山	奥武蔵	1999	2/21	日帰り	A	日下芳十	2	12
199	高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
468	菊花山	中央沿線	2005	11/3	日帰り	1B	中村隆泰	7	109
266	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
167	木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
246	木曾駒ヶ岳	中ア	2001	12/22-24	テント、避難小屋	C+	村松敏彦	4	105
279	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2004	8/19-22	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
552	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2007	8/12-14	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
638	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	2B	村松敏彦	11	56
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
76	北高尾山稜	中央沿線	1998	11/3	日帰り	A++	細野清子	1	153
494	北岳	南ア	2006	7/13-15	山小屋	3B	原田和昭	8	54
549	塩見岳～北岳	南ア	2008	7/28-32	山小屋	4C	外崎 蓮	9	62
702	北岳	南アルプス	2010	8/26-28	山小屋	3C	村松敏彦	12	88
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23-27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
170	奥穂高岳・北穂高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
253	北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	3/2-3	山小屋	B+	村松敏彦	4	123
290	北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	10/18	日帰り	A	斎藤清一	4	233
579	北八ヶ岳	八ヶ岳	2008	4/5-6	山小屋	3C	安田みづほ	10	12
586	北八ヶ岳 (市民登山)	八ヶ岳	2008	6/7-8	山小屋・テント	2B/3B	やまたん	10	31
175	鬼怒沼	日光	2000	9/30-10/1	山小屋	B	武内勇二	3	78
602	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
69	仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247	仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
288	焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
303	達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
367	行道山	両毛	2004	3/28	日帰り	1B	佐藤健一	6	3
696	霧ヶ峰(車山)	霧ヶ峰	2010	8/1	日帰り	1A	原田和昭	12	70
81	切込湖・刈込湖	日光	1998	12/13	日帰り	A	柴 勇	1	162
640	切込湖～刈込湖	日光	2009	8/9	日帰り	1A	細野清子	11	62
536	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2007	5/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
52	霧降高原	日光	1998	5/31	日帰り	A	大串秀雄	1	92
154	霧降高原	日光	2000	5/7	日帰り	A	榊原文子	3	22
485	霧降高原	日光	2006	5/24	日帰り	1A	榊原文子	8	23
555	五十沢～金城山	上越	2008	9/1-3	避難小屋	4C	千葉有子	9	78
123	金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
191	金時山<富士周辺シリーズ>	箱根	2001	2/11	日帰り	A	細野清子	7	7
620	金時山	箱根	2009	2/22	日帰り	2B	坂口よし江	10	127
136	甲武信岳～金峰山(クリスマス山行)	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
236	瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
418	金峰山	奥秩父	2004	12/25-26	テント	4D	村松敏彦	6	123
436	金北山	佐渡	2005	8/4-6	山小屋	2B	原田和昭	7	26
33	九鬼山	中央沿線	1997	11/8	日帰り	A	細野清子	1	64
369	馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
666	九鬼山	中央沿線	2010	2/7	日帰り	2A	中村隆泰	11	127
415	草津白根山	上州	2004	12/1-2	宿	1A	斎藤清一	6	117
496	草津白根山	上州	2006	7/31-8/1	山麓泊	1A	斎藤清一	8	59
60	櫛形山	南ア	1998	7/7	日帰り	A	清家三保子	1	104
212	櫛形山	南ア	2001	6/30	日帰り	A	原田君子	4	25
120	葛葉川本谷	丹沢	1999	9/5	日帰り	B	村松敏彦	2	84
325	葛葉川本谷	丹沢	2003	6/8	日帰り	C	堀口昭二	5	56
456	葛葉川本谷 (登山教室)	丹沢	2005	9/11	日帰り	2B	村松敏彦	7	131
438	熊倉山	奥秩父	2005	5/15	日帰り	2B	高橋英雄	7	30
434	根本山～熊鷹山	桐生	2006	4/30	日帰り	3B	外崎 蓮	7	21
718	虎丸山～熊岳	中央沿線	2010	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	12	133

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
483	熊野古道・悪四郎山	熊野	2006	5/14-16	山麓泊	3B	細野清子	8	18
79	雲取山	奥秩父	1998	11/22-23	素泊り小屋	B	細野清、外崎	1	158
158	雲取山 (公開登山)	奥秩父	2000	6/3-4	山小屋/テント泊	B	日下芳十	3	27
308	雲取山	奥秩父	2003	3/22-23	避難小屋	C	青山寿子	5	4
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2009	2/8	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
550	雲取山	奥秩父	2007	4/5	山小屋	3A	小川誠二郎	9	65
713	雲取山～天祖山	奥多摩	2010	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	12	119
168	雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋/テント	C	大串秀雄	3	57
516	殿平～鞍吾山	中央沿線	2007	11/24	日帰り	2B	武内勇二	8	115
107	高畑山～倉岳山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
185	倉岳山 (忘年山行)	中央沿線	2000	12/3	日帰り	A	原田君子	3	97
574	鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2009	2/4	日帰り	2B	千葉有子	9	125
712	高畑山～倉岳山	中央沿線	2010	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	12	117
331	倉戸山	奥多摩	2003	7/13	日帰り	2A	高橋英雄	5	76
328	栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
444	早池峰山・栗駒山 (市民登山)	北上	2006	6/17-20	山麓泊	3B	石垣吉朗	7	43
674	御前山～九竜山	奥多摩	2010	4/18	日帰り	2B	青山寿子	12	9
602	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
13	黒川鶏冠山	大菩薩	1997	5/24	日帰り	A+	川名	1	21
693	農鳥岳～黒河内岳	南アルプス	2010	7/21～23	テント	3C	千葉有子	12	60
179	黒岳	富士周辺	2000	10/29	日帰り	A	原田君子	3	88
189	三ヶ峠山～黒岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7	3
137	水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
292	北信三山 (黒姫山・戸隠山・飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
604	黒部峡谷下の廊下	北ア	2008	10/11-13	山小屋	3C	千葉有子	10	85
335	黒部源流	北ア	2003	8/12-17	テント	5D	堀口昭二	5	87
64	黒部五郎岳	北ア	1998	7/31-8/4	山小屋	B+	外崎 蓮	1	116
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23-27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
725	黒斑山・水の塔山	浅間	2011	2/5-6	山麓泊	3C	高橋重	12	148
518	鶏足山～花香月山 (忘年山行)	常磐	2006	12/10	日帰り	2B	川下敬史	8	120
689	釈迦ヶ岳～鶏頂山	高原山	2010	6/20	日帰り	2A	坂巻明	12	51
435	燧ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2006	8/1-4	テント	5D	村松敏彦	7	23
719	仏果山～華厳山	丹沢	2010	12/12	日帰り	2B	青山寿子	12	135
544	袈裟丸山	足尾山塊	2007	6/23-24	テント	3B	外崎 蓮	9	50
629	袈裟丸山～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11	26
682	袈裟丸山	足尾	2010	5/16	日帰り	2A	中村隆泰	12	29
208	毛無山～十二ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
312	モミソ沢・源次郎沢	丹沢	2004	4/12-14	テント	C	堀口昭二	5	15
480	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2007	4/15-17	テント	3D	佐藤健一	8	11
361	恩若峰・源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
131	乾徳山	奥秩父	1999	11/23	日帰り	B	三浦七郎	2	120
293	乾徳山	奥秩父	2002	11/3	日帰り	B	安田みづほ	4	242
710	乾徳山	奥秩父	2010	10/24	日帰り	2B	田村光子	12	111
333	恋ノ岐沢・平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
310	甲州高尾山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	中村隆泰	5	11
113	庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2005	10/2-3	避難小屋	3C	大串秀雄	7	90
457	甲東不老山	中央沿線	2005	9/18	日帰り	1A	中村隆泰	7	82
65	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
597	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
660	足和田山～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11	114
40	古賀志山	前日光	1998	2/14	日帰り	A+	柴 勇	1	76
316	赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴 勇	5	26
525	古賀志山 (新人歓迎山行)	前日光	2007	3/25	日帰り	1B	中村八重子	9	1
84	南大菩薩小金沢連峰	大菩薩	1999	1/15-16	山小屋	B+	柴 勇	2	4
24	小草平の沢	丹沢	1997	9/21	日帰り	B	村松敏彦	1	42
456	御座山・芳山フェスタ	西上州	2005	9/17	日帰り	2B	村松敏彦、芳山	7	133
164	五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
637	浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	4C	清家三保子	11	53

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
649	飯山・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11	87
374	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
394	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2006	8/19-24	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
642	摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	6C	村松敏彦	11	66
19	御前山	奥多摩	1997	6/28	日帰り	A	村松敏彦	1	29
178	御前山	奥多摩	2000	10/22	日帰り	A	大串秀雄	3	87
243	奥多摩三山(大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-4	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
610	御前山	奥多摩	2008	11/23	日帰り	2B	箕輪完二	10	100
717	御前山(忘年山行)	茨城	2010	12/5	日帰り	1A	武内勇二	12	129
674	御前山～九竜山	奥多摩	2010	4/18	日帰り	2B	青山寿子	12	9
139	小檜山	奥秩父	2000	1/16	日帰り	B	村松敏彦	2	134
82	甲武信岳(クリスマス山行)	奥秩父	1998	12/19-20	テント	C	村松敏彦	1	163
136	甲武信岳～金峰山(クリスマス山行)	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
265	笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
268	甲武信ヶ岳	奥秩父	2002	6/14夜-16	山小屋	B+	外崎 蓮	4	157
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
685	古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ロッジ泊	1A	柴勇	12	35
629	袈裟丸山～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11	26
681	巢神山～小法師岳	足尾	2010	5/15-16	テント	3C	千葉有子	12	27
156	子持山	上州	2000	5/21	日帰り	A	細野清子	3	25
514	菰釣山～三国山	丹沢	2006	11/11-12	避難小屋	2B	坂口よし江	8	109
196	菰釣山・高指山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴 勇	7	18
227	唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
454	唐松岳～五竜岳	北ア	2006	8/21-23	山小屋	4B	原田和昭	7	75
593	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
182	権現山	中央沿線	2000	11/18	日帰り	B	柴 勇	3	94
296	権現山	中央沿線	2002	11/24	日帰り	A	清家三保子	4	248
337	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎 蓮	5	93
614	西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎蓮	10	110
641	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
463	蔵王周辺の山々	蔵王連峰	2005	10/9-12	山麓泊	3B	斎藤清一	7	97
39	笹尾根	奥多摩	1998	2/8	日帰り	A	清家三保子	1	74
193	笹尾根	奥多摩	2001	2/18	日帰り	A	中村隆泰	3	108
362	笹尾根	奥多摩	2004	2/1	日帰り	2B	外崎 蓮	5	168
576	三頭山～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	日帰り	1A	外崎蓮	10	1
615	笹尾根(楨寄山)	奥多摩	2009	1/10	日帰り	2B	矢野裕子	10	114
665	笹尾根(小桐峠～生藤山)	中央沿線	2010	2/6	日帰り	2A	千葉有子	11	125
250	笹尾根(日原峠～生藤山)	中央沿線	2002	2/16	日帰り	A	中村隆泰	4	116
581	笹子雁ヶ腹摺山	中央沿線	2008	4/26	日帰り	2B	原田和昭	10	18
96	笹子雁ヶ腹摺山(新人歓迎山行)	中央沿線	1999	4/18	日帰り	A+	斎藤清一	2	24
501	富士山～佐白山(ウィズハイク)	茨城	2007	9/24	日帰り	1A	外崎 蓮	8	71
647	佐武流山	上越	2009	9/26-27	テント	4C	青山寿子	11	82
556	策ヶ岳	南ア	2007	9/9-10	テント	4C	外崎 蓮	9	81
638	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	4B	村松敏彦	11	56
652	三ノ宿山	日光	2009	11/1	日帰り	2A	中村八重子	11	95
294	雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
198	蛾ヶ岳～三方分山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
413	三方分山～パノラマ台	富士周辺	2004	11/21	日帰り	2B	斎藤清一	6	113
157	南月山～三本槍岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
263	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2005	10/16-18	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
569	三本槍岳	那須	2007	12/15-16	テント	3C	吉川誠一	9	114
631	三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	3B	3B	武内勇二	11	38
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳(市民登山)	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12	37
336	爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
593	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
65	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
451	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2007	8/5-10	山小屋	6D	大串秀雄	7	66
549	塩見岳～北岳	南ア	2007	7/28-31	山小屋	4C	外崎 蓮	9	62
597	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
128	杓子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎 蓮	2	113
466	鹿俣山 (玉原高原)	上州	2005	10/27	日帰り	2A	柴田節子、県連	7	105
261	鹿倉山	奥多摩	2002	5/3	日帰り	A	高橋英雄	4	138
209	思親山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/3	日帰り	A	斎藤清一	7	32
332	伊吹山・賤ヶ岳	近江	2003	7/25夜-27	テント	2A	武内勇二	5	77
215	七面山～八紘嶺<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
54	七里川清掃ハイキング	房総	1998	6/7	日帰り	A	大串秀、県連	1	94
144	七里川-追原-元清澄山	房総	2000	2/19-20	日帰り	A	県連自然保護委員会	2	142
27	尾瀬集中登山(創立記念) C:至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	CL柴勇、L村松敏	1	47
27	尾瀬集中登山(創立記念) A:笠ヶ岳-至仏山	尾瀬	1998	10/9-12	テント&山小屋	B	CL柴勇、L川名	1	47
345	笠ヶ岳・至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎 蓮	5	127
373	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
689	釈迦ヶ岳～鶏頂山	高原山	2010	6/20	日帰り	2A	坂巻明	12	51
393	白馬～杓子～鐘ヶ岳	北ア	2005	8/12-16	山小屋	4C	高橋英雄	6	64
452	唐松岳～鐘ヶ岳～杓子岳	北ア	2007	8/13-17	山小屋	5C	高橋英雄	7	71
128	杓子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎 蓮	2	113
565	社山	日光	2007	11/18	日帰り	2A	石垣吉朗	9	103
443	尾ヶ禿山～迦葉山	上州	2006	6/17	日帰り	3B	斎藤清一	7	41
330	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
180	小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎 蓮	3	90
683	小野子山～十二ヶ岳	上州	2010	5/22	日帰り	2B	原田和昭	12	31
208	毛無山～十二ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
375	十二ヶ岳	富士周辺	2004	5/9	日帰り	2B	中村隆泰	6	18
709	天狗角力取山～障子ヶ岳	朝日連峰	2010	10/15-17	3B	3B	武内勇二	12	108
68	上州武尊山	上州	1998	9/19-20	山小屋	B+	柴 勇	1	132
289	上州武尊山	上州	2002	10/13-14	民宿	B	大串秀雄	4	230
482	上州武尊岳	上州	2006	5/3-4	テント	4D	村松敏彦	8	15
135	上州三峰山	西上州	1999	12/19	日帰り	A+	細野省二	2	126
352	戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
314	生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
250	笹尾根 (日原峠～生藤山)	中央沿線	2003	2/17	日帰り	A	中村隆泰	4	116
259	生藤山	中央沿線	2002	4/21	日帰り	A	細野清、榊原	4	135
637	浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	3C	清家三保子	11	53
49	蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
172	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋/テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
433	笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2005	4/24	日帰り	3B	青山寿子	7	19
449	笹の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2005	7/23	日帰り	2B	中村隆泰	7	60
613	城峯山(忘年山行)	秩父	2008	12/14	日帰り	1A	やまたん	10	106
22	朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112	朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎 蓮	2	63
124	白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9-11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2006	7/22-25	テント	4D	細野清子	7	56
461	白毛門沢	上越	2005	10/2	前夜発	3C	千葉有子	7	94
349	白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
387	白砂山	上信越	2004	7/17-18	宿	3B	中村隆泰	6	45
688	白谷沢	奥武蔵	2010	6/13	日帰り	2B	堀口昭二	12	50
118	白峰三山	南ア	1999	8/20-22	山小屋	C	外崎 蓮	2	77
21	白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	テント&山小屋	B	細野清子	1	33
317	白馬岳 (雪山合宿)	北ア	2003	5/2-5	テント	D	村松敏彦	5	28
393	白馬～杓子～鐘ヶ岳	北ア	2004	8/12-15	山小屋	3C	高橋英雄	6	64
399	朝日岳～白馬岳	北ア	2005	9/16-20	山小屋	3C	石垣吉朗	6	78
166	白馬三山	北ア	2000	8/5-7	山小屋	B	斎藤清一	3	52
695	白馬岳～朝日岳	北アルプス	2010	7/30～8/2	山小屋/テント	3C	外崎蓮	12	65
692	八間山・白砂山	野反湖	2010	7/10～11	山麓泊	3B	原田和昭	12	57
431	モミソ沢・新茅の沢～烏尾山	丹沢	2006	4/16-18	テント	4B	佐藤健一	7	14
183	陣場山	中央沿線	2000	11/19	日帰り	A	榊原文子	4	1
251	景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本 豊	4	118
314	生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
724	陣馬山～景信山	高尾	2011	1/30	日帰り	2B	青山寿子	12	146
284	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
113	庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2007	10/2-5	避難小屋	5C	大串秀雄	7	90
600	皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
681	巢神山～小法師岳	足尾	2010	5/15-16	テント	3C	千葉有子	12	27
245	助川山(忘年山行)	常陸	2001	12/2	日帰り	A, B	川下敬史	4	103
676	鈴ヶ尾山～大桑山	中央線沿線	2010	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	12	17
600	皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
499	錫ヶ岳～前白根山	日光	2006	9/9-10	テント	4C	村松敏彦	8	66
153	浅草岳・守門岳	会越	2000	5/3-6	テント/民宿	D	村松敏彦	3	20
346	浅草岳・守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴勇	5	130
595	掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
690	守門岳	越後	2010	6/26～27	避難小屋	3B	石垣吉朗	12	53
642	摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	4C	村松敏彦	11	66
423	諏訪岳～唐沢山	両毛	2005	2/10-11	日帰り	2A	斎藤清一	6	134
184	高反山・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
420	石尊山～三石山	房総	2005	1/29-30	宿	2A	斎藤清一	6	127
618	とみやま水仙遊歩道・石尊山(県連ロングハイク)	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	3A	斎藤清一	10	122
8	石老山(公開登山)	中央沿線	1997	3/16	日帰り	A	柴、細野清	1	12
188	石老山<富士周辺シリーズ>	中央沿線	2001	1/14	日帰り	A	村松敏彦	7	1
479	鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2007	4/10	日帰り	2B	武内勇二	8	9
395	背戸峨廊	阿武隈	2004	8/22	日帰り	1B	中村八重子	6	71
370	モミン沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
529	セドの沢右俣	丹沢	2007	4/15	日帰り	3C	堀口昭二	9	12
535	セドの沢左俣	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	堀口昭二	9	24
607	浅間尾根	奥多摩	2008	11/1	日帰り	2A	村松敏彦	10	93
659	雪入山～浅間山(忘年山行)	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11	110
146	浅間嶺	奥多摩	2000	3/26	日帰り	A	高橋英、安田	3	4
26	仙丈ヶ岳	南ア	1997	9/27-28	山小屋	B	村松敏彦	1	45
218	甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
219	仙丈岳	南ア	2001	7/28-29	小屋・テント	B	清家三保子	4	46
451	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2005	5/8	山小屋	4D	大串秀雄	7	66
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴勇	12	92
644	仙丈ヶ岳～アサヨ峰	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	3C	外崎蓮	11	72
73	平標山～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274	平標山～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
396	相馬山～榛名富士	上州	2004	8/29	日帰り	2A	高橋芳恵	6	73
722	曾倉山～扇山	中央線沿線	2011	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	12	142
116	蕎麦粒山	奥多摩	1999	8/8	日帰り	A	斎藤清一	2	70
356	蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
433	笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2006	4/25	日帰り	4B	青山寿子	7	19
449	笹の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2006	7/24	日帰り	3B	中村隆泰	7	60
536	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2008	5/21-25	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
321	大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
59	田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
214	利尻山・大雪山	北海道	2002	7/3-9	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
404	大山・蒜山	大山	2004	10/1-5	宿	2B	斎藤清一	6	90
400	立山三山～大日三山	北ア	2005	9/17-21	山小屋	3C	外崎蓮	6	80
58	大菩薩峠	大菩薩	1998	6/28	日帰り	A	大串秀雄	1	100
150	大菩薩嶺	大菩薩	2000	4/23	日帰り	B	武内勇二	3	11
364	大菩薩嶺	大菩薩	2004	2/22	日帰り	3C	武内勇二	5	170
513	大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2006	11/5-6	山小屋	4D	大串秀雄	8	106
650	大菩薩嶺	秩父	2009	10/24-25	山小屋	2A	中村隆泰	11	90
78	大無間山	南ア	1998	11/21-23	テント	C	清家三保子	1	156
73	平標山～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274	平標山～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
286	谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
609	高岩山～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
159	高岩	上州	2000	6/10	日帰り	B+	柴勇	3	33
155	景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
519	高尾山	中央沿線	2006	12/17	日帰り	1A	中村八重子	8	124
575	高尾山	中央沿線	2008	2/11	日帰り	1A	坂巻・小松	9	130
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21
244	高柄山	中央沿線	2001	11/25	日帰り	A	中村八重子	4	101
145	高川山	中央沿線	2000	3/12	日帰り	A	日下芳十	3	3
368	高川山	中央沿線	2004	4/4	日帰り	2A	中村八重子	6	5
568	高岩山～八郎塚(忘年山行)	房総	2007	12/9	日帰り	2A	佐藤健一	9	112
196	菰釣山・高指山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴 勇	7	18
672	神峰山～高鈴山(新人歓迎山行)	阿武隈山域	2010	4/4	日帰り	1A	川下敬史	12	4
184	高反山・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
111	夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
570	鷹取山	三浦半島	2008	1/20	日帰り	1A	中村隆泰	9	117
319	鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
385	榎ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
680	鷹ノ巣山	奥多摩	2010	5/9	日帰り	2B	青山寿子	12	25
107	高畑山～倉岳山(新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
712	高畑山～倉岳山	中央線沿線	2010	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	12	117
234	高原山	那須	2001	10/17	日帰り	A	中村隆泰	4	79
624	高見石～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋 重	11	11
521	高水山～棒の折山	奥多摩	2007	1/21	日帰り	2A	千葉有子	8	129
93	高水三山	奥多摩	1999	3/28	日帰り	A	日下芳十	2	19
264	高水三山	奥多摩	2002	5/18	日帰り	A	松本 豊	4	145
648	棒の折山～高水2山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	3A	原田和昭	11	85
85	高山	日光	1999	1/24	日帰り	A	外崎、村松敏	2	6
306	日光高山	日光	2003	2/11	日帰り	B	細野省二	4	272
488	高山(県連ハイク)	日光	2006	6/8	日帰り	2A	柴田節子、県連	8	32
573	高山	日光	2008	1/27	日帰り	2B	武内勇二	9	124
199	高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
392	宝川ナルミズ沢	谷川	2004	8/8-9	テント	4D	村松敏彦	6	61
44	滝子山	中央沿線	1998	3/22	日帰り	B	清家三保子	1	83
255	滝子山	中央沿線	2002	3/17	日帰り	A+	武内勇二	4	128
287	滝子山	中央沿線	2002	10/6	日帰り	A+	榊原文子	4	224
414	滝子山	中央沿線	2004	11/28	日帰り	3B	青山寿子	6	115
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2010	10/21-25	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
673	アモウ沢～滝子山	大菩薩	2010	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	12	7
50	武川岳	奥武蔵	1998	5/17	日帰り	A+	中村隆泰	1	90
59	田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
303	達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
3	蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	テント&小屋	C	川名	1	6
502	蓼科山	八ヶ岳	2006	9/30-10/	日帰り	2B	石垣吉朗	8	75
677	蓼科山	八ヶ岳	2010	4/24-25	テント	3C	高橋重	12	19
117	剣岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント/小屋	C	柴 勇	2	72
450	剣岳～立山三山	北ア	2006	8/4-8	山小屋	5D	村松敏彦	7	62
400	立山三山～大日三山	北ア	2004	9/17-20	山小屋	3C	外崎 蓮	6	80
476	兜山～棚山	中央沿線	2007	3/13	日帰り	3A	村松敏彦	8	1
520	谷川岳	谷川	2006	12/22-23	テント	4D	村松敏彦	8	126
542	谷川岳	谷川	2007	6/16-17	山小屋	2B	高橋 重	9	46
590	谷川岳山麓(リーダー研修)	谷川	2008	6/28-29	山麓泊	2B	石垣吉朗	10	49
286	谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
493	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2006	7/2-7	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
71	太郎山	日光	1998	10/4	日帰り	B	三浦七郎	1	136
342	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
684	太郎山(県連ウィークデイ山行)	日光	2010	5/27	日帰り	2B	原田和昭	12	33
160	リーダー研修in丹沢	丹沢	2000	6/17-18	テント	B	村松敏彦	3	34
270	リーダー研修in丹沢	丹沢	2002	6/29-30	テント	B/C	村松敏彦	4	166
30	丹沢主脈縦走(公開登山)	丹沢	1997	10/25-26	山小屋	B	村松敏彦	1	57
129	丹沢主脈縦走(新人研修)	丹沢	1999	11/13-14	山小屋	A++	細野省二	2	115
410	丹沢主脈	丹沢	2004	11/6-7	宿	1A	中村隆泰	6	106
53	丹沢主稜縦走	丹沢	1998	6/6-7	山小屋	B	柴 勇	1	93
103	丹沢三ッ峰	丹沢	1999	5/15-16	山小屋	B	清家三保子	2	45
651	鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/	山小屋	2A	北川晴久	11	93

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
667	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴 勇	11	129
383	玉原高原	上州	2004	6/19-20	宿	2B	清家三保子	6	35
132	秩父御岳山	奥武蔵	1999	11/28	日帰り	A	安田みつほ	2	121
441	秩父御岳	奥武蔵	2005	5/29	日帰り	1A	中村八重子	7	36
94	茶臼岳	那須	1999	4/10-11	山小屋	C	柴 勇	2	20
263	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2006	10/16-19	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳 (市民登山)	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12	37
172	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋/テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
583	涸沢・蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
20	鳥海山	出羽	1997	7/19-21	山小屋	B	柴 勇	1	32
169	鳥海山	出羽	2000	8/18-20	山小屋	B	外崎 蓮	3	60
217	鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
456	鳥海山	出羽	2005	8/26-29	山小屋	3B	武内勇二	7	79
49	蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
28	長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴 勇	1	54
206	長者ヶ岳～天子ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
299	筑波山 (二期生新春山行)	茨城	2003	1/3	日帰り	A	日下芳十	4	256
43	筑波山	常磐	1998	3/21	日帰り	A	川名	1	82
80	筑波山 (忘年山行)	常磐	1998	12/6	日帰り	A	日下芳十	1	160
127	筑波山 (ふれあひハイク)	常磐	1999	10/24	日帰り	A	柴、梶連	2	110
358	筑波山	常磐	2004	1/3	日帰り	1A	日下芳十	5	161
419	筑波山	常磐	2005	1/3	日帰り	1A	日下芳十	6	125
711	筑波山	茨城	2010	11/6-7	テント	4A	川下敬史	12	113
458	土岳・花貫 (ウイズハイク)	常磐	2005	9/23	日帰り	2A	日下芳十	7	84
707	津梅川・追良瀬川	白神山地	2010	9/22-26	テント	3C	千葉有子	12	101
6	燕岳	北ア	1997	2/8-11	テント	C	川名	1	10
119	燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
172	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋/テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
698	餓鬼岳～燕岳	北アルプス	2010	8/12-15	山小屋	3C	高橋英雄	12	74
530	坪山	中央沿線	2007	4/22	日帰り	1A	清家三保子	9	13
108	本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
467	鶴ヶ鳥屋山	中央沿線	2005	10/30	日帰り	2B	柴 勇	7	107
117	剣岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント/小屋	C	柴 勇	2	72
450	剣岳～立山三山	北ア	2005	8/4-7	山小屋	4D	村松敏彦	7	62
226	剣山	四国	2001	8/31夜-9/	民宿	A	斎藤清一	4	55
668	鶴島御前山	中央沿線	2010	2/21	日帰り	1B	中村八重子	11	132
606	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
567	手賀沼一周	東葛	2007	12/1	日帰り	1A	小川誠二郎	9	110
611	手賀沼一周	東葛	2008	12/1	日帰り	1A	高橋重	10	102
658	手賀沼一周	東葛	2009	11/29	日帰り	1A	小川誠二郎	11	108
716	手賀沼一周	東葛	2010	11/28	日帰り	1A	小川誠二郎	12	126
334	光岳	南ア	2003	8/7-10	山小屋	4C	外崎 蓮	5	84
388	易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎 蓮	6	48
699	聖岳～光岳	南アルプス	2010	8/18-22	山小屋	4C	高橋重	12	78
366	大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
143	晃石山(テルシ)	日光	2000	2/11	日帰り	A	細野清子	2	141
45	天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
378	赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
508	天狗尾根 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	避難小屋	3C	堀口昭二	8	92
709	天狗角力取山～障子ヶ岳	朝日連峰	2010	10/15-17	避難小屋	3B	武内勇二	12	108
624	高見石～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋 重	11	11
28	長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴 勇	1	54
206	長者ヶ岳～天子ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
152	天上山	伊豆七島	2000	5/3-5	民宿	A	細野清子	3	16
350	酉谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475	酉谷山～天祖山	奥多摩	2007	2/11-13	避難小屋	4C	青山寿子	7	127
713	雲取山～天祖山	奥多摩	2010	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	12	119
516	殿平～鞍吾山	中央沿線	2006	11/23	日帰り	2B	武内勇二	8	115

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
661	天地山～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11	116
510	天女山 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/15	日帰り	1A	松本豊・中村隆	8	100
4	天覽山	奥武蔵	1997	1/15	日帰り	B	村松敏彦	1	8
431	道志二十六夜山	道志	2005	4/23	日帰り	1B	中村隆泰	7	17
181	塔ノ岳～鍋割山 (新人卒業)	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
365	蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
377	塔ノ岳～丹沢三ツ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
437	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2005	5/14-15	山小屋	3B	柴 勇	7	28
667	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴 勇	11	129
626	堂平山～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11	16
292	北信三山 (黒姫山、戸隠山、飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2006	7/11-17	山麓泊	5D	大串秀雄	7	52
46	徳並山	大菩薩	1998	4/11	日帰り	B	村松敏彦	1	86
662	徳並山	中央沿線	2010	1/17	日帰り	2B	武内勇二	11	118
352	戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
324	戸倉三山	奥多摩	2003	6/7-8	国民宿舎	A+	斎藤清一	5	54
657	馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11	106
515	伊予ヶ岳・富山 (県連40周年)	房総	2007	11/18-20	テント	1A	高橋英雄	8	112
618	とみやま水仙遊歩道・石尊山 (県連ロングハイク)	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	1A	斎藤清一	10	122
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2008	7/11-19	山麓泊	7D	大串秀雄	7	52
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
574	鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2008	2/3	日帰り	2B	千葉有子	9	125
718	虎丸山～熊岳	中央沿線	2010	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	12	133
126	秋山郷～鳥甲山	上信	1999	10/23-24	(テント)	B+	細野省二	2	107
397	鳥甲山	上信	2004	9/4-5	テント	4D	青山寿子	6	74
350	西谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475	西谷山～天祖山	奥多摩	2006	2/11-12	避難小屋	3C	青山寿子	7	127
63	苗場山	信越	1998	7/19-20	山小屋	B	外崎 蓮	1	113
230	苗場山	信越	2001	9/29-30	山小屋	B	安田みづほ	4	66
459	苗場山	信越	2005	10/1-2	山小屋	3B	清家三保子	7	88
588	苗場山	谷川	2008	6/15-16	山小屋	3B	原田君子	10	44
697	長尾谷	奥多摩	2010	8/8	日帰り	2B	千葉有子	12	72
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2010	6/2-9	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2005	9/25-29	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
151	大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎 蓮	3	13
280	越後三山 (越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
631	三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	避難小屋	3B	武内勇二	11	38
5	鳴虫山	日光	1997	1/26	日帰り	A	三浦七郎	1	9
104	鳴虫山	日光	1999	5/22	日帰り	A	原田君子	2	46
276	鳴虫山	日光	2002	7/21	日帰り	A	松本 豊	4	185
422	鳴虫山	日光	2005	2/6	日帰り	2C	清家三保子	6	132
486	那須旭岳・大白森山	那須	2006	5/27-28	テント	3C	村松敏彦	8	25
32	七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
300	菜畑山	道志	2003	1/12	日帰り	A	大串恵子	4	257
609	高岩山～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
31	鍋割山 (支援隊)	丹沢	1997	10/25	日帰り	A	加藤秀明	1	60
91	鍋割山	丹沢	1999	3/20	日帰り	A	三浦七郎	2	14
181	塔ノ岳～鍋割山 (新人卒業)	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
651	鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/	山小屋	2A	北川晴久	11	93
667	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴 勇	11	129
701	ナメラ沢	奥秩父	2010	8/21夜-22	湖畔仮眠	2B	堀口昭二	12	85
606	奈良倉山～鶴寝山～大マテ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
90	難台山～吾国山 (卒業山行)	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
714	奥久慈男体山	茨城	2010	11/14	日帰り	2A	坂巻明	12	122
477	難台山～吾国山	茨城	2006	3/26	日帰り	1B/2B	柴 勇	8	3
653	難台山～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11	98
538	男体山麓荒沢水源	日光	2007	5/27	日帰り	1A	中村八重子	9	33
584	二王子岳	飯豊	2008	5/31-6/1	避難小屋	3C	石垣吉朗	10	27
374	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
57	西沢溪谷	奥秩父	1998	6/21	日帰り	A	中村隆泰	1	99
337	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎 蓮	5	93
614	西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎蓮	10	110
3	蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	テント&小屋	C	川名	1	6
442	西の湖・赤岩	日光	2005	6/15	日帰り	1A	榊原文子	7	39
548	焼岳～西穂高岳	北ア	2008	7/18-21	山小屋	3B	大串秀雄	9	59
61	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	1998	7/18-20	山小屋	D	村松敏彦	1	107
77	今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
398	日光白根山	日光	2004	9/12	日帰り	2B	大串恵子	6	76
540	日光白根山	日光	2007	6/7	日帰り	2B	斎藤清一	9	37
489	日光男体山(市民登山)	日光	2006	6/11	日帰り	3A	中村隆泰	8	34
671	日白山	谷川連峰	2010	3/27-28	テント	4D	村松敏彦	12	1
440	入笠山	南ア	2005	5/29	日帰り	1A	細野清子	7	34
271	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4	168
67	女峰山	日光	1998	9/19-20	無人小屋	C	村松峯子	1	130
342	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
197	沼津アルプス<富士周辺シリーズ>	沼津	2001	4/1	日帰り	A+	村松峯子	7	20
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2008	6/26-30	山麓泊	6B	高橋 潔	7	49
589	温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
434	根本山～熊鷹山	桐生	2005	4/29	日帰り	2B	外崎 蓮	7	21
693	農鳥岳～黒河内岳	南アルプス	2010	7/21～23	テント	3C	千葉有子	12	60
344	荒島岳・能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
460	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2006	10/2-4	避難小屋	4C	大串秀雄	7	90
343	鋸山(ウィズハイク)	房総	2003	9/27	日帰り	1A	外崎 蓮	5	112
551	大岳山～鋸尾根	奥多摩	2008	8/13	日帰り	2B	高橋英雄	9	67
661	天地山～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11	116
338	御嶽山・乗鞍岳	木曾・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
577	お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
62	白山	白山	1998	7/17-20	テント	B+	細野省二	1	110
252	箱根・浅間山	箱根	2002	2/24	日帰り	A	斎藤清一	4	120
692	八間山・白砂山	野反湖	2010	7/10～11	山麓泊	3B	原田和昭	12	57
545	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2008	6/30-7/3	山麓泊	3B	柴 勇	9	52
173	八幡平・焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3	74
601	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
568	高岩山～八郎塚(忘年山行)	房総	2008	12/10	日帰り	3A	佐藤健一	9	112
280	越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
503	八海山・平ヶ岳	越後	2006	10/3-5	山麓泊	3B	大串秀雄	8	77
340	岩木山・八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5	102
633	奥入瀬溪谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	3B	細野清子	11	43
215	七面山～八紘嶺<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
657	馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11	106
518	鶏足山～花香月山(忘年山行)	常磐	2007	12/11	日帰り	2B	川下敬史	8	120
523	花咲山	中央沿線	2007	1/28	日帰り	1A	中村隆泰	8	133
204	鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘/テント	A+,C	細野清子	4	12
409	破風山	奥秩父	2004	10/31	日帰り	2C	日下芳十	6	104
522	浜石岳	駿河	2007	1/21	日帰り	1A	北川勝久	8	131
98	ハマイバ丸(山菜取り山行)	大菩薩	1999	4/29	日帰り	B	柴 勇	2	28
372	大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
161	早池峰・薬師岳	北上	2000	7/1-2	民宿泊	B	斎藤清一	3	40
444	早池峰山・栗駒山(市民登山)	北上	2005	6/17-19	山麓泊	2B	石垣吉朗	7	43
336	爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
171	榛名山	上州	2000	8/27	日帰り	A	細野清子	3	66
396	相馬山～榛名富士	上州	2005	8/30	日帰り	2A	高橋芳恵	6	73
511	半月山(県連平日ハイク)	日光	2006	10/19	日帰り	1A	日下芳十、県連	8	102
382	磐梯山	会津	2004	6/6	日帰り	2B	村松敏彦	6	32
635	磐梯山	会津	2009	7/12	日帰り	2B	小川誠二郎	11	48
27	尾瀬集中登山(創立記念) B:燧ヶ岳	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	CL柴勇、L柴	1	47
176	燧ヶ岳	尾瀬	2000	10/7-8	山小屋	A+	外崎 蓮	3	81
435	燧ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2005	8/1-3	テント	4D	村松敏彦	7	23
114	妙高山・火打山	頸城	1999	7/31-8/1	テント/小屋	B	柴 勇	2	66
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2005	7/11-16	山麓泊	4D	大串秀雄	7	52

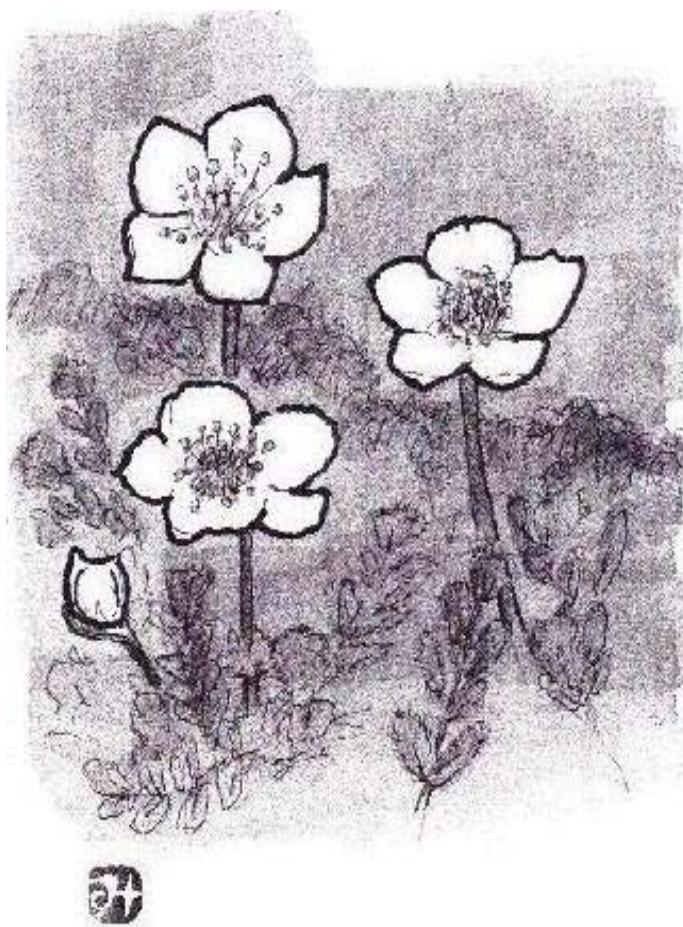
No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
636	東黒沢・ヒッゴー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	4D	佐藤健一	11	50
505	東八ヶ岳縦走 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	3C	柴 勇	8	84
374	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
225	赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
699	聖岳～光岳	南アルプス	2010	8/18-22	山小屋	4C	高橋重	12	77
636	東黒沢・ヒッゴー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	5D	佐藤健一	11	50
437	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2007	5/14-17	山小屋	5B	柴 勇	7	28
34	檜洞丸	丹沢	1997	11/15	日帰り	A+	三浦七郎	1	65
320	檜洞丸	丹沢	2003	5/21	日帰り	A+	中村隆泰	5	35
427	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2007	3/20-23	避難小屋	5B	青山寿子	7	5
75	御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
363	日の出山	奥多摩	2004	2/11	日帰り	2A	岡田秀子	5	169
424	日ノ出山	奥多摩	2005	2/20	日帰り	2B	中村隆泰	6	136
670	日ノ出山～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11	136
691	御岳山～日の出山	奥多摩	2010	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	12	55
491	森吉山・姫神山	東北	2007	6/26-28	山麓泊	2B/2A	細野清子	8	42
402	岩手山・姫神山	奥羽	2005	9/18-21	宿	4B	高橋英雄	6	85
633	奥入瀬溪谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	4B	細野清子	11	43
612	本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
269	会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2003	6/21夜-2	テント	B+	武内勇二	4	161
503	八海山・平ヶ岳	越後	2007	10/3-6	山麓泊	3B	大串秀雄	8	77
332	恋ノ岐沢・平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
643	笹子川大鹿沢平っ沢	中央沿線	2009	8/22	日帰り	2B	千葉有子	11	70
235	飛龍山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	高橋英雄	4	81
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2008	6/2-7	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
705	飛龍山	奥秩父	2010	9/11-12	山小屋	3A	小川誠二郎	12	97
365	蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
651	鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/	山小屋	2A	北川晴久	11	93
404	大山・蒜山	大山	2005	10/1-6	宿	2B	斎藤清一	6	90
88	日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353	日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
265	笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
130	武甲山	奥武蔵	1999	11/21	日帰り	A	中村隆泰	2	118
546	武甲山	奥武蔵	2007	7/7	日帰り	1A	小川誠二郎	9	55
124	白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9-11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2007	7/22-26	テント	5D	細野清子	7	56
501	富士山～佐白山 (ウイズハイク)	茨城	2006	9/23	日帰り	1A	外崎 蓮	8	71
23	富士山	富士周辺	1997	9/13-14	山小屋	B	川名	1	39
221	富士山Aコース吉田口	富士周辺	2001	8/18	日帰り (山小屋)	B	日下芳十	7	43
222	富士山Dコース富士宮口	富士周辺	2001	8/18-19	山小屋	B	榊原文子	7	45
223	富士山Bコース吉田口 (駅から)	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	C	川下敬史	7	50
224	富士山Cコース須走り口	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	B	原田君子	7	53
272	富士山エコフォーラム	富士周辺	2002	7/6-8	ホテル	A	労山	4	172
272	富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本 豊	4	172
301	富士山	富士周辺	2003	1/12-13	テント	B	堀口昭二	4	260
453	富士山	富士周辺	2005	8/20-21	山小屋	3B	石垣吉朗	7	73
721	富士山	富士山	2010	12/18-19	テント	3C	堀口昭二	12	140
272	富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本 豊	4	172
706	二子山・両神山	奥秩父	2010	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	12	99
381	水沢山～二ッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋 潔	6	30
428	二ッ箭山 (新人歓迎山行)	常磐	2005	3/27	日帰り	1B	外崎 蓮	7	7
69	仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247	仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
719	仏果山～華厳山	丹沢	2010	12/12	日帰り	2B	青山寿子	12	135
327	船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21-22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2007	7/11-18	山麓泊	6D	大串秀雄	7	52
426	不老山	西丹沢	2005	3/19	日帰り	2B	原田和昭	7	3
125	鳳凰三山	南ア	1999	10/16-17	山小屋	B	清家三保子	2	105
339	鳳凰三山	南ア	2003	8/30-31	テント	3C	青山・千葉	5	100
558	鳳凰三山縦走	南ア	2007	9/29-30	山小屋	2B	坂口よし江	9	87

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
596	鳳凰三山	南ア	2008	8/14-15	山小屋	2B	本間恭子	10	63
167	木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
552	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2008	8/12-15	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
638	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	3B	村松敏彦	11	56
86	房総ロングハイク	房総	1999	1/30-31	ログハウス	A+	県連	2	8
141	房総ロングハイク	房総	2000	1/29-30	ログハウス前泊	A+	斎藤、県連	2	137
248	房総ロングハイク	房総	2002	1/26-27	ログハウス	A+	斎藤、県連	4	110
304	房総ロングハイク	房総	2003	1/25-26	ログハウス	B	高橋英、県連	4	267
360	房総ロングハイク	房総	2004	1/24-25	ログハウス	3A	斎藤清一、県連	5	164
473	房総ロングハイク	房総	2006	1/28-29	ログハウス	2A	柴田節子、県連	7	122
517	房総ロングハイク	房総	2006	12/23-24	山麓泊	1A	柴田節子、県連	8	117
572	房総ロングハイク	房総	2008	1/26-27	山麓泊	3A	坂口よし江、県連	9	122
664	房総ロングハイク	房総	2010	1/30-31	山麓泊	2A	小川誠二郎	11	123
421	棒立山	谷川	2005	1/29～30	テント	4D	川下敬史	6	130
526	棒立山	谷川	2007	3/31-4/1	テント	3C	外崎 蓮	9	5
48	棒の折山 (新人歓迎)	奥武蔵	1998	4/26	日帰り	A	外崎、村松敏	1	88
147	棒ノ折山	奥多摩	2000	4/9	日帰り	B	三浦七郎	3	6
433	笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2007	4/26	日帰り	5B	青山寿子	7	19
521	高水山～棒の折山	奥多摩	2008	1/22	日帰り	2A	千葉有子	8	129
648	棒の折山～高水2山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	2A	原田和昭	11	85
115	烏帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野省二	2	68
134	本仁田山	奥多摩	1999	12/12	日帰り	A	日下芳十	2	125
612	本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
605	本社ヶ丸北面尾根	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2B	佐藤健一	10	88
38	本社ヶ丸	中央沿線	1998	1/25	日帰り	A+	細野省二	1	72
108	本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
534	本社ヶ丸	中央沿線	2007	5/13	日帰り	3B	原田和昭	9	22
566	愛宕山・ポンポン山	京都	2008	11/20-23	山麓泊	2A	細野清子	9	105
499	錫ヶ岳～前白根山	日光	2007	9/9-11	テント	4C	村松敏彦	8	66
61	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	2000	7/18-22	山小屋	D	村松敏彦	1	107
390	前穂高岳～奥穂高岳	北ア	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
9	巻機山	越後	1997	4/12-13	テント	C+	坪井三枝子	1	15
210	巻機山 (公開登山)	上越	2001	6/9-10	旅館泊	B	加藤秀明	4	22
321	大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
720	巻機山(クリスマス山行)	越後	2010	12/18-19	テント	3C	村松敏彦	12	137
142	幕山	湯河原	2000	2/6	日帰り	A	安田みづほ	2	140
623	真名井沢北稜	奥多摩	2009	4/5	日帰り	2B	青山寿子	11	9
562	丸山	奥武蔵	2007	10/28	日帰り	1A	中村隆泰	9	96
469	天城山 (万三郎岳～万二郎岳)	伊豆	2005	11/13-14	山麓泊	3B	大串恵子	7	111
469	天城山 (万三郎岳～万二郎岳)	伊豆	2006	11/13-15	山麓泊	4B	大串恵子	7	111
498	万太郎谷	谷川	2006	9/2-3	テント	4D	佐藤健一	8	64
273	御神楽岳	越後	2002	7/12-14	テント	C	細野省二	4	176
313	稲含山・御荷鉢山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
254	三轟山	北関東	2002	3/17	日帰り	A	斎藤清一	4	126
514	菰釣山～三国山	丹沢	2007	11/13	避難小屋	2B	坂口よし江	8	109
341	未丈ヶ岳・荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
192	御正体山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	2/17	日帰り	B	安田みづほ	7	11
201	御正体山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	4/22	日帰り	B	安田みづほ	7	13
687	御正体山	道志山塊	2010	6/13	日帰り	2A	外崎蓮	12	48
236	瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
381	水沢山～二ッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋 潔	6	30
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
262	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2002	5/12	夜行日帰り	B/C	堀口昭二	4	140
480	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2006	4/15-16	テント	3D	佐藤健一	8	11
634	水根沢谷	奥多摩	2009	7/5	日帰り	2C	柴 勇	11	46
137	水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
163	籠ノ登山・水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
725	黒斑山・水ノ塔山	浅間	2011	2/5-6	山麓泊	3C	高橋重	12	149
75	御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
691	御岳山～日の出山	奥多摩	2010	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	12	55

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
601	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
420	石尊山～三石山	房総	2006	1/29-31	宿	2A	斎藤清一	6	127
12	三ツ峠山	富士周辺	1997	5/4	日帰り	A	村松敏彦	1	20
189	三ツ峠山～黒岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7	3
386	三ツ峠山	富士周辺	2004	7/11	日帰り	2B	中村八重子	6	43
547	三ツ峠山	富士周辺	2007	7/8	日帰り	2B	中村八重子	9	57
599	三ツ峠山	富士周辺	2008	9/7	日帰り	2A	中村隆泰	10	71
18	大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295	大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
377	塔ノ岳～丹沢三ツ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
451	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2006	8/5-9	山小屋	5D	大串秀雄	7	66
715	大山三峰山	丹沢	2010	11/21	日帰り	2B	千葉有子	12	124
35	三頭山 (忘年山行)	奥多摩	1997	12/7	日帰り	A	清家三保子	1	66
241	三頭山	奥多摩	2001	11/11	日帰り	A	細野省二	4	94
243	奥多摩三山 (大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
412	三頭山	奥多摩	2004	11/13	日帰り	2B	原田和昭	6	111
576	三頭山～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	避難小屋	3B	外崎蓮	10	1
632	三頭山	奥多摩	2009	6/28	日帰り	2B	小川誠二郎	11	41
357	三頭山 (登山教室)	奥多摩	2003	9/11	日帰り	1A	柴	5	142
157	南月山～三本槍ヶ岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
349	白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
470	南高尾山縦走	中央沿線	2005	11/23	日帰り	2B	榊原文子	7	114
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2004	9/25-28	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
506	南八ヶ岳 (赤岳) B班 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	テント	3C	武内勇二	8	87
507	南八ヶ岳 (赤岳) C班 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	山小屋	2B	川下敬史	8	90
384	南八ヶ岳縦走	八ヶ岳	2004	6/19-20	山小屋	3B	坂口よし江	6	38
149	養山	奥武蔵	2000	4/22	日帰り	A	安田みづほ	3	9
478	宮地山～岩殿山	中央沿線	2006	4/2	日帰り	3B	青山寿子	8	7
407	宮之浦岳・開闢岳	九州	2003	10/21-23	山小屋	2C	細野清子	6	97
114	妙高山・火打山	頸城	1999	7/31-8/1	テント/小屋	B	柴 勇	2	66
37	明神ガ岳～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
592	明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
37	明神ガ岳～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
123	金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
592	明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
490	妙法ヶ岳	奥秩父	2006	6/25	日帰り	1B	高橋英雄	8	40
656	武川岳	奥秩父	2009	11/21	日帰り	2A	田村光子	11	104
186	六ツ石山	奥多摩	2000	12/17	日帰り	A+	中村隆泰	3	99
319	鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
282	飯盛山	八ヶ岳	2002	8/31	日帰り	A	高橋芳恵	4	207
622	元清澄山 (新人歓迎山行)	房総	2009	3/29	日帰り	2A	武内勇二	11	4
88	日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353	日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
257	モミソ沢	丹沢	2002	4/14	日帰り	B	堀口昭二	4	132
312	モミソ沢・源次郎沢	丹沢	2003	4/12-13	テント	C	堀口昭二	5	15
370	モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
431	モミソ沢・新茅の沢～烏尾山	丹沢	2005	4/16-17	テント	3B	佐藤健一	7	14
535	モミソ沢	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	佐藤健一	9	24
133	百蔵山 (忘年山行)	中央沿線	1999	12/5	日帰り	A	高橋英雄	2	122
315	百蔵山	中央沿線	2003	4/20	日帰り	A	清家・外崎	5	25
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2007	10/21-22	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
491	森吉山・姫神山	東北	2006	6/26-27	山麓泊	2B/1A	細野清子	8	42
161	早池峰・薬師岳	北上	2000	7/1-2	民宿泊	B	斎藤清一	3	40
164	五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
216	薬師岳	北ア	2001	7/19-23	山小屋	C	外崎 蓮	4	33
637	浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	5C	清家三保子	11	53
723	薬師岳	南アルプス	2011	1/22-24	テント	4D	千葉有子	12	144
411	矢倉岳～足柄古道	箱根	2004	11/7	日帰り	2A	高橋芳恵	6	109
474	矢倉岳	箱根	2006	2/5	日帰り	1A	高橋英雄	7	125
328	栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
462	焼石岳	奥羽	2005	10/9-10	避難小屋	2B	石垣吉朗	7	96

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
288	焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
548	焼岳～西穂高岳	北ア	2007	7/18-20	山小屋	3B	大串秀雄	9	59
271	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4	168
173	八幡平・焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3	74
111	夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
472	矢平山	中央沿線	2006	1/8	日帰り	2A	村松敏彦	7	120
72	八ヶ岳 (公開登山) (創立記念山行)	八ヶ岳	1998	10/10-11	テント&山小屋	A	柴 勇	1	137
92	八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	1999	3/20-21	山小屋	C	村松敏彦	2	16
187	八ヶ岳 (クリスマス山行)	八ヶ岳	2000	12/23-24	日帰り	B, C	村松敏彦	3	100
277	八ヶ岳	八ヶ岳	2002	7/26夜-28	山小屋	B+	外崎 蓮	4	187
509	八ヶ岳本峰縦走 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	4C	村松敏彦	8	96
283	谷津川・地獄谷	奥武蔵	2002	9/15-16	テント	C	村松敏彦	4	210
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
256	八溝山 (新人歓迎)	奥久慈	2002	3/24	日帰り	A	松本 豊	4	130
119	燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
393	白馬～杓子～鑓ヶ岳	北ア	2006	8/12-17	山小屋	3C	高橋英雄	6	64
452	唐松岳～鑓ヶ岳～杓子岳	北ア	2006	8/13-16	山小屋	4C	高橋英雄	7	71
11	槍ヶ岳	北ア	1997	4/25-28	テント	D	村松敏彦	1	18
168	雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋/テント	C	大串秀雄	3	57
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2007	9/25-31	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
585	夕日岳	日光	2008	6/1	日帰り	1A	箕輪カオル	10	29
322	夕日岳	前日光	2003	5/25	日帰り	A	原田和昭	5	40
563	夕日岳	前日光	2007	11/4	日帰り	1A	外崎 蓮	9	98
659	雪入山～浅間山 (忘年山行)	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11	110
589	温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
109	湯の丸山・四阿山	上州	1999	6/19-20	民宿泊り	B	外崎 蓮	2	58
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2006	6/26-28	山麓泊	4B	高橋 潔	7	49
630	湯の丸山・四阿山 (市民登山)	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11	29
207	湯檜曾川旧道	谷川	2001	5/26	日帰り	A	榊原文子	4	19
266	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
493	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2008	7/2-9	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
15	養老溪谷 (クリーンハイク)	房総	1997	6/1	日帰り	A	県連	1	25
685	古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ロッジ泊	1A	柴勇	12	35
148	四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
471	蓬田岳 (忘年山行)	福島	2005	12/11	日帰り	1A	武内勇二	7	116
294	雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
330	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
214	利尻山・大雪山	北海道	2001	7/3-8	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
106	両神山 (公開登山)	奥秩父	1999	6/5-6	山小屋/テント	B	村松敏彦	2	49
591	両神山	奥秩父	2008	7/5-6	山小屋	2A	高橋芳恵	10	51
706	二子山・両神山	奥秩父	2010	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	12	99
90	難台山～吾国山 (卒業山行)	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
477	難台山～吾国山	茨城	2007	3/27	日帰り	1B/3B	柴 勇	8	3
260	愛宕山～吾国山	茨城	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
653	難台山～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11	98
357	和名倉山	奥秩父	2003	12/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	158
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2007	6/2-6	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
25	蔵山	奥武蔵	1997	9/23	日帰り	A	細野清子	1	44
200	有間山～蔵山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎 蓮	4	5
240	蔵山	奥武蔵	2001	11/11	日帰り	A	安田みづほ	4	92
527	有馬山～蔵山	奥武蔵	2008	4/9	日帰り	3B	青山寿子	9	8
484	小川谷・悪谷	奥多摩	2007	5/22	日帰り	3B	堀口昭二	8	21

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
-----	----	----	---	----	------	------	------	---	-----



編集後記

おかげさまでやまなみ12号をお届けすることができます。編集長の陣頭指揮のもと、楽しく編集作業をさせていただきました。さまざまな山行の記録には、それぞれの山の感じ方、楽しみ方があり、また参加できなかった山行の追体験もできます。岳人あびこの貴重な資料だと改めて思いました。記録したり編集したりと手間はかかりますが、机上で新たな山行を楽しんでいただければ幸いです。(NS)

どなたの随想文にも感動があふれ、そして達成感でいっぱい思いがストレートに伝わってきた。読みながら山行の人たちと一緒に感動したりはらはらしたりするので、編集も「忙しい」。掲載の写真は「この一枚!」と自慢したくなるようなものばかり。ほれぼれする。そんなたくさんの素敵な写真がカラーにならないのをとても残念に思う。今回は、少しは武内さんのお役にたてるかと思ったが、新谷さんにまでお世話になった。私の分も肩代わりしてくださった新谷さん。そして武内さんには実に辛抱強く、かつ丁寧に、PCのイロハと編集の仕方を教えていただいた。感謝するばかりです。(IN)

やまなみ編集を引受けて本号で7号目となった。毎号発行時期を早め、本号は桜の咲く前に編集を終えることが出来た。これも、各山行の執筆者が原稿の早期提出にご協力いただいたからにほかならない。岳人あびこ創立以来の727回の会山行の全てがやまなみ1~12号に収録されている。巻末資料の「山名索引」の重み、まさに会の歴史そのものである。一時期やまなみの存廃が議論され、会員投票の結果、僅差で発行継続が決まったことがあった。「あのとき逆の結論にならなくて良かった。」編集者のいつわらざる実感である。(YT)

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

山行文集 **やまなみ 第12号**

発行日 平成23年5月11日

発行者 岳人あびこ 会長 石垣吉朗

千葉県柏市松葉町6-24-4

編集者 会報部 やまなみ編集係

武内勇二

新谷直恵 中村育子

印刷所 太平洋印刷株式会社

(会員限り 非売品)